

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	学部の設置								
フリガナ設置者	コクリツダイガクホジン カガキダイガク 国立大学法人 長崎大学								
フリガナ大学の名称	カガキダイガク 長崎大学 [Nagasaki University]								
大学本部の位置	長崎県長崎市文教町1番14号								
大学の目的	長崎に根づく伝統的文化を継承しつつ、豊かな心を育み、地球の平和を支える科学を創造することによって、社会の調和的発展に貢献するとの理念に基づき、教育研究の高度化及び個性化を図り、アジアを含む地域社会とともに歩みつつ、世界にとって不可欠な知の情報発信拠点であり続けるとともに、地域及び国際社会の発展に貢献できる人材を養成することを目的とする。								
新設学部等の目的	長崎大学多文化社会学部は、多文化の共生と協働が求められるグローバル世界に対応するため、人文社会系の諸領域を「多様性」の観点から再編・統合し、多文化社会の可能性とリスクを見定めた教育研究を展開することにより、国内外の社会的、文化的、言語的多様性を内包した組織においてリーダーシップやパートナーシップを発揮しうる人材を養成する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	多文化社会学部 [School of Global Humanities and Social Sciences] 多文化社会学科 [Department of Global Humanities and Social Sciences] 計	年	人	年次人	人	学士（多文化社会学）	年月 第年次 平成26年4月 第1年次	長崎県長崎市文教町1番14号	
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	経済学部 総合経済学科〔定員減〕 (△90) 環境科学部 環境科学科〔定員減〕 (△10) 大学院教育学研究科 教科実践専攻（廃止） (△18) 教職実践専攻 (38) (平成25年7月事前伺い予定) ※教科実践専攻は平成26年4月学生募集停止								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	多文化社会学部	講義	演習	実験・実習	計	218科目 53科目 9科目 280科目 129単位			
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員
	新設	多文化社会学部	教授	准教授	講師	助教	計	助手	
		多文化社会学科	11 (11)	17 (17)	0 (0)	2 (2)	30 (30)	0 (0)	42 (36)
分	計	11 (11)	17 (17)	0 (0)	2 (2)	30 (30)	0 (0)	42 (36)	

教 員 組 織 の 概 要	既 設	【学部】							
		教育学部 学校教育教員養成課程	28 (28)	38 (38)	0 (0)	1 (1)	67 (67)	0 (0)	51 (51)
		経済学部 総合経済学科	32 (32)	24 (24)	2 (2)	1 (1)	59 (59)	0 (0)	64 (64)
		医学部 医学科	41 (41)	30 (30)	18 (18)	65 (65)	154 (154)	0 (0)	163 (163)
		保健学科	23 (23)	12 (12)	2 (2)	16 (17)	53 (54)	0 (0)	12 (12)
		歯学部 歯学科	21 (21)	18 (18)	1 (1)	53 (53)	93 (93)	0 (0)	89 (89)
		薬学部 薬学科	10 (10)	9 (9)	1 (1)	7 (7)	27 (27)	0 (0)	10 (10)
		薬科学科	4 (4)	5 (5)	0 (0)	4 (4)	13 (13)	0 (0)	2 (2)
		工学部 工学科	43 (43)	39 (39)	0 (0)	31 (31)	113 (113)	1 (1)	51 (51)
		環境科学部 環境科学科	24 (24)	18 (18)	0 (0)	0 (0)	42 (42)	0 (0)	19 (19)
		水産学部 水産学科	27 (27)	22 (22)	1 (1)	6 (6)	56 (56)	0 (0)	14 (14)
		計	253 (253)	215 (215)	25 (25)	184 (185)	677 (678)	1 (1)	475 (475)
		合計	264 (264)	232 (232)	25 (25)	186 (187)	707 (708)	1 (1)	517 (511)
教 員 以 外 の 職 員 の 概 要	職 種	専 任	兼 任	計					
	事 務 職 員	431 (431)	466 (466)	897 (897)					
	技 術 職 員	95 (95)	109 (109)	204 (204)					
	図 書 館 専 門 職 員	18 (18)	0 (0)	18 (18)					
	そ の 他 の 職 員	1,107 (1,107)	687 (687)	1,794 (1,794)					
	計	1,651 (1,651)	1,262 (1,262)	2,913 (2,913)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校 舎 敷 地	283,413 m ²	0 m ²	0 m ²	283,413 m ²				
	運 動 場 用 地	109,613 m ²	0 m ²	0 m ²	109,613 m ²				
	小 計	393,026 m ²	0 m ²	0 m ²	393,026 m ²				
	そ の 他	265,667 m ²	0 m ²	0 m ²	265,667 m ²				
合 計	658,693 m ²	0 m ²	0 m ²	658,693 m ²					
校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	216,050 m ² (216,050 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	216,050 m ² (216,050 m ²)					

その他の内、
借用面積47m²を含
み、昭和40年4月1日
より借入。

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	101 室	217 室	617 室	20 室	3 室				
専任教員研究室		新設学部等の名称 多文化社会学部多文化社会学科		室数 26 室		学内センター・研究科 所属の専任教員を除く。			
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	(大学全体の共用分) 図書 1,032,473 〔305,823〕 (997,433〔295,444〕) 視聴覚資料 8,521 (5,912)	
	多文化社会学部	1,032,473〔305,823〕 (997,433〔295,444〕)	26,000〔7,800〕 (24,800〔7,500〕)	22,000〔21,000〕 (21,000〔19,700〕)	8,521 (5,912)	0 (0)	0 (0)		
	計	1,032,473〔305,823〕 (997,433〔295,444〕)	26,000〔7,800〕 (24,800〔7,500〕)	22,000〔21,000〕 (21,000〔19,700〕)	8,521 (5,912)	0 (0)	0 (0)		
図書館		面積 10,126 m ²	閲覧座席数 1,180 席		収納可能冊数 945,167 冊		大学全体		
体育館		面積 12,541 m ²	体育館以外のスポーツ施設の概要 運動場、弓道場、テニスコート、ハンドボールコート、プール等						
経費の見積り 及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費による
	経費の見積り	教員1人当り研究費等							
	共同研究費等								
	図書購入費								
	設備購入費								
	学生1人当り納付金	第1年次 千円	第2年次 千円	第3年次 千円	第4年次 千円	第5年次 千円	第6年次 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要									
大学の名称		長崎大学							
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	教育学部情報文化教育課程は、平成20年度より学生募集停止。
【学部】 教育学部 学校教育教員養成課程 情報文化教育課程	年 4 4	人 240 -	年次 人 - -	人 960 -	学士(教育学) "	倍 1.01 -	平成10年度 "	長崎市文教町1番14号 "	
経済学部 総合経済学科	4	415	3年次 15	1,690	学士(経済学)	1.02	平成10年度	長崎市片淵4丁目2番1号	
医学部 医学科	6	116	2年次 5	683	学士(医学)	1.00	昭和24年度	長崎市坂本1丁目12番4号	
保健学科	4	106	3年次 14	452	学士(看護学) 学士(保健学)	1.00	平成14年度	長崎市坂本1丁目7番1号	
歯学部 歯学科	6	50	-	305	学士(歯学)	1.00	昭和55年度	長崎市坂本1丁目7番1号	
薬学部 薬学科 薬科学科	6 4	40 40	- -	240 160	学士(薬学) 学士(薬科学)	1.02 1.07	平成18年度 昭和61年度	長崎市文教町1番14号 "	
工学部 工学科 機械システム工学科 電気電子工学科 情報システム工学科 構造工学科 社会開発工学科 材料工学科 応用化学科	4 4 4 4 4 4 4 4	380 - - - - - - -	- - - - - - - -	1140 - - - - - - -	学士(工学) " " " " " " "	1.07 - - - - - - -	平成23年度 平成2年度 平成10年度 " 昭和42年度 平成3年度 昭和45年度 平成3年度	長崎市文教町1番14号 " " " " " " " " 機械システム工学科, 電気電子工学科, 情報 システム工学科, 構造 工学科, 社会開発工学 科, 材料工学科, 応用 化学科は、平成23年度 より学生募集停止	

既設 大 学 等 の 状 況	環境科学部 環境科学科	4	140	3年次 10	580	学士(環境科学)	1.00	平成10年度	長崎市文教町1番14号	
	水産学部 水産学科	4	110	—	440	学士(水産学)	1.03	昭和48年度	長崎市文教町1番14号	
	【 研 究 科 】									
	教育学研究科 (修士課程) 教科実践専攻 (専門職学位課程) 教職実践専攻	2	18	—	36	修士(教育学)	1.02	平成20年度	長崎市文教町1番14号	
		2	20	—	40	教職修士(専門職)	1.00	平成20年度	長崎市文教町1番14号	
	経済学研究科 (博士前期課程) 経済経営政策専攻	2	15	—	30	修士(経済学), 修士(経営学)	0.89	平成16年度	長崎市片淵4丁目2番1号	
	(博士後期課程) 経営意思決定専攻	3	3	—	9	博士(経営学)	1.00	平成16年度	長崎市片淵4丁目2番1号	
	工学研究科 (博士前期課程) 総合工学専攻 (博士後期課程) 生産システム工学専攻 (博士課程) グリーンシステム創成科学専攻	2	200	—	400	修士(工学)	1.07	平成23年度	長崎市文教町1番14号	
		3	10	—	30	博士(工学)	1.00	平成23年度	長崎市文教町1番14号	
		5	5	—	15	博士(工学)	1.00	平成23年度	長崎市文教町1番14号	
	水産・環境科学総合研究科 (博士前期課程) 水産学専攻	2	35	—	70	修士(学術), 修士(水産学)	0.90	平成23年度	長崎市文教町1番14号	
	環境共生政策学専攻	2	8	—	16	修士(学術), 修士(環境科学)	0.81	平成23年度	〃	
	環境保全設計学専攻 (博士後期課程) 環境海洋資源学専攻	2	17	—	34	〃	0.93	平成23年度	〃	
		3	12	—	36	博士(学術), 博士(水産学), 博士(環境科学)	1.13	平成23年度	長崎市文教町1番14号	
	(博士課程) 海洋フィールド生命科学専攻	5	5	—	15	博士(水産学), 博士(環境科学), 博士(海洋科学)	0.66	平成23年度	長崎市文教町1番14号	
	生産科学研究科 (博士前期課程) 機械システム工学専攻	2	—	—	—	修士(学術), 修士(工学), 修士(水産学)	—	平成12年度	長崎市文教町1番14号	機械システム工学専攻, 電気情報工学専攻, 環境システム工学専攻, 物質工学専攻, 水産学専攻, 環境共生政策学専攻, 環境保全設計学専攻, システム科学専攻, 海洋生産科学専攻, 物質科学専攻, 環境科学専攻は, 平成23年度より学生募集停止
	電気情報工学専攻	2	—	—	—	〃	—	平成12年度	〃	
	環境システム工学専攻	2	—	—	—	〃	—	平成12年度	〃	
	物質工学専攻	2	—	—	—	〃	—	平成12年度	〃	
	水産学専攻	2	—	—	—	〃	—	平成12年度	〃	
環境共生政策学専攻	2	—	—	—	修士(環境科学)	—	平成16年度	〃		
環境保全設計学専攻	2	—	—	—	〃	—	平成16年度	〃		
(博士後期課程) システム科学専攻	3	—	—	—	博士(学術), 博士(工学), 博士(水産学), 博士(環境科学)	—	平成12年度	長崎市文教町1番14号		
海洋生産科学専攻	3	—	—	—	〃	—	平成13年度	〃		
物質科学専攻	3	—	—	—	〃	—	平成13年度	〃		
環境科学専攻	3	—	—	—	〃	—	平成16年度	〃		

既設大学等の状況	医歯薬学総合研究科 (修士課程) 熱帯医学専攻 保健学専攻	1 2	12 20	— —	12 40	修士(熱帯医学) 修士(看護学), 修士(理学療法学), 修士(作業療法学)	0.00 1.07	平成18年度 平成18年度	長崎市坂本1丁目12番4号 長崎市坂本1丁目7番1号	熱帯医学専攻は秋季入学のみ。 医歯薬学総合研究科生命薬科学専攻(博士後期課程)は、平成24年度より学生募集停止。	
	(博士課程) 医療科学専攻	4	62	—	248	博士(学術), 博士(医学), 博士(歯学), 博士(薬学)	1.05	平成14年度	長崎市坂本1丁目12番4号		
	新興感染症病態制御学系専攻	4	20	—	80	博士(学術), 博士(医学), 博士(歯学), 博士(薬学)	1.15	平成14年度	〃		
	放射線医療科学専攻	4	8	—	32	〃	0.84	平成14年度	〃		
	(博士前期課程) 生命薬科学専攻 (博士後期課程) (旧)生命薬科学専攻	2 3	36 —	— —	72 —	修士(薬科学) 博士(学術), 博士(薬学), 博士(臨床薬学)	1.06 —	平成24年度 平成14年度	長崎市文教町1番14号 長崎市文教町1番14号		
	(新)生命薬科学専攻	3	10	—	20	博士(学術), 博士(薬科学)	0.50	平成24年度	長崎市文教町1番14号		
	国際健康開発研究科 (修士課程) 国際健康開発専攻	2	10	—	20	修士(公衆衛生学)	1.05	平成20年度	長崎市坂本1丁目12番4号		
	<p>(附置研究所)</p> <p>○熱帯医学研究所 所在地：長崎市坂本1丁目12番4号 設置年月：昭和24年5月(昭和42年6月 風土病研究所から改称) 規模等：土地 91,230㎡ 建物 9,751㎡ 目的：熱帯医学に関する学理及びその応用を研究する。</p> <p>○原爆後障害医療研究所 所在地：長崎市坂本1丁目12番4号 設置年月：平成25年4月 規模等：土地 91,231㎡ 建物 4,470㎡ 目的：放射線の人体への影響を国内外のヒパクシャを対象として研究により究明して、人類の安全と安心に寄与する放射線健康リスク評価・管理学を實踐し、全人的被ばく医療学を推進するとともに、国際的な放射線被ばく影響の実態調査、ヒパクシャの試料・資料の収集及びデータベースの構築を行うことを目的とする。</p> <p>(附属学校) 目的： (1)教育基本法及び学校教育法に定める教育又は保育を行う。 (2)教育学部における児童若しくは生徒の教育又は幼児の保育に関する研究に協力し、教育学部の計画に従い、学生の教育実習の実施にあたる。 (3)教育の理論的、実証的研究を行うとともに、他の学校との教育研究の協力及び教育研究の成果の交流を行う。</p> <p>○教育学部附属幼稚園 所在地：長崎市文教町4番23号 設置年月：昭和24年5月 規模等：土地 51,185㎡ 建物 1,190㎡</p> <p>○教育学部附属小学校 所在地：長崎市文教町4番23号 設置年月：昭和24年5月 規模等：土地 (上記に含む) 建物 7,510㎡</p> <p>○教育学部附属中学校 所在地：長崎市文教町4番23号 設置年月：昭和24年5月 規模等：土地 (上記に含む) 建物 7,813㎡</p> <p>○教育学部附属特別支援学校 所在地：長崎市柳谷町42番1号 設置年月：昭和46年4月 規模等：土地 12,529㎡ 建物 3,372㎡</p> <p>(学部等の附属施設) ○教育学部附属教育実践総合センター 所在地：長崎市文教町1番14号 設置年月：平成13年4月(教育実践研究指導センターを改組) 規模等：土地 187,125㎡ 建物 532㎡ 目的：教育実践に関する研究、指導及び研修を総合的に行い、教師教育の充実に資する。</p>										
	附属施設の概要										

<p>附属施設の概要</p>	<p>○水産学部附属練習船鶴洋丸 設置年月：昭和50年6月（現船：平成16年12月） 規模等：アルミニウム合金船 155トン 最大搭載人員 36名 目的：航海・漁労実習，海洋環境観測，海洋生物資源調査</p> <p>○水産学部附属練習船長崎丸 設置年月：昭和27年3月（現船：昭和61年2月） 規模等：鋼船 842トン 最大搭載人員 69名 目的：トロール漁業実習，海洋学実習，航海運用実習</p> <p>○大学院水産・環境科学総合研究科附属環東シナ海環境資源研究センター 所在地：長崎市多以良町1551番7号 設置年月：平成23年4月（環東シナ海海洋環境資源研究センターを改組） 規模等：土地 10,900㎡ 建物 1,739㎡ 目的：21世紀の最重要課題である地球環境保全及び食料供給の持続性確保に向けて，長崎に隣接する東シナ海及びその沿岸域を主な対象として国内外の研究機関とも緊密に連携しながら，水圏・大気圏・陸圏の環境保全及び多様な生物資源の持続的生産の基盤となる学際領域の研究を推進する拠点として機能することを目的とする。</p> <p>○医歯薬学総合研究科附属薬用植物園 所在地：長崎市文教町1番14号 設置年月：昭和47年5月（平成15年4月 医学部附属施設から医歯薬学総合研究科附属施設へ移行） 規模等：土地 187,125㎡ 建物 445㎡ 目的：園内に薬用植物を栽培し，もって学術研究及び教育に資する。</p> <p>○熱帯医学研究所附属アジア・アフリカ感染症研究施設 所在地：長崎市坂本1丁目12番4号 設置年月：平成20年4月（熱帯感染症研究センターを改組） 規模等：土地 91,230㎡ 建物 8,091㎡ 目的：アジアやアフリカにおける熱帯病・新興再興感染症の発生・拡大に関する現地長期調査及び複合要因の解析並びに予防制圧に資する研究及び教育を行うことにより，当該分野の学術研究の進展及び人材育成に寄与する。</p> <p>○熱帯医学研究所附属熱帯性病原体感染動物実験施設 所在地：長崎市坂本1丁目12番4号 設置年月：昭和54年4月 規模等：土地 91,230㎡ 建物 490㎡ 目的：熱帯性病原体による感染に関する研究に必要な動物実験を行うことにより，学術研究の進展に寄与する。</p> <p>○熱帯医学研究所附属熱帯医学ミュージアム 所在地：長崎市坂本1丁目12番4号 設置年月：平成20年4月（熱帯感染症研究センターを改組） 規模等：土地 91,230㎡ 建物 8,091㎡ 目的：熱帯医学に関する資料・情報を収集，整理，保存，解析及び提供するとともに，公衆への供覧等を行うことにより，熱帯医学に対する社会の理解を深め，学術研究の進展に寄与する。</p> <p>（附属病院） ○長崎大学病院 所在地：長崎市坂本1丁目7番1号 設置年月：昭和24年5月（平成21年4月 医学部・歯学部附属病院を改組） 規模等：土地 86,807㎡ 建物 137,756㎡ 目的：患者の診療を通じて医歯薬学関連の教育及び研究を行う。</p> <p>（学内共同教育研究施設等） ○保健・医療推進センター 所在地：長崎市文教町1番14号 設置年月：昭和41年4月（平成20年4月 保健管理センターを改組） 規模等：土地 187,125㎡ 建物 540㎡ 目的：長崎大学の学生及び職員健康を守り，予防に努めるとともに，保健・医療分野での医療教育，本学の地域連携及び地域貢献を県及び自治体と連携し，推進する。</p> <p>○先導生命科学支援センター 所在地：長崎市坂本1丁目12番4号 設置年月：平成15年4月（アイソトープ総合センター，遺伝子実験施設及び医学部附属動物実験施設を統合再編） 規模等：土地 91,230㎡ 建物 10,747㎡ 目的：放射性同位元素等，動物資源及びゲノム情報・遺伝子を用いる教育研究にその施設等を供するとともに，本学における総合的な生命科学の推進及び支援を行い，もって教育研究の進展に資する。</p> <p>○情報メディア基盤センター 所在地：長崎市文教町1番14号 設置年月：平成16年12月（総合情報処理センターを改組） 研究科附属施設へ移行） 規模等：土地 187,125㎡ 建物 1,189㎡ 目的：センターの計算機システムを整備運用し，本学における教育，研究及び事務処理のための共同利用に供するとともに，情報化の推進のための技術支援及び研究開発を行い，本学の高度情報化に資する。</p>	
----------------	--	--

<p>附属施設の概要</p>	<p>○留学生センター 所在地：長崎市文教町1番14号 設置年月：平成8年5月（外国人留学生指導センターを改組） 規模等：土地 187,125㎡ 建物 252㎡ 目的：外国人留学生及び学部、大学院等への入学前における日本語等に関する予備教育を受ける者並びに外国の大学等に留学を希望する学生に対し、必要な教育及び指導助言を行うことにより、本学における留学生交流の推進を図る。</p> <p>○大学教育機能開発センター 所在地：長崎市文教町1番14号 設置年月：平成14年4月 規模等：土地 187,125㎡ 建物 513㎡ 目的：全学教育、教育改善及び大学教育全般の在り方に関する研究を行うとともに、本学の全学教育及び教育改善の実施に関する企画運営を行う。</p> <p>○アドミッションセンター 所在地：長崎市文教町1番14号 設置年月：平成14年4月 規模等：土地 187,125㎡ 建物 139㎡ 目的：アドミッションポリシーに沿った入学者選抜を行うための調査及び研究を行うとともに、本学の入学者選抜に関する諸課題に対応し各部署における入学者選抜への助言及び支援を行う。</p> <p>○先端計算研究センター 所在地：長崎市文教町1番14号 設置年月：平成22年4月 規模等：土地 187,125㎡ 建物 405㎡ 目的：次世代並列コンピュータに関する研究開発及び教育を推進し、次世代並列コンピュータを利用した新たな産業創出に資する。</p> <p>○言語教育研究センター 所在地：長崎市文教町1番14号 設置年月：平成24年4月 規模等：土地 187,125㎡ 建物 325㎡ 目的：本学における外国語教育に関する教育及び研究を推進するとともに、外国語教育の実施に関する企画運営を行う。</p> <p>○核兵器廃絶研究センター 所在地：長崎市文教町1番14号 設置年月：平成24年4月 規模等：土地 187,125㎡ 建物 230㎡ 目的：ヒロシマ・ナガサキを現在の世界の潮流の中で新たに位置づけ、学問的調査・分析を通して核兵器廃絶に向けた情報や提言を様々な角度から世界に発信するため、長崎市、長崎県等と連携を図りながら核兵器廃絶に係る教育研究活動を行うことにより、もって本学の教育研究の進展に資する。</p>	
----------------	--	--

国立大学法人長崎大学 設置申請に関わる組織の移行表

平成25年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成26年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
長崎大学				長崎大学				
				→ <u>多文化社会学部 多文化社会学科</u>	100	—	400	学部の設置(設置申請)
教育学部				教育学部				
学校教育教員養成課程	240	—	960	学校教育教員養成課程	240	—	960	
経済学部				<u>経済学部</u>				
総合経済学科(昼間コース)	355	10	1440	→ <u>総合経済学科(昼間コース)</u>	265	10	1080	定員変更
総合経済学科(夜間主コース)	60	5	250	総合経済学科(夜間主コース)	60	5	250	
医学部				医学部				
医学科	116	5	683	医学科	116	5	704	
保健学科	106	14	452	保健学科	106	14	452	
歯学部				歯学部				
歯学科	50	—	305	歯学科	50	—	300	
薬学部				薬学部				
薬学科	40	—	240	薬学科	40	—	240	
薬科学科	40	—	160	薬科学科	40	—	160	
工学部				工学部				
工学科	380	—	1550	工学科	380	—	1520	
環境科学部				<u>環境科学部</u>				
環境科学科	140	10	580	→ <u>環境科学科</u>	130	10	540	定員変更
水産学部				水産学部				
水産学科	110	—	440	水産学科	110	—	440	
計	1637	44	7060	計	1637	44	7046	
長崎大学大学院				長崎大学大学院				
教育学研究科				<u>教育学研究科</u>				
教科実践専攻(修士課程)	18		36	→ <u>教科実践専攻(修士課程)</u>	0		0	平成26年4月学生募集停止
教職実践専攻(専門職学位課程)	20		40	<u>教職実践専攻(専門職学位課程)</u>	38		76	定員変更
経済学研究科				経済学研究科				
経済経営政策専攻(博士前期課程)	15		30	経済経営政策専攻(博士前期課程)	15		30	
経営意思決定専攻(博士後期課程)	3		9	経営意思決定専攻(博士後期課程)	3		9	
工学研究科				工学研究科				
総合工学専攻(博士前期課程)	200		400	総合工学専攻(博士前期課程)	200		400	
生産システム工学専攻(博士後期課程)	10		30	生産システム工学専攻(博士後期課程)	10		30	
グリーンシステム創成科学専攻(博士課程)	5		25	グリーンシステム創成科学専攻(博士課程)	5		25	
水産・環境科学総合研究科				水産・環境科学総合研究科				
水産学専攻(博士前期課程)	35		70	水産学専攻(博士前期課程)	35		70	
環境共生政策学専攻(博士前期課程)	8		16	環境共生政策学専攻(博士前期課程)	8		16	
環境保全設計学専攻(博士前期課程)	17		34	環境保全設計学専攻(博士前期課程)	17		34	
環境海洋資源学専攻(博士後期課程)	12		36	環境海洋資源学専攻(博士後期課程)	12		36	
海洋フィールド生命科学専攻(博士課程)	5		25	海洋フィールド生命科学専攻(博士課程)	5		25	
医歯薬学総合研究科				医歯薬学総合研究科				
熱帯医学専攻(修士課程)	12		12	熱帯医学専攻(修士課程)	12		12	
保健学専攻(修士課程)	20		40	保健学専攻(修士課程)	20		40	
医療科学専攻(博士課程)	62		248	医療科学専攻(博士課程)	62		248	
新興感染症病態制御学系専攻(博士課程)	20		80	新興感染症病態制御学系専攻(博士課程)	20		80	
放射線医療科学専攻(博士課程)	8		32	放射線医療科学専攻(博士課程)	8		32	
生命薬科学専攻(博士前期課程)	36		72	生命薬科学専攻(博士前期課程)	36		72	
生命薬科学専攻(博士後期課程)	10		38	生命薬科学専攻(博士後期課程)	10		30	
国際健康開発研究科				国際健康開発研究科				
国際健康開発専攻(修士課程)	10		20	国際健康開発専攻(修士課程)	10		20	
計	526		1293	計	526		1285	

教育課程等の概要																
(多文化社会学部多文化社会学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養教育科目	教養ゼミナール	1前	2			○			4	17		2				
		小計(1科目)	—	2	0	0	—		4	17	0	2	0			
	情報基礎	1後	2			○								兼2		
		小計(1科目)	—	2	0	0	—		0	0	0	0	0	兼2		
	健康・スポーツ科学科目	健康科学	1後	1			○								兼7	
		スポーツ演習	1後	1				○							兼3	
		小計(2科目)	—	2	0	0	—		0	0	0	0	0	兼8		
	英語	英語コミュニケーションⅠ	1前	1				○			1				兼2	
		英語コミュニケーションⅡ	1前	1				○			1				兼2	
		英語コミュニケーションⅢ	2前	1				○							兼3	
		総合英語Ⅰ	1前	1				○		1					兼2	
		総合英語Ⅱ	1前	1				○		1					兼2	
		総合英語Ⅲ	2後	1				○							兼3	
		Advanced EnglishⅠ	3前	1				○							兼3	
		Advanced EnglishⅡ	3後	1				○							兼3	
	小計(8科目)	—	8	0	0	—			1	1	0	0	0	兼5		
	外国語科目	ドイツ語	ドイツ語Ⅰ	1後	1				○		1					
			ドイツ語Ⅱ	1後	1				○		1					
			ドイツ語Ⅲ	2前	1				○						兼1	
			ドイツ語Ⅳ	2後	1				○						兼1	
			フランス語Ⅰ	1後	1				○						兼1	
			フランス語Ⅱ	1後	1				○						兼1	
			フランス語Ⅲ	2前	1				○						兼1	
			フランス語Ⅳ	2後	1				○						兼1	
		初習外国語	中国語Ⅰ	1後	1				○		2					
			中国語Ⅱ	1後	1				○		2					
			中国語Ⅲ	2前	1				○		2					
			中国語Ⅳ	2後	1				○		2					
			韓国語Ⅰ	1後	1				○						兼1	
			韓国語Ⅱ	1後	1				○						兼1	
			韓国語Ⅲ	2前	1				○						兼1	
			韓国語Ⅳ	2後	1				○						兼1	
	小計(16科目)	—	0	16	0	—			3	0	0	0	0	兼3		
	モジュール科目	現代医学と	人体の構造と機能	1後	2			○							兼3	オムニバス
			細胞と放射線	1後	2			○							兼4	オムニバス
			遺伝子と生命	1後	2			○							兼4	オムニバス
		生命と薬	ビギナーのための有機化学	1後	2			○							兼2	オムニバス
			生命科学のための物理化学入門	1後	2			○							兼2	オムニバス
			生命の化学(ケミカル・イノベーション)	1後	2			○							兼4	オムニバス・兼科(一部)
		安全で安心できる社会	健康と医療の安全・安心	1後	2			○							兼4	オムニバス
リスク社会と社会科学			1後	2			○							兼1		
科学と技術の安全・安心			1後	2			○							兼4	オムニバス	
教育と社会		教育原理論	1後	2			○							兼1		
		教育心理	1後	2			○							兼1		
		教育行政・制度論	1後	2			○							兼1		
現代経済と企業活動		経済活動と社会	1後	2			○							兼1		
		企業の仕組みと行動	1後	2			○							兼1		
		経済政策と公共部門	1後	2			○							兼1		
環境問題を考える		生物多様性を考える	1後	2			○							兼3	オムニバス	
		都市環境を考える	1後	2			○							兼2	オムニバス	
		地球温暖化を考える	1後	2			○							兼4	オムニバス	
情報社会とオンライン		情報の活用	1後	2			○							兼2	共同	
		情報社会の安全と安心	1後	2			○							兼1		
	計算機の科学	1後	2			○							兼1			

【グローバル社会コース】

（用紙 日本工業規格A4縦型）

教育課程等の概要																
(多文化社会学部多文化社会学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養教育科目	全学モジュールⅠ科目	グローバル社会へのパスポート社会	1後	2		○									兼4 オムニバス	
		国際的視点に立った法と政治	1後	2		○									兼1	
		国際的視点に立った経済	1後	2		○									兼1	
		コミュニケーションの比較文化	1後	2		○				1					兼4 オムニバス	
		コミュニケーションの生物学	1後	2		○									兼1	
		コミュニケーションとICT	1後	2		○									兼1	
		核兵器とは何か	1後	2		○									兼3 オムニバス	
		国際社会と平和	1後	2		○				1					兼1	
		被ばくと社会	1後	2		○									兼4 オムニバス	
		環境法（国際法）と環境問題への取り組み	1後	2		○									兼1	
		環境基本法と環境基本計画	1後	2		○									兼1	
		環境関連法（国内法）と環境コミュニケーション	1後	2		○									兼1	
		数学の常識	1後	2		○									兼1	
		物理の考え方	1後	2		○									兼1	
		環境・生活と化学	1後	2		○									兼2 オムニバス	
		小計（36科目）	—	0	72	0		—		1	1	0	0	0	兼70	
		全学モジュールⅡ科目	先進医学と現代社会	2前	2		○									兼4 オムニバス
			エイズと性感染症	2前	2		○									兼1
	感染症と文明		2後	2		○									兼1	
	話題の先進医学		2後	2		○									兼1	
	幹細胞と再生医療		2後	2		○									兼4 オムニバス	
	伝承薬から最先端医薬品まで(薬はこうして創られる)		2前	2		○									兼3 オムニバス	
	薬との賢い付き合い方		2後	2		○									兼2 オムニバス	
	出島の科学		2前	2		○									兼2 オムニバス	
	疾病と薬物治療		2前	2		○									兼3 オムニバス	
	薬の開発を主題とした動物行動分析と推計学		2後	2		○									兼1	
	疾病の回復を促進する薬		2前	2		○									兼1	
	医療現場の安全と安心		2後	2		○									兼4 オムニバス	
	自然災害とインフラ長寿命化		2前	2		○									兼4 オムニバス	
	破壊事故とヒューマンファクタ		2後	2		○									兼1	
	水環境の安全と安心		2前	2		○									兼1	
	環境リスクと社会		2前	2		○									兼1	
	教育相談		2前	2		○									兼1	
	教育相談		2後	2		○									兼1	
	文学と社会	2前	2		○									兼1		
	身のまわりの科学	2後	2		○									兼1		
芸術	2前	2		○									兼1			
環境と社会	2後	2		○									兼1			
現代経済と企業活動	2後	2		○									兼1			
地域社会と日本経済	2前	2		○									兼1			
企業行動と戦略	2後	2		○									兼1			
社会制度と経済活動	2前	2		○									兼1			
経営情報と会計情報	2前	2		○									兼1			
環境と民俗	2後	2		○					1				兼2 オムニバス			
環境と社会運動	2前	2		○									兼2 オムニバス			
環境問題の歴史から学ぶ	2後	2		○					1				兼2 オムニバス			
地域の環境を考える	2前	2		○									兼2 オムニバス			
海洋生物の遺伝子多様性	2前	2		○									兼4 オムニバス			
情報社会とコンピュータサイエンス	2前	2		○									兼1			
情報と社会	2前	2		○									兼4 オムニバス			
情報化の役割と課題	2後	2		○									兼2 共同			
情報通信とコンピュータネットワークのしくみ	2後	2		○									兼1			
情報化時代の仕事術	2後	2		○									兼1			
ソフトウェアの利用技術	2前後	2		○									兼2 共同			

【グローバル社会コース】

(用紙 日本工業規格A4縦型)

教育課程等の概要																	
(多文化社会学部多文化社会学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
教養教育科目	モジュール科目	グローバル社会へのパスポート	企業の国際展開とその課題	2後	2		○			1						兼1	
			世界人口の動向と国際開発	2前	2		○										兼1
			英語で学ぶオランダと西欧の文化	2前	2		○										兼1
			国際援助と公的部門の役割	2後	2		○										兼1
			異文化接触とコミュニケーション	2前	2		○										兼1
			途上国支援と国際保健	2後	2		○										兼1
		コミュニケーション実践学	対人世界の心理学	2前	2		○										兼1
			身体・かかわり・言葉	2前	2		○										兼1
			芸術・スポーツとコミュニケーション	2前	2		○										兼2 オムニバス
			社会・メディア・政治	2後	2		○										兼1
			日本語と表現	2後	2		○										兼2 オムニバス
			異文化コミュニケーション	2後	2		○										兼2 共同
		核兵器のない世界を目指して	市民運動・NGOと核兵器廃絶	2後	2		○										兼2 オムニバス
			被ばく者と医療	2前	2		○										兼4 オムニバス
			核兵器廃絶と教育	2前	2		○										兼4 オムニバス・英語(一部)
			文学・芸術と核兵器	2後	2		○				1						兼2 オムニバス
			核軍縮の法と政治	2後	2		○				1						兼1 オムニバス
		環境マネジメント	資源・エネルギー問題への取り組み	2前	2		○										兼3 オムニバス
			エネルギーマネジメント	2後	2		○										兼1
			化学薬品等の取り扱い	2前	2		○										兼3 オムニバス
			環境汚染物質のマネジメント	2後	2		○										兼1
			廃棄物のマネジメント	2後	2		○										兼1
			環境分析技術(advanced class)	2前	2		○										兼2 オムニバス
		数理と自然科学のススメ	暮らしと情報の数理	2前	2		○										兼2 オムニバス
			自然を記述するための基礎数学	2前	2		○										兼1
			暮らしの中の物理科学	2前	2		○										兼2 オムニバス
			物質と化学反応	2後	2		○										兼1
			地球環境の科学	2後	2		○										兼2 オムニバス
		小計(66科目)			—	0	132	0	—			2	2	0	0	0	兼95
		学部モジュール科目	多文化社会の諸問題	長崎から出発するグローバル世界へ	1後	2		○				3			1		兼1
				アジア理解への扉	1後	2		○				2	2		1		兼1 オムニバス
				アフリカ理解への扉	1後	2		○					3				兼1 オムニバス・英語(一部)
				オランダーヨーロッパ理解への扉	1後	2		○				1	3				兼1 オムニバス
				日本を知る	1後	2		○				1	3				兼1 オムニバス
				グローバルキャリアへの扉	1前	2		○				2	3				兼1 オムニバス
		小計(6科目)			—	12	0	0	—			6	12	0	2	0	兼3
自由選択科目	日本国憲法	1前	2		○										兼3		
	私たちと法	1前	2		○										兼1 集中		
	日本の思想文化	1前	2		○				1								
	ジェンダーと法	1後	2		○										兼1		
	芸術と文化	1後	2		○										兼2		
	共生のグローバル人類学	1後	2		○					1							
	社会学	1後	2		○							1					
	日本の言語と文化	1前	2		○					1							
	オランダの言語	1前	2		○										兼1		
	オランダの文化	1後	2		○										兼1		
	平和講座	1前	2		○										兼5 オムニバス		
	解放講座	1前後	2		○										兼1		
	疑似科学とのつき合い方	1前	2		○										兼4 オムニバス		
	キャリア概論	1前	2		○										兼1		
	平成長崎塾	1前	2		○										兼3 オムニバス		
	長崎学	1前	2		○					1					兼1 オムニバス		
	男女共同参画のすすめ	1後	2		○										兼1		
	物理科学	1後	2		○										兼1		
上級外国語(フランス語)	3前	2		○										兼1			

教育課程等の概要																
(多文化社会学部多文化社会学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養教育科目	自由選択科目	上級外国語(中国語)	3前		2		○			1					兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1	
		上級外国語(韓国語)	3前		2		○									
		English for Specific Purposes(A)	1前		1		○									
		English for Specific Purposes(B)	1後		1		○									
		全学乗船実習(後期)	1・2後		2				○							
		基礎物理	1前・後		2		○									
		基礎化学	1前・後		2		○									
		基礎生物	1前・後		2		○									
		基礎数学	1前・後		2		○									
		基礎英語	1前・後		2		○									
		特別活動論	1後		2		○									
		教育方法・技術論	1前		2		○									
	生徒・進路指導論	1前		2		○										
	小計(32科目)	—	0	62	0	—	—	—	—	2	3	0	1	0	兼31	
	留学生用科目	日本語中級Ⅱ読解	1前		2				○							兼1
日本語上級ⅠS		1前		2				○							兼1	
日本語上級ⅡS		1前		2				○		1					兼2	
日本語上級ⅡA		1後		2				○		1					兼1	
日本事情		1後		2		○				1						
小計(5科目)	—	0	10	0	—	—	—	—	1	0	0	0	0	兼3		
専門教育科目	グローバル社会のしくみ	多文化のなかのルール	2前	2			○			1					オムニバス・英語(一部) オムニバス オムニバス・英語(一部) オムニバス・英語(一部) オムニバス・英語(一部)	
		多文化社会のガバナンス	2前	2			○				2					
		文化のなかのエコノミー	2前	2			○				3					
		地域をこえるマネジメント	2後	2			○				2					
		ジェンダーと人権	2後	2			○				2					
		紛争と平和	2後	2			○				1		1			
	小計(6科目)	—	12	0	0	—	—	—	2	8	0	1	0	兼2		
	共通基礎モジュール科目	文化は社会の鏡なのか	2前		2		○			2	2					オムニバス
		越境する文化	2後		2		○			2	3		1			オムニバス
		出来事と表象のあいだ	2前		2		○			1	2					オムニバス
		人間観とコスモロジー	2後		2		○			2	1					オムニバス
		他者と生きる技法	2前		2		○				4		1			オムニバス
		日本の中の世界, 世界の中の日本	2後		2		○			2	5					兼1 オムニバス
	小計(6科目)	—	0	12	0	—	—	—	5	13	0	1	0	兼1		
	多言語を学ぶ	英語からたどる文化	2前		2		○			1	1					オムニバス
日本語からたどる文化		2前		2		○			1	2					オムニバス	
中国語からたどる文化		2前		2		○			3						オムニバス・英語(一部)	
アジア諸言語からたどる文化		2後		2		○				3		1			兼1 オムニバス	
ヨーロッパ諸言語からたどる文化		2後		2		○			1	4					オムニバス	
アフリカ諸言語からたどる文化		2後		2		○			1	3					オムニバス・英語(一部)	
小計(6科目)	—	0	12	0	—	—	—	7	11	0	1	0	兼1			
フィールドワーク	フィールドワーク入門	1前	2			○			2	9		1			兼1 オムニバス・英語(一部)	
	フィールドワーク基礎実習	1後	1					○	2	9		1				
	アーカイヴ実習	1後		1						4					オムニバス・英語(一部)	
	映像・デジタルアーカイヴ実習	2前		1											兼1 集中	
	サーベイ基礎実習	2後		1											兼1 ※講義	
	インタビュー調査基礎実習	2後		1					2	3		1				
	海外フィールドワーク実習	3通		1						3						
小計(7科目)	—	3	5	0	—	—	—	2	12	0	1	0	兼2			
英語モジュール	英語発音法	1前	1					○		1					兼2	
	英語の仕組みと意味Ⅰ	1後	1					○		1					兼2	
	英語の仕組みと意味Ⅱ	2前	1					○		1					兼2	
	Reading and WritingⅠ	1前	1					○			1				兼2	
	Reading and WritingⅡ	2前	1					○			1				兼2	
Academic WritingⅠ	2後	1					○			1				兼2		

【グローバル社会コース】

(用紙 日本工業規格A4縦型)

教育課程等の概要																
(多文化社会学部多文化社会学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
英語 モジュール 科目	Academic Writing II	3前	1				○			1					兼2	
	Reading and Discussion I	1前	1				○			1					兼2	
	Reading and Discussion II	3後	1				○			1					兼2	
	Debate	4前	1				○			1					兼2	
	小計(10科目)	—	10	0	0		—			1	1	0	0	0	兼4	
モジュール 中国語 科目	中国語総合表現 I	2前		1			○			1						
	中国語総合表現 II	2後		1			○			1						
	中国語文献討論 I	3前		1			○			1						
	中国語文献討論 II	3後		1			○			1						
	中国語プレゼンテーション	4前		1			○			2					共同	
	小計(5科目)	—	0	5	0		—			2	0	0	0	0		
モジュール オランダ語 科目	オランダ語 I	2前		2			○								兼1	
	オランダ語 II	2後		2			○								兼1	
	オランダ語 III	3前		2			○								兼1	
		小計(3科目)	—	0	6	0		—			0	0	0	0	0	兼1
グローバル化 する世界	国際機構論	3前		2			○			1						
	軍縮と平和	3前		2			○			1			1		兼1	
	国際法	3前		2			○						1		オムニバス	
	国際政治学	3前		2			○				1					
	比較政治	3前		2			○				1					
	国際経営	3後		2			○								兼1	
	国際開発論	3前		2			○				1					
	国際人権論	3前		2			○				1					
	グローバル人口学	3前		2			○			1						
	国際協力論	3後		2			○			1	1				兼1	
	アジア経済論	3後		2			○								兼1	
	多文化マーケティング論	3前		2			○								兼1	
		小計(12科目)	—	0	24	0		—			2	4	0	1	0	兼5
	変容する 社会	異文化理解教育	3前		2			○				1				
トランスナショナルリティ論		3後		2			○						1			
異文化と家族		3前		2			○				1					
グローバル社会学		3前		2			○								兼1	
現代アフリカ社会論		4前		2			○				1					
現代アジア社会論		4前		2			○			1						
アジア海域交流史		3後		2			○				1					
グローバル文化交流史		4前		2			○				1					
社会史		3後		2			○				1					
異文化交流論		3後		2			○			1						
文化資源論		3後		2			○				1					
地域生態論		3後		2			○				1					
	小計(12科目)	—	0	24	0		—			2	8	0	1	0	兼1	
多文化の 共生	日本思想史	4前		2			○			1						
	中国思想史	4前		2			○			1						
	宗教文化論	3前		2			○				1					
	文化表象論	3前		2			○			1						
	記憶文化論	3後		2			○								兼1	
	地域文化論	3後		2			○				2				オムニバス・高専(一部)	
	メディア文化論	4前		2			○				1					
	現代言語理論	3前		2			○			1						
	異文化間コミュニケーション	3前		2			○				1					
	対照言語学	3後		2			○			1						
	日本語学	3前		2			○				1					
	コーパス言語学	3後		2			○			1						
	小計(12科目)	—	0	24	0		—			6	6	0	0	0	兼1	

教育課程等の概要															
(多文化社会学部多文化社会学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	専門モジュール科目 オランダ	オランダ現代社会論	2後	2		○									兼1
		オランダ文化論	3前	2		○									兼1
		日蘭比較文化	2前	2		○									兼1
		日蘭交流史	3前	2		○				1					
		小計(4科目)	—	0	8	0	—	—	—	0	1	0	0	0	兼2
	キャリア	キャリア形成論	3前	2			○			1					
		自主企画インターンシップ	2前		2				○	1					
		小計(2科目)	—	2	2		—	—	—	1	0	0	0	0	
	演習科目	基礎演習A	2前	1				○		4	17		2		
		基礎演習B	2後	1				○		4	17		2		
		専門演習I-A	3前	1				○		10	17		2		
		専門演習II-A	3後	1				○		10	17		2		
		専門演習I-B	3前	1				○		10	17		2		
		専門演習II-B	3後	1				○		10	17		2		
		卒業研究	4通	6				○		10	17		2		
		小計(7科目)	—	12	0	0	—	—	—	10	17	0	2	0	
	自由選択科目	英米文学概論	2前		2		○								兼1
		応用言語学	2後		2		○								兼1
		英語音声のしくみと働き	3後		2		○								兼1
		第二言語習得論	3前		2		○								兼1
		イギリス小説論	3後		2		○								兼1
		小計(5科目)	—	0	10	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼5
	自由科目	日本語教育学概論	2後			2	○								兼1
日本語指導法		3前			2	○								兼1	
日本語教育実習		3後			2			○						兼1	
小計(3科目)		—	0	0	6	—	—	—	1	0	0	0	0	兼3	
合計(273科目)		—	65	424	6	—	—	—	11	17	0	2	0	212	
学位又は称号		学士(多文化社会学)	学位又は学科の分野			文学関係、法学関係、社会学・社会福祉学関係									
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
1. 教養教育科目 <u>44</u> 単位 (1) 教養ゼミナール科目 <u>2</u> 単位 (2) 情報科学科目 <u>2</u> 単位 (3) 健康・スポーツ科学科目 <u>2</u> 単位 (4) 外国語科目 ①英語 <u>8</u> 単位 ②初習外国語 <u>4</u> 単位 ドイツ語、フランス語、中国語及び韓国語から1言語を選択。 (5) 全学モジュールI科目 <u>6</u> 単位 1テーマを選択し、3科目(6単位)を修得する。 (6) 全学モジュールII科目 <u>6</u> 単位 1テーマを選択し、3科目(6単位)を修得する。 (7) 学部モジュール科目 <u>12</u> 単位 (8) 自由選択科目 <u>2</u> 単位								1 学年の学期区分 2 期							

【グローバル社会コース】

（用紙 日本工業規格A4縦型）

教 育 課 程 等 の 概 要														
(多文化社会学部多文化社会学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置				備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教		助 手
2. 専門教育科目 <u>8.5単位</u>														
(1) 共通基礎モジュール科目 <u>1.8単位</u> 主モジュールは、「グローバル社会のしくみ」モジュールとし、1.2単位を修得する。 副モジュールは、「社会を映し出す文化、文化が作り出す社会」又は「多言語を学ぶ、多言語で学ぶ」モジュールから1つを選択し、6単位を修得する。														
(2) フィールドワークモジュール科目 <u>5単位</u> 選択科目については、「アーカイヴ実習」、「映像・デジタルアーカイヴ実習」、「サーベイ基礎実習」及び「インタビュー調査基礎実習」の4科目のうちから2科目を選択する。														
(3) 英語モジュール科目 <u>1.0単位</u>														
(4) 中国語モジュール科目 <u>0又は5単位</u> 中国語モジュール科目を選択する場合は5単位すべて修得する。														
(5) オランダ語モジュール科目 <u>0単位</u>														
(6) 専門モジュール科目 <u>3.0単位</u> 主モジュールは、「グローバル化する世界」モジュールとし、2.0単位を修得する。 副モジュールは、「変容する社会」又は「多文化の共生」モジュールから1つを選択し、1.0単位を修得する。														
(7) キャリア科目 <u>2単位</u>														
(8) 演習科目 <u>1.2単位</u>														
(9) 自由選択科目 <u>8単位又は3単位</u> 中国語モジュール科目を選択した場合は3単位となる。 自由選択科目の区分に配当される科目のほか、主及び副の共通基礎モジュール科目、フィールドワークモジュール科目、オランダ語モジュール科目、主及び副の専門モジュール科目及びキャリア科目の最低修得単位数を超えて履修する授業科目や、共通基礎モジュール科目及び専門モジュール科目の主モジュール及び副モジュール以外の授業科目をもって充てることができる。														
<u>履修登録上限単位数 4.8単位（1学年あたり）</u>														
<u>総単位数 12.9単位</u>														
1学期の授業期間														
15週														
1時限の授業時間														
90分														

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

【社会動態コース】

(用紙 日本工業規格A4縦型)

教育課程等の概要															
(多文化社会学部多文化社会学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養ゼミナール	教養ゼミナール	1前	2			○			4	17		2			
	小計(1科目)	—	2	0	0	—			4	17	0	2	0		
情報基礎	情報基礎	1後	2			○								兼2	
	小計(1科目)	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	兼2	
健康・スポーツ	健康科学	1後	1			○								兼7	
	スポーツ演習	1後	1				○							兼3	
	小計(2科目)	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	兼8	
英語	英語コミュニケーションⅠ	1前	1				○			1				兼2	
	英語コミュニケーションⅡ	1前	1				○			1				兼2	
	英語コミュニケーションⅢ	2前	1				○							兼3	
	総合英語Ⅰ	1前	1				○		1					兼2	
	総合英語Ⅱ	1前	1				○		1					兼2	
	総合英語Ⅲ	2後	1				○							兼3	
	Advanced EnglishⅠ	3前	1				○							兼3	
	Advanced EnglishⅡ	3後	1				○							兼3	
小計(8科目)	—	8	0	0	—			1	1	0	0	0	兼5		
外国語科目	ドイツ語Ⅰ	1後		1			○		1						
	ドイツ語Ⅱ	1後		1			○		1						
	ドイツ語Ⅲ	2前		1			○							兼1	
	ドイツ語Ⅳ	2後		1			○							兼1	
	フランス語Ⅰ	1後		1			○							兼1	
	フランス語Ⅱ	1後		1			○							兼1	
	フランス語Ⅲ	2前		1			○							兼1	
	フランス語Ⅳ	2後		1			○							兼1	
	中国語Ⅰ	1後		1			○		2						
	中国語Ⅱ	1後		1			○		2						
	中国語Ⅲ	2前		1			○		2						
	中国語Ⅳ	2後		1			○		2						
	韓国語Ⅰ	1後		1			○							兼1	
	韓国語Ⅱ	1後		1			○							兼1	
	韓国語Ⅲ	2前		1			○							兼1	
	韓国語Ⅳ	2後		1			○							兼1	
小計(16科目)	—	0	16	0	—			3	0	0	0	0	兼3		
モジュール科目	現代医学と	1後		2			○							兼3	オムニバス
	細胞と放射線	1後		2			○							兼4	オムニバス
	遺伝子と生命	1後		2			○							兼4	オムニバス
	生命と薬	1後		2			○							兼2	オムニバス
	生命科学のための物理化学入門	1後		2			○							兼2	オムニバス
	生命の化学(ケミカル・イノベーション)	1後		2			○							兼4	オムニバス・高専(一部)
	安全で安心できる社会	1後		2			○							兼4	オムニバス
	リスク社会と社会科学	1後		2			○							兼1	
	科学と技術の安全・安心	1後		2			○							兼4	オムニバス
	教育原理論	1後		2			○							兼1	
	教育心理	1後		2			○							兼1	
	教育行政・制度論	1後		2			○							兼1	
	現代経済と	1後		2			○							兼1	
	企業の仕組みと行動	1後		2			○							兼1	
	経済政策と公共部門	1後		2			○							兼1	
	環境問題を考える	1後		2			○							兼3	オムニバス
	都市環境を考える	1後		2			○							兼2	オムニバス
	地球温暖化を考える	1後		2			○							兼4	オムニバス
	情報活用	1後		2			○							兼2	共同
	情報社会とオンライン	1後		2			○							兼1	
計算機の科学	1後		2			○							兼1		

【社会動態コース】

(用紙 日本工業規格A4縦型)

教育課程等の概要																
(多文化社会学部多文化社会学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養教育科目	全学モジュールI科目	アジアのパスポート社会	1後	2		○									兼4 オムニバス	
		国際的視点に立った法と政治	1後	2		○									兼1	
		国際的視点に立った経済	1後	2		○									兼1	
		コミュニケーションの比較文化	1後	2		○				1					兼4 オムニバス	
		コミュニケーションの生物学	1後	2		○									兼1	
		コミュニケーションとICT	1後	2		○									兼1	
		核兵器とは何か	1後	2		○									兼3 オムニバス	
		国際社会と平和	1後	2		○				1					兼4 オムニバス	
		被ばくと社会	1後	2		○									兼1	
		環境法(国際法)と環境問題への取り組み	1後	2		○									兼1	
		環境基本法と環境基本計画	1後	2		○									兼1	
		環境関連法(国内法)と環境コミュニケーション	1後	2		○									兼1	
		数学の常識	1後	2		○									兼1	
		物理の考え方	1後	2		○									兼1	
		環境・生活と化学	1後	2		○									兼2 オムニバス	
		小計(36科目)	—	0	72	0		—		1	1	0	0	0	兼70	
		全学モジュールII科目	先達医学と現代社会	2前	2		○									兼4 オムニバス
			エイズと性感染症	2前	2		○									兼1
	感染症と文明		2後	2		○									兼1	
	話題の先進医学		2後	2		○									兼1	
	幹細胞と再生医療		2後	2		○									兼4 オムニバス	
	伝承薬から最先端医薬品まで(薬はこうして創られる)		2前	2		○									兼3 オムニバス	
	薬との賢い付き合い方		2後	2		○									兼2 オムニバス	
	出島の科学		2前	2		○									兼2 オムニバス	
	疾病と薬物治療		2前	2		○									兼3 オムニバス	
	薬の開発を主題とした動物行動分析と推計学		2後	2		○									兼1	
	疾病の回復を促進する薬		2後	2		○									兼1	
	医療現場の安全と安心		2後	2		○									兼4 オムニバス	
	自然災害とインフラ長寿命化		2前	2		○									兼4 オムニバス	
	破壊事故とヒューマンファクタ		2後	2		○									兼1	
	水環境の安全と安心		2前	2		○									兼1	
	環境リスクと社会		2前	2		○									兼1	
	教育相談		2前	2		○									兼1	
	教育相談		2後	2		○									兼1	
	文学と社会	2前	2		○									兼1		
	身のまわりの科学	2後	2		○									兼1		
芸術	2前	2		○									兼1			
環境と社会	2後	2		○									兼1			
現代経済と企業活動	2後	2		○									兼1			
地域社会と日本経済	2前	2		○									兼1			
企業行動と戦略	2後	2		○									兼1			
社会制度と経済活動	2前	2		○									兼1			
経営情報と会計情報	2前	2		○									兼1			
環境と民俗	2後	2		○					1				兼2 オムニバス			
環境と社会運動	2前	2		○									兼2 オムニバス			
環境問題の歴史から学ぶ	2後	2		○					1				兼2 オムニバス			
地域の環境を考える	2前	2		○									兼2 オムニバス			
海洋生物の遺伝子多様性	2前	2		○									兼4 オムニバス			
情報社会とコンピュータサイエンス	2前	2		○									兼1			
問題解決のアルゴリズム	2前	2		○									兼4 オムニバス			
情報と社会	2前	2		○									兼2 共同			
情報化の役割と課題	2後	2		○									兼1			
情報通信とコンピュータネットワークのしくみ	2後	2		○									兼1			
情報化時代の仕事術	2前	2		○									兼1			
ソフトウェアの利用技術	2前後	2		○									兼2 共同			

【社会動態コース】

(用紙 日本工業規格A4縦型)

教育課程等の概要															
(多文化社会学部多文化社会学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	グローバル社会へのパスポート	企業の国際展開とその課題	2後	2		○			1						兼1
		世界人口の動向と国際開発	2前	2		○									兼1
		英語で学ぶオランダと西欧の文化	2前	2		○									兼1
		国際援助と公的部門の役割	2後	2		○									兼1
		異文化接触とコミュニケーション	2前	2		○									兼1
		途上国支援と国際保健	2後	2		○									兼1
	コミュニケーション実践学	対人世界の心理学	2前	2		○									兼1
		身体・かかわり・言葉	2前	2		○									兼1
		芸術・スポーツとコミュニケーション	2前	2		○									兼2 オムニバス
		社会・メディア・政治	2後	2		○									兼1
		日本語と表現	2後	2		○									兼2 オムニバス
		異文化コミュニケーション	2後	2		○									兼2 共同
	核兵器のない世界	市民運動・NGOと核兵器廃絶	2後	2		○									兼2 オムニバス
		被ばく者と医療	2前	2		○									兼4 オムニバス
		核兵器廃絶と教育	2前	2		○									兼4 オムニバス・英語(一部)
		文学・芸術と核兵器	2後	2		○			1						兼2 オムニバス
		核軍縮の法と政治	2後	2		○			1						兼1 オムニバス
		資源・エネルギー問題への取り組み	2前	2		○									兼3 オムニバス
	環境マネジメント	エネルギーマネジメント	2後	2		○									兼1
		化学薬品等の取り扱い	2前	2		○									兼3 オムニバス
		環境汚染物質のマネジメント	2後	2		○									兼1
		廃棄物のマネジメント	2後	2		○									兼1
		環境分析技術(advanced class)	2前	2		○									兼2 オムニバス
		暮らしと情報の数理	2前	2		○									兼2 オムニバス
	数理と自然科学のススメ	自然を記述するための基礎数学	2前	2		○									兼1
		暮らしの中の物理科学	2前	2		○									兼2 オムニバス
		物質と化学反応	2後	2		○									兼1
		地球環境の科学	2後	2		○									兼2 オムニバス
		小計(6科目)	—	0	132	0	—	—	—	2	2	0	0	0	兼95
		学部モジュール科目	多文化社会の諸問題	1後	2		○				2	3		1	
長崎から出発するグローバル世界へ	1後		2		○				2	2		1		兼1 オムニバス	
アジア理解への扉	1後		2		○					3				兼1 オムニバス・英語(一部)	
アフリカ理解への扉	1後		2		○				1	3				兼1 オムニバス	
オランダーヨーロッパ理解への扉	1後		2		○				1	3				兼1 オムニバス	
日本を知る	1後		2		○				2	3				兼1 オムニバス	
グローバルキャリアへの扉	1前	2		○				2	3				兼1 オムニバス		
小計(6科目)	—	12	0	0	—	—	—	6	12	0	2	0	兼3		
自由選択科目	日本国憲法	1前	2		○									兼3	
	私たちと法	1前	2		○									兼1 集中	
	日本の思想文化	1前	2		○			1							
	ジェンダーと法	1後	2		○									兼1	
	芸術と文化	1後	2		○									兼2	
	共生のグローバル人類学	1後	2		○					1					
	社会学	1後	2		○							1			
	日本の言語と文化	1前	2		○					1					
	オランダの言語	1前	2		○									兼1	
	オランダの文化	1後	2		○									兼1	
	平和講座	1前	2		○									兼5 オムニバス	
	解放講座	1前後	2		○									兼1	
	疑似科学とのつき合い方	1前	2		○									兼4 オムニバス	
	キャリア概論	1前	2		○									兼1	
	平成長崎塾	1前	2		○									兼3 オムニバス	
	長崎学	1前	2		○					1				兼1 オムニバス	
	男女共同参画のすすめ	1後	2		○									兼1	
	物理科学	1後	2		○									兼1	
上級外国語(フランス語)	3前	2		○									兼1		

【社会動態コース】

(用紙 日本工業規格A4縦型)

教育課程等の概要															
(多文化社会学部多文化社会学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	自由選択科目	上級外国語(中国語)	3前		2		○			1					兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1
		上級外国語(韓国語)	3前		2		○								
		English for Specific Purposes(A)	1前		1		○								
		English for Specific Purposes(B)	1後		1		○								
		全学乗船実習(後期)	1・2後		2				○						
		基礎物理	1前・後		2		○								
		基礎化学	1前・後		2		○								
		基礎生物	1前・後		2		○								
		基礎数学	1前・後		2		○								
		基礎英語	1前・後		2		○								
		特別活動論	1後		2		○								
		教育方法・技術論	1前		2		○								
	生徒・進路指導論	1前		2		○									
	小計(32科目)	—	0	62	0			—	2	3	0	1	0	兼31	
	留学生用科目	日本語中級Ⅱ読解	1前		2			○							兼1
日本語上級ⅠS		1前		2			○							兼1	
日本語上級ⅡS		1前		2			○		1					兼2	
日本語上級ⅡA		1後		2			○		1					兼1	
日本事情		1後		2		○			1						
小計(5科目)	—	0	10	0			—	1	0	0	0	0	兼3		
専門教育科目	共通基礎モジュール科目	グローバリズムのしくみ	多文化のなかのルール	2前		2		○		1					兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1
			多文化社会のガバナンス	2前		2		○			2				
			文化のなかのエコノミー	2前		2		○				3			
			地域をこえるマネジメント	2後		2		○			2				
			ジェンダーと人権	2後		2		○				2			
			紛争と平和	2後		2		○			1	2		1	
	小計(6科目)	—	0	12	0			—	2	8	0	1	0	兼2	
	多言語を学ぶ	英語からたどる文化	2前		2		○			1	1				兼1
		日本語からたどる文化	2前		2		○			1	2				
		中国語からたどる文化	2前		2		○			3					
		アジア諸言語からたどる文化	2後		2		○				3		1		
		ヨーロッパ諸言語からたどる文化	2後		2		○			1	4				
		アフリカ諸言語からたどる文化	2後		2		○			1	3				
	小計(6科目)	—	0	12	0			—	7	11	0	1	0	兼1	
	フィールドワーク	フィールドワーク入門	1前		2		○			2	9		1		兼1
フィールドワーク基礎実習		1後		1			○		2	9		1			
アーカイヴ実習		1後		1				○		4					
映像・デジタルアーカイヴ実習		2前		1				○							
サーベイ基礎実習		2後		1				○							
インタビュー調査基礎実習		2後		1				○	2	3		1			
海外フィールドワーク実習		3通		1				○		3					
小計(7科目)	—	3	5	0			—	2	12	0	1	0	兼2		
英語モジュール	英語発音法	1前		1			○			1				兼2	
	英語の仕組みと意味Ⅰ	1後		1			○		1						
	英語の仕組みと意味Ⅱ	2前		1			○		1						
	Reading and WritingⅠ	1前		1			○			1					
	Reading and WritingⅡ	2前		1			○			1					
Academic WritingⅠ	2後		1			○			1						

【社会動態コース】

（用紙 日本工業規格A4縦型）

教育課程等の概要																
(多文化社会学部多文化社会学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
英語 モジュール 科目	Academic Writing II	3前	1				○			1					兼2	
	Reading and Discussion I	1前	1				○			1					兼2	
	Reading and Discussion II	3後	1				○			1					兼2	
	Debate	4前	1				○			1					兼2	
	小計（10科目）	—	10	0	0	—	—	—	1	1	0	0	0		兼4	
	モジュール 中国語 科目	中国語総合表現 I	2前		1			○		1						
		中国語総合表現 II	2後		1			○		1						
		中国語文献討論 I	3前		1			○		1						
		中国語文献討論 II	3後		1			○		1						
		中国語プレゼンテーション	4前		1			○		2						共同
	小計（5科目）	—	0	5	0	—	—	—	2	0	0	0	0			
	モジュール オランダ語 科目	オランダ語 I	2前		2			○								兼1
		オランダ語 II	2後		2			○								兼1
オランダ語 III		3前		2			○								兼1	
小計（3科目）		—	0	6	0	—	—	—	0	0	0	0	0		兼1	
専門教育科目	グローバル化する世界	国際機構論	3前		2		○		1							
		軍縮と平和	3前		2		○		1			1			兼1	
		国際法	3前		2		○					1				
		国際政治学	3前		2		○				1					
		比較政治	3前		2		○				1					
		国際経営	3後		2		○								兼1	
		国際開発論	3前		2		○				1					
		国際人権論	3前		2		○				1					
		グローバル人口学	3前		2		○		1							
		国際協力論	3後		2		○		1	1					兼1	
		アジア経済論	3後		2		○								兼1	
		多文化マーケティング論	3前		2		○								兼1	
	小計（12科目）	—	0	24	0	—	—	—	2	4	0	1	0		兼5	
	変容する社会	異文化理解教育	3前		2		○				1					
		トランスナショナルリティ論	3後		2		○						1			
		異文化と家族	3前		2		○				1					
		グローバル社会学	3前		2		○								兼1	
		現代アフリカ社会論	4前		2		○				1					
		現代アジア社会論	4前		2		○		1							
アジア海域交流史		3後		2		○				1						
グローバル文化交流史		4前		2		○				1						
社会史		3後		2		○				1						
異文化交流論		3後		2		○		1								
文化資源論		3後		2		○				1						
地域生態論	3後		2		○				1							
小計（12科目）	—	0	24	0	—	—	—	2	8	0	1	0		兼1		
多文化の共生	日本思想史	4前		2		○		1								
	中国思想史	4前		2		○		1								
	宗教文化論	3前		2		○				1						
	文化表象論	3前		2		○		1								
	記憶文化論	3後		2		○								兼1		
	地域文化論	3後		2		○				2						
	メディア文化論	4前		2		○				1						
	現代言語理論	3前		2		○		1								
	異文化間コミュニケーション	3前		2		○				1						
	対照言語学	3後		2		○		1								
	日本語学	3前		2		○				1						
コーパス言語学	3後		2		○		1									
小計（12科目）	—	0	24	0	—	—	—	6	6	0	0	0		兼1		

【社会動態コース】

（用紙 日本工業規格A4縦型）

教 育 課 程 等 の 概 要															
(多文化社会学部多文化社会学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	専門モジュール科目 オランダ	オランダ現代社会論	2後	2		○									兼1
		オランダ文化論	3前	2		○									兼1
		日蘭比較文化	2前	2		○									兼1
		日蘭交流史	3前	2		○				1					
		小計（4科目）	—	0	8	0	—	—	—	0	1	0	0	0	兼2
	キャリア	キャリア形成論	3前	2			○			1					
		自主企画インターンシップ	2前		2				○	1					
		小計（2科目）	—	2	2		—	—	—	1	0	0	0	0	
	演習科目	基礎演習A	2前	1				○		4	17		2		
		基礎演習B	2後	1				○		4	17		2		
		専門演習Ⅰ-A	3前	1				○		10	17		2		
		専門演習Ⅱ-A	3後	1				○		10	17		2		
		専門演習Ⅰ-B	3前	1				○		10	17		2		
		専門演習Ⅱ-B	3後	1				○		10	17		2		
		卒業研究	4通	6				○		10	17		2		
		小計（7科目）	—	12	0	0	—	—	—	10	17	0	2	0	
	自由選択科目	英米文学概論	2前		2		○								兼1
		応用言語学	2後		2		○								兼1
		英語音声のしくみと働き	3後		2		○								兼1
		第二言語習得論	3前		2		○								兼1
		イギリス小説論	3後		2		○								兼1
		小計（5科目）	—	0	10	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼5
	自由科目	日本語教育学概論	2後			2	○								兼1
日本語指導法		3前			2	○								兼1	
日本語教育実習		3後			2			○						兼1	
小計（3科目）		—	0	0	6	—	—	—	1	0	0	0	0	兼3	
合計（273科目）		—	65	424	6	—	—	—	11	17	0	2	0	212	
学位又は称号		学士（多文化社会学）	学位又は学科の分野			文学関係、法学関係、社会学・社会福祉学関係									
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
1. 教養教育科目 <u>44</u> 単位 (1) 教養ゼミナール科目 <u>2</u> 単位 (2) 情報科学科目 <u>2</u> 単位 (3) 健康・スポーツ科学科目 <u>2</u> 単位 (4) 外国語科目 ①英語科目 <u>8</u> 単位 ②初習外国語科目 <u>4</u> 単位 ドイツ語、フランス語、中国語及び韓国語から1言語を選択。 (5) 全学モジュールⅠ科目 <u>6</u> 単位 1テーマを選択し、3科目（6単位）を修得する。 (6) 全学モジュールⅡ科目 <u>6</u> 単位 1テーマを選択し、3科目（6単位）を修得する。 (7) 学部モジュール科目 <u>12</u> 単位 (8) 自由選択科目 <u>2</u> 単位							1 学年の学期区分 2 期								

【社会動態コース】

（用紙 日本工業規格A4縦型）

教 育 課 程 等 の 概 要													
(多文化社会学部多文化社会学科)													
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置				備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	
2. 専門教育科目 <u>8.5単位</u>													
(1) 共通基礎モジュール科目 <u>1.8単位</u> 主モジュールは、「社会を映し出す文化、文化が作り出す社会」モジュールとし、 1.2単位を修得する。 副モジュールは、「グローバル社会のしくみ」又は「多言語を学ぶ、多言語で学 ぶ」モジュールから1つを選択し、6単位を修得する。													
(2) フィールドワークモジュール科目 <u>5単位</u> 選択科目については、「アーカイヴ実習」、「映像・デジタルアーカイヴ実習」、 「サーベイ基礎実習」及び「インタビュー調査基礎実習」の4科目のうちから2科目 を選択する。													
(3) 英語モジュール科目 <u>1.0単位</u>													
(4) 中国語モジュール科目 <u>0又は5単位</u> 中国語モジュール科目を選択する場合は5単位すべて修得する。													
(5) オランダ語モジュール科目 <u>0単位</u>													
(6) 専門モジュール科目 <u>3.0単位</u> 主モジュールは、「変容する社会」モジュールとし、2.0単位を修得する。 副モジュールは、「グローバル化する世界」又は「多文化の共生」モジュールから 1つを選択し、1.0単位を修得する。													
(7) キャリア科目 <u>2単位</u>													
(8) 演習科目 <u>1.2単位</u>													
(9) 自由選択科目 <u>8単位又は3単位</u> 中国語モジュール科目を選択した場合は3単位となる。 自由選択科目の区分に配当される科目のほか、主及び副の共通基礎モジュール科目、 フィールドワークモジュール科目、オランダ語モジュール科目、主及び副の専門モジュ ール科目及びキャリア科目の最低修得単位数を超えて履修する授業科目や、共通基礎モ ジュール科目及び専門モジュール科目の主モジュール及び副モジュール以外の授業科目 をもって充てることができる。													
<u>履修登録上限単位数 4.8単位（1学年あたり）</u>													
<u>総単位数 12.9単位</u>													
1 学期の授業期間 1.5週													
1 時限の授業時間 9.0分													

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教育課程等の概要															
(多文化社会学部多文化社会学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	教育ゼミナール	1前	2			○			4	17		2			
		小計（1科目）	—	2	0	0	—		4	17	0	2	0		
	情報基礎	1後	2			○								兼2	
		小計（1科目）	—	2	0	0	—		0	0	0	0	0	兼2	
	健康・スポーツ科学科目	健康科学	1後	1			○							兼7	
		スポーツ演習	1後	1				○						兼3	
		小計（2科目）	—	2	0	0	—		0	0	0	0	0	兼8	
	英語	英語コミュニケーションⅠ	1前	1				○			1			兼2	
		英語コミュニケーションⅡ	1前	1				○			1			兼2	
		英語コミュニケーションⅢ	2前	1				○						兼3	
		総合英語Ⅰ	1前	1				○		1				兼2	
		総合英語Ⅱ	1前	1				○		1				兼2	
		総合英語Ⅲ	2後	1				○						兼3	
		Advanced EnglishⅠ	3前	1				○						兼3	
		Advanced EnglishⅡ	3後	1				○						兼3	
	小計（8科目）	—	8	0	0	—		1	1	0	0	0	兼5		
	外国語科目	ドイツ語	ドイツ語Ⅰ	1後	1				○		1				
			ドイツ語Ⅱ	1後	1				○		1				
			ドイツ語Ⅲ	2前	1				○						兼1
			ドイツ語Ⅳ	2後	1				○						兼1
		フランス語	フランス語Ⅰ	1後	1				○						兼1
			フランス語Ⅱ	1後	1				○						兼1
			フランス語Ⅲ	2前	1				○						兼1
			フランス語Ⅳ	2後	1				○						兼1
		初習外国語	中国語Ⅰ	1後	1				○		2				
			中国語Ⅱ	1後	1				○		2				
			中国語Ⅲ	2前	1				○		2				
			中国語Ⅳ	2後	1				○		2				
韓国語Ⅰ			1後	1				○						兼1	
韓国語Ⅱ			1後	1				○						兼1	
韓国語Ⅲ			2前	1				○						兼1	
韓国語Ⅳ			2後	1				○						兼1	
小計（16科目）	—	0	16	0	—		3	0	0	0	0	兼3			
モジュール科目	現代医学と健康	人体の構造と機能	1後	2			○							兼3	
		細胞と放射線	1後	2			○							兼4	
		遺伝子と生命	1後	2			○							兼4	
	生命と薬	ビギナーのための有機化学	1後	2			○							兼2	
		生命科学のための物理化学入門	1後	2			○							兼2	
		生命の化学（ケミカル・イノベーション）	1後	2			○							兼4	
	安全で安心できる社会	健康と医療の安全・安心	1後	2			○							兼4	
		リスク社会と社会科学	1後	2			○							兼1	
		科学と技術の安全・安心	1後	2			○							兼4	
	教育と社会	教育原理論	1後	2			○							兼1	
		教育心理	1後	2			○							兼1	
		教育行政・制度論	1後	2			○							兼1	
	現代経済と企業活動	経済活動と社会	1後	2			○							兼1	
		企業の仕組みと行動	1後	2			○							兼1	
		経済政策と公共部門	1後	2			○							兼1	
	環境問題を考える	生物多様性を考える	1後	2			○							兼3	
		都市環境を考える	1後	2			○							兼2	
		地球温暖化を考える	1後	2			○							兼4	
	情報社会とコミュニケーション	情報の活用	1後	2			○							兼2	
		情報社会の安全と安心	1後	2			○							兼1	
計算機の科学		1後	2			○							兼1		

【共生文化コース】

（用紙 日本工業規格A4縦型）

教育課程等の概要																	
(多文化社会学部多文化社会学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
教養教育科目	全学モジュールⅠ科目	ヘブライ語のパスポート社会	東西文化交流の歴史	1後	2		○								兼4	オムニバス	
		国際的視点に立った法と政治	1後	2		○									兼1		
		国際的視点に立った経済	1後	2		○									兼1		
		コミュニケーションの比較文化	1後	2		○				1					兼4	オムニバス	
		コミュニケーションの生物学	1後	2		○									兼1		
		コミュニケーションとICT	1後	2		○									兼1		
		核兵器とは何か	1後	2		○									兼3	オムニバス	
		国際社会と平和	1後	2		○				1					兼4	オムニバス	
		被ばくと社会	1後	2		○									兼4	オムニバス	
		環境法（国際法）と環境問題への取り組み	1後	2		○									兼1		
		環境基本法と環境基本計画	1後	2		○									兼1		
		環境関連法（国内法）と環境コミュニケーション	1後	2		○									兼1		
		数学の常識	1後	2		○									兼1		
		物理の考え方	1後	2		○									兼1		
		環境・生活と化学	1後	2		○									兼2	オムニバス	
		小計（36科目）	—	0	72	0		—		1	1	0	0	0	兼70		
		全学モジュールⅡ科目	先進医学と現代社会	免疫と病気	2前	2		○								兼4	オムニバス
				エイズと性感染症	2前	2		○								兼1	
	感染症と文明			2後	2		○								兼1		
	話題の先進医学			2後	2		○								兼1		
	幹細胞と再生医療			2後	2		○								兼4	オムニバス	
	伝承薬から最先端医薬品まで（薬はこうして創られる）			2前	2		○								兼3	オムニバス	
	生命と薬		薬との賢い付き合い方	2後	2		○								兼2	オムニバス	
			出島の科学	2前	2		○								兼2	オムニバス	
			疾病と薬物治療	2前	2		○								兼3	オムニバス	
			薬の開発を主題とした動物行動分析と推計学	2後	2		○								兼1		
			疾病の回復を促進する薬	2後	2		○								兼1		
			医療現場の安全と安心	2後	2		○								兼4	オムニバス	
	安全で安心できる社会		自然災害とインフラ長寿命化	2前	2		○								兼4	オムニバス	
			破壊事故とヒューマンファクタ	2後	2		○								兼1		
			水環境の安全と安心	2前	2		○								兼1		
			環境リスクと社会	2前	2		○								兼1		
			教育相談	2前	2		○								兼1		
			教育相談	2後	2		○								兼1		
	教育と社会	文学と社会	2前	2		○								兼1			
		身のまわりの科学	2後	2		○								兼1			
芸術		2前	2		○								兼1				
環境と社会		2後	2		○								兼1				
国際社会と日本経済		2後	2		○								兼1				
地域社会と日本経済		2前	2		○								兼1				
現代経済と企業活動	企業行動と戦略	2後	2		○								兼1				
	社会制度と経済活動	2前	2		○								兼1				
	経営情報と会計情報	2前	2		○								兼1				
	環境と民俗	2後	2		○				1				兼2	オムニバス			
	環境と社会運動	2前	2		○								兼2	オムニバス			
	環境問題の歴史から学ぶ	2後	2		○				1				兼2	オムニバス			
環境問題を考える	地域の環境を考える	2前	2		○								兼2	オムニバス			
	海洋生物の遺伝子多様性	2前	2		○								兼4	オムニバス			
	問題解決のアルゴリズム	2前	2		○								兼1				
	情報と社会	2前	2		○								兼4	オムニバス			
	情報化の役割と課題	2後	2		○								兼2	共同			
	情報通信とコンピュータネットワークのしくみ	2後	2		○								兼1				
情報社会とコンピュータサイエンス	情報化時代の仕事術	2後	2		○								兼1				
	ソフトウェアの利用技術	2前後	2		○								兼2	共同			

【共生文化コース】

(用紙 日本工業規格A4縦型)

教育課程等の概要															
(多文化社会学部多文化社会学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	全学モジュールII科目	グローバル社会へのパスポート	2後	2		○			1						兼1
		世界人口の動向と国際開発	2前	2		○									兼1
		英語で学ぶオランダと西欧の文化	2前	2		○									兼1
		国際援助と公的部門の役割	2後	2		○									兼1
		異文化接触とコミュニケーション	2前	2		○									兼1
		途上国支援と国際保健	2後	2		○									兼1
	モジュールII科目	対人世界の心理学	2前	2		○									兼1
		身体・かかわり・言葉	2前	2		○									兼1
		芸術・スポーツとコミュニケーション	2前	2		○									兼2 オムニバス
		社会・メディア・政治	2後	2		○									兼1
		日本語と表現	2後	2		○									兼2 オムニバス
		異文化コミュニケーション	2後	2		○									兼2 共同
	モジュールII科目	核兵器のない世界	2後	2		○									兼2 オムニバス
		被ばく者と医療	2前	2		○									兼4 オムニバス
		核兵器廃絶と教育	2前	2		○									兼4 オムニバス・英語(一部)
		文学・芸術と核兵器	2後	2		○			1						兼2 オムニバス
		核軍縮の法と政治	2後	2		○			1						兼1 オムニバス
		環境マネージメント	2前	2		○									兼3 オムニバス
	モジュールII科目	環境マネージメント	2後	2		○									兼1
		化学薬品等の取り扱い	2前	2		○									兼3 オムニバス
		環境汚染物質のマネージメント	2後	2		○									兼1
		廃棄物のマネージメント	後	2		○									兼1
		環境分析技術(advanced class)	2前	2		○									兼2 オムニバス
		数理と自然科学のススメ	2前	2		○									兼2 オムニバス
	学部モジュールII科目	暮らしと情報の数理	2前	2		○									兼1
		自然を記述するための基礎数学	2前	2		○									兼2 オムニバス
		暮らしの中の物理科学	2前	2		○									兼1
		物質と化学反応	2後	2		○									兼2 オムニバス
		地球環境の科学	2後	2		○									兼2
		小計(6科目)	—	0	132	0	—	—	—	2	2	0	0	0	兼95
学部モジュールII科目	多文化社会の諸問題	1後	2		○				2	3		1		兼1	
	長崎から出発するグローバル世界へ	1後	2		○				2	2		1		兼1	
	アジア理解への扉	1後	2		○				1	3				兼1	
	アフリカ理解への扉	1後	2		○				1	3				兼1	
	オランダ・ヨーロッパ理解への扉	1後	2		○				1	3				兼1	
	日本を知る	1前	2		○				2	3				兼1	
グローバルキャリアへの扉	1前	2		○				2	3				兼1		
小計(6科目)	—	12	0	0	—	—	—	6	12	0	2	0	兼3		
自由選択科目	日本国憲法	1前	2		○									兼3	
	私たちと法	1前	2		○									兼1 集中	
	日本の思想文化	1前	2		○			1							
	ジェンダーと法	1後	2		○									兼1	
	芸術と文化	1後	2		○									兼2	
	共生のグローバル人類学	1後	2		○				1						
	社会学	1後	2		○						1				
	日本の言語と文化	1前	2		○				1						
	オランダの言語	1前	2		○									兼1	
	オランダの文化	1後	2		○									兼1	
	平和講座	1前	2		○									兼5 オムニバス	
	解放講座	1前後	2		○									兼1	
	疑似科学とのつき合い方	1前	2		○									兼4 オムニバス	
	キャリア概論	1前	2		○									兼1	
	平成長崎塾	1前	2		○									兼3 オムニバス	
	長崎学	1前	2		○				1					兼1 オムニバス	
	男女共同参画のすすめ	1後	2		○									兼1	
	物理科学	1後	2		○									兼1	
上級外国語(フランス語)	3前	2		○									兼1		

教育課程等の概要																
(多文化社会学部多文化社会学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養教育科目	自由選択科目	上級外国語(中国語)	3前		2		○			1						
		上級外国語(韓国語)	3前		2		○								兼1	
		English for Specific Purposes(A)	1前		1		○								兼1	
		English for Specific Purposes(B)	1後		1		○								兼1	
		全学乗船実習(後期)	1・2後		2				○						兼1	
		基礎物理	1前・後		2		○								兼1	
		基礎化学	1前・後		2		○								兼1	
		基礎生物	1前・後		2		○								兼1	
		基礎数学	1前・後		2		○								兼1	
		基礎英語	1前・後		2		○								兼1	
		特別活動論	1後		2		○								兼1	
		教育方法・技術論	1前		2		○								兼1	
	生徒・進路指導論	1前		2		○								兼1		
	小計(32科目)		—	0	62	0			—	2	3	0	1	0	兼31	
	留学生用科目	日本語中級Ⅱ読解	1前		2				○						兼1	
日本語上級ⅠS		1前		2				○						兼1		
日本語上級ⅡS		1前		2				○	1					兼2		
日本語上級ⅡA		1後		2				○	1					兼1		
日本事情		1後		2		○			1							
小計(5科目)		—	0	10	0			—	1	0	0	0	0	兼3		
専門教育科目	共通基礎モジュール科目	グローバリズムのしくみ	多文化のなかのルール	2前		2		○		1						
			多文化社会のガバナンス	2前		2		○			2					
			文化のなかのエコノミー	2前		2		○				3				
			地域をこえるマネジメント	2後		2		○			2					兼1
			ジェンダーと人権	2後		2		○				2				
			紛争と平和	2後		2		○			1	2		1		兼1
	小計(6科目)		—	0	12	0			—	2	8	0	1	0	兼2	
	多言語を学ぶ	英語からたどる文化	2前		2		○			1	1					
		日本語からたどる文化	2前		2		○			1	2					
		中国語からたどる文化	2前		2		○			3						
		アジア諸言語からたどる文化	2後		2		○				3		1		兼1	
		ヨーロッパ諸言語からたどる文化	2後		2		○			1	4					
		アフリカ諸言語からたどる文化	2後		2		○			1	3					
	小計(6科目)		—	0	12	0			—	7	11	0	1	0	兼1	
	フィールドワーク	フィールドワーク入門	1前	2			○			2	9		1		兼1	
フィールドワーク基礎実習		1後	1					○	2	9		1				
アーカイヴ実習		1後		1						4						
映像・デジタルアーカイヴ実習		2前		1										兼1		
サーベイ基礎実習		2後		1										兼1		
インタビュー調査基礎実習		2後		1					2	3		1				
海外フィールドワーク実習		3通		1						3						
小計(7科目)		—	3	5	0			—	2	12	0	1	0	兼2		
英語モジュール	英語発音法	1前	1					○		1				兼2		
	英語の仕組みと意味Ⅰ	1後	1					○	1					兼2		
	英語の仕組みと意味Ⅱ	2前	1					○	1					兼2		
	Reading and WritingⅠ	1前	1					○		1				兼2		
	Reading and WritingⅡ	2前	1					○		1				兼2		
Academic WritingⅠ	2後	1					○		1				兼2			

教育課程等の概要															
(多文化社会学部多文化社会学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
英語 モジュール	Academic Writing II	3前	1				○			1					兼2
	Reading and Discussion I	1前	1				○			1					兼2
	Reading and Discussion II	3後	1				○			1					兼2
	Debate	4前	1				○			1					兼2
	小計（10科目）	—	10	0	0		—		1	1	0	0	0		兼4
モジュール 中国語科目	中国語総合表現 I	2前		1			○		1						
	中国語総合表現 II	2後		1			○		1						
	中国語文献討論 I	3前		1			○		1						
	中国語文献討論 II	3後		1			○		1						
	中国語プレゼンテーション	4前		1			○		2						共同
	小計（5科目）	—	0	5	0		—		2	0	0	0	0		
モジュール オランダ語	オランダ語 I	2前		2			○								兼1
	オランダ語 II	2後		2			○								兼1
	オランダ語 III	3前		2			○								兼1
		小計（3科目）	—	0	6	0		—		0	0	0	0	0	
専門教育科目	グローバル化する世界	国際機構論	3前		2		○		1						
		軍縮と平和	3前		2		○		1				1		兼1
		国際法	3前		2		○						1		
		国際政治学	3前		2		○				1				
		比較政治	3前		2		○				1				
		国際経営	3後		2		○								兼1
		国際開発論	3前		2		○				1				
		国際人権論	3前		2		○				1				
		グローバル人口学	3前		2		○		1						
		国際協力論	3後		2		○		1	1					兼1
		アジア経済論	3後		2		○								兼1
		多文化マーケティング論	3前		2		○								兼1
		小計（12科目）	—	0	24	0		—	2	4	0	1	0		兼5
	専門モジュール科目	変容する社会	異文化理解教育	3前	2			○			1				
トランスナショナルリティ論			3後		2		○						1		
異文化と家族			3前	2			○				1				
グローバル社会学			3前		2		○								兼1
現代アフリカ社会論			4前		2		○				1				
現代アジア社会論			4前		2		○		1						
アジア海域交流史			3後		2		○				1				
グローバル文化交流史			4前		2		○				1				
社会史			3後		2		○				1				
異文化交流論			3後	2			○		1						
	小計（12科目）	—	6	18	0		—	2	8	0	1	0		兼1	
多文化の共生	日本思想史	4前		2		○		1							
	中国思想史	4前		2		○		1							
	宗教文化論	3前		2		○				1					
	文化表象論	3前		2		○		1							
	記憶文化論	3後		2		○								兼1	
	地域文化論	3後		2		○				2					
	メディア文化論	4前		2		○				1					
	現代言語理論	3前		2		○		1							
	異文化間コミュニケーション	3前		2		○				1					
	対照言語学	3後		2		○		1							
	日本語学	3前		2		○				1					
	コーパス言語学	3後		2		○		1							
	小計（12科目）	—	0	24	0		—	6	6	0	0	0		兼1	

教育課程等の概要															
(多文化社会学部多文化社会学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	専門モジュール科目 オランダ	オランダ現代社会論	2後		2		○								兼1
		オランダ文化論	3前		2		○								兼1
		日蘭比較文化	2前		2		○								兼1
		日蘭交流史	3前		2		○				1				
		小計（4科目）	—	0	8	0	—	—	—	0	1	0	0	0	兼2
	キャリア	キャリア形成論	3前	2			○			1					
		自主企画インターンシップ	2前		2				○	1					
		小計（2科目）	—	2	2		—	—	—	1	0	0	0	0	
	演習科目	基礎演習A	2前	1				○		4	17		2		
		基礎演習B	2後	1				○		4	17		2		
		専門演習Ⅰ-A	3前	1				○		10	17		2		
		専門演習Ⅱ-A	3後	1				○		10	17		2		
		専門演習Ⅰ-B	3前	1				○		10	17		2		
		専門演習Ⅱ-B	3後	1				○		10	17		2		
		卒業研究	4通	6				○		10	17		2		
		小計（7科目）	—	12	0	0	—	—	—	10	17	0	2	0	
	自由選択科目	英米文学概論	2前		2		○								兼1
		応用言語学	2後		2		○								兼1
		英語音声のしくみと働き	3後		2		○								兼1
		第二言語習得論	3前		2		○								兼1
		イギリス小説論	3後		2		○								兼1
		小計（5科目）	—	0	10	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼5
	自由科目	教職論	1後			2	○								兼1
		英語科教育法Ⅰ	3前			2	○								兼1
		英語科教育法Ⅱ	3後			2	○								兼1
		教育の方法と技術	3後			2	○								兼1
		教育実習（事前・事後指導を含む）	4前			3			○	1					兼2
教職実践演習		4後			2			○	1					兼3	
日本語教育学概論		2後			2	○								兼1	
日本語指導法		3前			2	○								兼1	
日本語教育実習		3後			2			○						兼1	
小計（9科目）	—	0	0	19	—	—	—	1	0	0	0	0	兼8		
合計（279科目）		—	59	430	19	—	—	—	11	17	0	2	0	212	
学位又は称号		学士（多文化社会学）	学位又は学科の分野			文学関係、法学関係、社会学・社会福祉学関係									
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
1. 教養教育科目 <u>44</u> 単位 (1) 教養ゼミナール科目 <u>2</u> 単位 (2) 情報科学科目 <u>2</u> 単位 (3) 健康・スポーツ科学科目 <u>2</u> 単位 (4) 外国語科目 ①英語科目 <u>8</u> 単位 ②初習外国語科目 <u>4</u> 単位 ドイツ語、フランス語、中国語及び韓国語から1言語を選択。 (5) 全学モジュールⅠ科目 <u>6</u> 単位 1テーマを選択し、3科目（6単位）を修得する。 (6) 全学モジュールⅡ科目 <u>6</u> 単位 1テーマを選択し、3科目（6単位）を修得する。 (7) 学部モジュール科目 <u>12</u> 単位 (8) 自由選択科目 <u>2</u> 単位						1学年の学期区分			2期						

教 育 課 程 等 の 概 要														
(多文化社会学部多文化社会学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
2. 専門教育科目 <u>8.5単位</u>														
(1) 共通基礎モジュール科目 <u>1.8単位</u> 主モジュールは「社会を映し出す文化、文化が作り出す社会」又は「多言語を学ぶ、多言語で学ぶ」モジュールから1つを選択し、1.2単位を修得する。 副モジュールは、主モジュールとして選択したモジュール以外のモジュールから1つを選択し、6単位を修得する。														
(2) フィールドワークモジュール科目 <u>5単位</u> 選択科目については、「アーカイヴ実習」、「映像・デジタルアーカイヴ実習」、「サーベイ基礎実習」及び「インタビュー調査基礎実習」の4科目のうちから2科目を選択する。														
(3) 英語モジュール科目 <u>1.0単位</u>														
(4) 中国語モジュール科目 <u>0又は5単位</u> 中国語モジュール科目を選択する場合は5単位すべて修得する。														
(5) オランダ語モジュール科目 <u>0単位</u>														
(6) 専門モジュール科目 <u>3.0単位</u> 主モジュールは、「多文化の共生」モジュールとし、2.0単位を修得する。 副モジュールは、「変容する社会」モジュールとし、1.0単位を修得する。 (うち、「異文化理解教育」、「異文化と家族」及び「異文化交流論」の3科目6単位は必修)														
(7) キャリア科目 <u>2単位</u>														
(8) 演習科目 <u>1.2単位</u>														
(9) 自由選択科目 <u>8単位又は3単位</u> 中国語モジュール科目を選択した場合は3単位となる。 自由選択科目の区分に配当される科目のほか、主及び副の共通基礎モジュール科目、フィールドワークモジュール科目、オランダ語モジュール科目、主及び副の専門モジュール科目及びキャリア科目の最低修得単位数を超えて履修する授業科目や、共通基礎モジュール科目及び専門モジュール科目の主モジュール及び副モジュール以外の授業科目をもって充てることができる。														
<u>履修登録上限単位数 4.8単位(1学年あたり)</u>														
<u>総単位数 12.9単位</u>														
1学期の授業期間														
15週														
1時限の授業時間														
90分														

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 私立の大学若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

【オランダ特別コース】

(用紙 日本工業規格A4縦型)

教育課程等の概要															
(多文化社会学部多文化社会学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	教養ゼミナール	1前	2			○			4	17		2			
		小計(1科目)	—	2	0	0	—		4	17	0	2	0		
	情報基礎	1後	2			○								兼2	
		小計(1科目)	—	2	0	0	—		0	0	0	0	0	兼2	
	健康・スポーツ科学科目	健康科学	1後	1			○							兼7	
		スポーツ演習	1後	1				○						兼3	
		小計(2科目)	—	2	0	0	—		0	0	0	0	0	兼8	
	必須科目	英語	英語コミュニケーションⅠ	1前	1			○			1				兼2
			英語コミュニケーションⅡ	1前	1			○			1				兼2
			英語コミュニケーションⅢ	2前	1			○							兼3
総合英語Ⅰ			1前	1			○		1					兼2	
総合英語Ⅱ			1前	1			○		1					兼2	
総合英語Ⅲ			2後	1			○							兼3	
Advanced EnglishⅠ			3前	1			○							兼3	
Advanced EnglishⅡ			3後	1			○							兼3	
小計(8科目)		—	8	0	0	—		1	1	0	0	0	兼5		
外国語科目		初習外国語	ドイツ語Ⅰ	1後		1			○		1				
	ドイツ語Ⅱ		1後		1			○		1					
	ドイツ語Ⅲ		2前		1			○						兼1	
	ドイツ語Ⅳ		2後		1			○						兼1	
	フランス語Ⅰ		1後		1			○						兼1	
	フランス語Ⅱ		1後		1			○						兼1	
	フランス語Ⅲ		2前		1			○						兼1	
	フランス語Ⅳ		2後		1			○						兼1	
	中国語	中国語Ⅰ	1後		1			○		2					
		中国語Ⅱ	1後		1			○		2					
		中国語Ⅲ	2前		1			○		2					
		中国語Ⅳ	2後		1			○		2					
		韓国語Ⅰ	1後		1			○						兼1	
		韓国語Ⅱ	1後		1			○						兼1	
		韓国語Ⅲ	2前		1			○						兼1	
		韓国語Ⅳ	2後		1			○						兼1	
小計(16科目)	—	0	16	0	—		3	0	0	0	0	兼3			
モジュール科目	現代社会と生命と薬	人体の構造と機能	1後		2			○						兼3	
		細胞と放射線	1後		2			○						兼4	
		遺伝子と生命	1後		2			○						兼4	
	生命と薬	ビギナーのための有機化学	1後		2			○						兼2	
		生命科学のための物理化学入門	1後		2			○						兼2	
		生命の化学(ケミカル・イノベーション)	1後		2			○						兼4	
	安全で安心できる社会	健康と医療の安全・安心	1後		2			○						兼4	
		リスク社会と社会科学	1後		2			○						兼1	
		科学と技術の安全・安心	1後		2			○						兼4	
	教育と社会	教育原理論	1後		2			○						兼1	
		教育心理	1後		2			○						兼1	
		教育行政・制度論	1後		2			○						兼1	
	現代経済と企業活動	経済活動と社会	1後		2			○						兼1	
		企業の仕組みと行動	1後		2			○						兼1	
		経済政策と公共部門	1後		2			○						兼1	
	環境問題を考える	生物多様性を考える	1後		2			○						兼3	
		都市環境を考える	1後		2			○						兼2	
		地球温暖化を考える	1後		2			○						兼4	
	情報社会とコミュニケーション	情報の活用	1後		2			○						兼2	
		情報社会の安全と安心	1後		2			○						兼1	
計算機の科学		1後		2			○						兼1		

【オランダ特別コース】

(用紙 日本工業規格A4縦型)

教育課程等の概要																		
(多文化社会学部多文化社会学科)																		
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
教養教育科目	全学モジュールI科目	ヘブライ語のパスポート社会	東西文化交流の歴史	1後	2		○								兼4	オムニバス		
			国際的視点に立った法と政治	1後	2		○									兼1		
			国際的視点に立った経済	1後	2		○									兼1		
			コミュニケーションの比較文化	1後	2		○				1					兼4	オムニバス	
			コミュニケーションの生物学	1後	2		○									兼1		
			コミュニケーションとICT	1後	2		○									兼1		
			核兵器とは何か	1後	2		○									兼3	オムニバス	
			国際社会と平和	1後	2		○				1							
			被ばくと社会	1後	2		○									兼4	オムニバス	
			環境法(国際法)と環境問題への取り組み	1後	2		○									兼1		
			環境基本法と環境基本計画	1後	2		○									兼1		
			環境関連法(国内法)と環境コミュニケーション	1後	2		○									兼1		
			数学の常識	1後	2		○									兼1		
			物理の考え方	1後	2		○									兼1		
			環境・生活と化学	1後	2		○									兼2	オムニバス	
			小計(36科目)	—	0	72	0		—		1	1	0	0	0	兼70		
			全学モジュールII科目	先進医学と現代社会	免疫と病気	2前	2		○								兼4	オムニバス
					エイズと性感染症	2前	2		○								兼1	
				感染症と文明	2後	2		○								兼1		
				話題の先進医学	2後	2		○								兼1		
				幹細胞と再生医療	2後	2		○								兼4	オムニバス	
		生命と薬		伝承薬から最先端医薬品まで(薬はこうして創られる)	2前	2		○								兼3	オムニバス	
				薬との賢い付き合い方	2後	2		○								兼2	オムニバス	
				出島の科学	2前	2		○								兼2	オムニバス	
				疾病と薬物治療	2前	2		○								兼3	オムニバス	
				薬の開発を主題とした動物行動分析と推計学	2後	2		○								兼1		
				疾病の回復を促進する薬	2後	2		○								兼1		
		安全で安心できる社会		医療現場の安全と安心	2後	2		○								兼4	オムニバス	
				自然災害とインフラ長寿命化	2前	2		○								兼4	オムニバス	
				破壊事故とヒューマンファクタ	2後	2		○								兼1		
				水環境の安全と安心	2前	2		○								兼1		
				環境リスクと社会	2前	2		○								兼1		
		教育と社会		教育相談	2前	2		○								兼1		
				教育相談	2後	2		○								兼1		
			文学と社会	2前	2		○								兼1			
			身のまわりの科学	2後	2		○								兼1			
		芸術	2前	2		○								兼1				
		環境と社会	2後	2		○								兼1				
	現代経済と企業活動	国際社会と日本経済	2後	2		○								兼1				
		地域社会と日本経済	2前	2		○								兼1				
		企業行動と戦略	2後	2		○								兼1				
		社会制度と経済活動	2前	2		○								兼1				
		経営情報と会計情報	2前	2		○								兼1				
	環境問題を考える	環境と民俗	2後	2		○				1				兼2	オムニバス			
		環境と社会運動	2前	2		○								兼2	オムニバス			
		環境問題の歴史から学ぶ	2後	2		○				1				兼2	オムニバス			
		地域の環境を考える	2前	2		○								兼2	オムニバス			
		海洋生物の遺伝子多様性	2前	2		○								兼4	オムニバス			
	情報社会とコンピュータサイエンス	問題解決のアルゴリズム	2前	2		○								兼1				
		情報と社会	2前	2		○								兼4	オムニバス			
		情報化の役割と課題	2後	2		○								兼2	共同			
		情報通信とコンピュータネットワークのしくみ	2後	2		○								兼1				
		情報化時代の仕事術	2後	2		○								兼1				
		ソフトウェアの利用技術	2前後	2		○								兼2	共同			

【オランダ特別コース】

（用紙 日本工業規格A4縦型）

教育課程等の概要																	
(多文化社会学部多文化社会学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
教養教育科目	モジュール科目	グローバル社会へのパスポート	企業の国際展開とその課題	2後	2		○			1						兼1	
			世界人口の動向と国際開発	2前	2		○										兼1
			英語で学ぶオランダと西欧の文化	2前	2		○										兼1
			国際援助と公的部門の役割	2後	2		○										兼1
			異文化接触とコミュニケーション	2前	2		○										兼1
			途上国支援と国際保健	2後	2		○										兼1
		コミュニケーション実践学	対人世界の心理学	2前	2		○										兼1
			身体・かかわり・言葉	2前	2		○										兼1
			芸術・スポーツとコミュニケーション	2前	2		○										兼2 オムニバス
			社会・メディア・政治	2後	2		○										兼1
			日本語と表現	2後	2		○										兼2 オムニバス
			異文化コミュニケーション	2後	2		○										兼2 共同
		核兵器のない世界	市民運動・NGOと核兵器廃絶	2後	2		○										兼2 オムニバス
			被ばく者と医療	2前	2		○										兼4 オムニバス
			核兵器廃絶と教育	2前	2		○										兼4 オムニバス・英語(一部)
			文学・芸術と核兵器	2後	2		○				1						兼2 オムニバス
			核軍縮の法と政治	2後	2		○				1						兼1 オムニバス
		環境マネジメント	資源・エネルギー問題への取り組み	2前	2		○										兼3 オムニバス
			エネルギーマネジメント	2後	2		○										兼1
			化学薬品等の取り扱い	2前	2		○										兼3 オムニバス
			環境汚染物質のマネジメント	2後	2		○										兼1
			廃棄物のマネジメント	2後	2		○										兼1
			環境分析技術(advanced class)	2前	2		○										兼2 オムニバス
		数理と自然科学のススメ	暮らしと情報の数理	2前	2		○										兼2 オムニバス
			自然を記述するための基礎数学	2前	2		○										兼1
			暮らしの中の物理科学	2前	2		○										兼2 オムニバス
			物質と化学反応	2後	2		○										兼1
			地球環境の科学	2後	2		○										兼2 オムニバス
		小計(66科目)			—	0	132	0	—			2	2	0	0	0	兼95
		学部モジュール科目	多文化社会の諸問題	長崎から出発するグローバル世界へ	1後	2		○				3			1		兼1
				アジア理解への扉	1後	2		○				2	2		1		兼1 オムニバス
				アフリカ理解への扉	1後	2		○					3				兼1 オムニバス・英語(一部)
				オランダ・ヨーロッパ理解への扉	1後	2		○				1	3				兼1 オムニバス
日本を知る	1後			2		○				1	3				兼1 オムニバス		
グローバルキャリアへの扉	1前			2		○				2	3				兼1 オムニバス		
小計(6科目)			—	12	0	0	—			6	12	0	2	0	兼3		
自由選択科目	日本国憲法	1前	2		○										兼3		
	私たちと法	1前	2		○										兼1 集中		
	日本の思想文化	1前	2		○				1								
	ジェンダーと法	1後	2		○										兼1		
	芸術と文化	1後	2		○										兼2		
	共生のグローバル人類学	1後	2		○					1							
	社会学	1後	2		○							1					
	日本の言語と文化	1前	2		○					1							
	オランダの言語	1前	2		○										兼1		
	オランダの文化	1後	2		○										兼1		
	平和講座	1前	2		○										兼5 オムニバス		
	解放講座	1前後	2		○										兼1		
	疑似科学とのつき合い方	1前	2		○										兼4 オムニバス		
	キャリア概論	1前	2		○										兼1		
	平成長崎塾	1前	2		○										兼3 オムニバス		
	長崎学	1前	2		○					1					兼1 オムニバス		
	男女共同参画のすすめ	1後	2		○										兼1		
物理科学	1後	2		○										兼1			
上級外国語(フランス語)	3前	2		○										兼1			

教育課程等の概要																
(多文化社会学部多文化社会学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養教育科目	自由選択科目	上級外国語(中国語)	3前		2		○			1						
		上級外国語(韓国語)	3前		2		○								兼1	
		English for Specific Purposes(A)	1前		1		○								兼1	
		English for Specific Purposes(B)	1後		1		○								兼1	
		全学乗船実習(後期)	1・2後		2				○						兼1	
		基礎物理	1前・後		2		○								兼1	
		基礎化学	1前・後		2		○								兼1	
		基礎生物	1前・後		2		○								兼1	
		基礎数学	1前・後		2		○								兼1	
		基礎英語	1前・後		2		○								兼1	
		特別活動論	1後		2		○								兼1	
		教育方法・技術論	1前		2		○								兼1	
	生徒・進路指導論	1前		2		○								兼1		
	小計(32科目)		—	0	62	0			—	2	3	0	1	0	兼31	
	留学生用科目	日本語中級Ⅱ読解	1前		2				○						兼1	
日本語上級ⅠS		1前		2				○						兼1		
日本語上級ⅡS		1前		2				○	1					兼2		
日本語上級ⅡA		1後		2				○	1					兼1		
日本事情		1後		2		○			1							
小計(5科目)		—	0	10	0			—	1	0	0	0	0	兼3		
専門教育科目	共通基礎モジュール科目	グローバリズムのしくみ	多文化のなかのルール	2前		2		○		1						
			多文化社会のガバナンス	2前		2		○			2					
			文化のなかのエコノミー	2前		2		○				3				
			地域をこえるマネジメント	2後		2		○			2					兼1
			ジェンダーと人権	2後		2		○				2				
			紛争と平和	2後		2		○			1	2		1		兼1
	小計(6科目)		—	0	12	0			—	2	8	0	1	0	兼2	
	多言語を学ぶ	英語からたどる文化	2前		2		○			1	1					
		日本語からたどる文化	2前		2		○			1	2					
		中国語からたどる文化	2前		2		○			3						
		アジア諸言語からたどる文化	2後		2		○				3		1		兼1	
		ヨーロッパ諸言語からたどる文化	2後		2		○			1	4					
		アフリカ諸言語からたどる文化	2後		2		○			1	3					
	小計(6科目)		—	0	12	0			—	7	11	0	1	0	兼1	
	フィールドワーク	フィールドワーク入門	1前	2			○			2	9		1		兼1	
フィールドワーク基礎実習		1後	1					○	2	9		1				
アーカイヴ実習		1後		1						4						
映像・デジタルアーカイヴ実習		2前		1										兼1		
サーベイ基礎実習		2後		1										兼1		
インタビュー調査基礎実習		2後		1					2	3		1				
海外フィールドワーク実習		3通		1						3						
小計(7科目)		—	3	5	0			—	2	12	0	1	0	兼2		
英語モジュール	英語発音法	1前	1					○		1				兼2		
	英語の仕組みと意味Ⅰ	1後	1					○	1					兼2		
	英語の仕組みと意味Ⅱ	2前	1					○	1					兼2		
	Reading and WritingⅠ	1前	1					○		1				兼2		
	Reading and WritingⅡ	2前	1					○		1				兼2		
Academic WritingⅠ	2後	1					○		1				兼2			

【オランダ特別コース】

(用紙 日本工業規格A4縦型)

教育課程等の概要															
(多文化社会学部多文化社会学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
英語 モジュール 科目	Academic Writing II	3前	1				○			1					兼2
	Reading and Discussion I	1前	1				○			1					兼2
	Reading and Discussion II	3後	1				○			1					兼2
	Debate	4前	1				○			1					兼2
	小計(10科目)	—	10	0	0		—		1	1	0	0	0		兼4
モジュール 中国語 科目	中国語総合表現 I	2前		1			○		1						
	中国語総合表現 II	2後		1			○		1						
	中国語文献討論 I	3前		1			○		1						
	中国語文献討論 II	3後		1			○		1						
	中国語プレゼンテーション	4前		1			○		2						共同
	小計(5科目)	—	0	5	0		—		2	0	0	0	0		
モジュール オランダ語 科目	オランダ語 I	2前	2				○								兼1
	オランダ語 II	2後	2				○								兼1
	オランダ語 III	3前	2				○								兼1
		小計(3科目)	—	6	0	0		—		0	0	0	0	0	
専門教育科目	グローバル化する世界	国際機構論	3前		2		○		1						
		軍縮と平和	3前		2		○		1			1			兼1
		国際法	3前		2		○					1			
		国際政治学	3前		2		○			1					
		比較政治	3前		2		○			1					
		国際経営	3後		2		○								兼1
		国際開発論	3前		2		○			1					
		国際人権論	3前		2		○			1					
		グローバル人口学	3前		2		○		1						
		国際協力論	3後		2		○		1	1					兼1
		アジア経済論	3後		2		○								兼1
		多文化マーケティング論	3前		2		○								兼1
		小計(12科目)	—	0	24	0		—	2	4	0	1	0		兼5
	専門モジュール科目	変容する社会	異文化理解教育	3前		2		○			1				
トランスナショナルリティ論			3後		2		○					1			
異文化と家族			3前		2		○			1					
グローバル社会学			3前		2		○				1				兼1
現代アフリカ社会論			4前		2		○			1					
現代アジア社会論			4前		2		○		1						
アジア海域交流史			3後		2		○			1					
グローバル文化交流史			4前		2		○			1					
社会史			3後		2		○			1					
異文化交流論			3後		2		○		1						
文化資源論			3後		2		○			1					
地域生態論			3後		2		○			1					
	小計(12科目)	—	0	24	0		—	2	8	0	1	0		兼1	
多文化の共生	多文化の共生	日本思想史	4前		2		○		1						
		中国思想史	4前		2		○		1						
		宗教文化論	3前		2		○			1					
		文化表象論	3前		2		○		1						
		記憶文化論	3後		2		○								兼1
		地域文化論	3後		2		○			2					
		メディア文化論	4前		2		○			1					
		現代言語理論	3前		2		○		1						
		異文化間コミュニケーション	3前		2		○			1					
		対照言語学	3後		2		○		1						
		日本語学	3前		2		○			1					
		コーパス言語学	3後		2		○		1						
	小計(12科目)	—	0	24	0		—	6	6	0	0	0		兼1	

【オランダ特別コース】

（用紙 日本工業規格A4縦型）

教 育 課 程 等 の 概 要															
(多文化社会学部多文化社会学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	専門モジュール オランダ	オランダ現代社会論	2後	2			○								兼1
		オランダ文化論	3前	2			○								兼1
		日蘭比較文化	2前	2			○								兼1
		日蘭交流史	3前	2			○				1				
		小計（4科目）	—	8	0	0	—	—	—	0	1	0	0	0	兼2
	キャリア	キャリア形成論	3前	2			○			1					
		自主企画インターンシップ	2前		2				○	1					
		小計（2科目）	—	2	2		—	—	—	1	0	0	0	0	
	演習科目	基礎演習A	2前	1					○	4	17		2		
		基礎演習B	2後	1					○	4	17		2		
		特別研究	3～4通	10					○	10	17		2		
		小計（3科目）	—	12	0	0	—	—	—	10	17	0	2	0	
	自由選択科目	英米文学概論	2前		2		○								兼1
		応用言語学	2後		2		○								兼1
		英語音声のしくみと働き	3後		2		○								兼1
		第二言語習得論	3前		2		○								兼1
		イギリス小説論	3後		2		○								兼1
		小計（5科目）	—	0	10	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼5
	自由科目	日本語教育学概論	2後			2	○								兼1
		日本語指導法	3前			2	○								兼1
日本語教育実習		3後			2			○						兼1	
小計（3科目）		—	0	0	6	—	—	—	1	0	0	0	0	兼3	
合計（269科目）		—	67	422	6	—	—	—	11	17	0	2	0	212	
学位又は称号		学士（多文化社会学）	学位又は学科の分野			文学関係、法学関係、社会学・社会福祉学関係									
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
1. 教養教育科目 <u>44</u> 単位 (1)教養ゼミナール科目 <u>2</u> 単位 (2)情報科学科目 <u>2</u> 単位 (3)健康・スポーツ科学科目 <u>2</u> 単位 (4)外国語科目 ①英語科目 <u>8</u> 単位 ②初習外国語科目 <u>4</u> 単位 ドイツ語、フランス語、中国語及び韓国語から1言語を選択。 (5)全学モジュールI科目 <u>6</u> 単位 1テーマを選択し、3科目（6単位）を修得する。 (6)全学モジュールII科目 <u>6</u> 単位 1テーマを選択し、3科目（6単位）を修得する。 (7)学部モジュール科目 <u>12</u> 単位 (8)自由選択科目 <u>2</u> 単位								1学年の学期区分				2期			
2. 専門教育科目 <u>85</u> 単位 (1)共通基礎モジュール科目 <u>18</u> 単位 主モジュールは、「グローバル社会のしくみ」、「社会を映し出す文化、文化が作り出す社会」又は「多言語を学ぶ、多言語で学ぶ」モジュールから1つを選択し、12単位を修得する。 副モジュールは、主モジュールとして選択したモジュール以外のモジュールから1つを選択し、6単位を修得する。								1学期の授業期間				15週			

【オランダ特別コース】

（用紙 日本工業規格A4縦型）

教 育 課 程 等 の 概 要														
(多文化社会学部多文化社会学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
	(2)フィールドワークモジュール科目 <u>5単位</u> 選択科目については、「アーカイブ実習」、「映像・デジタルアーカイブ実習」、 「サーベイ基礎実習」及び「インタビュー調査基礎実習」の4科目のうちから2科目 を選択する。 (3)英語モジュール科目 <u>10単位</u> (4)中国語モジュール科目 <u>0又は5単位</u> 中国語モジュール科目を選択する場合は5単位すべて修得する。 (5)オランダ語モジュール科目 <u>6単位</u> (6)専門モジュール科目 <u>30単位</u> 主モジュールは、「オランダ」モジュールとし、18単位を修得する。 (うち10単位はライデン大学での履修科目を単位認定) 副モジュールは、「グローバル化する世界」、「変容する社会」又は「多文化の 共生」モジュールから1つを選択し、12単位を修得する。 (7)キャリア科目 <u>2単位</u> (8)演習科目 <u>12単位</u> (9)自由選択科目 <u>2単位</u> 自由選択科目の区分に配当される科目のほか、主及び副の共通基礎モジュール科目、 フィールドワークモジュール科目、中国語モジュール科目、主及び副の専門モジュール 科目及びキャリア科目の最低修得単位数を超えて履修する授業科目や、共通基礎モジュ ール科目及び専門モジュール科目の主モジュール及び副モジュール以外の授業科目をも って充てることができる。 <u>履修登録上限単位数 48単位（1学年あたり）</u> 総単位数 <u>129単位</u>												1 時限の授業時間	90分

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

授 業 科 目 の 概 要				
(多文化社会学部多文化社会学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
教養教育科目 必須科目	教養ゼミナール科目 教養ゼミナール	新入生を多文化社会学へいざなうとともに、知的活動への動機づけ、論理的思考とその表現方法の習得を目的とする。具体的には、新入生が初めて会える多文化社会学という学問分野の概要を説明し、受講生自らが選択したテーマについて能動的グループ学習を通じ、人文社会科学的または自然科学的な思考方法、グループワークの進め方、実験・調査の計画法、文書やプレゼンテーションによる表現方法などについて学ぶ。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。以上により、本学部での学習活動を円滑に進めることをねらいとする。		
	情報科学科目 情報基礎	情報およびコンピュータに関する基礎理論や概念を理解した上で応用知識を備えさせるとともに、それらを自在に活用できる能力を身につけさせる。また、ネットワークを利用する際に考慮すべきセキュリティや情報倫理についても理解する。 本授業は、講義と演習を組み合わせる。講義の内容を理解させるために、演習問題を解いたり、パソコンを利用して操作演習させる。 ・情報セキュリティ ・表計算 ・情報の検索・活用と情報倫理 ・文書作成 ・情報のデジタル化 ・プレゼンテーション ・ネットワークの仕組み ・Webページ作成		
	健康・スポーツ科学科目	健康科学	生涯に亘る健康の維持・増進のための知識・理解度を高める。生涯に亘る健康の維持・増進のために、「健康とは何か」を考え、青年期から適切な生活習慣を確立することができる。メタボリックシンドロームやがんといった生活習慣病の予防、薬物依存やうつ病といった心の健康、性感染症、歯と歯ぐきの健康について講義する。	
		スポーツ演習	身体運動の効果や実践方法またスポーツの文化、技術を習得し、生涯にわたってスポーツを楽しむことのできる基礎知識や技能を習得することをねらいとする。 本授業では、スポーツの実践(バスケット・卓球・フライングディスク・バドミントン・ウォーキング・ジョギング)とスポーツを行う身体についてレクチャー及び演習をとおして理解することを目指している。従って、授業の前段の演習と後段のスポーツ実践によって進める。	
外国語科目 英語	英語コミュニケーション I	(英文) The aims of this class are to help students develop their English proficiency levels in the four skills of speaking, listening, reading, and writing, and to increase their content knowledge of current affairs and global issues. This class will be taught using various methods including lectures, listening exercises using CDs, group-work, and discussions. Each lesson, the class will focus on a unit from the course book. Students will also be exposed to global issues found in popular media outlets and will be asked to engage in discussions and projects regarding these issues. (和訳) 本授業では、4技能における習熟度レベルを上げるとともに、英語を通して最近の出来事やグローバルな諸問題についての知識を深めることを目指す。また、様々な媒体を取り入れて授業を行うとともに、グループワークや討議など双方向的な授業を行う。		

授 業 科 目 の 概 要			
(多文化社会学部多文化社会学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 必須科目 外国語科目 英語	英語コミュニケーションII	(英文) The aims of this class are to help students build upon what they learned in English Communication I. Thus, extending the range of language provided in English Communication I (which deals mainly with general topics concerning current affairs and global issues), English Communications II focuses more specifically on language related to the students' major field of study. To this end, this course seeks to increase students' proficiency levels in the four skills of speaking, listening, reading, and writing, and will use various methods including lectures, listening exercises, group-work, and discussions to achieve these goals. (和訳) 本授業では、英語コミュニケーションIにおいて取り上げた言語スキルをもとに、さらに習熟度レベルを上げることを目指す。英語コミュニケーションIで扱う一般的な事柄ではなく、学生の専門領域に関連したESP的内容を中心に扱う。英語コミュニケーションIと同様、双方向的な授業を実施するための様々な授業展開方法を用いて授業を行う。	
	英語コミュニケーションIII	本授業では、英語をできるだけ発信型言語として使用するために、基礎的なスピーキング力を数分程度のself-introductionを暗記して発表してもらう。また、リーディング力、とりわけ、短時間で素早く英文の大意を捉え、平易な英語で論理的にまとめる基礎的な能力を養成する。また、人文学及び社会科学関連分野の比較的平易な英語で書かれている文献を用いて、学生が進む専門分野の外書購読等で必要とされる英語力への橋渡しとなるよう訓練を行う。	
	総合英語I	基礎的な英語運用能力を高めることを授業のねらいとする。特に、音声言語によるコミュニケーション能力向上を目指す。また、既習の語彙を用いた表現力の幅をひろげるため、Plain Englishに関する講義を併せて行い、表現力向上を目指す。 授業の前半では、日本人学習者が抱えるリスニング上の問題点を理解する訓練、速読訓練、表現力を養うPlain Englishによる表現練習を行う。授業の後半では、前半で行う訓練を発展させたauthenticな教材・題材を用いた訓練を行う。	
	総合英語II	総合英語Iで身に付けた基礎的な英語運用能力を更に高めることを授業のねらいとする。特に、音声言語によるコミュニケーション能力向上を目指す。また、既習の語彙を用いた表現力の幅をひろげるため、Plain Englishに関する講義を併せて行い、表現力向上を目指す。 授業の前半では、英語の音調的特徴を理解する訓練、速読訓練、表現力を養うPlain Englishによる表現練習を引き続き行う。授業の後半では、前半で行う訓練を発展させたauthenticな教材・題材を用いた訓練を行う。	
	総合英語III	総合英語IIまでに身に付けた英語運用能力を更に高めることを授業のねらいとする。特に、音声言語によるコミュニケーション能力向上を目指す。また、既習の語彙を用いた表現力の幅をひろげるため、Plain Englishに関する講義を併せて行い、表現力向上を目指す。 授業の前半では、リスニングストラテジー、リーディングストラテジーを理解する訓練、速読訓練、表現力を養うPlain Englishによる表現練習を行う。授業の後半では、前半で行う訓練を発展させたauthenticな教材・題材を用いた訓練を行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
(多文化社会学部多文化社会学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 必須科目 外国語科目 初習外国語	英語	Advanced English I	本授業では、1・2年次の「総合英語」及び「英語コミュニケーション」科目で培った英語力を土台として、学生の専門分野の文献等を利用しながら、短時間に英語による要約を行うだけでなく、論理的な批判的思考が可能となるよう、事実の提示→観察→仮説→証拠の提示→議論→反論への対処→結論、といった一般的(科学的)議論形式の流れを叩き込む。最終的には以上の流れをハンドアウトあるいはPower Point形式で表現できるよう指導を行う。
	英語	Advanced English II	本授業では、「Advanced English I」を踏まえて、プレゼンテーションを学生に行ってもらい、学生によるQ&Aのみならず、ディスカッションまでレベルを引き上げたい。発表する学生は、その際、必ずハンドアウトを準備しておき、PCを使用しながらプレゼンテーションを行うものとする。授業はすべて英語で行う。最後に、全体的な総括として、発表者の作成したハンドアウト、プレゼンテーションの方法、議論の仕方のみならず、擬態的なやりとりの場でどういった表現が武器となるのかまで踏み込みながら指導を行う。
		ドイツ語 I	会話練習を軸にして、次のドイツ文法の基礎を学ぶ。 ・規則動詞の現在人称変化, seinとhabenの現在人称変化, 不規則動詞の現在人称変化, 動詞の位置(主文), Ja Neinの使い方, 定冠詞, 不定冠詞, 名詞の性, 基本的あいさつ また、これらの文法事項を学ぶ際に、英語、オランダ語との共通点と相違点、その歴史的背景、ドイツ語圏の社会と文化等の概要をコンテンツとして組み入れることで、学部専門科目との関連づけを行う。
		ドイツ語 II	会話練習を軸にして、次のドイツ文法の基礎を学ぶ。 ・定冠詞類, 不定冠詞類・否定冠詞, 前置詞, 分離動詞, 非分離動詞, 命令形, 再帰表現, 過去形, 現在完了形 また、これらの文法事項を学ぶ際に、英語、オランダ語との共通点と相違点、その歴史的背景、ドイツ語圏の社会と文化等の概要をコンテンツとして組み入れることで、学部専門科目との関連づけを行う。
		ドイツ語 III	1年次に学習した初級ドイツ語を振り返るとともに、問題演習や会話練習で読む・聞く・書く・話すの四技能を伸ばす。教科書で取り上げられている話題を通して、ドイツの日常生活に触れる。
		ドイツ語 IV	1年次に学習した初級ドイツ語を振り返るとともに、問題演習や会話練習で読む・聞く・書く・話すの四技能を伸ばす。教科書で取り上げられている話題を通して、ドイツの日常生活に触れる。
		フランス語 I	フランス語初習の学生を対象にし、フランスへ、旅行、語学研修、ホームステイに行った時、日常生活に必要な基礎的な会話を、無理なく学び、フランスの音楽や映画、ニュース等文化的・社会的な側面にも触れることをねらいとする。 フランス人と実際に交流する時に必要だと思われる実践的な会話や文法を学び、その過程の中で、コミュニケーション能力を高める。

授 業 科 目 の 概 要			
(多文化社会学部多文化社会学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 必須科目 外国語科目 初習外国語	フランス語Ⅱ	フランス語初習の学生を対象にし、フランスへ、旅行、語学研修、ホームステイに行った時、日常生活に必要な基礎的な会話を、無理なく学び、フランスの音楽や映画、ニュース等文化的・社会的側面にも触れることをねらいとする。 フランス人と実際に交流する時に必要だと思われる実践的な会話や文法を学び、その過程の中で、コミュニケーション能力を高める。	
	フランス語Ⅲ	フランス語Ⅱを履修済みの学生を対象にし、会話力をのばすために、文の組み立て方の規則を発展させ、状況に応じた適切な文を作り出せるようする。特に習ったことを復習し、フランスでの日常生活に役立つよう、様々な状況に適応したアクト ドゥ パロールができるようにする。 フランスの社会についての知識を学び、次に必要な語彙や文法を勉強し、クラスメートと発展的な会話を行う。	
	フランス語Ⅳ	フランス語Ⅱを履修済みの学生を対象にし、会話力をのばすために、文の組み立て方の規則を発展させ、状況に応じた適切な文を作り出せるようする。特に習ったことを復習し、フランスでの日常生活に役立つよう、様々な状況に適応したアクト ドゥ パロールができるようにする。 フランスの社会についての知識を学び、次に必要な語彙や文法を勉強し、クラスメートと発展的な会話を行う。	
	中国語Ⅰ	発音や文法事項など中国語の基礎を学ぶ。「きれいで、使える」中国語の習得をめざす。発音練習・会話練習・短文の暗唱などを通して、基礎をしっかりと鍛えていく。 本授業はゼロからスタートする学生を対象とする。はじめに挨拶語を交えながら、中国語の発音とそのローマ字表記ピンインを習い、それからテキストに沿って初歩的な文法と様々な表現を勉強する。	
	中国語Ⅱ	発音や文法事項など中国語の基礎を学ぶ。「きれいで、使える」中国語の習得をめざす。発音練習・会話練習・短文の暗唱などを通して、基礎をしっかりと鍛えていく。 会話能力をより確実に身に付けるために、原則として朗読と暗唱を活用することに重点をおく。これを基礎に、テキストの内容に関連する場面を想定し、実践会話の練習をさせる。	
	中国語Ⅲ	中国語Ⅰと中国語Ⅱの1年間の学習内容を整理しながら基礎学力の向上を図る。総合中国語テキストを用いて、現代中国語で最もよく出現する文法形式、表現形式の用法、会話のパターンなど、「聞く、話す、読む、書く」の総合的な能力の養成に重点を置き、将来もっと深く中国語科目を履修するためのより高度な中国語の習得を目指す。	
	中国語Ⅳ	中国語Ⅰ、中国語Ⅱ及び中国語Ⅲの学習内容を整理しながら、更に基礎学力の向上を図る。総合中国語テキストを用いて、現代中国語で最もよく出現する文法形式、表現形式の用法、会話のパターンなど、「聞く、話す、読む、書く」の総合的な能力の養成に重点を置き、将来もっと深く中国語科目を履修するためのより高度な中国語の習得を目指す。	

授 業 科 目 の 概 要			
（多文化社会学部多文化社会学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 必須科目 外国語科目 初習外国語	韓国語Ⅰ	本授業では、ゆっくり、しかし確実に、ハングル文字を読み、書くことができるようになる。その力をもとに、簡単な会話文を用いて、韓国語でコミュニケーションができることを目標とする。 毎回の授業では次の①～⑤を達成するために、必要な単語や表現を覚えていく。 ①ハングルが読み、書くことができる。 ②自己紹介ができ、相手のことも質問できる。 ③自分がしたいことを伝え、相手のことも質問できる。 ④一日の生活を説明し、相手にも質問できる。 ⑤自分が好きなこと、嫌いなことを伝え、相手にも質問できる。	
	韓国語Ⅱ	韓国語Ⅰで学んだことをもとに、日常生活でよく使う身近な表現を覚えていく。それによって、韓国人と簡単なコミュニケーションができることを目標とする。 毎回の授業では次の①～④を達成するために、必要な単語や表現を覚えていく。 ①買い物、食事の注文ができる。 ②自分が感じたことを伝え、相手にも質問できる。 ③過去に経験したことを言え、相手にも質問できる。 ④自分が得意なこと、不得意なことを伝え、相手にも質問できる。	
	韓国語Ⅲ	本授業では、できるだけ多く、リアル・タイムの自然な韓国語に触れる。それによって、自然なスピードで韓国語を聞き取り、読むことができることを目標とする。 毎回の授業では次の①②を達成するために、必要な活動をしていく。 ①韓国語で書かれた文を、自然なスピードで読むことができる。 ②自然なスピードで発音された韓国語を聞き取り、同じく発音することができる。	
	韓国語Ⅳ	本授業では、できるだけ多く、リアル・タイムの自然な韓国語に触れる。それによって、自然なスピードで韓国語を聞き取り、読むことができることを目標とする。 毎回の授業では次の①②を達成するために、必要な活動をしていく。 ①韓国語で書かれた文を、自然なスピードで読むことができる。 ②自然なスピードで発音された韓国語を聞き取り、同じく発音することができる。	

授 業 科 目 の 概 要			
（多文化社会学部多文化社会学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 モジュール科目 全学モジュール科目 先進医学の現代社会	人体の構造と機能	医学を理解するうえで必須の知識として、ヒトのからだの構造と機能の概略を学ぶ。ヒトのからだを部位別、系統別に分けてそれぞれを2回ずつ解説してゆく。第2回目以降、それぞれのテーマに対して構造から、または機能からアプローチして理解を深める。 （オムニバス方式／全15回） （弦本敏行／8回） 人体の成り立ちについて考える、（構造からのアプローチ）消化・吸収と肝・胆・膵、呼吸と血液、循環系：心臓と脈管、自律神経・内分泌・免疫、生殖・発生・遺伝子、支持系と運動系、中枢神経と末梢神経 （嶋田敏生／6回） （機能からのアプローチ）消化・吸収と肝・胆・膵、呼吸と血液、自律神経・内分泌・免疫、生殖・発生・遺伝子、支持系と運動系、中枢神経と末梢神経 （蒔田直昌／1回） （機能からのアプローチ）循環系：心臓と脈管	オムニバス方式
	細胞と放射線	生命の最小単位である細胞の構造と機能、さらにその集合体である生物に関する基本知識を習得する。また合わせて、原爆を含む放射線の人体影響を学習する。 （オムニバス方式／全15回） （田中邦彦／4回） 細胞：生命の機能単位、ダイナミックな細胞膜、エネルギー・酵素・代謝、化学エネルギーを獲得する経路 （萩朋男／4回） 細胞の情報伝達、組換えDNA技術とバイオテクノロジー、分子生物学、ゲノムプロジェクト、医学 （高村昇／3回） 放射線の基礎、放射線による検討影響①、放射線による検討影響② （永山雄二／4回） 免疫：遺伝子と生体防御システム、発生における特異的遺伝子発現、発生と進化による変化	オムニバス方式
	遺伝子と生命	生命現象や疾患の概要を理解するのに必要な基礎生物学的知識を習得する。細胞の構造から遺伝子の機能と発現調節を理解し、その異常と疾患の関係について概略を説明できるようになる。 （オムニバス方式／全15回） （鈴木啓司／3回） 生命の機能単位としての細胞の構造、細胞の化学と生合成：エネルギー代謝、染色体、細胞周期および細胞分裂 （三浦史郎／4回） 染色体と遺伝子の関係、メンデルの法則、DNAの構造と役割、DNAからタンパク質まで （中島正洋／5回） 遺伝子発現の調節、細胞内の情報伝達、バイオテクノロジー、細胞と組織構造の関係 （光武範吏／3回） 病気の分類と形態、遺伝子異常と病気、がんの生物学	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(多文化社会学部多文化社会学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 モジュール科目 全学モジュールI科目 生命と薬	ビギナーのための有機化学	<p>有機化合物は、ヒトの生活に欠かせない衣類、食品等様々なものの原料となる。さらに、生命現象そのものも有機化学反応が織りなすものといえる。本講義では、有機化学の基礎を学ぶ事で、生物の営みや自然現象を有機化学の視点から正しく理解し、説明できる力をつけることをねらいとする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(田中隆/8回) 身近な有機化合物、有機化合物を調べる手順、炭素と水素からなる有機化合物、酸素・窒素・イオウを含む有機化合物の基礎</p> <p>(斎藤義紀/7回) 分子の構造を調べる、化学反応と触媒、生活の中の有機化合物、カゼ薬の中の有機化合物、自然の中の有機化合物、体の中の有機化合物</p>	オムニバス方式
	生命科学のための物理化学入門	<p>講義の前半では、物質の性質や状態変化などを数量的に取り扱う熱力学について、後半では、生体成分(DNAやタンパク質)を中心に、その物性や機能解析において、物理学がどのように利用されているかを原理・応用両面から理解することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(椛島力/10回) 物理量と単位、物質の状態と性質、エネルギーの概念、理想気体の仕事とエネルギー、内部エネルギー変化と熱力学第一法則、エントロピーとエントロピー、熱力学第二法則と熱力学第三法則、自由エネルギーの概念、自由エネルギー変化と化学平衡</p> <p>(甲斐雅亮/5回) 核酸の物理化学的性質、核酸の機能解析法、タンパク質の物理化学的性質、タンパク質の構造と機能解析、全授業の総括</p>	オムニバス方式
	生命の化学(ケミカルバイオロジー)	<p>細胞やその構成成分、エネルギー代謝、生殖と遺伝、細胞の機能と恒常性の維持、酵素の働きなど、化学的視点から生物学の基礎を学ぶ。また、それらの知識を基にして現代社会における課題を抽出してその問題を解決するための演習を行い、自ら学び、考え、主張し行動改革できる能力を養う。さらに、これらの最新の知見をもとに開発された最先端医薬品や診断法を例示し、その応用について科学的に考察する機会を持つ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(武田弘資/5回) 遺伝子が語る生命の神秘、課題提示、グループ内での意見交換、プレゼンテーションの準備、プレゼンテーション、全体討論</p> <p>(尾崎恵一/5回) 遺伝子から見た日本人、課題提示、グループ内での意見交換、プレゼンテーションの準備、プレゼンテーション、全体討論</p> <p>(岩田修永/8回) 遺伝子の働きと疾患、タンパク質・酵素の働きと疾患、課題提示、グループ内での意見交換、プレゼンテーションの準備、プレゼンテーション、全体討論</p> <p>(城谷圭朗/8回) 遺伝子工学技術の疾患研究への応用、ケミカルバイオロジーとその応用、課題提示、グループ内での意見交換、プレゼンテーションの準備、プレゼンテーション、全体討論</p>	オムニバス方式・共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要			
（多文化社会学部多文化社会学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 モジュール科目 全学モジュールⅠ科目 安全で安心できる社会	健康と医療の安全・安心	健康を維持するために日ごろ意識することが何か、医療とのかかわりを正しく理解するために必要な考え方を身につける。また、健康で安心した生活を送るために医療はどのようなかかわりを果たすのかを自ら考え、取り組む意識を育てる。 （オムニバス方式／全15回） （浜田久之／4回） 世界における日本の医療システムについて説明し日本の医療について考える、健康維持や生活習慣病予防について考える、健康維持や生活習慣病予防について考える（消化器疾患を中心に） （池田通／3回） 現代社会における口腔管理の必要性、歯と骨の疾患の深い関係 （金子高士／4回） 種々の歯周疾患の病態・病因について理解し歯周病の予防について考える、噛むことの意義と全身の健康との関わりについて考える、歯周疾患と全身疾患の関連性について考える （菊池泰樹／4回） インターネットの落とし穴、インターネットセキュリティ-1～3	オムニバス方式
	リスク社会と社会科学	本授業では、リスクというキーワードを念頭にして、経済社会、特に日本の海外市場での取り込みについての理解を深める。また、単なるリスク論または経済知識の習得にとどまらず、学生が自ら考える授業を目指す。特に、経済社会でのリスク分散への解決策について学生が自分の言葉で語れるようにすることを到達目標とするために、学生の思考力と文章力を訓練によって向上させる。 （講義テーマ） 経済社会とリスク論、リスクと経済成長の罟、シミュレーションゲーム、資本市場とリスクヘッジ、企業海外進出とリスクヘッジ	
	科学と技術の安全・安心	人間が安全で快適な生活を送るために、科学技術の発展が図られてきた。一方で、個人などでは処理できないさまざまなシステムが働いている。その中で、安全を維持し安心を図るために必要な基本的な考え方を習得するとともに、組織の中で個人が取り組む安全・安心の意識を育てる。 （オムニバス方式／全15回） （林秀千人／3回） 安全と安心の基本的な考え方について、災害とリスクマネジメントについて、安全文化について （高橋和雄／4回） 自然災害と安全・安心 （田中俊幸／4回） 化学物質の安全・安心 （久保隆／4回） 電磁波がもたらす影響について	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(多文化社会学部多文化社会学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 モジュール科目 全学モジュールI科目	教育と社会 現代経済と企業活動	教育(学)のいくつかの根本概念を取り上げ、それらによって何が見えるのか、また何が見えなくなるのかについて講義する。 (講義テーマ) 「子ども」という根本概念で何が見える(ようになった)か、「子ども」という根本概念で何が見えない(なくなった)か、「成長」という根本概念で何が見える(ようになった)か、「成長」という根本概念で何が見えない(なくなった)か、「理解」という根本概念で何が見える(ようになった)か、「理解」という根本概念で何が見えない(なくなった)か、「能力」という根本概念で何が見える(ようになった)か、「能力」という根本概念で何が見えない(なくなった)か	
		教育心理 将来教職に就くものにとって、各教科の指導内容・方法に精通することに加え、教育指導をどのように行うかにあたり児童生徒の心身の発達、学習のメカニズムやその動機づけ、健全なパーソナリティの育成等について基礎・基本となる教育心理学的な知識や基本的な教育的態度の習得は必要とされる。 (講義テーマ) 教育心理学の役割・性質、幼児・児童生徒の発達①乳幼児期②青年期、学習①学習の理論とそれに基づく指導法②学習の動機づけ、パーソナリティ①理論的考察②パーソナリティと適応③測定法、教育評価、教師の心理、学級集団の心理、学級集団の指導、教育臨床、障害児の心理と指導、学校教育心理学の研究手法	
		教育行政・制度論 教育行政および教育制度の基本的な知識を身につけるとともに、具体的なテーマをもとに、教育行政および教育制度のあり方を検討する。その際、諸外国の教育行政および教育制度との比較もとりいれ、そこから日本の教育の特徴を考える。 (講義テーマ) 教育行政・制度とは何か、制度が変わるとき、行政・制度が人を動かす、現在の教育行政・制度をめぐって、教育行政・制度を学んでわかること	
		経済活動と社会 家計や企業は経済社会におけるプレーヤーである。また市場は、家計や企業といったプレーヤーが活動する場である。家計・企業の行動原理および市場のしくみについて理解する。 (講義テーマ) 「企業行動の分析」、「消費者行動の分析」、「市場均衡と厚生分析」、「不完全競争」	
		企業の仕組みと行動 企業の活動を支えかつ不可欠な企業会計について、企業会計の基本的な仕組み、内容について理解する。 (講義テーマ) 「家計と企業会計」、「様々な利害関係者と財務諸表」、「貸借対照表」、「損益計算書」、「財務諸表の利用例」、「企業会計の2大領域-財務会計と管理会計-」、「財務会計の概要」、「管理会計の概要」	

授 業 科 目 の 概 要			
（多文化社会学部多文化社会学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 モジュール科目 全学モジュールI科目	現代経済と企業活動	自由経済社会においても、政府は重要な機能と役割を持っている。政府の行動が経済活動に与える影響に注目し、同時に我々の生活圏としての「公共空間」の意味を理解する。 （講義テーマ） 「公共とは何か」、「日本の問題：問題の抽出、抽出結果の発表（グループワーク）」、「日本の問題と解決策：財政・金融政策、福祉政策（講義）」、「地域の問題：問題抽出、抽出結果の発表（グループワーク）」、「地域の問題と解決策：経済的課題の解決、社会的課題の解決、NPO、協働（講義）」、「日本・地域における課題解決策：課題の抽出、解決策の立案、企画書作成、企画書発表（グループワーク）」	
	生物多様性を考える	地球上に生息・生育する種々の生物がお互いに競争・共存し、現在の複雑で多様な生態系が危うバランスの上に成り立っていることを複数の事例を元に理解する。その上で、農林水産業の現状と目指すべき方向を学び、環境問題と食糧確保との関連を様々な視点から議論できる知識と素養を養う。 （オムニバス方式／全15回） （中西こずえ／5回） 生物多様性と地球温暖化、生物多様性と里山、生物多様性と外来植物、生物多様性と植物園、長崎県の植物相と絶滅危惧種 （山口典之／5回） 遺伝的多様性：その成因と機能、種多様性：種の創出機構と維持機構、絶滅：環境要因・競争排除・生息地消失・外来種問題、生態系多様性：生態系の構造と複雑性、複数生態系のつながり、ミレニアム生態系評価：生態系の機能とサービス・人間の福利との関係 （吉田謙太郎／5回） 生物多様性と国際条約、生物多様性と国内政策、生物多様性の評価、海外における生物多様性保全、国内における生物多様性保全	オムニバス方式
	都市環境を考える	近代日本のインキュベーターだった長崎の都市環境を皆さんと一緒に考えたい。長崎の都市環境といえば、直ちに斜面市街地における特徴的な景観や、海に見える光景が目につく。そこでこれに交通面等から接近する。ただ本授業では、広域都市圏を対象とし、都市の持続可能性を求めて、里山や過疎化が進行している郊外地域の生活環境にも目を向ける。のみならず、明治から昭和戦前の華やかになりし長崎の歴史的景観にも思いを馳せ、長崎に紛うことなく、「近代」は来ていたことを確かめる。 （オムニバス方式／全15回） （杉山和一／7回） 開題：長崎の都市環境へのまなざし、緑地とは何か、長崎県土の保全と緑地、持続可能な生活環境と緑地、長崎市の都市公園、長崎市の里地・里山、長崎市の都市環境の現状と課題 （渡辺貴史／8回） 斜面市街地における交通システム、長崎市郊外における公共交通、長崎市の都市景観、長崎市の音環境、人口は口ほどにものを云い：長崎市人口の成長、近代長崎の横顔を眺める：産業基盤の発展を振り返りながら、観光都市長崎・その現状と課題、超高齢社会と向き合う	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（多文化社会学部多文化社会学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 モジュール科目 全学モジュール科目	環境問題を考える	温室効果のしくみを学び、それに伴う気象および気候の変化を学ぶ。また、関連する国際条約の成立過程や内容について学び、国家間の立場の違いや国際社会への影響について考える。さらに、化石燃料の燃焼に伴い発生する大気汚染やエネルギー問題の現状を学ぶ。これらによって、地球温暖化の防止が技術的かつ国際的に複雑な問題であることを理解し、改善のための手法を提案し、予想される困難を考える。 （オムニバス方式／全15回） （河本和明／4回） 地球大気の特徴、気候を決める仕組み、気候変動の要因、将来の気候 （高尾雄二／3回） 閉じた地球と化石燃料、燃焼と大気汚染、さまざまな発電方式の比較 （富塚明／4回） 資源と太陽エネルギーの起源、エネルギー保存と物体の温度、温室効果ガスと地球温暖化、再生可能エネルギー活用の現状と展望 （和達容子／4回） 地球温暖化問題と国際政治の関係、地球温暖化に係る国際条約の成立と国家対立、国際社会の温暖化対策、地球温暖化問題が及ぼす国際政治経済的影響	オムニバス方式
	情報の活用	報告書の作成にあたって、文書構造を意識した文章の組み立て方法を理解し、推敲結果の反映、その体裁を整えるといった一連の文書作成作業を容易かつ効率的に行うために必要な文書作成ソフトの活用方法を習得させる。また、数値データを目的に応じて適切な方法で分析し、その結果をわかりやすく表現できるように、表計算ソフトに備わっている種々の関数機能、グラフ作成機能を習得させる。 文書作成技法：明瞭な表現、文書データの構造化、Microsoft Wordの機能、およびフィードバック 分析のための可視化：情報の変換、グラフを用いた分析、グラフ作成の原則、Microsoft Excelグラフの描画、およびフィードバック 表計算技法：「情報基礎」の復習問題の解説、Microsoft Excelに備わっている関数、クロス集計、およびフィードバック	共同
	情報社会とコンピューティング	情報化社会における、セキュリティ維持について、基本となる考え方を学ぶ。セキュリティ維持に必要な情報技術、ルール、運用の基礎について講義を行う。また、理解を深めるために、情報セキュリティマネジメントに関するグループ学習を行う。 （講義テーマ） 情報社会の安全を脅かす脅威の数々、個人情報保護とプライバシー、情報を守る技術、スマートフォンの便利さの裏に潜むモノ、ウイルスは死なず、ソーシャルエンジニアリング、クラウドの便利さの裏に潜むモノ、情報セキュリティのリスクマネジメント、情報セキュリティのマネジメントサイクル、ISMSのグループ学習	

授 業 科 目 の 概 要			
(多文化社会学部多文化社会学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 モジュール科目 全学モジュールI科目 グローバル社会へのパスポート	情報社会とコンピュータインテグレーション 計算機の科学	<p>コンピュータの入力、記憶、演算、制御、出力の各機能の仕組み、基本ソフトウェアとアプリケーションプログラムの動作原理及びデジタルデータの表現方法などの基礎知識について講義を行う。また、課題により、コンピュータ内の情報の表現、OS、アプリケーションプログラム等の理解を深める。</p> <p>(講義テーマ)</p> <p>コンピュータの基本構成と動作原理、情報のデジタル化、デジタル情報処理、オペレーティングシステム(OS)、プログラミング入門・演習、様々なアプリケーションソフト、様々なデータ処理、コンピュータはデータをどのように記憶しているのか、情報セキュリティ、暗号について、コンピュータネットワークの仕組みとその利用、コンピュータの歴史</p>	
	東西文化交流の歴史	<p>長崎を基点とする東洋と西洋の「知的交流の歴史」(Cross Intellectual History)を掘り下げ、国際交流における文化的・歴史的側面を理解し、国際人としての教養に基づいた態度と倫理の形成を図る。また、本講義では自主性、思考力、判断力および表現力を尊重する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(姫野順一/8回)</p> <p>近世中期までの長崎における洋学の動向、毛氈から見た日・蘭・清の交易、寛政の改革以後の外交方針の変化と技術導入の関係、日本観察者としてのシーボルト、シーボルトを支えた長崎、シーボルトの眼!川原慶賀、幕末開港と洋学:坂本龍馬の周辺、写真術の伝来と伝播</p> <p>(深見聡/2回)</p> <p>長崎遊学と西国雄藩の活躍、開明君主・島津斉彬と近代化事業</p> <p>(松田雅子/2回)</p> <p>英語学習の歴史は長崎で始まった!</p> <p>(菅原潤/3回)</p> <p>洋学史から教養論へ—大正期における教養主義の成立、昭和初期における修養主義の普及とその影響、戦後の教養論の低迷と3・11以後の国際交流</p>	オムニバス方式
	国際的視点に立った法と政治	<p>人間が集団生活を営むためには、様々な決まりやルール、即ち法を定めておかなければならない。しかも、国際的交流が飛躍的に増加すると考えられる21世紀においては、自らが生活する国・地域の法のみならず、異なる歴史・文化を有する国・地域の法についても理解できる能力を養っておくことが重要である。</p> <p>本授業においては、国際法に関わる交渉に参加した経験を有する教員の指導の下、そもそも法とは何かを学んだ上で、他の国・地域の法、さらには国際社会を規律する国際法を概観し、法の多様性を理解するとともに、そうした法を生み出す場である政治の現実についても学ぶことを通じ、グローバル化が進展する世界において必要とされる人間の多様性を理解することのできる能力を養う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(多文化社会学部多文化社会学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 モジュール科目 全学モジュールI科目 コミュニケーション実践学	グローバル社会へのパスポート	グローバル化が進展した現在では、国際関係を理解するためには経済的側面を除いて議論することはできない。本授業では国家レベルでの経済の動きを理解するための知識を基礎として、国際間の経済関係を理解するための基本的要素である貿易や為替レートの役割や国際間の経済への影響などを理解することを目的とする。理論ばかりでなく統計数値の意味等も理解する基盤を提供する。 (講義テーマ) 経済学入門, 国際経済におけるマイクロ経済学, 経済援助を考えるための基礎, 国際経済におけるマクロ理論, グループディスカッション, グループ対抗ディベート	
	コミュニケーションの比較文化	言語的・非言語的コミュニケーションの多様性と普遍性を、文化的・歴史的な諸事例を通して理解する。そのために、ノンバーバルコミュニケーション(身ぶりとしぐさ)、バーバルコミュニケーション(会話分析)、共在のモード(集まりと身体接触)、オーラリティ(声の文化と文字の文化)といったテーマをもうけ、それぞれのテーマの下、①導入 ②グループワーク ③グループプレゼンテーションとまとめ、の3パートに分割して、授業を行う。 (講義テーマ) 非言語コミュニケーション, 言語コミュニケーション, 共在のモード, オーラリティ	
	コミュニケーションの生物学	動物およびヒトの行動とその解剖学的・生理学的基盤、とくにコミュニケーションに欠かせない認知・情動に関する脳基盤を概説し、また関連したホルモンや遺伝子等についても学習する。 (オムニバス方式/全15回) (岡田二郎/8回) 動物のコミュニケーションとは、コミュニケーションの生理学的基盤、コミュニケーションの進化、昆虫の化学コミュニケーション、コオロギの音声コミュニケーション、小鳥の音声コミュニケーション (篠原一之/4回) ヒトのコミュニケーションとは、ヒトのコミュニケーションに関わる脳基盤(認知・情動を司る脳機能)、ヒトのコミュニケーションに関わるホルモン・遺伝子、ヒトのコミュニケーションを司る脳の性差 (土居裕和/2回) 男女間におけるコミュニケーションの脳科学(恋愛)、親子間におけるコミュニケーションの脳科学(母性・父性、愛着) (西谷正太/4回) 脳科学・行動実験体験	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（多文化社会学部多文化社会学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 モジュール科目 全学モジュールI科目 核兵器のない世界を目指して	コミュニケーションとICT	高度情報化社会を向えた現在、我々がコミュニケーションをとれる範囲が驚くほど広がっている。これは ICT（情報通信技術）が非常に発達したおかげである。この技術を用いたコミュニケーションは、時として国や社会を変化させる力をも持ち始めている。しかしながら、ICTを使ったコミュニケーションには、光の部分と影の部分が存在することも確かである。そこで本講義では、ICTの現況と課題を理解するために、インターネットの歴史と動向、情報通信の仕組み、情報セキュリティ、ソーシャルメディア、情報化の光と影等の内容を学習する。	
	核兵器とは何か	「核兵器」とは何か、その基本的な仕組み、広島・長崎での実際を含むその効果、兵器そのものや抑止概念、核兵器政策、運用体制の歴史の変遷と現状、核軍備管理・軍縮努力の歴史と現状などを学ぶ。 （オムニバス方式／全15回） （梅林宏道／2回） 現代における核兵器—政治と軍事を俯瞰する、米国とロシアにおける核兵器体制 （黒崎輝／1回） 米国とロシアにおける核兵器体制 （中村桂子／14回） 現代における核兵器—政治と軍事を俯瞰する、核兵器の誕生とその特性—核時代の始まりから広島・長崎まで、核兵器の非人道性—被爆者の体験から、核実験の影響など、米国とロシアにおける核兵器体制、「核の傘」に依存する国々の論理、フランス・中国・イギリス・インド・パキスタン・イスラエルの核兵器とその論理、核不拡散体制の現状と課題、日本の核政策、世界の非核兵器地帯、北朝鮮の核問題、「核兵器のない世界」に向けた取り組み	オムニバス方式
	国際社会と平和	核兵器廃絶を考える上で、その背景となる国際社会の基本的な特徴とその分析方法の基礎を学び、学生一人一人が、国際社会の特徴を踏まえた上で、自分なりに平和へ至る方向を探る姿勢を見出せるようになることを目的とする。前半は講義中心で、主に基礎的な国際社会の歴史や成り立ち、その特徴及び国際社会を把握、分析するための基本的なアプローチについて検討する。その後、講義の後半部分では、テキストも利用しながら、現在の国際社会が現実抱えている様々な問題を、「平和」という観点から考察し、最終的に国際社会を平和にするためには、何が求められているのかという問題を考える。	

授 業 科 目 の 概 要			
(多文化社会学部多文化社会学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 モジュール科目 全学モジュールⅠ科目	核兵器のない世界を目指して 被ばくと社会	長崎における原爆被ばく歴史、報道に見る社会への影響、被爆体験の継承の実際を基礎知識として学び、被爆体験の継承における問題点について考える力を養う。 (オムニバス方式/全15回) (三根真理子/6回) 被ばくと社会の概要、歴史に関するまとめ(学生の意見交換)、原爆体験継承に関するまとめ(学生の意見交換)、被爆体験と人生 (奥野正太郎/3回) 原爆と歴史 (高橋信雄/3回) 報道にみえる被爆と社会、原爆は私を変えたー原爆記者25年の軌跡 (平野伸人(3回)) 被爆二世と原爆体験の継承、高校生の平和活動と原爆体験継承活動	オムニバス方式
	環境法(国際法)と環境問題への取り組み	日本のエネルギーの特徴と課題や地球温暖化対策推進法、省エネ法等の関連法規の内容ならびに日本のエネルギー問題への取り組みを理解させるとともに、省エネや地球温暖化防止に取り組む姿勢を醸成させる。また、環境問題に対する考え方、環境法(国際法)の歴史と特質およびそれらの概要について学習し、環境問題の基本的考え方や国際環境法の理念・精神について理解を深める。 (講義テーマ) 日本のエネルギー事情、地球温暖化対策推進法、省エネ法	
	環境マネジメント 環境基本法と環境基本計画	日本における環境問題とそれらに対する対策の考え方や歴史、国際環境法との関係を理解させるとともに、「環境基本法」の主旨を理解させ、人類の持続可能な発展を実現するための基本的な知識と姿勢を身につけさせる。併せて、自主的探求能力や日本語コミュニケーション能力の向上等を目指す。 (講義テーマ) 日本の環境と環境政策、環境に関する基本的法律、環境政策の基本、循環型社会の形成、生物多様性の確保	
	環境関連法(国内法)と環境コミュニケーション	国内の主な環境関連法の主旨を理解させるとともに、環境教育や環境コミュニケーションの重要性を理解させ、人類の持続可能な発展を実現するための基本的な知識と姿勢を身につけさせる。併せて、自主的探求能力や日本語コミュニケーション能力の向上および社会貢献意欲の醸成等を目指す。 (講義テーマ) 環境への配慮、環境教育、環境コミュニケーション、大気環境の保全、水環境・資源の保全、廃棄物の処理、エネルギー使用の合理化、オゾン層の保護、地球温暖化対策、化学物質の管理、環境物品等、環境報告書	
数理と自然科学のススメ	数学の常識	数学用語と日常用語の違い、数学におけるものの捉え方、表現法、コミュニケーションの仕方、抽象化と論理など数学の世界における常識を理解する。なお、数学の入門書を独力で読破できる素養を身につける。	

授 業 科 目 の 概 要			
（多文化社会学部多文化社会学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 モジュール科目 全学モジュールI科目 数理と自然科学のススメ	物理の考え方	数式を覚えるのではなく、身近な現象・事象の中にある物理を知る。そのために物理的ものの見方・考え方、物理の基本的な法則、方法論、物理と数学との関係などの基礎を理解する。 （講義テーマ） 基本的概念と数学的準備、座標系、力のつり合い、運動の表し方、運動の法則、等速円運動と単振動、仕事とエネルギー、電気と磁気、波動、熱	
	環境・生活と化学	私たちの身の回りには無数の物質が存在するが、それらを構成する原子はわずか100数種類しかない。私たちを取り囲む環境や日常生活におけるさまざまな現象や物質の振る舞いは、一見複雑であるが、それらの多くは原子・分子の性質によって支配されている。これらの現象・物質を化学的観点から学習することで、現象の本質的理解を目指す。 （オムニバス方式／全15回） （山田博俊／8回） 原子と分子の世界、空気：分子レベルで見た日々の呼吸、オゾン層：地上と影響しあう上空の世界、地球温暖化：切り離せない化学との関わり、エネルギー・化学・社会：持続可能な社会への道、水：安全な飲料水が持つ不思議、酸性雨：汚染物質を中和する （木村正成／7回） 身の回りの有機化学、核分裂の炎：原子力との共生、電子移動で取り出すエネルギー：化石燃料から次世代エネルギーへ、プラスチックとポリマー：化学合成の不思議と魅力、薬：分子の細工とドラッグデザイン、栄養：脳を働かせる食事、遺伝子工学と遺伝：組換えとクローニング	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(多文化社会学部多文化社会学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 モジュール科目 全学モジュールⅡ科目 先進医学の現代社会	免疫と病気	病気から体を守る仕組みについて概略を理解すると共に、体を守る仕組みの負の側面としての病気について学ぶ。巧妙かつ複雑な生命活動を理解し、私達の健康について考える。 (オムニバス方式/全15回) (由井克之/5回) ・ワクチンは何故効くのか?抗体,免疫記憶 ・インフルエンザに毎年罹患するのは何故か?免疫エスケープ ・移植臓器は何故拒絶されるのか?MHCの発見 ・移植臓器は何故拒絶されるのか?免疫寛容 (本間季里/6回) ・癌に免疫は効くのか?自己と非自己 ・癌に免疫は効くのか?細胞性免疫 ・花粉症になる人とならない人がいるのは何故か?アレルギーⅠ ・花粉症になる人とならない人がいるのは何故か?アレルギーⅡ ・免疫が機能しないとどうなるか?先天性免疫不全 ・免疫が機能しないとどうなるか?後天性免疫不全 (一瀬邦弘/2回) ・免疫が自分を攻撃する病気とは? ・免疫病にはどのような治療法があるのか? (阿比留教生/2回) ・生活習慣病ではない糖尿病,免疫で起こる糖尿病とは? ・免疫と神経・筋疾患	オムニバス方式
	エイズと性感染症	感染症を引き起こすウイルスと細菌についての基本を学び、HIV感染・エイズについての諸問題を考える。また他の性感染症の実態と対策について学び、社会が取るべき対策等について議論する。なお、本授業はアクティブラーニングを中心に行う。テーマについて各自情報を集取し、分析、発表を行う。	
	感染症と文明	種々の感染症の世界的流行の歴史と文明の興亡との関連を学び、グローバルな視点で感染症問題を捕らえる力を養う。また大きな時間スケールのなかで人間と微生物との関わりを考える。 (講義テーマ) 地球と生命の共進化,進化論とその系譜,分子系統進化学,生物と社会,感染症とは,感染症が広がるということ,地球気候変動,気候変動と感染症	
	話題の先進医学	先進的医学としてどのようなものが行われているかを知るとともに、先進医学が工学,数学,理学などの他学問との密接な関係で成り立っていることを知り、応用発展を考える。 (講義テーマ) 診断学と放射線, X線を用いた画像診断, X線を用いない画像診断(MRI), 放射性同位元素を用いた診断, 統計学と画像, 放射線と治療, グループ学習:物理学と医療, 歯学・歯科理工学を学ぶ前に必要な知識, 歯学と材料工学, 感覚器先進医学を学ぶ前に必要な知識, 耳鼻科先進医学と工学, 眼科の先進医学と光学	

授 業 科 目 の 概 要			
(多文化社会学部多文化社会学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 モジュール科目 全学モジュールⅡ科目	先進医学の現代社会	幹細胞について、概念、原理、技術の概略を学び、実際の再生医療について知る。幹細胞・再生医療をめぐる倫理的問題について討論を行い、考える力を養う。また、幹細胞と再生医療の知識を習得すると共に、医療、健康、生命になど一般的な社会問題に対する関心を深める。 (オムニバス方式/全15回) (李桃生/11回) 幹細胞の基礎知識、体性幹細胞について、胚性幹細胞について、iPS細胞について、クローン技術について、グループ学習と討論(幹細胞研究の倫理問題について)、再生と再生医療の基礎知識、心臓・血管の再生医療、脳・神経の再生医療、その他の領域の再生医療、学生発表と総合討論 (田口潤/2回) 造血幹細胞と再生医療 (堺裕輔/1回) 肝臓・膵臓の再生医療 (虎島泰洋/1回) 消化管の再生医療	オムニバス方式
	生命と薬	伝承薬から最先端医薬品まで(薬はこうして創られる) (畑山範/5回) 抗生物質、抗ウイルス剤、ビタミン、その他の身の回りにある医薬品 (高橋圭介/5回) 抗生物質、抗ウイルス剤、ビタミン、その他の身の回りにある医薬品 (石原淳/5回) 抗生物質、抗ウイルス剤、ビタミン、その他の身の回りにある医薬品	オムニバス方式
	薬との賢い付き合い方	薬が効くしくみや薬の体内での動きの基礎を理解し、また、薬の影の部分(副作用)を知る事は、一消費者としても、薬と賢くつきあうためばかりではなく、生体の機能を知り、生命現象の理解を深める事にもつながる。本授業では、精神に作用する薬も含め、幾つかの薬を例に取り、演習等も交えて、薬との賢く付き合うための生命科学を学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (西田孝洋/8回) からだのしくみ、薬が効くしくみ、薬物の消化管からの吸収、薬物の消化管以外からの吸収、薬物の体内分布、薬物代謝、薬物の排泄 (麓伸太郎/7回) 薬の宅配便、病と薬(感染症と免疫システム、生活習慣病、癌と疼痛コントロール、こころの病)、薬の影、薬との賢い付き合い方	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(多文化社会学部多文化社会学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 モジュール科目 全学モジュールⅡ科目 生命と薬	出島の科学	幕末から明治初期にかけ、出島を通して日本に近代科学・薬学をもたらした先人達、そして現代の日本の科学を先導したノーベル賞受賞者達の努力とその偉業への理解を深めることによって、現在、我々は何をなすべきかを考えるきっかけとする。 (中山守雄／6回) ・出島の化学(長与専斎, 長井長義について) ・下村脩博士のノーベル化学賞受賞について (和田光弘／9回) ・出島の化学(出島の化学の黎明期～導入・定着期, 出島の化学の黎明期に活躍した人物の業績について, 出島の化学の導入・定着期に活躍した人物の業績について) ・日本におけるノーベル賞の系譜, 日本における近年のノーベル賞受賞者の功績 ・発光に関する実験 ・蛍光及び化学発光に関する実験	オムニバス方式
	疾病と薬物治療	気管支喘息や肥満やうつ病の概念や病態および治療法を学びながら、代表的な治療薬の作用部位や作用機序を知り、最終的に治療していく仕組みを学ぶ。最後にパワーポイントを用いて学習成果をプレゼンテーションする。 (オムニバス方式／全15回) (塚元和弘／7回) KJ法を知る, 気管支喘息の病態, 気管支喘息の治療, 交感神経と副交感神経の働き, 交感神経と副交感神経の異常による病態, デイバート, プレゼンテーション (近藤新二／6回) 肥満の原因と病態生理, 肥満の診断と治療及び予防, 肥満の合併症, 肥満と社会, デイバート, プレゼンテーション (稲嶺達夫／6回) うつ病の種類と病態, うつ病の治療, うつ病との付き合い方, うつ病と社会生活, デイバート, プレゼンテーション	オムニバス方式
	薬の開発を主題とした動物行動分析と推計学	ヒトは、物言わぬ動物の行動や反応を通じてコミュニケーションを図り、有用な薬物の開発や危険性の予知など多様な情報を獲得してきた。動物の行動科学を基盤に、ヒトが生きていく上で必要な健康や病気の治療に用いられる医薬品の開発について学び、動物行動科学の応用性と薬物の有用性、有害性について一般教養レベルで理解する。 (講義テーマ) 動物の行動, 動物の行動機能試験, 動物実験とデータ処理	

授 業 科 目 の 概 要			
（多文化社会学部多文化社会学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 モジュール科目 全学モジュールⅡ科目 安全で安心できる社会	生命と薬 疾病の回復を促進する薬	薬物の働く仕組みだけでなく、薬物が医療の中でどのような役割を担っているか、また薬物とその有効な作用を発揮できるように医師・看護師・薬剤師などがどのように働いているかを学ぶ。 （講義テーマ） 薬理学総論、神経に作用する薬、末梢神経に作用する薬、中枢神経に作用する薬、循環器系に作用する薬、血液に作用する薬、内分泌系に作用する薬、抗炎症薬と化学療法、消毒薬と外用薬、薬物中毒と救急医療、薬の安全な使用と薬剤師	
	医療現場の安全と安心	急速なグローバル化や災害への対策が急務とされる今日の状況において、医療現場で人々の健康に関する安全と安心を維持するためにどのような対応が求められるか、総合的に理解する。 （オムニバス方式／全15回） （橋爪真弘／5回） 人々の健康に関する安全と安心、デング熱ってなに？、気候変動と感染症、エイズは蚊でうつるか？：蚊と感染症、アフリカの暮らしと蚊 （新川哲子／2回） 緊急被ばく時における放射線リスクと危機管理、放射線障害を受けた住民に対する支援活動の実際 （田中隆／4回） くすりは毒から作られた、自然界の毒、くすりと食べ物の違いについて、毒・麻薬・覚醒剤・幻覚剤の歴史と化学 （田崎修／4回） 救急医療の現状と課題、災害医療の現状と課題、救急医療における臓器提供と終期医療の現状と課題、安心な災害医療・救急医療に向けて我々が取り組むべきこと	オムニバス方式
	自然災害とインフラ長寿命化	台風、水害などの自然災害におけるリスク管理と防災計画を理解するとともに、膨大な数のインフラ構造物の劣化・老朽化状況を把握しインフラ長寿命化の意義を理解する。本授業を通して、自然災害に遭遇した際、インフラ構造物の劣化・損傷を発見した際に、将来実社会で遭遇する際に役立つ知識を修得することがてることが本授業のねらいである。 （オムニバス方式／全15回） （蔣宇静／3回） 自然災害概論と防災の考え方、防災・減災のための社会システム、地域防災計画 （高橋和雄／4回） 地震・津波・火山災害と防災対策、豪雨・台風・高潮災害と防災対策、土砂災害と防災対策、インフラと防災対策 （森田千尋／4回） 長崎県内の橋、橋を強くさせるためには、「橋は大丈夫か」「巨大都市再生への道」、観光ナガサキを支える“道守”養成ユニット （松田浩／4回） ペーパーブリッジコンテスト（強い橋を考える、強い橋を作る、コンテスト）	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（多文化社会学部多文化社会学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 モジュール科目 全学モジュールⅡ科目	破壊事故とヒューマン ファクタ	“ものづくり”は、建造するものが壊れないように、要求される性能を十分に発揮できるようにする必要がある。ところが、実際には、様々な“もの”が様々な原因で壊れ、時には悲惨な事故となることがある。 本授業では、様々な学部へ所属し、将来いろいろな分野に進む学生を対象に、“ものづくり”の成果や破壊事故の実情を講義とビデオにより紹介する。また、“もの”が壊れる条件についてわかりやすく説明する。 さらに、近年、事故発生に人のミスが関わっていると多くの指摘がある。ヒューマン・エラーについて体験させ、人のミスを防ぐための安全確保策の考え方について紹介することを目的とする。	
	水環境の安全と安心	日本は地球の温帯地域にあり、四季を通じて降雨があるため水には恵まれてきた。しかし、途上国においては、安全な飲料水の確保は喫緊の問題であり、日本に限らず、先進国の水処理技術の導入が急がれている。本授業では、工学研究科の水環境技術者育成に関わる教員により、水環境に関する技術の現状、問題点を整理し、日本の持つ先進的なモニタリング技術、アセスメント、膜や生物処理を使った最先端水処理技術などを理解することで、普段気づかない水環境の安全・安心について考える。	
	環境リスクと社会	環境問題と環境リスクについての包括的な知識を修得し、それに基づいて環境リスクへの対応のあり方について考察を深める。 （講義テーマ） 個人的リスクと社会的リスク、環境問題と環境リスク、「環境リスク」登場の背景、環境の保全と環境保全上の支障の防止、環境リスクの見積もり、環境リスクと科学的不確実性、事実判断と価値的判断、環境リスクと倫理的領域、認知リスクと科学的リスク、正しいリスクとは何か？、環境リスクへの対応は？私たちの役割	
	教育と社会	心理的な悩みや困難を抱えた人に対する援助には、カウンセラーなど専門家によるサポートと親密な他者など非専門家によるサポートの二つが存在する。本授業では、カウンセリングとソーシャルサポートの理論、学校・家庭場面におけるカウンセリングとサポートの実践、カウンセリングとサポートの効果を抑制する要因などについて解説する。 （講義テーマ） ・カウンセリングとソーシャルサポート ・ソーシャルサポートとは何か ・ソーシャルサポートと発達 ・サポート関係の構築 ・家族からのソーシャルサポート ・教師からのソーシャルサポート ・人はなぜカウンセリングを受けたがらないか	

授 業 科 目 の 概 要			
(多文化社会学部多文化社会学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 モジュール科目 全学モジュールⅡ科目 教育と社会	教育相談	一人ひとりの児童生徒の人格形成および教育指導上の問題について、教育の場を中心に相談をおこない、本人やその親に問題解決のための援助・助言・指導・治療を行うことができる能力を身につける。 (講義テーマ) ・教育相談の意義について学ぶ ・教育相談と生徒指導の領域について学ぶ ・児童生徒理解の領域について学ぶ ・児童生徒理解の方法について学ぶ ・カウンセリングの基本技法について学ぶ ・カウンセリングの基本技法を体験する ・不登校児童生徒への理解について学ぶ ・不登校児童生徒への対応について学ぶ ・発達障害の児童生徒への理解について学ぶ ・発達障害の児童生徒への対応について学ぶ ・いじめ問題について学ぶ ・学級崩壊の問題について学ぶ ・危機介入について学ぶ ・学級集団への援助の方法について学ぶ ・学級集団への援助の方法を体験する	
	文学と社会	ヨーロッパ文化を理解するための教養としての古代ギリシアについての知識を学ぶ。外国の歴史を学ぶのは外国語文献を読むことから始まるため、英語の絵本のようなものを翻訳させることによって「知ること」に対する態度を養う。なお、翻訳で内容を理解した上で古代ギリシアの社会の特徴を学ぶ。 (講義テーマ) Social structure～翻訳の検討、社会階層のまとめ、emocracy in Athens～翻訳の検討、アテネ民主政のまとめ、Sculpture～翻訳の検討、ギリシア彫刻の特徴、The theatre～翻訳の検討、ギリシア劇の特徴、Learnig～翻訳の検討	
	身のまわりの科学	身の回りの現象の背後に隠されている自然の法則を理解する。また、その法則が、原子などのミクロの世界や、宇宙などの巨大な世界でも成り立っていることを理解し、現代の科学的な自然観を身につける。 (講義テーマ) 科学的なものの見方及び現象と本質について、落下するということ、浮かぶということ、水・氷・水蒸気、光、身近な量子力学、携帯電話(音、電波、コンピューター)、身のまわりの放射線、おかしな科学(血液型と性格、マイナスイオンと健康、水からの伝言)、科学とはなんだろうか	
	芸術	美術における表現の喜びや感動を学ぶ。実技を絡めながら、人間を日常的なしほりから開放したり、身近な環境との出会いや交流を可能にしたりするような自由な発想、多様な表現方法を探る。	
	環境と社会	環境と社会がどのように関わっているかを環境基本法などで大まかに捉え、具体例として環境要因がどのように環境や人間に影響を与え、社会が、それをどのように扱って行けば良いのかを各種の規制法等を通して考える。また、ドイツの環境と社会との関わりを多角的に調べ、日本の環境と社会との関わりのあるべき姿を探る。	

授 業 科 目 の 概 要			
（多文化社会学部多文化社会学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 モジュール科目 全学モジュールⅡ科目 現代経済と企業活動	国際社会と日本経済	経済活動は国境を超える。輸出入やお金の移動、労働者の移動などの問題を通じ、グローバル化による効果と課題について理解する。 （講義テーマ） ガイダンス、世界経済の動向と課題、国際貿易、為替レート、国際投資、国際協調と地域統合	
	地域社会と日本経済	日本の社会・経済が持つ独自性や強み、日本経済の歩みを振り返り、日本や地域の固有の経済問題を考察する。具体的には、長崎や福岡といった地域の社会経済の発展の歴史を、地域をとりまく世界や日本の歴史の中に位置付けながら、地域の発展の要因や今後の都市のあり方について考察する。 （講義テーマ） 中世の国際貿易都市博多、大航海時代の長崎、城下町福岡、貿易都市長崎、近代都市長崎、近代の福岡、戦争と福岡、戦争と長崎、戦後長崎の復興、戦後福岡の発展、現在の長崎市、現在の福岡市	
	企業行動と戦略	経営学の基礎的な概念について理解する。特に、組織と戦略の概念を理解する。 （講義テーマ） 企業経営の全体像、経営学の全体像、株式会社の仕組み、日本の雇用制度の仕組み、競争戦略のマネジメント：基本的な考え方、競争戦略のマネジメント：違いを作る3つの基本戦略、多角化戦略のマネジメント、国際化のマネジメント、組織構造のマネジメント、モチベーションのマネジメント	
	社会制度と経済活動	現代の金融の世界で最早常識となっている程度の資産選択理論の基礎を理解する。 （講義テーマ） 利子率と割引現在価値、消費と貯蓄に関する意思決定、債券と株式の評価、ポートフォリオのリスクとリターン、ポートフォリオ選択の平均・分散アプローチ、資本資産評価モデル、先物取引とリスクヘッジ、先物ポジションの複製と先物価格理論、オプション取引の基礎、オプション価格理論、最近の話題から（バリュー・アット・リスク、信用リスク、リアル・オプション、天候デリバティブなどを候補として予定）	
	経営情報と会計情報	企業が公表する会計情報の中心は貸借対照表と損益計算書に代表される財務諸表である。これらは、自治体や非営利組織でも公表され始めている。本授業では、企業（商業を中心とする）の会計情報を通じて、企業の経営状況を読む基礎を理解する。 （講義テーマ） 企業会計と財務諸表、財務諸表の技術的基盤、財務諸表を取り巻く制度、貸借対照表の主な項目（流動資産、固定資産、負債、純資産）、損益計算書の主な項目（売上総利益、営業利益、経常利益、税引前当期純利益、当期純利益）、財務諸表を眺める、財務諸表分析（流動比率、当座比率、自己資本比率、固定比率、長期適合比率、ROEとROI（ROA）、損益分岐点分析）、分析結果の解釈、そのほかの財務諸表	

授 業 科 目 の 概 要			
(多文化社会学部多文化社会学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 モジュール科目 全学モジュールⅡ科目 環境問題を考える	環境と民俗	本授業では日本における人々の生活環境が自然とのあいだに切り結んできた関係を、様々な角度から検討する。生態環境によって規定される生活空間、とりわけ山村、農村、漁村、都市といった生活空間の特徴を理解し、現代の私たちの生活との連続性を確認する。 (講義テーマ) 民俗とはなにか、近代的／前近代的空間想像力、焼畑農業と雑穀栽培、コメ栽培文化、漁撈文化、職能者集団、死の風景、霊を飛ばし、神を迎える、長崎と周辺地域の精神世界と空間配置	
	環境と社会運動	ドイツ緑の党、日本の脱原発や水俣病を例に、公害環境問題の市民運動、住民運動の経過について理解する。政府、企業、専門家との対立や協力の相互作用のなかでの市民運動、住民運動の役割を様々な視点から議論できる知識と素養を養う。 (オムニバス方式／全15回) (保坂稔／8回) 社会運動分析(環境社会学への誘い)、社会運動論(緑の党)、エコファシズム、公共圏、リスク社会論、社会的ジレンマ論、計量的な社会意識研究 (戸田清／8回) 水俣病(公害・環境問題の原点)、カネミ油症(40年かかってわずかな前進)、じん肺と石綿(職業病から公害病へ)、原発事故と原発被曝労働、戦争と環境破壊(ベトナム枯葉剤と劣化ウラン弾)、遺伝子組み換え作物とグローバル経済	オムニバス方式
	環境問題の歴史から学ぶ	一般に環境問題は80年代以降世界的に知られるようになったと言われているが、それ以前にも大規模な自然破壊や、これに伴う生体の健康に与える深刻な影響が報告されている。本授業ではそれらの事例を踏まえながら、ローカルな視点で環境保護を訴える立場を模索することとする。 (オムニバス方式／全15回) (菅原潤／11回) 80年代以前の環境問題の歴史、工業化の進展と環境破壊、生体に与える環境響因子について、大気と温度と水の問題、無機イオンと内分分泌攪乱物質について、環境的因子における生物学的インパクト、生体に与える環境響因子の具体例、自然的環境と人間的環境、水俣病から見た公害問題、公害問題から地域環境問題へ (14 正本忍／2回) 人間の領域の拡大-人と森のヨーロッパ史-、ヨーロッパの拡大と環境破壊 (宮西隆幸／2回) 風景の倫理学、環境と公共圏	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(多文化社会学部多文化社会学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 モジュール科目 全学モジュールⅡ科目	環境問題を考える	多様な地域の環境には、様々な可能性がある。過度な経済効率性の追求や、いわゆる都市部からの視点からではなく、地域がもつ固有性に注目した持続可能な地域社会のあり方について考える。 (オムニバス方式/全15回) (中村修/7回) 循環型社会を考える：「循環」とは何かを様々な視点で考える、地域の循環の取組、タイの生ごみ資源化 (深見聡/8回) 地域に循環を作り出す：科学者と技術者に気をつけよう、地域の循環ビジネス、環境ビジネス	オムニバス方式
	海洋生物の遺伝子多様性	海洋の原核および真核生物について、遺伝子レベルの多様性を学び、海洋生物の生態や生理活動、人との関わりについて知見を深める。海洋生命科学を推進するための基礎的な解析手法および原理について学び、海洋の生命現象を遺伝子レベルで理解するための基礎力を身につける。 (オムニバス方式/全15回) (井上徹志/4回) 海洋微生物の遺伝子多様性 (菅向志郎/4回) 海洋微生物と人との関わり多様性 (山口健一/4回) 海洋微生物の生理活性物質の多様性 (和田実/4回) 海洋生命科学を推進するための解析技法と原理	オムニバス方式
	情報社会とコンピュータインテグレーション	問題解決のアルゴリズム	プログラムの文法や作法、データ構造、アルゴリズム設計や実装をとおして、情報社会基盤の重要な要素であるプログラミング言語について学ぶ。プログラミング言語の機能を理解し、演習を通じて実際に利用して、簡単なプログラムの読解や作成ができるようにする。 (講義テーマ) プログラミング入門、アルゴリズム入門、総合演習

授 業 科 目 の 概 要			
(多文化社会学部多文化社会学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 モジュール科目 全学モジュールⅡ科目 情報社会とコンピュータ モジュールⅡ科目	情報と社会	実社会における「情報」について次の観点から考え、それぞれを理解し、説明できることを目標とする。 ・経済学的視点から理論とその限界について学ぶ ・医療現場における活用事例 ・ソーシャル・メディアに関する技術的話題に触れる ・「情報」の表現・可視化について (オムニバス方式/全15回) (福澤勝彦/4回) 経済学における情報の考え方、リスクをどう捉えるかー確率と情報、人は合理的に情報に反応するのか (三根真理子/4回) 医療分野における情報の収集とデータベース構築事例紹介、情報技術の医療分野への応用、医療情報ネットワークの紹介 (正田備也/3回) いま私たちはどんな時代にいるのか、Webの今、ビッグデータとは (丹羽量久/4回) Web検索のキホン、ソーシャルネットワーク分析、情報の表現と可視化	オムニバス方式
	情報化の役割と課題	社会で実際に構築・運用されている情報システムを取り上げて、個人による調べ学習とグループによる共同学習に繰り返し取り組むことにより、情報システムの役割と課題について深く考えていく。 「災害発生!その時 ITは何ができるのか?」、「ITで“学び”が変わる!」、「情報はどこまで守られる?ネットセキュリティー最前線」、「新機種 続々! スマートフォンの違いとは?」、「迷惑メールがたくさん来るのはなぜ?」	共同
	情報通信とコンピュータネットワークのしくみ	コンピュータ・ネットワークの要素技術や規格・プロトコル等を知ることにより、コンピュータシステムや構成要素がどのような仕組みで稼働しているか、また、どのような性能や信頼性のもとに稼働しているかを理解する。 (講義テーマ) 伝送媒体とコネクタ、インタフェース、プロトコル階層、ネットワークトポロジ、イーサネット・ネットワークインタフェース層、ルーティング、ネットワークの信頼性、アプリケーションのふるまい、誤り検出・エラー訂正、コンピュータシステムの構成、コンピュータシステムの信頼性、記憶の信頼性	
	情報化時代の仕事術	ライフハックとは「情報処理業界を中心とした『仕事術』のことで、いかに作業を簡便かつ効率よく行うかを主眼としたテクニック群」(WikiPedia)のことである。本授業ではいくつかのライフハックについて演習をまじえて学び、日常生活や学習・研究の場で活用できるようになることを目標とする。 (講義テーマ) クラウドサービス、GTD、バージョン管理、数値演算・数式処理言、アウトライナー・高機能エディタ、総合演習	

授 業 科 目 の 概 要			
(多文化社会学部多文化社会学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 モジュール科目 全学モジュールⅡ科目 グローバル社会へのパスポート	情報社会とコンピュータインテグレーション ソフトウェアの利用技術	長崎大学の情報端末室にインストールされているアプリケーション・ソフトウェアを利用しながらそれらの便利さと限界を認識し、コンピュータを用いてさまざまな問題を解決していくために適切なアプリケーション・ソフトウェアを選択・活用していく方法を習得する。 データベースソフトの利用技術、画像演習ソフトの利用技術、電子書籍オーサリングソフトの利用技術、統計解析ソフトの利用技術、総合演習	共同
	企業の国際展開とその課題	グローバル化に対応して変容する企業のビジネス内容や海外進出の実態や内容を知ること、グローバルな企業で活躍できる知識やマインドを早期段階から醸成する。 (講義テーマ) 日本企業の海外進出の歴史と背景、業種別に見た国際化の現状とデータによるパフォーマンス分析、日本の企業集団と国際化、貿易の基礎知識、海外ビジネスとリスク要因、新卒採用と人材のグローバル化要請、日本企業の組織運営とキャリアパス、職場におけるダイバーシティの進展、企業のグローバル化と人材育成、中小企業のグローバル化、企業文化、企業間競争と企業倫理、グローバル人材マネジメント	
	世界人口の動向と国際開発	世界人口の動向を理解するために欠かせない、人口転換、人口構造、出生率、死亡率、人口移動などの基本概念や指標について学ぶ。さらに、それらを使って世界人口の現状を説明する能力を養う。また、変化する人口動態の背景にある社会・経済・文化的要因について考察する。 (講義テーマ) 人口を知ると何がわかるか？、さまざまな指標で見る世界人口の現状、人口構造の国際比較、人口転換論、死亡率低下の歴史的推移と地域格差、生命表の見方と平均寿命について、出生に関する指標と規定要因、出生率をめぐる先進国と途上国における諸問題、人口移動と都市化、国際人口移動と外国人労働者、少子高齢化、人口増加と経済発展の関係について、人口増加と環境・資源、各国の人口政策	
	英語で学ぶオランダと西欧の文化	日本と北ヨーロッパの中心国の一つとして発展してきたオランダとの交流が江戸初期に長崎から始まり、その交流が現在まで400年以上続いている。この講義ではオランダの文化と歴史を中心に、北ヨーロッパの歴史的発展、または、長崎と深い関わりのある日蘭交流について、基本的な知識の修得と文化理解を目的とする。なお、現在の国際社会において公用語である英語で講義を提供する。	
	国際援助と公的部門の役割	第二次世界大戦後の復興支援からスタートした国際援助について、これまでの世界的潮流やアプローチの変遷と2000年以降の国際協調の方策を踏まえ、日本政府による国際開発協力の役割と現状を理解し、今後の方向を考えることを目的とする。 現実の国際社会では常に重要なテーマとなっている国際援助、開発、紛争、貧困などのテーマについて、その歴史的、理論的、思想的な展開を外観する。その上で、そうしたテーマに関して活動するアクターの現実、特徴を学ぶことを通じて、戦後史及びグローバル社会の重要な一断面である国際援助に関しての知識を習得する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(多文化社会学部多文化社会学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 モジュール科目 全学モジュールⅡ科目 コミュニケーション実践学	グローバル社会へのパスポート 異文化接触とコミュニケーション	異文化接触の際に使用される日本語について科学的に検証するとともに、世界の主要な言語中における日本語の位置、統語構造と機能、普遍性等について理解を深め、コミュニケーションに必要とされる国際的な素養を涵養する。また、現代日本語の統語構造と機能について理解を深めることにより、①客観的な観察ができる。②客観的な分析ができる。③外国語としての日本語の統語構造と機能について科学的に説明できるようになる。	
	途上国支援と国際保健	地球規模の課題、特に途上国の健康問題について、社会、経済、文化的背景を踏まえて現状を理解し、地球市民としてどのような貢献ができるか多角的視点から考えるための基礎知識を身につけることを目指す。グローバル社会の中における共生をテーマに、地球規模健康課題を解決するため、国連、政府開発援助組織、NGO、民間企業など多様な組織が取り組んでいるが、学生個々人が現在そして将来、組織の一員として、あるいは一市民としてどのように協働していける可能性があるかを、主体的に考える機会を提供する。	
	対人世界の心理学	自身の対人世界のありようと対人関係スタイルの成り立ちを吟味し、共に生きる関係構築の方法を実生活の中で模索する。本授業では、①自分の対人世界のありようを意識化する、②対人関係スタイルの成り立ちを吟味する、③互いの成長を支え合う関係構築の方法を模索する、の3つのねらいを設定する。	
	身体・かかわり・言葉	自分と身体との関係、および身体と外界との関係について理解を深め、より自由で手応えのあるコミュニケーションがいかにも可能となるかを体験的に探る。 (講義テーマ) 身体関係論とは、意識と非意識、身体とのかかわり(①私のからだ、②重さと動き、③呼吸と動き、④見えない世界)、自身とのかかわり(①フォーカシング、②感覚と感情、③身体に尋ねる)、他者とのかかわり(①関わるとは、②動きと表現、③声と言葉)	
	芸術・スポーツとコミュニケーション	芸術やスポーツ(身体活動)は、そのパフォーマンスをパフォーマンス自体が演じる中で自己完結するものである。しかし、他者とのかかわりにおいて見聞きする対象になり、相互の感性や意志のやり取りが生まれコミュニケーションが成り立つ。 本授業では、音を媒介としたコミュニケーションや身体を媒介としたコミュニケーションの実際について実現象や実践を通して体験的に学ぶことをねらいとしている。 (オムニバス方式/全15回) (西田治/8回) 音あそび、ドラムサークル、音楽療法(概論)、音・音楽の影響力(理論と経験から) (小原達朗/7回) 心はどこにある?…ひとのからだの表現性、真似る細胞(ミラーニューロン)…ひとの脳の表現性、しぐさに込められた謎、サインに込められた意図、スポーツの中のコミュニケーション、サインプレーの実践	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(多文化社会学部多文化社会学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 モジュール科目 全学モジュールⅡ科目 コミュニケーション実践学	社会・メディア・政治	本授業では、近年、注目されたテーマを題材に、各メディアがどのような特性を持つかを分析し、具体的なメディアの活用方法について議論、検討する。また、メディアの表現手法を学ぶことで、自身の表現能力、コミュニケーション能力を高めることを目標とする。 (講義テーマ) メディアの歴史と現状、メディアを取り巻く環境、メディアの手法、メディアを深く知る(放送)、メディアを深く知る(新聞)、メディアの果たした役割、メディアが抱えるリスク、変質するメディア、メディアとの接し方、グループワーク、プレゼンテーション	
	日本語と表現	言語の構造と機能を理解するとともに、歴史的・地域的な差異に注目しながら日本語表現の特徴を多角的に吟味し、言語力を深める。 (オムニバス方式/全15回) (鈴木慶子/8回) 「別れの言葉」(レトリックを学ぶ)、「交渉の言葉」(待遇表現を学ぶ) (大森アユミ/7回) 「言葉の差別」(性差)、「言葉の差別」(地域差)、「親切の言葉」(相手にあわせて)	オムニバス方式
	異文化コミュニケーション	2010年に日本での国際結婚は4.3%以上となっており、この数字は世界のグローバル化に伴い、さらに増加すると推測されている。したがって、「国際結婚について考える」という学習内容は、学生の将来のみならず、日本社会全体にとっても避けては通れない検討課題であると思われる。本授業では、国際結婚という問題を通して、各国の社会、文化、宗教、政治、法律の相違という他者的な視点を考察し、自己の理解を相対化することをねらいとする。 「日本の結婚制度の成立」、「欧米のキリスト教社会の結婚」「中東、アフリカのイスラム教社会の結婚」「アジア各国の結婚(韓国、中国、東南アジア)」	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(多文化社会学部多文化社会学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 モジュール科目 全学モジュールⅡ科目 核兵器のない世界を目指して	市民運動・NGOと核兵器廃絶	本授業は、「市民」「市民社会」「NGO」とは何かといった概念整理から始め、民主主義体制における市民社会の役割を歴史的観点から概観する。その中では、特定の兵器に関する禁止条約の策定において市民・NGOが担ってきた役割についても学ぶ。核兵器をめぐっては、その誕生から現在に至るまでの歴史の中で、国内外の市民・NGOがどのような運動を展開してきたか、その歴史的背景、活動における理念や考え方、実際の活動、社会的・政治的影響と成果、残る課題等について具体的事例を挙げながら検証する。並行して、グループ単位でのNGO・市民運動の活動に関する調査を行い、その結果を発表するとともに意見交換を行う。 (オムニバス方式／全15回) (梅林宏道／2回) 「市民社会」とは何か、市民社会は世界を変えたのか (中村佳子／13回) 原水爆禁止運動の誕生と発展、広島・長崎の被爆者の運動、核保有国での反核運動、非核兵器地帯をめぐる運動、核兵器廃絶に向けた自治体の取り組み、中堅国家を動かす、世界法廷運動、ICJ勧告とその後、核兵器の非合法化をめざして、若者による運動、私たちにできることは？	オムニバス方式
	被ばく者と医療	原爆被災後の、被災者の救護活動、人体への影響の実態、健康影響の追跡調査の結果とその治療状況を知り、被ばく者医療の過去・現在・未来を考察する。 (オムニバス方式／全15回) (三根真理子／8回) 原爆と医療の概要、原爆直後の救護活動、原爆直後の人体影響調査、原爆被爆者の疫学調査（大学実施） (中島正洋／2回) 放射線被ばく急性障害、放射線とがん (宮崎泰司／2回) 原爆と血液疾患、被ばく者への医療 (赤星正純／3回) 原爆被爆者の疫学調査、原爆被爆者の追跡（臨床的経過）	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(多文化社会学部多文化社会学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 モジュール科目 全学モジュールⅡ科目 核兵器のない世界を目指して	核兵器廃絶と教育	核兵器廃絶に向けての取り組みや歴史的な背景等について、次世代の人たちにどう伝えるべきであるかについて考察する。特に、初等・中等教育における核兵器および被ばく体験等の戦争被害の扱われ方の実際とその問題点、あるべき姿について「平和教育の観点」から考える。また、平和教育の題材として広島、長崎、沖縄を取り上げ、それぞれの専門家から地域的な特性について学ぶ。学んだものを自分たちのものとして作り上げるためにディスカッションを経て、平和教育教材を作成する。作成した教材は学校現場で実践を持って平和教育を体験する。 (オムニバス方式/全15回) (全炳徳/15回) 広島・長崎の視点から、沖縄の視点から、言論・報道関係者の視点から、教材開発と発表(広島・長崎編)、教材開発と発表(沖縄編)、教材開発と発表(言論・報道編)、平和教育実践(長崎市内小中学校) (高瀬毅/2回) 言論・報道関係者の視点から (桐谷多恵子/2回) 広島・長崎の視点から (山口剛史/2回) 沖縄の視点から	オムニバス方式・共同(一部)
	文学・芸術と核兵器	文学、絵画、映画、コミック、音楽等に核兵器の存在及び使用が与えた影響を探り、核兵器が様々な芸術の中でどのように描写されてきたかを考察することで、核兵器が人々の間でどのように認識、位置づけされてきたかを検討すると同時に、芸術が核兵器の存在に与える影響についても考える。 (オムニバス方式/全15回) (7 廣瀬訓/7回) 文学・芸術と核兵器、芸術の持つ力、コミックに描かれた戦争と平和、コミックに描かれた核兵器、経験と創作、メディアの功罪 (赤木幹子/4回) 反戦という考え方、核をテーマとした児童文学、核をテーマとした児童文学、原子力発電と児童文学 (山上徹二郎/4回) 原爆と映画	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(多文化社会学部多文化社会学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 モジュール科目 全学モジュールⅡ科目 環境マネジメント	核兵器のない世界を目指して 核軍縮の法と政治	核兵器の廃絶へ向けての核軍縮を取り巻く国際政治と国際法の理論と現実について考察すると同時に、核軍縮交渉の現状とその問題点を検討し、核兵器廃絶へ向けての現実的なアプローチを考える。 (オムニバス方式/全15回) (7 廣瀬訓/13回) 「核兵器」に関する伝統的な考え方、「核兵器」と「安全保障」、「軍縮」・「軍備管理」・「不拡散」、核兵器の削減、核不拡散条約、核実験の禁止、非核兵器地帯、新しい核軍縮の試み、核兵器と国際人道法、核軍縮交渉の舞台、核軍縮と世論 (西田充/2回) 核軍縮交渉の現状と問題点、核軍縮交渉の展望	オムニバス方式
	資源・エネルギー問題への取組み	日本のエネルギーの特徴と課題や地球温暖化対策推進法、省エネ法等の関連法規の内容ならびに日本のエネルギー問題への取組みを理解させるとともに、省エネや地球温暖化防止に取り組む姿勢を醸成させる。 (オムニバス方式/全15回) (山下敬彦/5回) 日本のエネルギー事情について、その特徴と課題、日本のエネルギー問題への取組みを理解し、簡潔にまとめる。 (藤本登/5回) 地球温暖化対策推進法について、内容を理解し、簡潔にまとめる。 (鳴野武志/5回) エネルギー使用の合理化に関する法律について、内容を理解し、簡潔にまとめる。	オムニバス方式
	エネルギーマネジメント	エネルギー・マネジメントの実際を理解させるとともに、エネルギーに関する長崎大学の現状と課題について理解を深めさせ、長崎大学コミュニティーの一員の姿勢を醸成させる。 (講義テーマ) エネルギーに関する長崎大学の現状について情報を収集し、分析を実施する。エネルギーに関する長崎大学の課題を探求し、解決すべき課題を抽出する。エネルギーに関する長崎大学の解決すべき課題に対する解決のアイデアエネルギーに関する長崎大学の解決すべき課題に対する解決法を提案としてまとめる。	

授 業 科 目 の 概 要			
（多文化社会学部多文化社会学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 モジュール科目 全学モジュールⅡ科目 環境マネジメント	化学薬品等の取り扱い	化学薬品等に関する取り扱いを理解し、化学薬品の取り扱いと安全・安心について理解する。また、安全な取り扱いができる。 （久保隆／5回） 安全・安心とリスク、実験時の安全、毒劇物の取り扱い、予防原則 （真木俊英／5回） 特定化学物質の取り扱い、有機溶剤の取り扱い、毒性試験と毒性値、基準値等の設定 （竹下哲史／5回） GHSの概要、MSDSの概要、MSDS調査、世界の化学物質管理	オムニバス方式
	環境汚染物質のマネジメント	環境汚染物質のマネジメントについて理解するとともに、長崎大学における廃液処理の実際を見学し、長崎大学コミュニティーの一員としてとるべき行動を示すことができる。 （講義テーマ） 課題探求と課題解決の方法、汚染物質の動態と廃液処理施設、汚染物質の動態と廃液処理施設、公害に学ぶ、環境マネジメントシステム、長崎大学の排水管理、長崎大学の廃棄物管理、長崎大学のPRTRデータ、全国のPRTRデータ	
	廃棄物のマネジメント	廃棄物の処理に関する法律等を理解するとともに、実際に廃棄物の分別を体験し、廃棄物のマネジメントに関する知識と理解を深める。また、学内の「ごみ」の実態調査・分析から、社会に必要な廃棄物のマネジメントについて考察する力を身につける。 （講義テーマ） 長崎大学における廃棄物の処理法、実態調査、現状評価と問題点の抽出、問題点解決方法の探索、問題点解決方法の提案	
	環境分析技術(advanced class)	環境分析技術を理解するとともに、化学物質の分析を実体験し、環境分析に関する理解をさらに深める。 （オムニバス方式／全15回） （久保隆／8回） 環境分析技術の基礎、廃棄物の溶出、前処理（重金属分析）、ICP発光分析、水銀分析 （真木俊英／7回） 水中のVOC、n-ヘキサン抽出物の分析、VT-N、T-P測定、カフェインの分析、排水管理、大気中のVOC、アルデヒドの分析、排水の解析	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（多文化社会学部多文化社会学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 モジュール科目 全学モジュールⅡ科目 数理と自然科学のススメ	暮らしと情報の数理	身近なところに情報科学や数理科学の応用事例を見つけ、その数学的な原理を自らの言葉で説明できるようになる。身近な話題について、情報数理的な考え方で考察し議論できるようになる。 （オムニバス方式／全15回） （柴田裕一郎／8回） 情報の『量』とは？、対数と情報エントロピー、対数の便利な利用法『なぜ2位ではダメなのか？』の前に～コンピュータの性能はどう比較するのか？、コンピュータの性能比較事例を批判的に分析する、性能比較と相加平均・相乗平均、人の能力をフェアに比較するには？ （藤村誠／8回） PageRank：検索エンジンが重要なページを見つける仕組み、行列の固有値・固有ベクトルとその計算、PageRankを求めてみよう、固有値・固有ベクトルの応用例、公開鍵暗号の仕組み、因数分解の難しさとセキュリティ、素数判定手法	オムニバス方式
	自然を記述するための基礎数学	日常生活の中でメディアの報道に接し、買い物その他の活動をし、さらに市民としての権利と責任を持って行動する場合、そこで与えられる様々の説明の妥当性を判断しなければならない。そこでは統計をはじめとする数学が直接あるいは間接的に用いられている。 私たちは、提示された内容の妥当性を判断できる程度の数理的な感覚・能力を持っている必要がある。例えば、与えられた統計グラフが何を語っているか、あるいは語っていないかを適切に読み取することは状況の理解・判断においてきわめて重要である。また、ものごとを論理的に考え、的確に表現することは、私たちがもの考え、また相互に意思疎通をはかっていく場合に最も基本的なことであるが、数学ではこれらがきわめて「純粋に」目に見える形で行われる。数学を学ぶ中で私たちはこうした論理的な思考法や抽象的な概念を用いた表現法を身に付けていくことができる。	
	暮らしの中の物理科学	力、エネルギー、波、熱、流体などに関する基本法則を学び、それらを利用した身の回りのものの構造と動作原理を理解する。 （オムニバス方式／全15回） （冨田彰秀／7回） （力学の基礎）運動量保存の法則、力学的エネルギー、水圧と浮力、流れの中でのエネルギー保存の法則 （身近な現象）流体の持つ不思議な特性、河口域での流動と水質変化について （杉本知史／8回） （力学の基礎）力学を学ぶ前の準備、力のつり合いと摩擦、力と圧力・応力、速度と加速度・物体の運動 （身近な現象）土砂崩れはなぜ起こるのか？、地震による液化化現象はどう起こるのか？、トンネルは掘ってもなぜ壊れないのか？	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（多文化社会学部多文化社会学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 モジュール科目 全学モジュールⅡ科目 数理と自然科学のススメ	物質と化学反応	物質の構成要素である分子の結合エネルギーから、化学反応における反応熱の意味を考え、さらに、反応熱からいろいろな熱力学的な状態変数を導くことで、化学反応の熱力学的な考察を行う。 原子の構造、電子配置から、分子の構造、化学結合について講義する。また、化学反応の仕組みを講義したあと、反応熱について説明し、反応熱の熱力学的な意味を考察する。さらに、自由エネルギーの計算方法と利用法について講義する。	
	地球環境の科学	地球温暖化に代表される地球環境問題に関わる物理学をその根本から学習する。事実と仮説を積み上げて、身の回りの出来事を説明できるよう、科学的な思考法を地球環境問題を例にとりて学習する。 （オムニバス方式／全15回） （森山雅雄／9回） 地球温暖化に関するキーワード概説, 仕事とエネルギー, 電磁波と光, 温室効果, 熱エネルギー輸送 （冨田彰秀／6回） 水のはたらき, 植生のはたらき, 森林のはたらき	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（多文化社会学部多文化社会学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 モジュール科目 学部モジュール科目 多文化社会の諸問題	長崎から出発するグローバル世界へ	<p>私たちが世界を見ようとするとき、自分がいる地域が、どのようにして世界とつながっているのかを確認することは不可欠の行為である。そこで、本授業では、長崎という地域が、過去から現代にいたるまで、どのような形で、直接的・間接的に世界とつながってきたかを俯瞰する。その際、一つの事象を様々な学問的アプローチから複合的に理解することを目指す。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（20 木村直樹／6回） ガイダンス 長崎から世界をみる、アジアの中の元寇、偽使と倭寇の時代、日本近世のゲートウェイ長崎・対馬、近世長崎と通訳・翻訳、まとめ 長崎からみえること</p> <p>（東條正／1回） 造船とアジア航路の都市長崎</p> <p>（15 野上建紀／4回） 水中考古学の世界と長崎、鷹島沈船から見える元寇、陶磁器生産と長崎、世界をめぐる日本の陶磁器</p> <p>（18 志々目幸恵／2回） 長崎通詞の翻訳活動の実態</p> <p>（30 石司真由美／2回） 長崎を通じた日本と国際法の「出会い」、シーボルト父子が遺した功績</p>	オムニバス方式
	アジア理解への扉	<p>世界における私たちのポジションをアジアの歴史と現在から捉え、かつ、長崎を足掛かりに世界を舞台に活動する意義や方法を学ぶ。そのために、まず、①アジア近代への基本的な認識枠組みを学び、その上で、②海洋都市・長崎の世界との交流を、陶磁器や沈没船などの海底遺跡、あるいは唐寺や中華街の祭礼にみる地域文化資源などから具体的にみる。さらには、③今後のアジア及び長崎の課題・展望を、国際関係の変遷や、民族、ジェンダーの変容に着目しつつ、理論と実践の双方から考える。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（11 首藤明和／3回） 脱亜と興亜、強権と公理、内発と外発からアジア近代を概観する。</p> <p>（15 野上建紀／3回） アジアで出土した陶磁器や沈没船などの海底遺跡からみた「海を介したアジアの交流」を紹介する。</p> <p>（9 王維／3回） 「アジアと長崎の歴史と文化」、「長崎と中国」、「長崎と華僑」をテーマに、長崎とアジア、特に中国との交流史と中国文化の伝播・受容の歴史を紹介する。</p> <p>（29 梁雪江／3回） 「近代東アジアにおける人の移動」の戦前・戦後を、国際関係の変遷や国家の管理システムの分析を通じて紹介する。</p> <p>（21 賽漢卓娜／3回） 「現代中国家族と『男女平等』」、「アジアの日本人移住者とジェンダー」、「中国のモンゴル族と朝鮮族」をテーマに、ジェンダー変容や、民族の多様性を紹介する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（多文化社会学部多文化社会学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 モジュール科目 学部モジュール科目 多文化社会の諸問題	アフリカ理解への扉	<p>本授業は全3部で構成され、第1部は担当教員それぞれのフィールド経験を語ることを通じて、アフリカ世界を実感できるようにする。第2部ではアフリカと外部世界（アジアやヨーロッパ）との関係を軸とした歴史を学ぶ。第3部では現代アフリカ社会に関わる問題、特に紛争、宗教、病気を取り上げる。本授業の最後には、アフリカのことをより深く学びたいと考える学生のための、さらなる学びのガイダンスを行う。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（16 増田研／8回） 「アフリカ」の多様性、アフリカの生活文化、サハラ地域、ヨーロッパ人のアフリカ探検、ヨーロッパ植民地としてのアフリカ、日本とアフリカの歴史的つながり、現代のアフリカ</p> <p>（19 波佐間逸博／2回） アフリカの生活文化、現代のアフリカ</p> <p>（26 鈴木英明／4回） アフリカの生活文化、アフリカとインド洋、日本とアフリカの歴史的つながり、現代のアフリカ</p> <p>（16 増田研・19 波佐間逸博・26 鈴木英明／1回）（共同） アフリカを体験したい人のためのガイド</p>	オムニバス方式・共同（一部）
	オランダーヨーロッパ理解への扉	<p>オランダは17世紀から18世紀において「海上帝国」と呼ばれ、世界中に植民地と交易のネットワークを築き上げた。出島における貿易もまたその一環としてある。現在のオランダは、1952年のECSC（石炭鉄鋼同盟）の創設メンバーと成って以降、ヨーロッパの統合において重要な役割を果たしてきた。本授業では、オランダを「窓」として、近現代のヨーロッパについて理解するとともに、ヨーロッパとの関係性の中で日本という国を捉えるための視点を提示する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（10 葉柳和則／3回） イントロダクション、EUに参加しない国々、ドイツ語圏の移民と多文化政策</p> <p>（20 木村直樹／2回） 近世のオランダと世界システム、近代のオランダと世界システム、オランダ-ヨーロッパと日本</p> <p>（山下龍／2回） オランダ独立戦争から「黄金時代」へ、近代世界とオランダの位置</p> <p>（27 吉野礼子／4回） EUへと到る道、ヨーロッパの戦後とベネルクス三国、EUの理念と機構、オランダとベルギーの移民と多文化政策</p> <p>（14 正本忍／3回） ヨーロッパの起源と根源、中世から近世へ、フランスと近代世界</p> <p>（10 葉柳和則・20 木村直樹・山下龍・27 吉野礼子・14 正本忍／1回） まとめ</p>	オムニバス方式・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
（多文化社会学部多文化社会学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 モジュール科目 学部モジュール科目 多文化社会の諸問題	日本を知る	日本から世界に雄飛するグローバル人材にとって、多文化社会に関する知識や語学力・コミュニケーション力とともに、日本の歴史や社会、文化の特質について基本的な知識を有していることは必須の条件である。本授業では、日本列島の地理的位置や風土的条件に留意しつつ、アジアさらには世界に開かれた視点から、日本語、歴史と社会、思想と宗教、民俗と生活を中心に日本の歴史や社会、文化の特質について考える。 （オムニバス方式／全15回） （18 志々目幸恵／3回） 日本語の成立、日本語の歴史、現代日本語の特質 （20 木村直樹／4回） 日本の成立、武家と天皇、鎖国と開国、近代とは何か （2 佐久間正／5回） 土着・外来・日本化、仏教と神道、徳川社会と儒教、近代思想等 （17 才津祐美子／3回） 生業－農山漁村の暮らし、年中行事、人生儀礼	オムニバス方式
	グローバルキャリアへの扉	キャリアについての基本的な理解に加えて、現代社会に生きる人々が仕事に関して直面する問題、価値観や生き方の変化を通して自己のキャリアを考えさせる。また様々な教員の過去の職業との関わりを通して各年代における発達課題を知ることで、グローバル人材として世界で仕事をすすんでこれから必要となる力とは何かを理解させ、グローバルな職場に関する具体的な知識を踏まえて、将来そこで働くより強い興味や関心を持たせる。 （オムニバス方式／全15回） （4 源島福己／3回） グローバルキャリア、企業のグローバル化、社会人基礎力、キャリア形成と自己理解 （7 廣瀬訓／3回） 国際機関の仕事、必要な能力、資格、経験、国際機関で求められる能力と仕事の現実 （27 吉野礼子／3回） UNESCOについて、UNESCO選択理由と私の学生時代の学び、UNESCOの現実 （13 近江美保／2回） グローバルキャリアとしてのNGO、NGOの現実と問題点、ジェンダー論とNGO （佐藤美穂／2回） 女性と健康問題を通して考えるキャリア、貧困の現実と国際NGO活動 （12 森川裕二／2回） ジャーナリストの仕事と求められる能力、ジャーナリストの仕事の現実と私のキャリアパス	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（多文化社会学部多文化社会学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 自由選択科目	日本国憲法	現日本国憲法が掲げる普遍的原理としての基本的人権の尊重・国民民主権・権力分立と、独自の価値としての戦争放棄及び象徴天皇制について、それぞれ、具体的事例の検証や他国の憲法状況との比較を交えながら考察する。そうした作業を通して、現日本国憲法の存在意義のみならず、「憲法」という法規範そのものの存在意義を探究することを目指す。 （講義テーマ） 憲法とはなにか、象徴天皇制、国民民主権と選挙制度、男女平等を巡る問題、政教分離問題、表現の自由、刑事手続・裁判員制度、生存権・環境権、外国人の人権、国家権力の構造、司法、戦争放棄	
	私たちと法	日常生活において求められる法・ルール・きまりの意義やその指導の在り方を考えることにより、今求められるリーガル・リテラシーの基礎について、「法教育」の側面から実際に捉える。なお授業者は、法律学の専門家ではなく、小・中・高校での法教育を訴えてきた教育学の研究者であり、その角度から「法」を考える。 （講義テーマ） ①では「法的な見方や考え方」に向き合うことを共有する講義を実施する。 ②では、「私たちと法」のテーマとして「正義」「責任」「権威」「自由」について、日常での設問からその実際をそれぞれに考えさせる。 ③では、そこで共に議論された内容をより深めるために、法的な見方や考え方としてとらえさせる。 ④では互いに確認されたことを「子供たちに教育する」という視点に立って模擬的な授業をつくりあげる。	集中講義
	日本の思想文化	日本の歴史に対する理解を踏まえ、日本の思想の内容と特徴について基本的知識を有するとともに、それらについて簡単な説明ができる。多文化社会における思想と文化のあり方について適切に理解できる。 （講義テーマ） 言語・思想・文化、列島の自然と文化、中華帝国とその周縁、土着・外来・日本化、仏教、儒教、神道、キリスト教、近代日本の思想文化、多文化社会の思想文化	
	ジェンダーと法	いまだ男女共同参画が実現していない現代日本社会にあって、ジェンダーバイアスとは何かを見る目を養い、バイアスにとらわれているか、日本人がいかにかに精神的、経済的に貴重なものを逃しているかに気づいてもらう。 （講義テーマ） 「第一部 ジェンダーはどう形成されてきたか（1～5）」 「第二部 男女共同参画社会形成への道（6～8）」 「第三部 いまだ残る問題点（9～14）」 「第四部 真の男女共同参画社会の実現に向けて（15）」	
	芸術と文化	長崎の芸術文化活動の実態を概観し、実際に文化施設に出かけ、芸術鑑賞を行う。音楽文化を取り巻く状況が理解でき、実際の演奏会を鑑賞し、生の演奏に触れる喜びを感じ取ることができる。 （講義テーマ） マスメディアと文化、文化ホールに出かけ実際にコンサートを鑑賞しよう、長崎の歴史と文化、文化施設に出かけてみよう、美術と音楽、クリスマスの音楽、長崎県美術館のロビーコンサートに参加してみよう、文化芸術と長崎、長崎の音楽活動	

授 業 科 目 の 概 要				
（多文化社会学部多文化社会学科）				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
教養教育科目	自由選択科目	共生のグローバル人類学	グローバル化された世界における共生の在り方を、文化人類学という武器を使って探る。これがこの「共生のグローバル人類学」という講義の目的である。文化人類学は異文化ひいては文化的他者を理解する学問であり、なおかつ、人類文化の普遍性を明らかにする学問である。他方、私たちが生きる世界においては、共生の重要性を誰もが認めつつも、それと真っ向から対立する出来事が充ち満ちている。必要なことは「過去に学び、現在を理解し、未来を構想する」、そのための身のこなしを習得することであり、そのこと自体の重要性を理解することであろう。またグローバル化された世界を構想する力を養うことは、自らのポジションを見定めることでもある。	
		社会学	社会学の考え方と方法の習得を通して、現代社会を理解・研究するための力を身に付けることができる。 （講義テーマ） 社会学の視点、親密空間と公共空間、空間と対人関係、自己と相互行為、家族とライフコース、組織と職業、メディアとコミュニケーション、歴史と記憶、国家とグローバリゼーション、エスニシティと境界、社会的包摂と排除、映像資料で社会学	
		日本の言語と文化	現代日本語に興味を持ち、日本語に関する理解を深める。 （講義テーマ） 敬語に関する世論調査、敬語の正用・誤用、手紙を書き、方言、日本語表記の諸問題（現代仮名遣、漢字政策、若者言葉、外来語、日本人の名前）	
		オランダの言語	初級レベルのオランダ語入門講義である。授業には、視聴覚教材も使用し、より分かりやすく、より楽しくオランダ語を学習することで、オランダ文化への興味を喚起させることをねらいとしている。 （講義テーマ） 自己紹介、相手の事を尋ねる、家族の紹介、時計を読む、一日の予定、一週間の予定、約束を交わす、レストランでの会話、道を尋ねる。	
		オランダの文化	日本と北ヨーロッパの中心国の一つとして発展してきたオランダとの交流が江戸初期に長崎から始まり、その交流が現在まで400年以上続いている。本授業では、オランダの文化と歴史を中心に、北ヨーロッパの歴史的発展、または、長崎と深い関わりのある日蘭交流について、基本的な知識の修得と文化理解を目的とする。ローマ時代前から現在までの歴史上の出来事を説明しながら、オランダの国とその発展を理解させる。オランダを知ることで北ヨーロッパの文化の発展も理解することができる。	

授 業 科 目 の 概 要			
（多文化社会学部多文化社会学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	自由選択科目	<p>この文教キャンパスは三菱兵器製作所大橋工場の跡地であり、ここでは学徒動員令や女子挺身動員令などによって動員された多くの若者たちが航空機用魚雷の生産に従事中、原爆によって、その多くが爆死した。敗戦後、日本人は「人間相互の関係を支配する崇高な理想を自覚し、国家再建の基礎を人類普遍の原理に求めて戦争を放棄し、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して安全と生存を保持しよう」と決意した。本授業は、その決意を受け継ぎ、平和を愛し探究心に富む学生諸君の思索と生活の原点に資すべく基礎的資料と基本的な分析理論を提供しようとするものである。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（戸田清／1回） ナガサキから平和学する</p> <p>（国武雅子／4回） 女性の戦争協力、銃後の生活、日本軍「慰安婦」問題</p> <p>（安部俊二／6回） 大正期・長崎を襲ったスペイン・インフルエンザ、知識人の総力戦認識 水野広徳を中心に、100年遅れのアヘン戦争としての15年戦争、私の被爆体験－安井幸子さんの講話</p> <p>（篠崎正人／2回） 福島原発事故、日本の政策と潜在核武装</p> <p>（関口達夫／2回） 長崎原爆を報道する</p>	オムニバス方式
		<p>21世紀は「人権の世紀」ともいわれる。本講座は、部落問題を中心に今日社会におけるさまざまな諸問題を、人権の視点で考察することを目的とする。人権に関する世界及び日本の歩みを振り返り、今なお存在する日本の人権課題について、学ぶことを目的とする。人権の観点から見た部落問題、アイヌ問題、在日外国人問題、ハンセン病に係わる問題や冤罪事件等を取り上げ、とくに部落問題ではあやまった歴史観を質したい。また、地域史として、「長崎の被差別部落」を取り上げる。</p>	
		<p>現代社会に蔓延する各種の疑似科学について学び、それらがなぜ疑似科学と呼ばれるのかを理解することによって、科学的なものの見方を獲得する。さらに科学の「限界」を把握し、科学と価値の関係の理解を通じて、自律的に生きるための基礎力を養う。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>全教員「開講のあいさつ：現代教育に欠けたもの」 （長島雅裕／6回） 血液型と性格、超能力・UFOと陰謀論、代替医療</p> <p>（武藤浩二／6回） マイナスイオンと健康、水からの伝言と学校教育、微生物と放射線の疑似科学</p> <p>（小西祐馬／5回） 社会調査のリテラシー：統計データとの正しい接し方、乳幼児の教育について：早期教育の問題点</p> <p>（安部俊二／5回） 蔓延する学位商法（ディプロマ・ミル）、裁判と〈科学〉：血液型とDNA鑑定</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（多文化社会学部多文化社会学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 自由選択科目	キャリア概論	<p>大学生活を通じた学びのために、それぞれが社会参画に対する意識を高めることを授業の狙いとする。授業を通して自らのキャリアデザインを行い、学士課程教育で身につけるべき素養の目標設定を行う。</p> <p>（講義テーマ） キャリア概論の概要と狙い、社会理解、自己分析、社会参画で求められる素養、社会参画で求められる能力、キャリアプランの作成、キャリアプランの発表</p>	
	平成長崎塾	<p>笈を負うて長崎に游学する...長崎は昔から町全体が大学だった...ともいわれている。ならば長崎に游学した勝海舟、坂本龍馬、高杉晋作、福澤諭吉は長大OBと自慢していい。こんな由緒ある長崎大学あるいは長崎の歴史は？文化は？文学は？大地の生い立ち...本講義では、そのルーツから現在までの長崎大学の歴史と、そしてこの長崎大学を育み、かつ大学とともに歩んできた長崎の街や大地を多面的な切り口から知ることによって、長崎大学で学び、長崎の街で学生生活を送る学生が、本学や長崎を誇りに思い（愛校精神）、将来、地域活性や社会貢献の意欲を持ってもらう。また、多面的なものの見方、考え方があることを知り、長崎のより深い知識、理解を発展させる学習意欲を身につけてもらう。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（高橋正克／5回） 長崎大学の現況、長崎の歴史を築いた人々、長崎の歴史散策紹介、長崎検定・長崎通への誘い （姫野順一／5回） シーボルトの商業学校設立案と江戸時代の長崎、長崎における近代的学校の成立、長崎高等商業学校の設立と武藤長蔵、原爆被災と長崎大学 （布袋厚／5回） 長崎の大地の生い立ち、江戸時代の長崎の町の復元、水族館のピオトープづくりとよみがえる里山、長崎の町から変遷の痕跡を読み解く-幕末から戦後まで-</p>	オムニバス方式
	長崎学	<p>長崎の多様な機能と歴史的成り立ちを長崎学という地域学の体系で理解する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（姫野順一／11回） 長崎の歴史と長崎学、長崎の誕生、南蛮貿易と長崎、唐人貿易と長崎、出島の誕生と機能、蘭学物語、長崎版画に見るエキゾチシズム、外国人居留地の形成、坂本龍馬の長崎訪問、写真の伝来、古写真に見る長崎の世界性</p> <p>（15 野上建紀／4回） 長崎の海底遺跡、長崎の陶磁器産業、長崎と陶磁器貿易、長崎とガレオン貿易</p>	オムニバス方式
	男女共同参画のすすめ	<p>自分が意義や価値を見いだす課題を見つけ、異なった文化や価値観に関心を持つ。</p> <p>（講義テーマ） 男女共同参画社会とワークライフバランス、日本と世界の子育て、子育てと夫婦関係、子ども達のライフハザード、親子のコミュニケーション形成、育児に困惑する母親達の存在、育児支援施策、乳幼児の心身の発育・発達、思春期の心身の発育・発達、仕事に対する多様な選択、女性のキャリア形成、世界における女性研究者の位置、男女共同参画推進の壁、男女共同参画を推進する力、職場の働きやすい環境とは</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(多文化社会学部多文化社会学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
教養教育科目	自由選択科目	物理科学	質点や剛体の運動と弾性体の変形にかかわる力学の法則とその数学モデルを理解し、微分積分学との関係を把握する。また、身近に観察される物体の運動が、どのような物理的法則に基づいているかを考察する。 (講義テーマ) 力学で使う数学の基礎、力と運動、運動量と力、力積、運動方程式の解法、仕事とエネルギー、保存力、極座標による運動の記述、角運動量とモーメント、座標系の相対運動、遠心力とコリオリ力、質点系と剛体、剛体の重心と慣性モーメント、剛体の運動解析、解析力学の基礎	
		上級外国語 (フランス語)	フランス語 I～IVを終了した学生のための授業である。フランスの社会で積極的にコミュニケーションに参加できる能力をつけることを目標とする。教室はCALL教室を使用し、映像を中心にユーモアの要素も取り入れたテキストを使用する。そして表情、身振り、文脈、状況を有効に活用して、様々な状況に対応できるようにフランス語力を高めていく。また、文法や語彙も学び、書く、読むの力もつけるために、フランス長期留学のため試験DELFの練習問題も取り入れる。	
		上級外国語 (中国語)	本授業は学生が2年次までに習得した中国語基礎コミュニケーション能力の向上とより高度な表現力の養成をめざす。「読む・書く・聴く・話す」の四能力のうち、特に「聞く・話す」に重点を置きながら、標準的な日常会話ができる語学力を習得させる。各課はテーマを設定し、その会話の場面に応じた語彙・文法表現などを導入した上で、ペアを組ませて会話練習を行い、現在の中国で実際に使われている口語の生き生きとした表現を学ぶ。コミュニケーションの能力をバランスよく習得し、短期間で「聴く、話す」能力が向上するように努める。	
		上級外国語 (韓国語)	韓国語 I～IVを履修した学生を対象にした講義である。本授業は3泊4日(予定)の実習を中心に組み立てられる。実習前に行われる事前講義においては、少人数のグループに分かれ、グループごとに現地でのリサーチ・テーマを設定する。具体的な調査方法を決め、必要な資料を準備する。実習においては、自分たちの力で目的地を目指し、現地でアンケート調査などのリサーチ活動を行う。事後授業においては、実習の振り返り、調査結果の分析を行い、グループごとにプレゼンテーションを行う。協同学習及びアクティブ・ラーニングを通し、韓国語のコミュニケーション・スキルの向上及び異文化理解能力の育成を目指す。	
		English for Specific Purposes (A)	本授業では、TOEICを実際に受験することを想定した対策演習を徹底的に行う。目標スコアを550点に設定し、授業の前半では、毎回リスニングの小テストを行いながら、傾向を踏まえた、効果的な対策を行うためにはどういった点に注意すればいいのかを明示しながら、日本人一般が苦手とするリスニングへの効果的アプローチを指導する。授業の後半では、文法・語彙またリーディング力をまずは個別的に、力が伸びてくるにつれて総合的に捉える力が身に付くよう指導する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(多文化社会学部多文化社会学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
教養教育科目	自由選択科目	English for Specific Purposes (B)	<p>本授業では、TOEICを実際に受験することを想定した対策演習を徹底的に行う。目標スコアを650以上に設定し、基本的にはテストゼミを2週ごとに行い、解答解説を行いながら受講生の弱点を補強していく形式をとるものとする。さらに、誤答が比較的多い設問形式や設問内容及び分野に関しては、補助教材を準備し補強を行う場合もある。</p> <p>また一方で、TOEICで出題される傾向の高い英語表現や文法事項が日常生活やアカデミックな学習の場でどう役に立つのかといった観点からも理解を深め、実際に使用できるよう指導を行うものとする。</p>	
		全学乗船実習 (後期)	<p>海と船をより身近な問題として実践的な視点で捉えるため、練習船長崎丸に乗船して航海を体験する。この体験により、海洋環境や海洋生態系、あるいはそれらと人間の営みを肌で感じ、より深く理解すると共に、異分野の学生が船内生活を通して、コミュニケーション能力、多角的視点、協調性などを修養する。</p>	集中講義
		基礎物理	<p>物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、物理学の基本的な概念・法則を理解し、科学的な見方や考え方を身に付ける。 (講義テーマ) 等速度運動、速度の合成、加速度、等加速度直線運動、様々な力、1点に働く力のつり合い、摩擦力、抵抗力、力のモーメント、ニュートンの運動の法則、運動方程式、重力による運動(自由落下、鉛直投げ上げ、水平投射、斜方投射)、運動エネルギーと位置エネルギー、仕事、力学的エネルギー保存の法則</p>	
		基礎化学	<p>高等学校「化学I」で履修する範囲の基礎的基本的な学習内容について理解し、学習内容を関連の分野で活用できるようになる。 (講義テーマ) 物質の構成、物質の構成粒子、粒子の結合、物質と化学反応式、酸と塩基の反応、酸化還元反応</p>	
		基礎生物	<p>細胞、生殖と発生、遺伝、環境と動物の反応、環境と植物の反応の全般を学習します。生物分野の高校を卒業した一般人として、常識的に身に付けてほしい知識を学ぶ。 (講義テーマ) 生命とは何か、生殖と発生、遺伝、動物の反応、植物の反応</p>	
		基礎数学	<p>高校で学ぶ数学Ⅱの内容を説明し理解させ、大学で学ぶ数学に対法できるようにする。また、演習問題を数多く解くことにより、公式を身に付け活用できるようにする。 (講義テーマ) 整式の分数式の計算、等式不等式の証明、複素数と方程式、図形と方程式、指数関数、対数関数、微分法とその応用、積分法とその応用、確率分布</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(多文化社会学部多文化社会学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	自由選択科目	基礎英語 <p>高校英語の既習事項に習熟し、大学英語に対応できる基礎力を養成することをねらいとする。テキストを使って使用頻度の高い基本構文、熟語、語法、文法、語彙力を身につける。これらの基礎力に基づき、精読演習を通して長文読解力の養成に努める。また、リスニングや音読を行い聞き取りの基礎を学ぶことにより、大学英語へ繋がるようにする。 (講義テーマ) Itを中心とした構文、助動詞を使った構文、不定詞を使った構文、動名詞を使った構文、分詞を使った構文、第5文型の構文、比較構文、時を表す構文、関係詞を使った構文、条件・仮定を表す構文、譲歩を表す構文、相関関係を表す構文、否定構文、無生物主語と名詞構文、その他の構文</p>	
		特別活動論 <p>教育実習を分析・交流し教育実践力の高度化をめざす。 (講義テーマ) 特別活動とは、特別活動と教育実践を構成する4つのユニット、私の実習体験、「ほめる一叱る」ユニットの検討、45(50)分授業ユニットの検討、トラブルユニットの検討、学級生活課題・行事ユニットの検討、改善課題の明確化と再構成、再構成プログラムの発表</p>	集中講義
		教育方法・技術論 <p>教職に就いた場合に備えて、専門科目の教育方法技術を習得することは勿論であるが、教育の根底にある「教えること」の意味を十分理解し、学校等での教授法(授業方法)について自ら学び実践できる能力を養うとともに、その態度を学ぶ。講義は、午前中に教材の解説を行い、午後は教育方法技術の実践という形で実施し、種々の課題に対するレポート作成や教育方法技術の習得に当てる。2日目以降も同様な形で実施し、課題についてもより高度な教育方法技術に迫る課題と対応する。</p>	集中講義
		生徒・進路指導論 <p>一人ひとりの児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して行われる教育活動が生徒指導である。このような生徒指導の目的や意義、課題を理解するとともに、目的達成のための技法の習得や資質の向上をねらいとする。 (講義テーマ) 生徒指導の意義と原理、生徒指導と教育課程、児童生徒理解の方法と技術、問題行動の実態、生徒指導の実際、生徒指導と法、家庭・地域・関係機関との連携、進路指導の理念と意義、進路指導と教育課程、キャリア教育の推進、進路実現に向けた指導の実際、生徒指導と進路指導</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
（多文化社会学部多文化社会学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 留学生用科目	日本語中級Ⅱ読解	日本社会や日本文化のさまざまな側面を取り扱った文章を素材に、学習者に中級中期の日本語運用能力（読む力を中心に、聴く力、話す力、書く力）をバランス良く習得させる。 （講義テーマ） 色、ユーモア・ジョーク、制服、算数、遊びと運動、お金、水、遺産、漫画・アニメ・本、ヒトと動物	
	日本語上級ⅠS	日本の大学で学習・研究するのに必要な上級レベルの日本語能力（特に読解能力）を習得する。現代日本について書かれたさまざまな種類の文章を読む。基本的には教科書の科に沿って授業を進める。本授業では、①本文内容の理解、②文型・語彙・表現の確認、③文型・表現練習、④本文の内容に関するディスカッション等を行う。	
	日本語上級ⅡS	労働基準法や会社の就業規則の概要を学び、将来日本企業で働く場合の労働者としての基本的な法律上の権利や義務を理解する。 （講義テーマ） 労働基準法の概要、社員募集と採用、労働時間、人材活用、給与と税金、退職と解雇、就業規則、日本の社会保障制度	
	日本語上級ⅡA	日本の社会は1990年代のバブル経済崩壊後、景気が低迷し、社会における格差と貧困が急速に拡大したと言われている。なぜ格差や貧困は拡大するのか、様々な文章を読んで理解し、問題点や解決策を考える。また高度な内容の文章理解に基づいて、グループディスカッションやプレゼンテーションを行い、日本語の理解力と表現力を高める。	
	日本事情	キャリア教育の歴史的な展開をたどりながら、なぜ大学生にキャリア教育が必要なのか、それを学生時代の過ごし方、勉強内容や将来の就職にどのような影響を与えるのか、また学びの内容を職業にどうリンクさせるべきなのかを考え、さらに計画や行動を促す。 （講義テーマ） 高等教育とキャリア教育、ニートとフリーター、非正規労働者、社会人基礎力、私の社会人基礎力、日本企業とキャリアの発達、ワーキングプア、金融教育、VPI、ライフストーリーと自己認識	

授 業 科 目 の 概 要			
（多文化社会学部多文化社会学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 共通基礎モジュール科目 グローバル社会のしくみ	多文化のなかのルール	ルールというものは、異なる価値観、文化、思想を持つ人々の間で、社会的な対立を回避、解消するために、共通の基準を設定するという機能を持っている。その機能を効果的に果たすために、ルールは、社会において一定の客観性を持ちながら、構成員の間で共有されなければならない。本授業では、社会における様々なルールについて学び、その中でも近代社会において大きな役割を果たしている「法律」について重点的に検討する。	
	多文化社会のガバナンス	「ガバナンス」という言葉は、現在の世界や日本、そして我々を取り巻く社会が抱える課題を反映している。旧い秩序が冷戦の崩壊やグローバル化によって崩れ始めた時にこそ新しい秩序を模索する「ガバナンス」という言葉が誕生し、様々な文脈に当てはめられてたびたび再検討されている。この授業では、グローバルな規模の問題群を俯瞰して、ローカルな範囲から多文化共生型の社会を形成し運営してゆくために必要な「ガバナンス」の理解について検討する。 （オムニバス方式／全15回） （24 Compel Radomir・12 森川裕二／3回） 授業のねらい・理論と方法、世界ガバナンスの歴史的展開、まとめ （12 森川裕二／6回） 地球環境をめぐるガバナンス、貿易（金融）をめぐるガバナンス、国際移動をめぐるガバナンス、東南アジアにおけるリージョナルガバナンス、東北アジアにおけるリージョナルガバナンス、東アジアにおけるリージョナルガバナンス （24 Compel Radomir／6回） 欧州統合とリージョナルガバナンス、中東におけるリージョナルガバナンス、アジア太平洋における海洋のガバナンス、グローバル都市、地方分権の動向、コンタクトゾーンとしての地方	オムニバス方式・共同（一部）
	文化のなかのエコノミー	身の回りの様々な社会活動は、経済学の見方を取り入れることでその背景や理由をより詳しく理解することができる。またこれまでの人間活動の蓄積である文化や歴史、社会的な慣習を踏まえながら経済現象を理解することで、自身の意思決定に役立てることもつながる。本授業では、多くの身近な社会活動を事例に挙げながら、背景となる経済学の知識を学ぶ。適宜日本だけではなく、他国における経済現象への考え方や特徴となる社会活動を比較しながら、他文化との相違を探る。さらに人類学や歴史学の視点も交えることで、多文化社会における経済問題の位置付けを理解する。 （オムニバス方式／全15回） （28 小松悟／10回） 経済学的な観点から考える文化とエコノミー（事例：総論、購買行動、消費と貯蓄、幸福の経済学、賃金と就職、貧困と格差、スポーツと経済、リスクと保険、環境とリスク、まとめ） （16 増田研／3回） 経済の文化人類学的な理解（文明史的な観点から貨幣を考える、贈与交換と商品交換・互酬性、交換と共同体・沈黙交易） （26 鈴木英明／2回） 文化とエコノミーの世界史的理解（世界システムと広域交易圏、産業革命と労働の変化）	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(多文化社会学部多文化社会学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 共通基礎モジュール科目 グローバル社会のしくみ	地域をこえるマネジメント	海外進出企業や国際機関等では、国境を越えたマネジメント力を持った人材ニーズが高まり、外国人との共働、企業等における人材のダイバーシティが進む結果、ビジネスの進め方や考え方を巡って様々な問題が発生している。そのような問題を解決・改善するには、異文化理解や異文化コミュニケーション、ビジネスルールを理解したマネジメントスキルが求められる。本授業ではこうした環境の中で必要な人事、組織管理・運営、会計等のマネジメントの方法やスキルについて学ぶ。本授業の最初のガイダンスと最後のまとめは担当教員が全員参加して行う。 (オムニバス方式/全15回) (4 源島福己・7 廣瀬訓・岡田裕正/2回) ガイダンス及びまとめ (4 源島福己/9回) 企業のグローバル化、グローバル企業の人材育成、異文化対応能力とグローバル人材、グローバル人材のキャリア形成、グローバル企業の人事評価、グローバル企業の組織形態、グローバル人材と企業文化、グローバル人材と企業倫理、企業理念 (7 廣瀬訓/1回) 国際機関における仕事の進め方と人材のダイバーシティマネジメント (岡田裕正/3回) ビジネス言語としての会計の概要、企業会計の基本知識、企業会計の国際基準へのコンバージェンス	オムニバス方式・共同 (一部)
	ジェンダーと人権	現代社会におけるジェンダー/セクシュアリティ並びに人権の有り様を読み解くための基礎的な概念・知識・方法を身に付け、受講者が現実社会に存在するジェンダーや人権に関わる問題に自ら気づき、理解する力を身に付けることを目標とする。これらを活用するための基盤を与えるために、授業は講義形式で行い、ジェンダーと人権についての基礎的理論、歴史的経緯、現状と課題について学ぶ。第1回目の授業は、教員2人によるガイダンスとする。 (オムニバス方式/全15回) (21 賽漢卓娜・13 近江美保/4回) 授業の説明・イントロダクション、ジェンダーとはなにか(ジェンダーを認識する)、ジェンダーとはなにか(ジェンダー、セクシュアリティの概念・歴史)、ジェンダーとはなにか(ジェンダーと身体) (21 賽漢卓娜/4回) 教育とジェンダー、労働とジェンダー、家族とジェンダー、グローバルな視点からジェンダーの問題を捉えてみる (13 近江美保/7回) 人権とはなにか(人権概念の発展と世界人権宣言)、人権とはなにか(個人・個性と人権)、人権とはなにか(生きる権利、働く権利)、貧困と人権、人権と教育、人権を保障するしくみ、ジェンダーと人権	オムニバス方式・共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要			
（多文化社会学部多文化社会学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	グローバル社会のしくみ	<p>現代における武力紛争の現実と背景を、多様な文化、価値観、思想という観点から多角的に考察する。ただし、「紛争＝価値観、文化の対立」というような単純化された図式ではなく、異なる、場合によっては対立する文化、価値観、思想を、摩擦や紛争を避け、共生させるために必要な方策を追求する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（7 廣瀬訓／4回） 「紛争」とは何か、紛争の歴史と背景、現代の紛争の特徴、国際紛争の防止</p> <p>（中村桂子／3回） 大量破壊兵器と紛争、市民社会と紛争、紛争とジェンダー</p> <p>（16 増田研／3回） 未開の戦争、小火器の流通と低強度紛争、エスノ・ジェノサイド</p> <p>（19 波佐間逸博／1回） 平和構築プロセスにおける武装解除</p> <p>（30 石司真由美／2回） 紛争の予防手段としての国際社会における規範の態様と学説（国際政府機構案等）、非核兵器地帯諸条約、非武装地帯</p> <p>（7 廣瀬訓・中村桂子／2回） 対立から共存へ、まとめ</p>	オムニバス方式・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
（多文化社会学部多文化社会学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 共通基礎モジュール科目 社会を映し出す文化，文化が作り出す社会	文化は社会の鏡なのか	私たちは日常生活の中で、「日本文化」，「関西文化」，「ユダヤ文化」といった言葉を，特にこだわりなく使用していることが多い。本授業では，この「こだわりのなさ」をいったん括弧に入れ，「文化」とはそもそも何なのか，「文化」と「社会」とはどのような関係にあるのか，「〇〇文化」という形で，「国家」，「地域」，「民族」が「文化」と結び付けられるときに何が生じるのか，といった問いを探求することによって，現代の文化研究の基本的枠組みを理解する。 （オムニバス方式／全15回） （10 葉柳和則／5回） 「ユダヤ人はユダヤ人だ」，国民国家の「自然保護」，オリエンタリズムと「東洋」の構築，文化の物象化を超えて，あるいはアイデンティティ概念の変容をもとめて （16 増田研／4回） 文化の離陸，「家族」の誕生，伝承と記憶，創られた伝統 （9 王維／3回） 「長崎文化」の成立（文化の融合性，文化の固有性，文化の寛容性） （25 Grajdian Maria Mihaela／3回） 「タカラヅカ」の中の「西洋」と「東洋」（習合メディアとしての「歌劇」，明治時代「和魂洋才」のスローガン，消費社会の中の大衆文化）	オムニバス方式
	越境する文化	文化は境界を越えて流通し，そして異文化との衝突と融合を通じて変容を遂げていく。こうした文化のダイナミックな流通・変容過程に関する理解を深めていくことが，本授業のねらいである。具体的には，歴史社会学を軸とし，文化交流史，比較文化や水中考古学の視点をも取り入れ，東アジアからインド洋海域に広がる文化越境の事例を用いて講義する。 （オムニバス方式／全15回） （29 梁雪江／4回） イントロダクション（越境する文化とは？），越境する文化を考えるための枠組み，知の連鎖 （9 王維／2回） 比較文化（シルクロード音楽の行方（ビパとビワ（琵琶）の歴史の変遷，ニコ（二胡）とコキュウ（胡弓）の文化的生成）） （26 鈴木英明／2回） 文化移動（インド洋海域におけるイスラーム教の伝播，インド洋海域における奴隷がもたらした文化移動） （11 首藤明和／3回） 文化生成（大阪コリアンタウンの生活世界が生み出した市民活動，中国のイスラーム教徒が生み出した漢族との共生の作法，定住者と漂泊者の交わりが生み出した祈りの心性） （20 木村直樹／2回） 文化接触（日本人イメージの形成，西洋科学の受容と近世日本社会） （15 野上建紀／2回） 物質文化と移動（アジアにおける陶磁器生産技術の伝播と交流，流通した陶磁器を通して文化の受容と変容の形態）	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(多文化社会学部多文化社会学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 共通基礎モジュール科目 社会を映し出す文化、文化が作り出す社会	出来事と表象のあいだ	<p>出来事とそこでの経験をその場に不在であった他者へと媒介し、共有すること、すなわち表象(representation)は、自然と人間を分かち決定的な契機であり、文化と社会の生成と変容の基底を形作るメカニズムでもある。友人に昨日の出来事について話すとき、聞き取り調査の結果を報告するとき、歴史の本を読むとき、すなわち日常と学びの多様な場面において私たちは、表象のプロセスに関わっている。映画、演劇、小説といった指示対象が虚構的性格を帯びているメディアにおいても、このプロセスが表現と理解の枠組みを作っている。本授業は、具体的な事例を用いて、現代の人間と社会に関わる諸学のキーワードである「表象」に関わる諸領域、とりわけ、文化表象論、歴史学及びメディア研究の基本的考え方と技法を理解することをねらいとする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(10 葉柳和則/7回) イントロダクション、表象という問題領域、人文・社会科学における「透明な表象」、出来事の再現における言語論的転回、表象の中の端島/軍艦島、都市「長崎」をめぐる表象の力学、流れに沿って読む/観る・流れに逆らって読む/観る</p> <p>(14 正本忍/4回) 実証史学における出来事の再現、絶対王政期フランスにおける表象の政治、革命の表象、歴史学における都市の表象</p> <p>(25 Grajdian Maria Mihaela/4回) アニメーションフィルムと表象の力学、ジブリ・アニメ表象の存在論、虚構空間のリアリティ、リアリズムを超えて</p>	オムニバス方式
	人間観とコスモロジー	<p>人はいかなる存在か、人はどのような世界の中で生きているのか。人と人が生きる世界(コスモス)をめぐる、これまで絶えず問われてきた。本授業では、超越者との関わりの中で人を捉えようとする宗教的人間観の特質、仏教・儒教・神道・(キリスト教)が交錯する日本における人間観の特質、しばしば対比される儒教と老荘思想を生み出した中国における人間観の特質について、その背景となる世界像(コスモロジー)に留意して考える。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(23 滝澤克彦/5回) 超越者とはいかなる存在か、超越者とコスモロジー、コスモロジーと人間、宗教的人間観</p> <p>(2 佐久間正/6回) 「八百万神」(多神教)、神仏習合、「自力」と「他力」(救済の在り方)、信仰と一揆、徳川政治宗教体制、国家神道</p> <p>(5 連清吉/4回) 儒教のコスモロジーと人間観、老荘思想、道教のコスモロジーと人間観</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(多文化社会学部多文化社会学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 共通基礎モジュール科目 社会を映し出す文化、文化が作り出す社会	他者と生きる技法	他者（others）とは、自己（self）との間に何らかの差異を宿した存在であり、いわゆる「他人」よりもはるかに抽象度の高い概念である。我々が生きる世界には宗教的、民族的、言語的、政治的、文化的と、あらゆる面における他者がひしめいており、他者との関わり抜きには世界そのものを構想できない。いや、他者の存在なくして人間として存在することすら不可能である。本授業では多様な他者像を見定め、身内で自足する「他者不在状況」を打破しながら新しい共生の途を探る、その技法を一緒に考えたい。 （オムニバス方式／全15回） （16 増田研／6回） あなたにとって他者とはなにか？、文化的他者の発見、「他者」を作る、近代日本における「民俗的／民族的」他者の発見、インターミッション （27 吉野礼子／2回） ヨーロッパにおける宗教的他者と生きる技法 （29 梁雪江／2回） 東アジアにおける「他者と生きる技法」 （21 賽漢卓娜／2回） 東アジアにおける「他者と生きる技法」 （13 近江美保／3回） 組織における「他者と生きる技法」	オムニバス方式
	日本の中の世界、世界の中の日本	日本列島における文化や社会の変容と国家形成は、列島以外との関係によって大きく規定されてきた特徴を持つ。本授業では、日本の文化・社会・国家の形成過程における諸地域からの影響、さらには、それらを受容して展開した日本社会が、世界的にどのような役割を果たしてきたかを確認する。 （オムニバス方式／全15回） （20 木村直樹／5回） 日本を世界から見つめる、日本国王「良懐」、日本の銀世界を廻る、出島・唐人屋敷・倭館、軍艦と銃砲の日本幕末 （5 連清吉／1回） 日本近代の中国研究 （2 佐久間正／1回） 近世儒学思想の受容 （17 才津祐美子／1回） 世界遺産と日本の文化財 （18 志々目幸恵／1回） 日本語の中の外国語 （25 Grajdian Maria Mihaela／1回） 現代日本文化世界へ （12 森川裕二／2回） 現代世界と日本 （東條正／3回） 欧米会社制度の導入、欧米近代産業の導入、アジアの優等生から破綻へ	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(多文化社会学部多文化社会学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 共通基礎モジュール科目 多言語を学ぶ，多言語で学ぶ	英語からたどる文化	英語モジュール科目が，言語コミュニケーションに関わるスキルの獲得を目指すのに対して，本授業はスキルを社会・文化的場面に即して適切に使用するために不可欠な事柄を取り上げ，理解し，応用できる能力の獲得を目指す。 (オムニバス方式／全15回) (8 西原俊明／7回) 言語文化への誘い，文化社会場面，性と英語表現，広告に見られる英語表現とその特徴，スポーツに見られる英語表現 (22 Cutrone Pino／8回) 文化社会場面，場面と英語のフォーマル度，スピーチとコミュニケーション形式の構造，文化の反映としての慣用表現，Eメールメッセージと省略表現，法律に見られる英語，婉曲表現，表現の「起源」	オムニバス方式
	日本語からたどる文化	本授業は，言語という切り口から日本文化を見直し，理解することを目的としている。具体的には，時間・空間のような基本概念，固有名，敬語や婉曲表現など様々なテーマから日本語の諸相を学び，日本語の特質を考察する。また，これらの特質がどのように日本の思想や宗教，広く文化の形成に関係しているか具体的な例を取り上げて論じる。 (オムニバス方式／全15回) (18 志々目幸恵／9回) 言語と文化，言語接触（日本語と漢字との出会い，近代における翻訳語の成立），日本の名前，日本の地名，時間と空間，役割と言葉，人間関係を表す言葉（待遇表現），婉曲表現とタブー (2 佐久間正／3回) 日本の宗教と思想，日本人の自然観 (17 才津祐美子／3回) 日本の民俗－口頭伝承から見る日本の歴史と文化，現代にも広がる口頭伝承の世界，「わざ言語」と非言語による文化の伝承	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(多文化社会学部多文化社会学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 共通基礎モジュール科目 多言語を学ぶ，多言語で学ぶ	中国語からたどる文化	本授業では，中国文化を形成してきた歴史的風土にも言及しながら，中国文化の在り方を深部で規定してきた中国語，特に表記言語としての漢字に焦点を当て，中国人は言語を人間精神の象徴と考えてきた中国文化の深さと広がり，言語がいかに文化の在り方と深く関わっているか具体的な例を取り上げて，漢字文化こそが中国文化であることについて講義する。 （オムニバス方式／全15回） （5 連清吉・6 楊曉安・9 王維／1回） 漢字の世界と「文字遊心」の意味 （5 連清吉／4回） 唐詩の世界，「通」・「変」から古今の変遷を精通する歴史意識を語る，「史」・「書」から『史記』の世界を語る，「仁」・「恕」・「信」から儒家的人間学を語る，「無為自然」・「逍遙遊」から道家的共生思想を語る （6 楊曉安／5回） 諧音による置換と縁起かつぎ，中国語語音の審美的機能，中国語に基づいた地域風習，中国語の語順と文法的役割，中国の方言と文化 （9 王維／5回） 漢字の伝播，漢字の起源，漢字の風土，おみくじ（籤書）と民間信仰，漢字の世界	オムニバス方式・共同（一部）
	アジア諸言語からたどる文化	本授業では，東アジア，特に中国の周辺地域における言語状況を取り上げる。中国は決して中国語だけの世界ではない。中国内部には多くの少数民族言語があり，また，歴史的には日本語，琉球語，朝鮮語といった異言語・異民族と関わり続けてきた経緯がある。本授業では，現在の中国における少数民族言語政策とその社会的背景を理解した後に，琉球語，モンゴル語，韓国・朝鮮語といった言語とそれぞれの社会の成り立ちを理解する。 （オムニバス方式／全15回） （21 賽漢卓娜／4回） 多民族国家・中国の概況，中国の言語使用状況および少数民族の言語・文字，少数民族言語政策の変遷—第一段階，まとめ （24 Compel Radomir／3回） 琉球語からたどる琉球世界 （23 滝澤克彦／3回） モンゴル語からたどるモンゴル世界 （松岡雄太／3回） 韓国・朝鮮語からたどる朝鮮世界 （29 梁雪江／2回） 人の移動と境界言語	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(多文化社会学部多文化社会学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 共通基礎モジュール科目 多言語を学ぶ、多言語で学ぶ	ヨーロッパ諸言語からたどる文化	<p>ヨーロッパにおいては、「〇〇文化」と「〇〇語圏文化」の間のズレが、言語文化に多様な文彩を与えている。「〇〇」には国名が入ることが多いが、地域名、民族名である場合も少なくない。大半の言語は印欧語族に属するが、別の語族に属する言語も使用されている。しかし、英語中心の外国語学習がなされる日本においては、ドイツ語やフランス語といった一億人以上の話者人口を持つ言語圏の文化ですらも、往々にしてステレオタイプ的な理解にとどまっている。本授業では、各言語の基本概念、特徴的な表現・文法、思想・民俗、言語・文化政策と言語・文化運動の諸相を学ぶことを通して、多言語空間としてのヨーロッパの「地図」を手にするのをねらいとする。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(10 葉柳和則／3回) イントロダクション、現代ヨーロッパにおける移民と言語政策(ドイツ編)、多言語国家スイスの言語地図</p> <p>(14 正本忍／3回) 「国語」としてのフランス語の歩み、ブルトン語とブルターニュ地方の文化と歴史、アルザス語とアルザス地方の文化と歴史</p> <p>(25 Grajdian Maria Mihaela／3回) ドイツ語の成立とグリム兄弟、ルーマニア語の歴史と文化、「多様性の中の統一」：EUの言語政策</p> <p>(24 Compel Radomir／3回) チェコ語の歴史と文化、スロバキア語の歴史と文化、ロシア語の歴史と文化</p> <p>(27 吉野礼子／3回) ベネルクス三国の言語地図、ベルギーにおける言語紛争、現代ヨーロッパにおける移民と言語政策(ベルギー編)</p>	オムニバス方式
	アフリカ諸言語からたどる文化	<p>アフリカ大陸のうち、特に東アフリカにおける在来言語としてアラビア語、アムハラ語、スワヒリ語、バンナ語、カリモジョン語を取り上げ、それぞれの言語の成立事情とその社会的背景を理解する。また、植民地言語としての英語やフランス語がアフリカ社会に及ぼした影響についても取り上げ、それらが教育や政治といった領域に深く関わっていることを理解する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(16 増田研・19 波佐間逸博・4 源島福己・26 鈴木英明／2回) アフリカ大陸における言語分布の概要、まとめ</p> <p>(16 増田研／4回) エチオピアにおけるアムハラ語とキリスト教、エチオピアにおけるバンナ語、エチオピアの学校教育と言語、アフリカにおけるキリスト教とイスラーム</p> <p>(19 波佐間逸博／4回) ウガンダの牧畜民カリモジョンの言語、カリモジョン語のコミュニケーション、スワヒリ語と英語、リンガラ語とトーキング・ドラム</p> <p>(26 鈴木英明／3回) スワヒリ世界の成立、スワヒリ世界における文化の交流、アフリカからアラブへ</p> <p>(4 源島福己／2回) アラビア語でクルアーンを朗読する、エジプトにおける民衆のイスラーム実践</p>	オムニバス方式・共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要			
（多文化社会学部多文化社会学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	フィールドワークモジュール科目	<p>本授業「フィールドワーク入門」は、フィールドワーク・モジュールの導入科目である。ここでいうフィールドワークは、文書資料の探索からアンケート調査、インタビュー調査、参与観察、物質文化の収集まで幅広い範囲を指し、また学問分野においても社会学、人類学、民俗学、歴史学、考古学など多様な分野をカバーする。本講義の受講を通して、一次資料収集の重要性と方法論の基礎を理解し、実習科目への導入とするだけでなく、フィールドワークの実践例に触れることにより様々な学問分野、多様なフィールドのあり方への理解を導く。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（16 増田研・11 首藤明和／2回） 3つの科学（書齋科学・実験科学・野外科学）、調査手法の選定</p> <p>（16 増田研・19 波佐間逸博／1回） 調査倫理</p> <p>（松村真樹／3回） 定量的調査の実践</p> <p>（29 梁雪江・17 才津祐美子・21 賽漠卓娜・11 首藤明和／3回） インタビュー調査の実践</p> <p>（19 波佐間逸博・27 吉野礼子・9 王維・16 増田研・23 滝澤克彦／3回） 参与観察の実践</p> <p>（26 鈴木英明・20 木村直樹・15 野上建紀／3回） 文書・物質資料の探索</p>	オムニバス方式・共同（一部）
	フィールドワーク基礎実習	<p>「フィールドワーク入門」で学んだ多様なフィールドワークのアプローチの中から、調査テーマや課題に応じて適切な方法を選択し、フィールドワークの設計並びに実習を行う。「教養ゼミナール」で学んだ文献探索の技術を用いて、課題に対して適切な文献収集を行い問題設定を行った後、調査方法の選定、質問票の作成、データの整理と分析、発表という一連のプロセスを共同で行う。このプロセスを通じて数次にわたるフィードバックとブラッシュアップを経験し、実際の問題発見と問題解決のプロセスを経験的に理解することができる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(多文化社会学部多文化社会学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 フィールドワークモジュール科目	アーカイヴ実習	<p>世界には多くのアーカイヴが存在する。1990年代以降、それらに収蔵されている資料のごく一部はデジタルアーカイヴとして保存・公開され、ネットワークを通じ多数の利用に供されるようになってきているものの、依然として大多数の資料はデジタル化されておらず、それらを用いて研究をするには、文書館・資料館等に赴き、原本に直接ふれる必要がある。本授業においては、海外や日本のアーカイヴについてその概要を学んだうえで、実際の資料の扱い方について、長崎大学附属図書館等に残された資料類を用いて実習を行う。</p> <p>(オムニバス方式) (18 志々目幸恵・14 正本忍・26 鈴木英明・20 木村直樹/1回) コンセプト+図書館ツアー</p> <p>(18 志々目幸恵/2回) 日本の文書館(文学系), データを作る</p> <p>(14 正本忍/4回) 国立国会図書館の利用法, いろいろな文書館, 長崎大学にある学術資源(古写真), 検索実習(雑誌, リスト作り, 取り寄せ方法)</p> <p>(26 鈴木英明/3回) 長大にある学術資源(経済, 医学, 日蘭関係), 検索実習, いろいろな文書館</p> <p>(20 木村直樹/4回) 長崎県内になにがあるか, 日本の文書館(歴史系), データを作る, データベース利用のまとめ</p> <p>(20 木村直樹・18 志々目幸恵/1回) 日本の文書館(まとめ)</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	映像・デジタルアーカイヴ実習	<p>本授業では、アーカイヴとは何かという基本事項を再確認した上で「自分たちの足元をアーカイヴする」をテーマに映像アーカイヴの作成に取り組む。「灯台もと暗し」という言葉があるように私たちはしばしば身近にあるものの意義や重要性に気づかなかつたり、またそれを軽視したりする。映像として何を対象に選ぶか、それをどのように撮影するか、またそれを最終的にどのような映像に編集しアーカイヴとして残すか、それぞれのステップにおいて十分な準備が必要だ。作業は数名ごとのグループで進める。よきチームワークで臨んでほしい。</p>	集中講義
	サーベイ基礎実習	<p>サーベイとは、質問紙によってデータを収集する社会調査法である。本授業では、小グループ単位で、実際にテーマを選ぶことから始めて、調査の設計、質問紙の作成、実査、回収した質問紙のデータ化および分析、そして報告書作成までの全プロセスを実習する。また、講義を通じて、尺度法およびサンプリングなどの理論や、調査における倫理的問題について理解を深める。統計ソフト(SPSS)を使ったデータの集計法や分析方法についても、講義および演習を通じて体得する。統計学については、基礎から学習するので、予備知識は必要ない。</p>	演習 10回 講義 5回

授 業 科 目 の 概 要				
(多文化社会学部多文化社会学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	フィールドワークモジュール科目	インタビュー調査基礎実習	<p>質的調査法のなかでも代表的なインタビュー調査の方法を学び、実践する。まずフォーカス・グループ・ディスカッション、パイル・ソートなどの基礎的方法を学んだのちに、テキストデータの扱いに関する考え方とコーディングの方法を学び、実習を行う。またクラス内で受講生同士が相互にインタビューを行ってテキストデータを作成する実習を経て、小規模なフィールドワークの企画立案を行う。いずれの実習過程においても成果発表とフィードバックの機会を設け、実践的なインタビュー調査の習得を目指す。</p> <p>フォーカス・グループ・ディスカッションとパイル・ソート、テキストデータの扱いとコーディングの実践、相互インタビューの実施、インタビュー調査の計画、プレテストの実施、本調査の実施と成果発表</p>	
	海外フィールドワーク実習	<p>海外フィールドワーク実習は、フィールドワークモジュール諸科目で学んだことを発展させ、なおかつ語学力を駆使しながら海外において合同でフィールドワークを行う科目である。その目的は、(1)フィールドワーク科目で学んだ方法論を駆使する、(2)英語をはじめとした外国語による調査を実施する、(3)調査対象国ならびに対象地に関する文献サーベイを通じた調査計画の立案から渡航、交渉、調査、成果発表のプロセスを学生の自主的な活動として展開すること、である。</p> <p>事前学習、ケニアにおけるフィールドワークおよびスタディーツアー、報告書の作成ならびに報告会の開催</p>		

授 業 科 目 の 概 要				
（多文化社会学部多文化社会学科）				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	英語モジュール科目	英語発音法	<p>（英文）</p> <p>This practical course aims to help EFL students improve their pronunciation and fluency in spoken English. Concerning various phonetic and prosodic elements of English speech, this course deals with aspects of pronunciation such as segmental phonology (individual sounds), word stress, aspects of connected speech (such as rhythm and stress), and intonation. By helping students recognize and produce more naturally sounding English, this course is also designed to improve students' listening skills. This class will be taught using various methods including lectures, audio and video models of language, group-work, and discussions.</p> <p>（和訳）</p> <p>本授業は、英語の発音と流暢さを上達させることを目的としている。自然な英語の音を身に付けられるように、個々の音、音変化、イントネーションなどの特徴を理解し、実際にそれらの音を出せるように指導を行う。これらの英語の音に関する特徴を理解することが、リスニング力向上に寄与することを併せて理解できるように指導する。具体的指導方法は、取り上げる項目によって、各メディア媒体を利用するとともに、グループワークやディスカッションも行う。</p>	
		英語の仕組みと意味 I	<p>学校英文法では捉えきれない英語の特徴を取り上げ、コミュニケーション英文法を身に付けることを本授業のねらいとする。語彙の中核的イメージと英文法を結び付けたレキシカルグラマーの観点から英語の諸特徴を考察するだけでなく、英語学の関連分野（言語理論・認知文法・語彙意味論等）の研究知見を取り入れて考察を行い、実践的なコミュニケーションに必要な英語の仕組みと意味の理解を目指す。また、日本人に多く見られる文法理解の過ちなどについても触れる。</p>	
		英語の仕組みと意味 II	<p>英語の仕組みと意味 I で学習した事項を発展させた内容を取り扱う。英語の仕組みと意味 I と同様に、学校英文法では捉えきれない英語の特徴を取り上げ、コミュニケーション英文法を身に付けることを本授業のねらいとする。語彙の中核的イメージと英文法を結び付けたレキシカルグラマーの観点から英語の諸特徴を考察するだけでなく、英語学の関連分野（言語理論・認知文法・語彙意味論等）の研究知見を取り入れて考察を行い、実践的なコミュニケーションに必要な英語の仕組みと意味の理解を目指す。また、習得が困難な文法事項の代替的表現を身に付けることを目指す。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
（多文化社会学部多文化社会学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	英語モジュール科目	<p>Reading and Writing I</p> <p>（英文） In this course, students will be exposed to a wide range of text types to develop fundamental English reading and writing skills. First, concerning reading, level-appropriate texts including graded readers, online materials, and passages from books, newspapers or magazines will be used to engage students in a variety of tasks from personal, pleasure reading to more specific academic literacy. Related to the themes of these texts, students will complete writing tasks to demonstrate their understanding of the subject matter and develop their skills in this area. The writing in this class will focus on developing coherent paragraphs, which include appropriate topic and supporting sentences. Other writing projects such as personal and business letters, movie and restaurant reviews and other genres commonly found in the world outside of school will also be introduced.</p> <p>（和訳） 様々なスタイルのテキストに対応するリーディング・ライティング力を身に付けられるようにする。リーディングに関しては、レベル別読み物、インターネット上の題材、本・新聞・雑誌から題材を選定し、タスク活動を通して、より高度なアカデミックリーディングへ展開する授業を行う。リーディング題材についてのアウトプットとしてのライティング活動へ発展させ、題材への理解とリーディング・ライティング力を身に付けられるようにする。また、結束性の高い、結び付きのある文章を書けるようにする。さらには、個人的な文書からビジネスレター、批評文など様々なスタイルの英文を書けるようにする。</p>	
		<p>Reading and Writing II</p> <p>（英文） The aims of Reading and Writing II are to help students build upon what they learned in Reading and Writing I. The reading passages included in Reading and Writing II will be carefully chosen to relate more specifically to the students' major field of study, socio-cultural diversity. Students will engage in tasks designed to improve their reading comprehension skills and will also have the opportunity to write about the topics of each text. In developing students' writing skills, this course aims to serve as a bridge from paragraph to essay writing, and will also introduce learners to the value of peer editing and making revisions to one's original composition.</p> <p>（和訳） Reading and Writing Iで身に付けたリーディングストラテジーとライティングストラテジーを発展させる。リーディングとライティングの題材を学生の専門性に近いもの、多文化理解に関連するものに求める。また、タスク活動を通して、より高度なアカデミックリーディング及びアカデミックライティング力を養う。パラグラフライティングからエッセイライティングへのスムーズな発展が行える力を身に付けることを目標として、自立した学習者への転換の観点から学生相互間の校訂、修正ができる力を身に付ける。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
（多文化社会学部多文化社会学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	英語 モジ ュール 科目	Academic Writing I (英文) The primary goal of Academic Writing I is to help students hone the skills they learned in earlier English writing courses. Classes will help students reinforce the basic principles of developing effective sentences, paragraphs, and essays, and will ultimately move towards the introduction of research-oriented writing. Common errors in writing and how to find and correct them will also be highlighted. Students will be asked to complete academically-related writing projects throughout this course, and classroom instruction and tasks will take students through the writing process from generating ideas, drafting and revising, to proofreading and editing. (和訳) ライティングの授業で学習したスキルを更に発展させることを主な目的とする。文レベルからパラグラフライティング, さらにはエッセイライティングへと効果的に発展させ, 最終的には, リサーチを基にしたライティング力を身に付けられるようにする。学習者に共通した誤りについても触れながら, プロジェクトベースで課題を与え, アイディアの創出, 作文, 校訂, 修正の力を身に付ける。	
		Academic Writing II (英文) Building on what students learned in Academic Writing, Academic Writing II helps students take the next steps in research-oriented writing projects in English. Students will be exposed to research papers demonstrating such commonly-included sections as the Introduction, Literature Review, Methodology, Results and Discussion, and Conclusion, and will participate in mini-research projects, which involve the asking of research questions, the gathering of data, and, ultimately, the written presentation and discussion of results. Relative to the students' major field of study, every effort will be made in this class to help students develop their graduation theses. (和訳) 本授業では, Academic Writing Iで学習した内容を発展させ, 研究論文の構成を理解すると同時に実際にデータの収集から整理を行い, それに基づいて論文を書くことを目的とする。学生が専攻する学問領域に関連したものとし, 卒業論文につなげる訓練を行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
（多文化社会学部多文化社会学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	英語モジュール科目	Reading and Discussion I (英文) By combining EFL reading and discussion skills, this course aims to guide students through the learning process to be able to converse intelligently on a wide array of topics. Each lesson will involve the reading and discussion of a level-appropriate text carefully chosen by the teacher. Reading the texts will enable students to develop schematic knowledge of each topic, and the subsequent discussion will provide an authentic context for them to instantly apply what they have learned. Regarding the latter, students will be coached on various aspects of discussion and conversational behavior, including how to give one's opinion, support one's opinions, ask follow-up questions, initiate repair strategies, interject, disagree, etc. (和訳) 本授業では学習者のレベルにあった様々な題材を選定して行い、題材が取り扱う事項への理解を進め、さらには英語でその題材について意見を交わす訓練を行う。これらの訓練を通して、話題となっている事柄への知識を内在化させる。また、討議の仕方や意見の組み立て方、表明の仕方を身に付けることを目指す。	
		Reading and Discussion II (英文) Reading and Discussion II seeks to build upon Reading and Discussion I by incorporating themes and texts more specifically related to students' major field of study, socio-cultural diversity. Each lesson will involve the reading and discussion of a thought-provoking text. Critical thinking skills and strategies that promote reading and speaking competency will be developed through such classroom tasks and discussions, and students will be able to develop a deeper understanding of their major subject area. Concerning the expression of their opinions, students will be coached on how to make convincing arguments by supporting their stance with robust evidence. (和訳) 本授業では、Reading and Discussion I で訓練したスキルを更に発展させることを目指す。また、題材は、学生の専攻と密接に関係する題材を選定する。その際、学生自身が考えを深める題材を選定し、批判的思考方法やストラテジーを身に付け、証拠となる資料の提示とともに、適切に討議を行う能力を身に付けることを目指す。	

授 業 科 目 の 概 要			
（多文化社会学部多文化社会学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	英語 モジ ュール 科目	<p>Debate</p> <p>（英文） In this class, students will learn how to express their opinions clearly, give support for their opinions based on research and their own reasoning, respond to the opinions of others, and prepare for and participate in a formal debate. While the primary goal of this class is to develop debating skills in English, this course also seeks to develop global awareness by exposing students to real-world issues and allowing them to consider where they stand. Accordingly, this course will provide students with meaningful listening, speaking, and writing practice.</p> <p>（和訳） 本授業では、英語で自分の意見をはっきりと伝えること、リサーチに基づいて意見を支持することを訓練すること、他者の意見にも耳を傾け、応答することを目指す。これらの訓練を通して、正式なディベートを行う準備をする。また、単にディベートに必要なスキルの獲得と訓練にとどまらず、地球規模で問題となっている事柄への関心・興味を引き出し、その問題についての考察力も育成する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
（多文化社会学部多文化社会学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 中国語モジュール科目	中国語総合表現Ⅰ	本授業は、中国語コミュニケーション能力の向上とより高度な表現力の養成を目指す。授業では、できる限り中国語で講義し、多くの口頭練習を行い、現在の中国で実際に使われている口語の生き生きとした表現を学ぶ。教養教育の中国語Ⅰ・Ⅱで一年間の学習内容を整理しながら基礎表現力の向上を図る。総合中国語テキストを用いて、現代中国語で最もよく現われる文法形式、表現形式の用法、特に日本人に理解しにくい中国語の表現について学習し、「聞く、話す、読む、書く」の総合的な能力の養成に重点を置き、より高度な中国語の習得を目指す。	
	中国語総合表現Ⅱ	外国語を学ぶ過程で、自分がどの程度のレベルに達しているかを知り、常に客観的総合的判断をして、今後の学習へ向けて内容や方法をチェックすることは大切なことである。既に「中国語総合表現Ⅰ」で実践的な基礎的訓練を行い、習得レベルをチェックしてきたが、本授業ではより高度な訓練とレベルのチェックを行う。「中国語能力検定」試験4級以上を目指す。そのためには多方面にわたるバランスの取れた総合的な学習が必要である。模擬試験などをできる限り多く行い、様々な内容と形式の問題に触れ、間違った点について徹底的な分析と検討を通して、実践的中国語能力の養成を行う。	
	中国語文献討論Ⅰ	本授業は、同時代社会に対する「客観的観察」、「全体的把握」、「比較」という基本的原則を持っている「考現学」の観点から中国に関する一つ一つの真実を理解することを目的とする。授業では、「中国」を対象として、「日本から中国を」と「中国から日本を」という視座によって考察することを方法とする。まず、中国語の文献を中国語で読んで、日本語で翻訳し、中国語で討論、質疑応答を行い、文献が記載される在り方を探求する。到達目標としては、1、中国語の読み、書き、語る能力を向上する。2、現代中国の諸相を検証することによって、より正しい理解ができるようにする。	
	中国語文献討論Ⅱ	中国文化は地域性に富んでいる。古都北京の変貌と新興上海の躍動の物語は、現代中国文化史の核心部と言えよう。本授業は、「老北京」、「老上海」と五輪・万博以後の北京・上海を交錯する今昔・遠近という複眼的視点を持って、二つの物語相互の比較を通じて、それぞれの都市の個性と魅力をより深く理解することを目的とする。授業では、1、都市の現在と都市が自らのアイデンティティを獲得したある時代を比較する手法を用いる。2、中国語の文献を中国語で読んで、日本語に翻訳し、中国語で討論、質疑応答を行い、文献が記載される在り方を探求することによって、中国語の読み、書き、語る能力を向上する。	
	中国語プレゼンテーション	本授業において、達成すべき課題探究・問題解決及び表現する能力の獲得を目的とし、計画の立案と遂行並びに成果の取りまとめの能力の向上のため、発表・討論・コメントをさせ、各人の発表テーマに関して個人的に指導を行う。授業方法としては、教員が場面状況やテーマを設定して、相互に質疑応答を行わせる。また、受講者に問題提起をして、ディスカッションを行わせるとともに、各人に発表テーマを設定させ、クラス全員による発表・相互討論・コメントを行う。到達目標としては、中国語によって、1、テーマについての知識を自ら獲得できる。2、計画立案ができ、確実に遂行できる。3、資料の正確な解析ができ、その結果を他者に理解させられる。4、プレゼンテーションの作成に十分な技術を修得する。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
（多文化社会学部多文化社会学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	オランダ語モジュール科目	オランダ語Ⅰ	初級レベルのオランダ語入門講義である。本授業のために作成した資料を活用し、聴く・話す・書くことを通して聴解・読解・文法を学ぶ。基本の文法を会話の中に取り入れ、自然に文法を身に付けることを目指す。オランダでの留学に向けて、オランダの文化も紹介する。
		オランダ語Ⅱ	中級レベルのオランダ語講義である。本授業のために作成した資料を活用し、聴く・話す・書くことを通して聴解・読解・文法を学び、基本の文法を会話の中に取り入れ、自然に文法を身に付けることができる。初級レベルのオランダ語Ⅰは会話を中心に行っているが、中級では長文を読み始め、作文などを通してオランダ語の理解を深める。
		オランダ語Ⅲ	上級レベルのオランダ語講義である。本授業のために作成した資料を活用し、聴く・話す・書くことを通して聴解・読解・文法を学び、基本の文法を会話の中に取り入れる。本授業では、長文を読み、作文などを通してオランダ語の理解をオランダ語Ⅱのレベルより更に深める。オランダの大学での留学のための準備講義として位置付ける。

授 業 科 目 の 概 要			
（多文化社会学部多文化社会学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門モジュール科目 グローバル化する世界	国際機構論	国際機構の成り立ち，歴史的な経緯，背景，目的，仕組み及び活動内容等の特徴を具体的に検討することで，そのような組織を必要としてきた国際社会の特徴を把握し，各国が様々な相違を抱えながらも，協力して国際機構を設置，運営，拡充してきた実態を通して，今後各国が国際社会において更に利害の共有化を進め，組織的な協力関係を構築してゆく可能性を追求する。	
	軍縮と平和	国際平和を考えていく上で，重要な役割を担っている軍縮の問題を深く掘り下げて検討することにより，軍備の制限，縮小が国際的な安全保障や平和の達成，維持に果たしている役割を具体的に考察し，軍縮の促進と国際的な平和の間の相互作用について考える。特に，現代の国際社会において，各国が軍縮によって得られる利益を認識しながら，なぜ軍縮が必ずしも進まないのか，そこに文化や価値観の違いがどのように影響しているのかを踏まえた上で，その理由と軍縮の促進に必要な条件を模索する。 （オムニバス方式／全15回） （7 廣瀬訓／6回） 「軍縮」について学ぶ意義，「軍縮」・「軍備管理」・「不拡散」，安全保障と軍備についての基本的な考え方，軍縮と国際平和についての基本的な考え方，様々な軍縮の分野，方法，形態，軍縮の歴史：ハーグ平和会議から第二次世界大戦まで，軍縮と検証：科学技術の二面性 （中村桂子／6回） ポスト冷戦の軍縮と安全保障の特徴，NPT体制の功罪，様々な核兵器関連条約：CTBT，FMCT，INF，SALT，START等，生物・化学兵器，通常兵器の軍縮，日本と世界の軍縮，軍縮の新しい流れ：人道的アプローチ （30 石司真由美／3回） 「平和地帯（Zones of Peace）」及び「平和」の意味内容，消極的安全保障，非核兵器地帯諸条約（モンゴル国非核兵器地位を含む），軍縮にかかる規範文書の法的性格及び法効果，軍縮に関連する国際機関の国際法共同体における法的性格：軍縮と法規範	オムニバス方式
	国際法	本授業は，講義を中心とし，討論及び受講者による研究発表を採り入れながら行われる。また，本授業の目標は国際法の歴史的展開を踏まえた上でその規範的アプローチの特徴・意義，実定法上の本質と基本的な原理・原則について理解し，実際上の運用・解釈・適用について理解を深めることにある。 まず，現代国際法の基本的構造及びその形成過程の背景にある理論・学説を学び，その上で，現代国際法を巡る具体的な諸問題について調査・報告を行い，現代国際社会における諸問題に対する規範的アプローチの意義を考える。	
	国際政治学	20世紀は「国家の世紀」と言われ，17世紀のヨーロッパに誕生した主権国家体系「ウエストファーリア体制」が，戦争と平和を繰り返しながら地球規模に拡大し，国際社会を統治するための国際政治学が探求されてきた。21世紀に入り冷戦終結から四半世紀を経て，私たちは国際政治秩序の転換期を迎えつつある。世界的な相互依存とグローバル化が進み，一方では国際制度の揺らぎが加速しながら，他方では国家以外のアクターが国境を越えて活動する。本授業では，こうした変わり行くグローバル世界の新しい国際政治の動きについて総合的な理解を得ることを目的とする。報道資料も活用し，理論と実態を批判的にみるためのグループワークも行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
(多文化社会学部多文化社会学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門モジュール科目 グローバル化する世界	比較政治	本授業では、政治及び社会を比較研究手法によって学際的に理解することを目指す。授業は5部で構成する。第1部では、比較政治学における方法論と基本的な概念を解説し、比較政治学の基盤となる社会科学の基礎的な研究と概念について、欧米での研究文献に依拠して整理する。第2部では、比較政治学の対象となる各国の政治体制を概観する。第3部では、どのような経緯によってこれらの政治体制が成立し、現在に至るかを分析する。第4部では、各政治制度を基本的な分類に沿って、比較検討する。第5部では、政治体制を政治経済的な視点から捉え、政治制度と経済発展の関連を分析する。	
	国際経営	This lecture will introduce students to the basic concepts and trends in international business and familiarize them with the important management task. The lecture will deal with the major developments in the global economy which serve as drivers of globalization and the motivations of international business firms as well as their business operations, management and strategies in the context of a rapidly changing global business environment. In particular, the international business management and global strategies of firms focusing on foreign market entry, exporting/importing, manufacturing management, marketing and human resource management will be discussed in this lecture. (和訳) 本授業では、グローバルビジネスの基本概念や流行を学生に紹介し、重要な経営管理の課題に親しませる。授業では、特に、グローバル化を推進する国際経済の主要な開発と国際企業のモチベーション、あるいは、その企業経営、管理と戦略を、急速に変化するグローバルビジネス環境において論ずる。または、外国市場参入、輸入・輸出、製造業経営、マーケティングと人事経営に焦点を当てている企業の国際ビジネス経営と国際戦略について討議する。	
	国際開発論	本授業では、貧困削減をはじめする開発目標の達成に向けた現状を把握し、問題の背景となるメカニズムを分析し、さらに解決に向けた課題やアプローチについて議論することを目指す。 授業では最初に、人間開発・貧困削減といった国際開発に関する課題や概念、歴史的背景を整理する。次に、途上国が直面している開発課題と発生メカニズムを取り上げるとともに、解決に向けた開発戦略を議論する。最後に国際開発における開発援助、とりわけ国際協力機構（JICA）や国連といった援助機関、さらにNGOや企業の役割を明らかにする。	
	国際人権論	全ての人に基本的な権利と自由を認める人権概念についての理解は、異なる立場にある人々が互いに尊重しあい、共存していくために不可欠である。本授業では、まず、国際人権法について基本的な知識を学び、続いて多文化社会の中で生じる普遍的人権概念と文化の対立など、人権を取り巻く諸問題を論じることにより、共存と包摂の視点から多文化社会における人権の在り方について理解することを目指す。授業は講義を中心とするが、ディスカッションも交え、受講者が自ら考えながら学ぶ機会としたい。	

授 業 科 目 の 概 要			
（多文化社会学部多文化社会学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門モジュール科目 グローバル化する世界	グローバル人口学	多文化を理解する上での一つの基礎となる形式人口学の基礎である出生率や死亡率の算出方法を教える。その上で、世界人口と地球環境問題の関連についての基礎知識を教授する。一方、小集団人口学の方法を教え、自ら人口データを収集・分析する能力を付与する。さらに、具体的に現在の地域社会あるいは国家レベルでの人口静態・動態の動向を教授する。その場合、高齢化、少子化、核家族化、単身世帯の増加などが、社会や経済、環境に与える影響を解説する。以上により、グローバルな視点と多文化社会のそれぞれを共に見る人口学的能力を養成する。	
	国際協力論	国際協力の形や近年の潮流を理解することは、途上国支援を通じた国際社会の現状や私たちの生活との繋がりを考える上で不可欠である。本授業では国際協力の目的や方法、また日本を含む二カ国機関・国際機関・NGOによる開発協力の役割を考えるとともに、経済協力、平和協力、社会開発分野での協力の特徴を事例を基に議論しながら、効果的な支援の形を探る。 （オムニバス方式／全15回） （28 小松悟／9回） 国際社会の直面する課題、国際協力の意味、貧困削減とミレニアム開発目標、開発援助の現状、ガバナンスと政府、債務救済と援助疲れ、経済成長、資源利用と開発 （7 廣瀬訓／3回） 平和協力、平和協力の方法、平和協力の課題 （松山章子／3回） 社会開発の枠組みの中での健康課題、健康課題と社会企業	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(多文化社会学部多文化社会学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門モジュール科目 グローバル化する世界	アジア経済論	<p>Asia has more than 40 countries and regions. It has different culture, race, society, religions, and economics and politics. However, this course provides a comprehensive overview of aspects of economic development and developing Asia. Topics covered include poverty, agriculture and industry, trade policies and the role of government. Through the lens of key economic theories, social structures, institutions, cultures, and globalization, and the interaction between economic and noneconomic factors, students are expected to further their understanding of basic definitions and concepts in economic development, be able to use the tools developed by development economists to answer important research questions, understand aspects of the economic development process in developing Asian countries, and understand the scope for policy interventions to improve the wellbeing of the world's poor, and be able to evaluate government intervention and measure and comment on the efficacy of policy.</p> <p>(和訳)</p> <p>アジア大陸が持つ多様性は、単にその地理的条件だけにとどまらず、経済、社会、文化、民族、宗教、政治、自然、衣食習慣など、実に様々なカテゴリーが見受けられる。アジアには、40カ国以上に及ぶ国や地域存在する。先進国としての日本に続き、韓国、シンガポール両国や台湾地域などが高度成長をとげ、ASEAN諸国の中でも発展の早い国と遅い国の格差が広がりつつある。さらに、後発のアフガニスタンやネパール等が後に続く。順調に経済成長を続けるインドと中国は世界的巨大市場となり、旧ソ連から独立した中央アジア諸国や石油資源に恵まれる中近東諸国は様々な政策や計画の下に、経済発展を模索している。</p> <p>本授業では、アジアの国々や地域の現状を把握し、特に東アジア、東南アジア及び南アジア諸国の経済発展パターンとその問題を考察する。続いて各国・地域の経済発展のために果たすべき日本の役割を考える。</p>	
	多文化マーケティング論	<p>企業は自国市場のみならず、国境を超えて経済活動を展開し拡張することを目指す。企業は母国文化の影響を受けながらも進出先国の文化を理解し適応しなければ、その企業活動を推進することはできず、常に柔軟かつ創造性に優れた対応が求められる。本講座では、国際化する企業がどのように異文化適応し、また、多文化を包摂しながら、マーケティング活動を展開していくかを学ぶ。多文化環境でのマーケティング戦略の成功と失敗、そしてマーケティングを推進するマーケティングに求められる能力や資質についても考え、多文化マーケティングに求められる知識の習得を目指す。</p>	集中講義

授 業 科 目 の 概 要			
（多文化社会学部多文化社会学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門モジュール科目 変容する社会	異文化理解教育	多文化社会における共生の方途を考える上で、教育の場でいかにして異文化理解が図られるかは最も重要な課題の一つとなる。本授業は、移民や難民の流入により20世紀後半以降に社会の急激な多様化が進んだヨーロッパを事例として、例えば、現代のヨーロッパで第二の宗教となっているイスラームとの共生を巡る教育的課題など、異なる文化・宗教・民族的背景を有する人々が共に生きていくために、教育がどのような機能を果たし、またどのような具体的取り組みが必要とされているかを考察することを目的とする。 本授業を履修する学生は、まず現代における異文化理解教育の国際的潮流、とりわけユネスコの取り組みについて学び、その上で、ヨーロッパの多民族社会におけるイスラームと異文化教育、移民問題を事例として理解を深める。	
	トランスナショナルイティ論	トランスナショナルなヒト・モノ・カネの流れは、現代社会において至るところに見られる現象である。しかしトランスナショナルな現象は物理的な越境活動だけではなく、その移動によって引き起こされる諸社会現象をも含むものとして捉えられる。本授業は、こうしたトランスナショナルな現象、特に「人の移動」と「エスニシティ」に焦点を定めて講義することで、トランスナショナルな現象を理論的に理解することや、自ら問題意識をもってトランスナショナルな現象にアプローチする方法を身に付けることをねらいとする。	
	異文化と家族	グローバリゼーションの進行する現代社会において、人々は比較的容易に国境を越え、これまでにない規模で世界を移動するようになった。日本も例外ではなく、人的移民が増加し、それに伴いいわゆる国際結婚の事例が多くなりつつあるなか、多文化共生及び異文化理解が、私たちにとってもっとも親密な場である家族においても重要なトピックと成りつつある。本授業では異文化に直面している個人や家族の経験を、移民研究とジェンダー論、及び家族社会学の視点から検討することをねらいとする。 具体的には、異文化結婚に関連する越境移動、ジェンダー、教育などの課題を中心に理解を深める。主に担当教員が長期の現地調査に従事した日本、中国、韓国の事例を取り上げ、家族文化の多様性について考える。家族を「常識」から問い直し、両性の関係の在り方、グローバルに広がる不平等を検討する。	
	グローバル社会学	講義形式で、縦軸としてグローバル化の歴史と現状そして未来を論じ、横軸として経済、政治、社会、文化、環境などの各側面を論じるが、基調となるのは人びとのトランスナショナルな移動と共生に焦点を合わせた社会的相互行為である。受講者が今後の社会活動を行う上で参考となるような知見を得ることを目標とし、そして各人が各人なりに的確な判断ができるようになることが最終目標である。そのためにも、本授業では日本/アジア、世界からのグローバルな事例を多数取り上げながら、共に社会学するように努める。	集中講義
	現代アフリカ社会学論	アフリカを理解することの重要性は3つある。第一に、アフリカには現代社会の矛盾や困難が凝縮している。第二に、アフリカの地域社会や国家の歴史的な経験は、現代のグローバル世界そのものを理解する鍵となる。第三に、アフリカにおける資源開発と人口増加が、マーケットとしてのアフリカの経済的価値をますます高めている。本授業ではこうした点に焦点を合わせ、最新のトピックを検討しながらアフリカ社会の理解、ひいてはグローバル世界への「異なる角度からの理解」を目指す。	

授 業 科 目 の 概 要			
（多文化社会学部多文化社会学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門モジュール科目 変容する社会	現代アジア社会論	本授業の目標は、東アジアの近代化やグローバリゼーションをクリティカルに理解すること、受講生自身の社会認識や実践計画を自らの立ち位置に自覚的な中で理解すること、それらを他者へ伝える説明力と共生の作法を身に付けることである。本授業では、ハイブリッドモダン論の目的と意義を説明し、中国と日本のハイブリッドモダンを理解するために、市民社会の親密圏、市場経済、政治的公共圏、新中間層、市民活動を説明する。そして、既存のアジア認識を揺さぶるために、少数民族、草莽層、漂泊の民に着目し、最後に、生命の尊厳に基づく共生社会に向けた理論と方法を考える。	
	アジア海域交流史	アジア海域交流の具体的な事例を紹介しながら、その実像と長崎の歴史的な位置付けの理解を目標とした講義を行う。全体の初めにアジア海域交流の地域と歴史、そして、調査研究方法のガイダンスを行い、全体の前半はアジアの各地域に残る遺跡から出土した遺物や遺構を見ながら、中世から近世にかけてのアジア海域交流の歴史を振り返る。その上で後半は長崎からアジア各地に輸出され、さらにアジア海域を経由して世界に渡った近世の肥前磁器を具体的な学習素材としながら、アジア海域の文化交流の様相を復元していく。	
	グローバル文化交流史	文化や生活環境を異にする人びとが出会う現象は今日に始まったものではなく、様々な出会いが繰り返されながら私たちの直面する今日があるはずである。それゆえに、本授業では、地球規模の視座で「交流」に焦点を当て、世界の歴史全体を考え直すことがその目的となる。本授業は「出会い」と「つながり」とを鍵概念とする14の事例考察から構成され、基本的には講義形式であるが、受講生には、積極的な発言と自らで思考することが強く求められる。	
	社会史	本授業では、「社会史」・「新しい文化史」の方法論を概観し、近世西欧社会の基本的な社会的環境（都市、農村、家族）およびそれを支えた社会的結合関係（ソシアビリティ）を踏まえた上で、文化の変容、社会構造の変容、社会構造・文化の変容の諸相という流れで、近世ヨーロッパの社会構造と文化の変容を検討する。以上の検討を通じて、「社会史」・「新しい文化史」の方法論とその意義を理解させるとともに、現代社会の様々な問題を検討する際に歴史的背景を視野に入れて考えることの必要性を強調する。	
	異文化交流論	21世紀の国際社会は様々な分野でグローバル化が進展し、モノ、カネ、人の移動によって異なる他者と異文化との出会いを頻繁にし、自己認識や文化理解を求め、新しい文化の創造も行っている。チャイナタウンは中国系移民によってもたらされたグローバル文化現象であり、異文化と交渉した結果から生まれた空間である。世界各地に分布するチャイナタウンは、現在、地域文化、観光資源として活用され、活発な動きを見せている。異文化交流の歴史や文化受容の土壌を持つ長崎の場合、異文化を文化資本とし、独自の地域文化を創造した。本授業は日本を中心に、各国の研究事例を検討することによって、今の時代をゆく上で必要な異文化との交流と「共存・共生・共栄」について理解する。	

授 業 科 目 の 概 要			
（多文化社会学部多文化社会学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育科目	専門モ ジュール科目	変容する社会	文化資源論
			地域生態論

授 業 科 目 の 概 要			
（多文化社会学部多文化社会学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門モジュール科目 専門教育科目	多文化の共生	日本思想史 大和国家から徳川国家に至る本土国家のみならず14世紀後半からほぼ500年に及ぶ琉球国家をはじめとする東アジアの思想文化状況に留意しながら、内発的な原因と外来思想の伝来によって展開した日本思想史（本土国家及び琉球国家の思想の歴史）について概説する。また、それらの思想に多くの思想言語を提供した仏教、儒教、神道等の思想的特質についても説明する。 一国に閉じられた日本思想史ではなく、世界に開かれた日本思想史を理解することをねらいとする。	
		中国思想史 中国思想は現実主義的である。例えば、儒教思想と老荘の道家思想とは長く主流を占め続けた伝統思想であるが、儒教では道徳と政治を中心として現実と密着した形でその思考が行われ、老荘では政治社会の外に出る、いかにも超越的な思想がなされているようでありながら、個人の生活の平安という現実的な関心を中心であった。本授業においては、人間の現実生活の問題を第一とする中国思想の性格を究明する。	
		宗教文化論 本授業では、宗教文化論の基本的な考え方について学ぶとともに、世界の宗教文化を広く概観する。宗教文化論の基礎を学び、様々な地域や時代における実例に接することで、宗教文化に対する見識を高め、それによって現代世界の諸問題をより多角的に深く捉えられるような視座を身に付けることを目標とする。授業は講義形式で行い、全体的な流れとしては、宗教文化論の考え方や方法論に関する総論から、テーマにそった具体的な宗教文化についての各論、現代社会における宗教文化の問題へと進む。	
		文化表象論 <昼間見た出来事を家族や友人に話す>といった日常的行為から、新聞、テレビ、Webサイト等のメディア、そして<聞き取り調査に基づく論文>といった学術的営みに至るまで、「表象」というプロセスは、広義の「文化」のあらゆる場面で見出すことができる。本授業は共通基礎モジュール科目「出来事と表象のあいだ」で取り上げた問題圏に、「ナラトロジー（物語論）」という補助線を引くことによって、人文社会系の諸領域における「表象」をめぐる理論と方法を横断的に体系化・精緻化し、受講生が「表象」論に関する「知の地図」を手にするをねらいとする。	
		記憶文化論 原爆被害は、戦争の世紀と呼ばれた20世紀を象徴する出来事であり、戦争の記憶に関わる研究においても主要な位置を占めている。本授業では、長崎および本学と密接な関わりを持つ「原爆の記憶と表象」を題材として、歴史学、社会学における「歴史と記憶」に関わる基本的な枠組みを理解することをねらいとする。歴史的な出来事の記憶、想起、表象に関わる文化装置である博物館（長崎原爆資料館）や史跡（慰霊碑、記念碑、被爆建造物）、遺品、絵画、証言などの様々な媒体を用いつつ、記憶とは何かということを考える。	

授 業 科 目 の 概 要			
（多文化社会学部多文化社会学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門モジュール科目 多文化の共生	地域文化論	<p>本授業のねらいは、長崎県下の各地域が持つ文化資源の多様性を様々な史料や民俗資料の考察を通して理解することである。本授業の前半では、中世から近世にかけて長崎県下に形成されていた独自の文化圏・政治圏の特色を史料学的に考察した上で、各地域の歴史像を導き出す。また後半では、長崎県が有するいくつかの民俗資料を取り上げて紹介するとともに、それらの継承の在り方について考察する。</p> <p>（オムニバス方式／15回）</p> <p>（20 木村直樹・17 才津祐美子／1回） ガイダンスとする。</p> <p>（20 木村直樹／7回） 対馬の史料の世界－日本最大の大名家史料群はいかにして生まれたか、近世の長崎とその周辺の世界－多彩な町方史料・行政史料、大村・五島の史料群－中世から近世への史料学的転換、佐賀藩飛び地史料群の世界－自立と従属、平戸と島原－居付大名と織豊系大名、大名家の家臣団編成と史料学、キリシタン禁制と肥前－全国法とローカル法。</p> <p>（17 才津祐美子／7回） 「民俗資料」とは何か－文化財保護法における位置付けを中心に、長崎県下の民俗資料、「資源」としての民俗資料、民俗芸能の資源化と「起源の語り」、外海のカクレキリシタン、世界遺産とカクレキリシタンの後景化、「小さな祭り」のゆくえ－「飯香浦地藏まつり」を事例として。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
	メディア文化論	<p>メディア表象の中に書き込まれた価値観や暗黙のうちに仮定されている前提を明らかにすることによって、メディアを文化現象として捉えるための基本的視角について論じる。事例としての宝塚歌劇にメディア・スタディーズの枠組みに沿って多様な角度から分析することで、理論と方法の結びつきを具体的に示す。</p>	
	現代言語理論	<p>(1) 現代の言語理論について、その理論の概要とアプローチの特色を基本的な論文を英語で読んで理解する。</p> <p>(2) 具体的な問題について、次の観点から議論する。</p> <p>(i) 事実と問題 (ii) 先行研究 (iii) 仮説の検証 (iv) 代案（よりよい説明）</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(多文化社会学部多文化社会学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門モジュール科目 多文化の共生	異文化間コミュニケーション	(英文) The main goals of this class are to develop students' English abilities and to raise awareness regarding intercultural communication, intercultural pragmatics and intercultural discourse analysis. While there will be an emphasis on oral communication, four skills (i.e., speaking, listening, reading, and writing) will be integrated in this course. This class will be taught using various methods including lectures, listening exercises using CDs and DVDs, group-work, and discussions. Each lesson, the class will focus on a selected reading designed to expose students to issues involving intercultural discourse found in popular media outlets. Students will be asked to engage in discussions and projects regarding these issues. (和訳) 本授業では、異文化間コミュニケーション、また、これに関わる語用論、談話分析への意識付け及び必要な能力を育成することを目的とする。オーラルコミュニケーション能力とともに、英語コミュニケーションに必要な4技能を統合して行う。さらに、様々な媒体を利用して授業を行い、双方向的な授業展開を行う。異文化間コミュニケーションに関わる文献を読み、討議し、プロジェクトを遂行する。	
	対照言語学	いかなる言語であってもそれぞれ独特の構造システムがあり、それぞれ固有の文法構造と意味表現の特徴を持つ。これらの独特な文法構造と意味表現の特徴は、結局必ず音声形式を通して実現されるので、文法構造や意味表現と音声形式とは密接に関連しており、分かたつことは出来ない。本授業では日中両言語を比較するという立場から、実験音声学の方法を用いて両言語の音声構成、変化がどのように語義・文法の変化を引き起こすかの観察・分析する能力を養えるようにしたい。	
	日本語学	本授業は、日本語はいかなる言語なのかということ、音韻や語彙など様々な面から学ぶことにより、日本語を世界の諸言語の一つとして捉える視点を身に付けることを目的としている。講義は大きく三つの部分から構成されており、最初に、現代日本語の特徴を音韻・語彙・文法の面から概観する。次に、これらの特徴を持つ日本語を世界の諸言語の一つとして位置付けるため、待遇表現や語順などの点から他言語との比較を行い、最後に、中国や朝鮮半島などの関わりの中で日本語がどのように形成されてきたのかという日本語の歴史について学ぶ。	
	コーパス言語学	言語の特徴を量的・質的に考察する際に有益なラージ・コーパスについての理解、運用方法を身に付けることを本授業のねらいとする。実際に英語の各種構文の使用域について、コーパスを用いて資料収集を行い、資料に基づいて分析を行う。また、言語学・英語学の論文において指摘されている言語事実に関して、コーパスを用いて検証する。さらに、ジャンルにおける英語の使用域の違いや現代英語、特にアメリカ英語やイギリス英語に見られる変容についてコーパス分析を行い、理解を深めることをねらいとする。	

授 業 科 目 の 概 要			
（多文化社会学部多文化社会学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門モジュール科目 オランダ	オランダ現代社会論	オランダ社会は、多元的文化が一つの域内で共生することを大きな目標として、様々な試みを政治政策や経済システムにおいて行ってきた。特に、第二次世界大戦後オランダ社会の直面した諸課題は、近未来の日本においても学ぶべき点は多々ある。本授業は、オランダ現代社会で現在進行している姿をオランダから招へいた教員によって直接講義を行う。具体的には、ワークシェアリング・安楽死・環境法・移民政策・教育システムなどをテーマに、オランダ国内での達成点、ヨーロッパ全体への政策の普及やヨーロッパ内における政策の比較などの視点から、それらの社会的諸課題について講義を行う。	
	オランダ文化論	現代オランダ社会は、多元的文化の共存を前提として成り立っている。本授業は、オランダ社会が、多元的文化の有り様を受容していく社会的・文化的基盤がどのように形成されていったのかを学ぶために、社会と文化との関係性について、より緻密かつ幅広い観点から、オランダについて講義を行う。特に、16世紀以降のネーデルラント地方を含むオランダの歴史的展開と、豊かな文化が開花した思想・文学・芸術について、同時代のヨーロッパの他地域との相互影響や比較を踏まえながら、総合的に理解することを目指す。	
	日蘭比較文化	「日蘭比較文化」では、オランダの歴史と文化を学び、その歴史の流れを通して、日本とオランダの歴史的・文化的発展を比較する。 本授業では、オランダの歴史と文化を中心に、北ヨーロッパと同時代の日本の歴史的な発展について、基本的な知識の修得と文化理解を目的とする。 さらに、現代の日本とオランダの社会・文化の比較を通して、国際人として必要な知識と教養に基づいた態度と倫理の形成を得ることができる。	
	日蘭交流史	1600年のオランダ船リーフデ号豊後漂着から、1951年のサンフランシスコ講和条約にいたる350年におよぶ日蘭関係を、政治・経済・文化の諸側面から通時的に詳論する。日蘭関係の史料を具体的に提示し、日本・アジア・ヨーロッパの歴史的背景を踏まえながら、精緻な分析方法を講義することで、日蘭関係についての史料を読み解く力を付けることを目指す。さらに、日本のヨーロッパの近代科学受容の過程と、オランダを経由してどのようにヨーロッパ・アメリカで日本が理解されたかという文化的事象についても留意する。	

授 業 科 目 の 概 要			
（多文化社会学部多文化社会学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	キャリア 科目	キャリア形成論	授業を通してキャリアの様々な側面について理論的なアプローチを含めて学び、自己を取り巻く雇用環境や今後の見通しに関する認識を持たせる。また様々な分野で活躍する社会人の先輩や留学経験者による講演や懇談会を通して、社会や組織の具体的な理解を踏まえた自己のキャリアをイメージさせ、それに基づいた進路選択を有効かつ適切なタイミングで行う準備を意識させる。これ等により学生は、卒業時点で職業機会を得るための自己理解、能力、職業や企業の知識、仕事や組織の現実等に関する具体的な知識を習得することができる。
	自主企画 インターン シップ	自主企画インターンシップ	学生が2年次以降の夏休みや春休みを利用して2週間から1ヶ月程度の就業体験を行い、それによって在学中の学習と将来の職業との関係や社会人としての能力等を理解し、今後の学習計画やキャリアイメージの形成に役立てることを狙いとしている。場所は民間企業、公的機関、NPO,NGO等様々であるが、このインターンシップの特徴は、学生がそうした制度の理念を理解し、自主的に受入先を開拓することであり、この過程を通して学生はさらに他者とのコミュニケーション能力、計画力、行動力等の自己管理能力を高めることが期待される。

授 業 科 目 の 概 要				
(多文化社会学部多文化社会学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 教育 科目	演習 科目	基礎演習 A	人文社会科学の領域における諸問題について、自らテーマを設定した上で、文献調査やフィールド調査を行うことによって、そのテーマに関わる基本的な知識と問いに答えるための手順を理解し、3年次以降の専門演習や卒業研究の遂行の土台作りを行うことをねらいとする。 授業は10名程度での演習形式とし、文献講読、ディスカッション、調査実習と成果発表を通して、論理的思考力と表現力を養成し、それをレポートにまとめる過程で、研究テーマの設定方法、文献講読、文献資料収集、調査方法、論文作成方法の基本的技法を身に付ける。	
		基礎演習 B	基礎演習 Aに引き続き、自らテーマを設定した上で、文献調査やフィールド調査を行うことによって、そのテーマに関わる基本的な知識と問いに答えるための手順を理解し、3年次以降の専門演習や卒業研究の遂行の土台作りを行うことをねらいとする。基礎演習 Iでの基本技法の習得を踏まえて、それをを用いて調査、分析及び成果公開を行うことに力点を置く。 授業は10名程度での演習形式とし、プレゼンテーションとディスカッション、それに続くレポート執筆とその公開を通して、自らの学びの成果を社会に発信していく過程をイメージできるようにする。	
		専門演習 I-A	基礎演習 A・Bで身に付けた基礎知識、技法を土台にして、個々の学生が選択した主モジュールに対応した理論と技法に特化した学びを通して、4年次の卒業研究に必要な十分な資料収集、調査、プレゼンテーションの流れを習得することをねらいとする。 授業は主指導教員が担当し、演習形式で行う。 学術的な研究を行う価値のある問いを立てることに始まり、それに答えるために必要な文献を収集し、問題を抽出し、それを調査へと展開する段階までを、個人研究とグループワークの連携の中で学ぶ。	
		専門演習 I-B	基礎演習 A・Bで身に付けた基礎知識、技法を土台にして、個々の学生が選択した副モジュールに対応した理論と技法に特化した学びを通して、4年次の卒業研究に必要な十分な資料収集、調査、プレゼンテーションの流れを習得することをねらいとする。 授業は副指導教員が担当し、演習形式で行う。 専門演習 I-Aで立てた問いに広がりを与える問いを立て、それに答えるために必要な文献を収集し、問題を抽出し、それを調査へと展開する段階までを、個人研究とグループワークの連携の中で学ぶ。	
		専門演習 II-A	専門演習 I-Aに引き続き、基礎演習 A・Bで身に付けた基礎知識、技法を土台にして、個々の学生が選択した主モジュールに対応した理論と技法に特化した学びを通して、4年次の卒業研究に必要な十分な資料収集、調査、プレゼンテーションの流れを習得することをねらいとする。 授業は主指導教員が担当し、演習形式で行う。 I-Aを踏まえ、補足調査、収集した資料の分析と解釈、グループディスカッション、プレゼンテーション、レポートの執筆と公開を通して、卒業研究において本格的な知的探究を行うための能力を総合的に身に付ける。	

授 業 科 目 の 概 要			
（多文化社会学部多文化社会学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	演習 科目	<p>専門演習Ⅰ－Bに引き続き、基礎演習A・Bで身に付けた基礎知識、技法を土台にして、個々の学生が選択した副モジュールに対応した理論と技法に特化した学びを通して、4年次の卒業研究に必要な資料収集、調査、プレゼンテーションの流れを習得することをねらいとする。</p> <p>授業は副指導教員が担当し、演習形式で行う。</p> <p>I-Bを踏まえて、補足調査、収集した資料の分析と解釈、グループディスカッション、プレゼンテーション、レポートの執筆と公開を通して、卒業研究において本格的な知的探究を行うための能力を総合的に身に付ける。</p>	
		<p>専門演習での成果を踏まえて、人文社会科学に関する学士レベルの知識と分析技法及びそれらを基にした課題探求・問題解決能力を獲得し、自ら立てた問いを学術的に探究し、それを社会に公開・還元していくプロセスを具体的に経験することをねらいとする。</p> <p>授業は主指導教員と副指導教員の連携による演習形式で行う。</p> <p>各人で研究テーマを設定し、主・副両指導教員の個別指導とグループディスカッションを組み合わせ、研究計画の立案と遂行、研究成果報告、卒業論文の作成と公開を実践する。</p>	
		<p>2年次の基礎演習A・Bで身に付けた基礎知識、技法を更に深め、4年次の卒業研究を行うために必要な資料収集、調査、論文執筆、プレゼンテーションの基本的な流れを習得するとともに、課題探求・問題解決能力の獲得をねらいとする。</p> <p>ライデン大学（オランダ）での留学経験を生かし、各人で研究テーマを設定し、主・副両指導教員の個別指導とグループディスカッションを組合せ、研究計画の立案と遂行、研究成果報告、卒業論文の作成と公開を実践する。</p>	

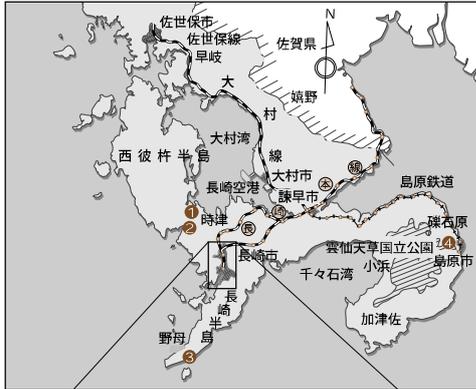
授 業 科 目 の 概 要				
（多文化社会学部多文化社会学科）				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 教育 科目	自由 選択 科目	英米文学概論	英米の文学が形成される発端から現代までの流れを概説する。古来より度重なる異民族の流入によって変化してきた「英語」と同様に、文学作品も形成期の古英語文学から現代文学まで、国内の社会、政治的状况ばかりでなく、大陸からの思想、文化の影響を大きく受けてきた。こうした点から、ただ通史的に作家と作品を万遍なく説明するのではなく、各時代の主要な文学作品と同時代の政治状況や社会思潮との有機的な関係に焦点を合わせ、原典を通して具体的にその特徴、文学史的意義を論じる。	
		応用言語学	本授業で行う応用言語学とは、言語学とそれ以外の関連分野に言語学を応用したり、また、言語学と他の学問分野との学際的な研究を行うことを意味していない。授業では、言語教育に関わる研究内容を扱うこととなる。授業の内容としては、前半の授業では、言語理論、評価法、言語政策、教材研究、早期英語教育など教育に関わるものを扱う。後半の授業では、前半の授業の内容に基づき、さらに英語教育と関連の深い、第二言語習得研究、学習方略や伝達方略など学習者に関わるものを中心として行う。さらに、翻訳論や通訳法についても言及する。	
		英語音声のしくみと働き	本授業は、英語発音法で学習した英語の音の知識を更に深めることを目標とする。英語ということばを音という観点からみていくと、様々な現象が存在することがわかる。例えば、数字のfiveがなぜfiveteenにならずにfifteenになるのか。突き詰めていくと、これは偶然ではなく、ある程度規則性をもって起こることが理解できる。本授業では、このような音声現象や音韻現象が起こる条件を自分で探求し、そこから規則性を見出してもらおう。一方的に聞く授業でなく、受講者全員で謎を探求していく参加型の講義である。	
		第二言語習得論	本授業では、まず先行研究を概観し、第二言語習得研究の目的や研究意義・対象を理解する。また、これまで提案されてきた様々な第二言語習得モデルを紹介し、身近な言語現象が、それぞれの習得モデルによってどのように説明されるのか、それぞれの習得モデルの問題点は何であるのかなどを議論する。本授業の後半には、バイリンガル教育や早期英語教育などの教育分野とどのように関わっているのかを理解し、第二言語習得理論を外国語教育にどのように役立てて行くべきかを議論する。	
		イギリス小説論	現代の我々に最も馴染み深い文学ジャンルの一つである「小説」の起源は18世紀イギリスに遡る。小説という形態はいつ、どのように形成され、流行し、確立していったのか。この問題は、今日においても、イギリス文学研究における大きなテーマであり続けている。本授業では、小説の起源と隆盛を、18世紀のデフォーから20世紀のウルフにいたる作家を例に、これらを作品の出版事情や文化的背景等と関連付けて論じ、イギリス小説の成立過程を解明する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(多文化社会学部多文化社会学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	自由 科目	教職論	学校教育における教員の役割や職務を明らかにし、教職の重要性について基本的な理解を深め、教職キャリア形成に向けての意識を高める。具体的には、教員に求められる基本的な資質能力、教育環境の変化と教育改革、学校組織の特徴、学校における危機管理について理解するとともに、自らの教職への意欲、適正等を考慮し、最終的な進路選択に活かすことを目的とする。
		英語科教育法Ⅰ	高等学校英語の教員免許状取得のために、高等学校における教科の概要と教科指導法について学習する。特に、現学習指導要領における英語について理解し、理論面のみならず、実践的・実地的な面からも学習し、高等学校の英語教員として必要な英語指導の知識や方法を学ぶ。具体的には、高校における指導計画やカリキュラムの重要性・必要性を理解し、学習指導案を実際に作成し、授業の計画・立案・実践ができるようにする。そのため、早い時期から模擬授業を実施し、指導方法の実践を経験させる。同時に、高等学校の英語教員として必要な第二言語習得に関する理論も学習する。
		英語科教育法Ⅱ	「英語科教育法Ⅰ」を踏まえて、本授業では高等学校で実際に教鞭を取ることを想定し、実践的な指導を行う。具体的には、まず、授業前の学習指導案の立案及びそのポイント、またICT活用を見据えた教育機器の効果的利用法の仕方等について技術的な側面からも学ぶものとする。次に模擬授業を行いビデオ等に録画し全員で検討会を行い、Q&Aをしながら授業技術の研鑽を行うものとする。最後に総括として、助言を述べるものとする。模擬授業担当の学生は、録画ビデオを観察しながら次回への反省点として活かすよう努めるものとする。
		教育の方法と技術	新たな学習指導要領、新たな学力観に基づき学校現場において求められる教育方法・教育技術には大きな変化が起きることが予想される。本授業においては、その社会的背景、学力論、学習評価論、情報コミュニケーション論などの視点から、新たな教育の方法と技術について論じる。

授 業 科 目 の 概 要			
(多文化社会学部多文化社会学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	自由科目	<p>事前指導では、教育実地研究（実習）に向けて必要とされる高校英語教員としての必要な知識の修得を行う。特に、学習指導案および授業計画の作成指導を行う。実習校では、事前指導で身に付けた学習指導案や指導計画作成方法を用いて、実習校に即した指導案や指導計画をたて、英語の教科指導を行う。さらに、授業参観、学級経営への参加、特別活動の指導、放課後のクラブ活動の指導なども積極的に行う。事後指導では、実習校での経験をもとに、英語の教科指導や方法について研究を進めるとともに、学級経営、生徒指導やクラブ指導の方法についても理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(廣江 顕／3回) 事前指導として、英語教員としての必要な知識の修得指導を行う。</p> <p>(8 西原俊明／3回) 事後指導として、英語教科の指導の研究を担当する。</p> <p>(小笠原真司／7回) 事前指導として、学習指導案の作成指導や模擬授業の指導を行う。事後指導として、学級経営やクラブ活動の指導の方法論の指導を行う。</p> <p>(小笠原真司・8 西原俊明・廣江 顕／2回) 分担して学生の実習校を訪問し、実習のアドバイスをを行う。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
	自由科目	<p>本授業は、教職課程の授業科目の履修及び教育実習、またそれ以外の教養教育科目や専門教育科目を通して培った技術的能力と人格的陶冶に基づき、いわば4年間の集大成として位置付けるものである。同時に、それまでに身に付けた資質能力等を視覚化するため、作成した資料や学習指導案それに補助教材等をすべてデータ化し、ICTに対応させるよう最終的な指導を行うものである。</p> <p>(オムニバス形式／全15回)</p> <p>(古 峨和之／8回) 高等学校の現代における役割を念頭に置き、実践的な業務を想定しながら、生徒、同僚、保護者、それに地域社会等とのコミュニケーションの在り方をもう一度考え、教職の現代的意義や各自の使命感を再確認する。</p> <p>(小笠原真司・8 西原俊明・廣江 顕／7回) グローバル化が進む中、高等学校の英語教育に求められているものを再確認し、教育実習を終えた段階で気が付いた、あるいは意識することが可能になった指導法上の問題点及び各自の英語力を再チェックし、これからの英語教師としての学びの在り方を考え直す機会とする。</p>	オムニバス方式・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要				
(多文化社会学部多文化社会学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	自由科目	日本語教育学概論	<p>現在、海外の日本語学習者が増加するだけでなく、在住外国人の増加等で多言語化多文化化が進む日本社会においても、日本語学校や高等教育機関等で日本語を外国語として学ぶ人達に加え、地域の日本語教室で学ぶ人達や日本語初等・中等教育機関で学ぶ児童が増えており、日本語教師の役割は日々増大している。このような状況の中、本授業においては、外国人に日本語を教えるとはいかなることなのか、外国人にとっての日本語とはいかなるものなのか等、外国語として日本語を教えるための基礎的な知識を身に付けることを目的としている。具体的には、以下のようなテーマを考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語教師とは（日本語教師の役割） ・外国語としての日本語 ・海外における日本語教育と日本における日本語教育 ・異文化理解（異文化適応）と日本語教育 ・日本語教育とコミュニケーション教育 ・日本語教授法 	
		日本語指導法	<p>本授業は、これまでに学んだ日本語学や第二言語習得論、日本語教育学概論などの知識と今後行う日本語教育実習の橋渡しとなる科目である。具体的には、初級を中心に教科書分析を行い、日本語指導に必要なテクニックを学び、教案を作成し、模擬授業を行う。また、コースデザイン、カリキュラムデザインなど、教育実習のためにどのような取組が必要かを議論することを通じて、教育実習に入るための準備も行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初級の教え方 ・中上級の教え方 ・教科書分析 ・コースデザイン ・カリキュラムデザイン 	
		日本語教育実習	<p>日本語教育実習では、これまでに学んだ日本語教育や日本語指導に関する知識を活かし、実際に留学生を相手に日本語を教えるという実習を行う。コースデザイン、カリキュラムデザインを行い、それに基づいて日本語学習者の募集を行い、実習する。自らの手でクラスを計画・実施することを通して、日本語教師として必要な教育能力や教室運営能力の基礎を身に付ける。本授業は60分の実習と30分の振り返り（実習をした学生と実習を見学した学生全員で）から成り立つ。具体的な内容は、以下のことを予定している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コースデザイン ・教材選定 ・カリキュラムデザイン ・教案作成 ・実習 ・実習見学 ・実習についての討論 	

長崎大学位置図



- ① 臨海研修所
- ② 大学院水産・環境科学総合研究科附属環東シナ海環境資源研究センター
- ③ 野母崎研究施設
- ④ 九州地区国立大学島原共同研修センター
- ⑤ 教育学部附属幼稚園，附属小学校，附属中学校
- ⑥ 教育学部附属特別支援学校
- ⑦ 産学官連携戦略本部，広報戦略本部，監査室，学務情報推進室，事務局，教育学部，附属教育実践総合センター，薬学部，工学部，環境科学部，水産学部，附属図書館，工学研究科，水産・環境科学総合研究科，医歯薬学総合研究科（薬学系），附属薬用植物園，保健・医療推進センター，先端生命科学支援センター，情報メディア基盤センター，留学生センター，大学教育機能開発センター，アドミッションセンター，先端計算研究センター，言語教育研究センター，核兵器廃絶研究センター，やってみゅーでスク，男女共同参画推進センター，研究推進戦略室，先端創薬イノベーションセンター
- ⑧ 国際交流会館
- ⑨ 国際連携研究戦略本部，医学部（医学科），熱帯医学研究所，医歯薬学総合研究科（医学系），国際健康開発研究科，原爆後障害医療研究所，先端生命科学支援センター，附属図書館（医学分館）
- ⑩ 病院，歯学部，医歯薬学総合研究科（保健学系・歯学系），医学部（保健学科）
- ⑪ 経済学部，附属図書館（経済学部分館）

最寄り駅からの距離及び交通機関

【長崎大学文教キャンパスまでの交通アクセス】



【交通機関】

■路面電車利用

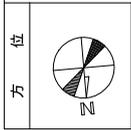
「長崎駅前」から「赤迫」行き、
「長崎大学前」(約20分)下車、徒歩約1分

■バス利用

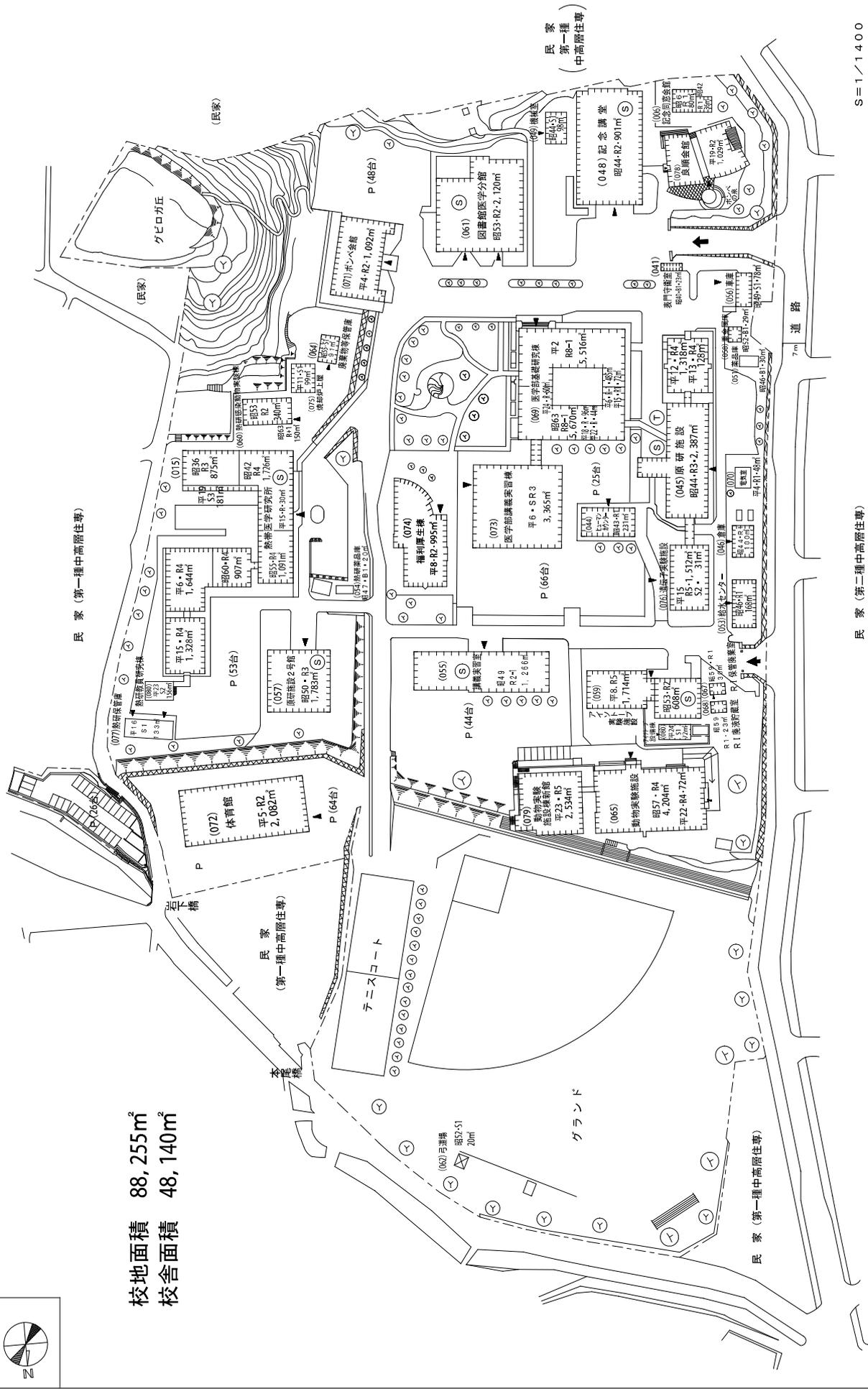
「長崎駅前」から長崎バス1番系統「溝川」・「上床」・「上横尾」行き、
「長崎大学前」(約15分)下車、徒歩約1分

■航空機利用

長崎空港(大村市)から長崎方面行き(昭和町・浦上経由)バス、
「長大裏門前」(約45分)下車、徒歩約1分



校地面積 88,255㎡
校舎面積 48,140㎡

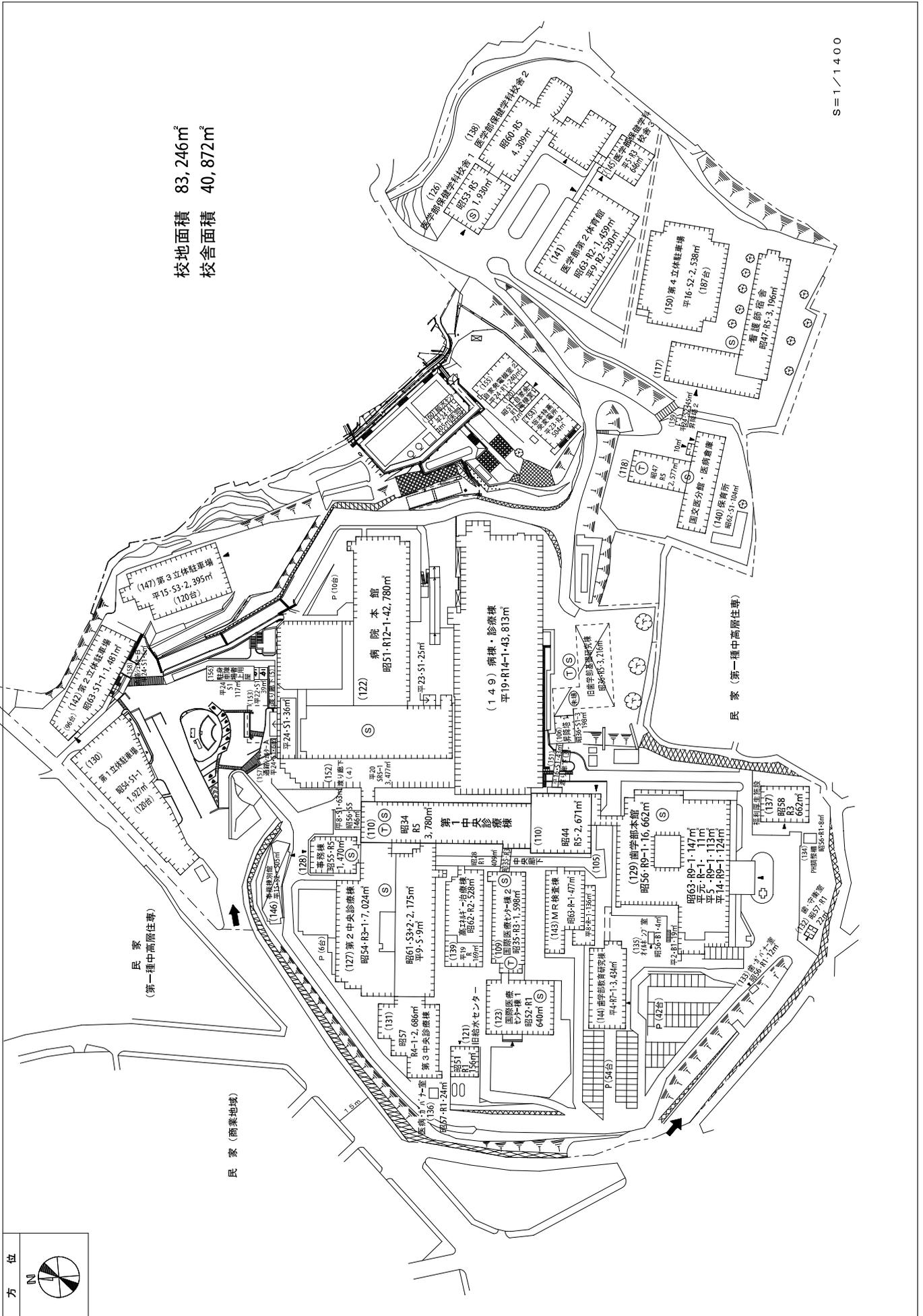


民家 (第二種中高層住専)

S=1/1400

坂本キャンパス (坂本 2)

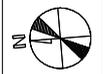
配置図



校地面積 83,246㎡
校舎面積 40,872㎡

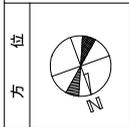
S=1/1400

方位

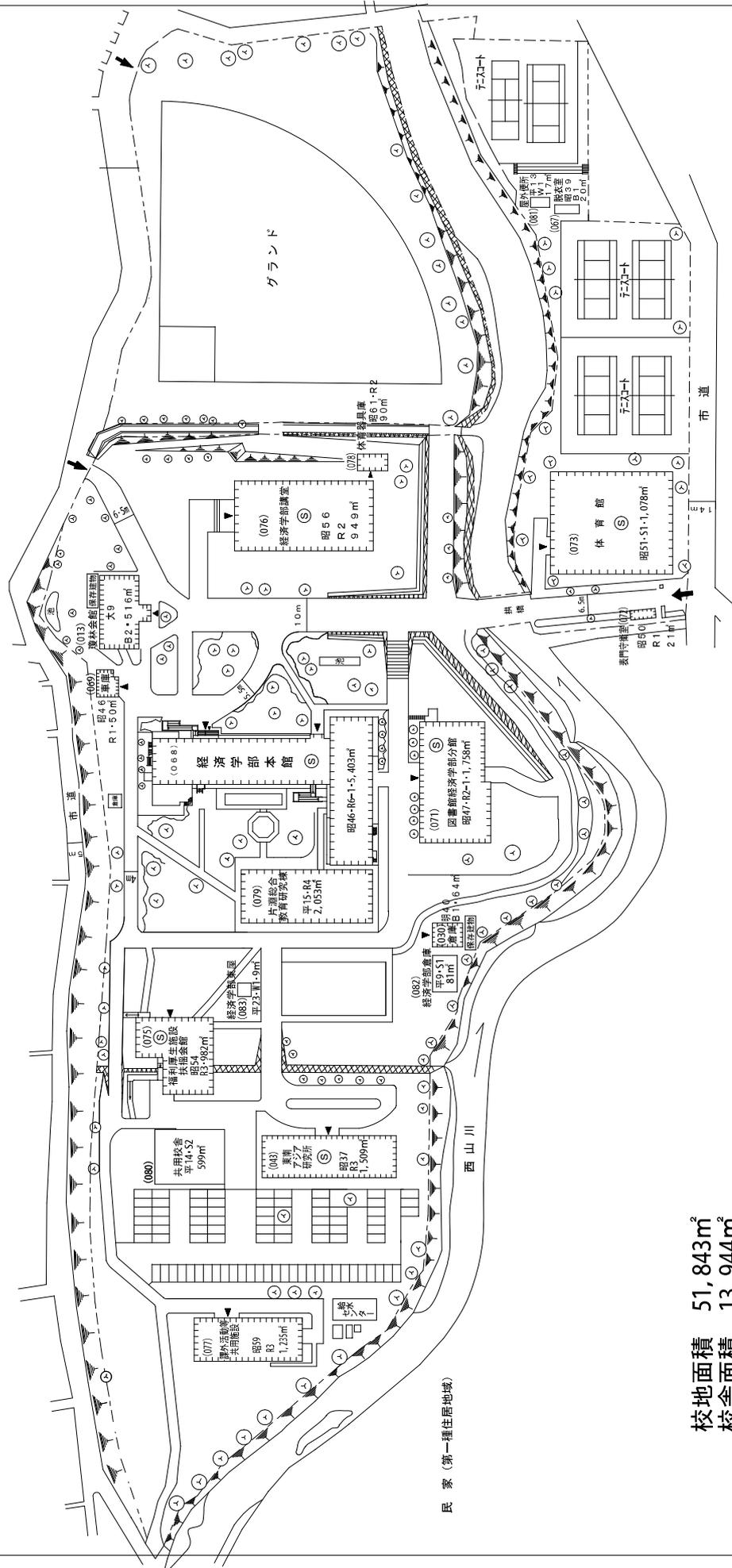


片淵キャンパス (片淵)

配置図



民家 (第一種住居地域)



民家 (第一種住居地域)

校地面積 51,843㎡
校舎面積 13,944㎡

民家 (第一種住居地域)

S=1/1200

○長崎大学学則（案）

平成16年4月1日

学則第1号

改正 平成16年11月26日学則第4号

平成17年3月24日学則第2号

平成17年9月22日学則第3号

平成17年12月22日学則第5号

平成18年3月22日学則第1号

平成18年7月21日学則第3号

平成18年9月22日学則第4号

平成18年10月27日学則第5号

平成19年3月22日学則第1号

平成19年12月21日学則第3号

平成19年12月26日学則第5号

平成20年2月14日学則第1号

平成20年2月22日学則第2号

平成21年2月27日学則第1号

平成21年7月24日学則第3号

平成22年2月26日学則第1号

平成23年2月24日学則第1号

平成23年3月28日学則第3号

平成24年1月27日学則第1号

平成〇〇年〇月〇〇日学則第〇号

目次

第1章 総則（第1条—第3条）

第2章 修業年限，在学期間，学年，学期及び休業日（第4条—第9条）

第3章 入学，編入学，転入学，転学部等，休学，復学，留学，退学，転学，再入学及び除籍（第10条—第28条）

第4章 教育課程の編成，授業科目の区分等，単位，履修方法，考查及び単位の授与（第29条—第44条）

第5章 卒業及び学位並びに教員の免許状授与の所要資格の取得（第45条—第48条）

第6章 賞罰（第49条・第50条）

第7章 検定料，入学料，授業料及び寄宿料（第51条—第60条）

第8章 科目等履修生，研究生，特別聴講学生，特別の課程及び外国人留学生（第61条—第65条）

第9章 雑則（第66条・第67条）

附則

第1章 総則

（目的）

第1条 長崎大学（以下「本学」という。）は，国立大学法人長崎大学基本規則（平成16年規則第1号）第3条に規定する理念に基づき，実践教育を重視した最高水準の教育を提供し，幅広い視野と豊かな教養及び深い専門知識を備え，課題探求能力及び創造力に富んだ人材を養成し，もって地域及び国際社会に貢献することを目的とする。

2 本学の学部の修業年限，教育課程，教育研究組織その他の学生の修学上必要な事項については，この学則の定めるところによる。

（教育研究上の目的の公表等）

第1条の2 各学部は，学部，学科又は課程ごとに，人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を学部規程に定め，公表するものとする。

（学部，学科，課程及び収容定員）

第2条 本学の学部に，次の学科及び課程を置く。

学部	学科及び課程
多文化社会学部	多文化社会学科
教育学部	学校教育教員養成課程
経済学部	総合経済学科
医学部	医学科，保健学科
歯学部	歯学科
薬学部	薬学科，薬科学科
工学部	工学科
環境科学部	環境科学科
水産学部	水産学科

2 経済学部は昼夜開講制とし，昼間に授業を行うコース（以下「昼間コース」という。）及び主として夜間に授業を行うコース（以下「夜間主コース」という。）を置く。

3 収容定員は、別表第1のとおりとする。

(講座等)

第3条 前条第1項に掲げる学部又は学科に、講座、学科目等を置く。

2 前項の講座、学科目等は、別に定める。

第2章 修業年限、在学期間、学年、学期及び休業日

(修業年限)

第4条 学部の修業年限は、4年とする。ただし、医学部医学科、歯学部及び薬学部薬学科にあつては、6年とする。

(入学前に一定の単位を修得した者の修業年限の通算)

第5条 大学の学生以外の者が第61条に規定する科目等履修生として一定の単位(第11条に規定する入学資格を有した後、修得したものに限り。)を修得した後に本学に入学する場合において、当該単位の修得により本学の教育課程の一部を履修したと認められるときは、修得した単位数その他の事項を勘案して所属学部教授会が定める期間を修業年限に通算することができる。ただし、その期間は、修業年限の2分の1を超えてはならない。

(在学期間)

第6条 本学における在学期間は、修業年限の2倍を超えることができない。

(学年)

第7条 学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

(学期)

第8条 学年を分けて、次の2期とする。

前期 4月1日から9月30日まで

後期 10月1日から翌年3月31日まで

2 前項の規定にかかわらず、学部の事情により、学長が変更することがある。

(休業日)

第9条 休業日は、次のとおりとする。

日曜日及び土曜日

国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日

開学記念日 5月31日

春季休業 3月21日から4月7日まで

夏季休業 8月11日から9月30日まで

冬季休業 12月25日から翌年1月7日まで

- 2 前項の規定にかかわらず、学部の事情により、学長が変更することがある。
- 3 学長は、必要があると認めるときは、臨時の休業日を定めることができる。

第3章 入学、編入学、転入学、転学部等、休学、復学、留学、退学、転学、再入学 及び除籍

(入学の時期)

第10条 入学の時期は、学年の始めとする。ただし、後期の始めに入学させることができる。

(入学資格)

第11条 本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者又は通常の課程以外の課程により、これに相当する学校教育を修了した者
- (3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（同規則附則第2条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程（昭和26年文部省令第13号）による大学入学資格検定に合格した者を含む。）
- (8) 学校教育法（昭和22年法律第26号）第90条第2項の規定により大学に入学した者であって、本学において、大学における教育を受けるにふさわしい学力があると認められたもの
- (9) 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、18歳に達したもの

(入学志願の手続)

第12条 入学志願者は、所定の手続により、願い出なければならない。

(選抜試験)

第13条 入学志願者に対しては、長崎大学入学者選抜規則(平成16年規則第16号)の定めるところにより、選抜試験を行う。

(合格者の決定)

第14条 前条の選抜試験による合格者の決定は、各学部教授会の議を経て、学長が行う。

(編入学定員を有する学部への編入学)

第15条 経済学部、医学部保健学科又は環境科学部の第3年次に編入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者で、かつ、当該学部が別に定める出願資格を有する者とし、選抜試験を行った上、当該学部教授会の議を経て、学長が入学を許可する。

- (1) 大学を卒業した者
- (2) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 短期大学若しくは高等専門学校を卒業した者又はこれと同等以上の学力があると認められる者
- (4) 外国において学校教育における14年の課程を修了した者
- (5) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における14年の課程を修了した者
- (6) 我が国において、外国の短期大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における14年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- (7) 専修学校の専門課程(修業年限が2年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。)を修了した者(第11条に規定する入学資格を有する者に限る。)

2 医学部医学科の第2年次に編入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とし、選抜試験を行った上、当該学部教授会の議を経て、学長が入学を許可する。

- (1) 大学を卒業した者
- (2) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における1

6年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者

(6) 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

(欠員のある場合の編入学及び転入学)

第16条 次の各号のいずれかに該当する者については、欠員のある場合に限り、選考の上、当該学部教授会の議を経て、学長が入学を許可することがある。

(1) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者で、編入学を志望するもの

(2) 短期大学、高等専門学校、国立工業教員養成所又は国立養護教諭養成所を卒業した者で、編入学を志望するもの

(3) 教育学部若しくは学芸学部の2年課程を修了した者又は学校教育法施行規則(昭和22年文部省令第11号)附則第7条に規定する従前の規定による学校の課程を修了し、若しくはこれらの学校を卒業した者で、編入学を志望するもの

(4) 外国において学校教育における14年の課程を修了した者で、編入学を志望するもの

(5) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における14年の課程を修了した者で、編入学を志望するもの

(6) 我が国において、外国の短期大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における14年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者で、編入学を志望するもの

(7) 専修学校の専門課程(修業年限が2年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。)を修了した者(第11条に規定する入学資格を有する者に限る。)で、編入学を志望するもの

(8) 他の大学に在学する者又は卒業し、若しくは退学した者で、転入学を志望するもの

(9) 我が国において、外国の大学の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程に在学する者又は当該課程を修了し、若しくは退学した者で、転入学を志望するもの(第

1 1 条に規定する入学資格を有する者に限る。)

2 前項各号に掲げるもののほか、医学又は歯学の進学課程を修了した者又はこれと同等以上の学力があると認められる者の編入学については、医学部又は歯学部が別に定める。

(編入学又は転入学を許可された者の修業年限等)

第17条 前2条の規定により入学を許可された者の入学する前に履修した授業科目について修得した単位及び入学する前に行った第37条第1項に規定する学修の取扱い並びに在学すべき年数については、所属学部教授会が定める。

2 前項の規定により在学すべき年数を定められた者の在学期間は、第6条の規定にかかわらず、在学すべき年数の2倍を超えることができない。

3 第1項の規定により在学すべき年数を定められた者の休学期間は、第22条第2項の規定にかかわらず、在学すべき年数に相当する年数を超えることができない。

(入学手続)

第18条 選抜試験又は選考の結果に基づき、入学の合格通知を受けた者は、所定の期日までに次の手続をしなければならない。

(1) 入学料を納付すること。

(2) 誓約書及び保証書を提出すること。ただし、第64条に規定する外国人留学生については、誓約書のみの提出とする。

2 保証書の保証人は、原則として父母又はこれに準ずる者とし、学生と連帯して責任を負うものとする。保証人又は保証人の住所に変更があった場合は、速やかに届け出なければならない。

(入学許可)

第19条 学長は、前条の入学手続(第53条の規定により、入学料の免除又は徴収猶予の申請を行った者は、前条第1号の手続を除く。)を完了した者に入学を許可する。

2 学長は、入学を許可した者に対して、入学時に学生証を交付する。

(転学部等)

第20条 学生から転学部の願い出があったときは、関係学部教授会の議を経て、学長が許可することがある。

2 前項の規定により転学部を許可された者の修業年限等に関しては、第17条の規定を準用する。

3 前2項の規定は、学科及び課程を変更する場合について準用する。この場合において、第1項中「関係学部教授会」とあるのは「所属学部教授会」と読み替えるものとする。

(休学)

第21条 学生が疾病その他の理由により、引き続き2か月以上修学を中止しようとするときは、所属学部長を経て、学長に休学を願い出て、許可を受けなければならない。

(休学期間)

第22条 休学は、引き続き1年を超えることができない。ただし、特別の理由があるときは、更に1年以内の休学を許可することがある。

2 休学期間は、通算して4年（医学部医学科、歯学部及び薬学部薬学科にあつては6年）を超えることができない。

3 休学期間は、第6条及び第45条の期間に算入しない。

(復学)

第23条 休学期間が満了したとき又は休学期間中にその理由がなくなったときは、所属学部長を経て、学長に復学を願い出て、許可を受けなければならない。

(留学)

第24条 学生が外国の大学又は短期大学で学修することが、教育上有益であると各学部において認めるときは、あらかじめ、当該外国の大学又は短期大学と協議の上、学生が当該外国の大学又は短期大学に留学することを認めることがある。

2 留学の期間は、第6条及び第45条の期間に算入する。

(退学)

第25条 学生が退学しようとするときは、所属学部長を経て、学長に願い出て、許可を受けなければならない。

(転学)

第26条 学生が他の大学に転学しようとするときは、所属学部長を経て、学長に願い出て、受験の許可を受けなければならない。

(再入学)

第27条 第25条による退学者が、退学後2年以内に退学前に所属していた学部の学科又は課程に再入学を願い出た場合は、当該学部教授会の議を経て、学長が許可することがある。

2 前項の規定により入学を許可された者については、本学退学時までの在学期間、休学期間、留学期間及び停学期間は入学後の当該期間に通算するものとし、既に履修した授業科目について修得した単位の取扱いについては当該学部教授会が定めるものとする。

(除籍)

第28条 学生が次の各号の一に該当するときは、所属学部教授会の議を経て、学長がこれを除籍する。

- (1) 正当の理由なくして欠席が長期にわたるとき。
- (2) 成業の見込みがないと認めたとき。
- (3) 在学期間が修業年限の2倍を超えたとき又は休学期間が第22条第2項の期間を超えたとき。
- (4) 休学期間が満了しても復学の願い出をしないとき。
- (5) 授業料を納めないとき。
- (6) 第53条の規定により入学料の免除又は徴収猶予を申請した者で、次に掲げるものが納めるべき入学料を所定の期日までに納めないとき。

ア 免除又は徴収猶予が許可されなかったもの

イ 入学料の一部の免除が許可されたもの

ウ 徴収猶予が許可されたもの

第4章 教育課程の編成、授業科目の区分等、単位、履修方法、考査及び単位の授与
(教育課程の編成)

第29条 教育課程は、本学、学部及び学科又は課程の教育上の目的を達成するため、大学教育における基本的教養を会得させ併せて専門の幅広い基盤を理解させることを目的とした教養教育に関する授業科目（以下「教養教育科目」という。）及び学部等の専攻に係る専門教育に関する授業科目（以下「専門教育科目」という。）を有機的に組み合わせて、体系的に編成するものとする。

2 教育課程の編成に当たっては、学部等の専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮するものとする。

(授業科目の区分)

第30条 教養教育科目の区分は、次のとおりとする。ただし、夜間主コースにあつては健康・スポーツ科学科目を除くものとする。

教養ゼミナール科目

情報科学科目

健康・スポーツ科学科目

外国語科目

全学モジュールⅠ科目

全学モジュールⅡ科目

学部モジュール科目

自由選択科目

2 専門教育科目の区分は、各学部の履修に関する規程（以下「学部規程」という。）の定めるところによる。

3 第64条に規定する外国人留学生及び外国人留学生以外の学生で外国において相当の期間中等教育（中学校又は高等学校に対応する学校における教育をいう。）を受けた者（以下この章において「外国人留学生等」という。）の教育について必要があると認めるときは、第1項に規定する科目のほか、留学生用科目を開設する。

4 各授業科目を、必修科目、選択科目及び自由科目に分ける。

（授業科目の開設）

第31条 教養教育科目は、本学のすべての教員の参画により開設するものとする。

2 専門教育科目は、各学部の教員により開設するものとする。

（授業の方法）

第32条 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 前項の授業は、文部科学大臣が定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

3 第1項の授業は、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。

（1単位当たりの授業時間）

第33条 1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じた1単位当たりの授業時間は、次の基準によるものとする。

(1) 講義については15時間

(2) 演習については30時間

(3) 実験、実習及び実技については45時間

2 前項の基準どおりできない事情があるとき又は教育効果を考慮して必要があるときは、前項第1号の講義及び前項第2号の演習については15時間から30時間の範囲で、前項第3号の実験、実習及び実技については30時間から45時間の範囲で、学部規程又は長崎大学教養教育履修規程（平成24年規程第2号。以下「教養教育履修規程」という。）

において定めることができる。ただし、講義、演習、実験、実習又は実技の併用により行う授業及び芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、学部規程又は教養教育履修規程の定める時間の授業をもって1単位とすることができる。

- 3 前2項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

(授業期間)

第34条 各授業科目の授業は、15週にわたる期間を単位として行う。ただし、教育上特別の必要があると認められる場合は、15週より短い特定の期間において授業を行うことができる。

(成績評価基準等の明示等)

第34条の2 各学部は、学生に対して、授業の方法及び内容並びに1年間の授業の計画をあらかじめ明示するものとする。

- 2 各学部は、学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。

(教育内容等の改善のための組織的な研修等)

第34条の3 各学部は、当該学部の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

(他学部における授業科目の履修等)

第35条 学生が他学部の授業科目を履修することが教育上有益であると各学部において認めるときは、当該授業科目を履修させることができる。

- 2 学生は、他学部の開設する授業科目を履修しようとするときは、所属学部長を経て、当該授業科目を開設する学部長の承認を受けなければならない。
- 3 前2項の規定により学生が履修した授業科目について修得した単位の取扱いは、学部規程の定めるところによる。

(本学大学院における授業科目の履修等)

第35条の2 学生が本学大学院に進学を希望し、当該大学院の授業科目を履修することが教育上有益であると各学部において認めるときは、当該授業科目を履修させることができる。

- 2 学生は、本学大学院の開設する授業科目を履修しようとするときは、所属学部長を経て、

当該授業科目を開設する研究科長の承認を受けなければならない。

- 3 第1項の規定により学生が履修した授業科目について修得した単位は、所属学部の卒業の要件として学部規程で定める学生が修得すべき単位数（以下「卒業要件単位」という。）に含めることはできない。

（他の大学又は短期大学における授業科目の履修等）

第36条 学生が他の大学又は短期大学の授業科目を履修することが教育上有益であると各学部において認めるときは、あらかじめ当該他の大学又は短期大学と協議の上、学生が当該他の大学又は短期大学の授業科目を履修することを認め、その履修した授業科目について修得した単位は60単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

- 2 前項の規定は、学生が、第24条の規定により留学する場合、外国の大学又は短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合及び外国の大学又は短期大学の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。

（大学以外の教育施設等における学修）

第37条 学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修について、教育上有益であると認めるときは、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

- 2 前項の規定により与えることができる単位数は、前条の規定により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

（入学前の既修得単位等の認定）

第38条 学生が本学に入学する前に次の各号の一に該当する単位を有する場合において、教育上有益であると認めるときは、その単位を入学した後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

- (1) 大学又は短期大学（外国の大学又は短期大学を含む。）において履修した授業科目について修得した単位
- (2) 大学設置基準（昭和31年文部省令第28号）第31条第1項に規定する科目等履修生として修得した単位

- 2 学生が本学に入学する前に行った前条第1項に規定する学修について、教育上有益であると認めるときは、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

3 前2項の規定により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学、転入学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第36条及び前条第1項の規定により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

(長期にわたる教育課程の履修)

第39条 学生が職業を有している等の事情により、第4条に規定する修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し卒業することを希望する旨を申し出たときは、長崎大学長期履修規程(平成18年規程第47号)の定めるところにより、その計画的な履修を認めることができる。

(外国人留学生等に係る留学生用科目の単位の取扱い)

第40条 外国人留学生等が留学生用科目について修得した単位は、教養教育履修規程の定めるところにより、教養教育科目として修得すべき単位に代えることができる。

(履修科目の登録の上限)

第41条 学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、卒業要件単位について、学生が1学年又は1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を学部規程で定めることができる。

2 前項の場合において、学部規程の定めるところにより、所定の単位を優れた成績をもって修得した学生については、前項に規定する上限を超えて履修科目の登録を認めることができる。

(考査及び単位の授与)

第42条 学生が一の授業科目を履修した場合には、考査を行い、合格した者に対しては、単位を与える。

2 考査は、試験、論文、報告書その他の方法により行うものとする。

第43条 考査及び単位の認定は、学部規程又は教養教育履修規程の定めるところによる。

(履修方法等)

第44条 この章に定めるもののほか、教育課程の編成、授業科目の名称、単位数、履修方法、履修科目の登録の上限、考査及び単位の授与等については、学部規程及び教養教育履修規程の定めるところによる。

第5章 卒業及び学位並びに教員の免許状授与の所要資格の取得

(卒業及び学位の授与)

第45条 第4条に規定する期間(第15条及び第16条の規定により入学を許可された者

については、第17条第1項の規定により定められた在学すべき年数)以上在学し、卒業要件単位を修得した者については、所属学部教授会の議を経て、学長が卒業を認定し、学士の学位を授与する。ただし、各学部において必要と認めるときは、在学期間及び卒業要件単位に加え、卒業の要件を課すことができる。

2 卒業要件単位のうち、第32条第2項の授業の方法により修得できる単位数は、別に定めのある場合を除き60単位を超えないものとする。

第46条 学部（医学部医学科、歯学部及び薬学部薬学科を除く。この条において同じ。）に3年以上在学した者（これに準ずるものとして文部科学大臣の定める者を含む。）が、卒業要件単位を優秀な成績で修得したと認める場合には、第4条の規定にかかわらず、その卒業を認めることができる。

2 前項に規定する卒業の認定は、次の各号に掲げる要件のすべてに該当する場合に限り行うことができる。

(1) 学修の成果に係る評価の基準その他の前項に規定する卒業の認定の基準を定め、それを公表している学部の学生であること。

(2) 第41条に規定する履修科目として登録することができる単位数の上限を定め、適切に運用している学部の学生であること。

(3) 学生が卒業要件単位を修得し、かつ、当該単位を優秀な成績をもって修得したと認められること。

(4) 学生が前項に規定する卒業を希望していること。

第47条 学位の授与等については、長崎大学学位規則（平成16年規則第11号）の定めるところによる。

（教員の免許状授与の所要資格の取得）

第48条 本学の学部の学科等において、教育職員免許法（昭和24年法律第147号）及び教育職員免許法施行規則（昭和29年文部省令第26号）に定める所要の単位を修得した者は、教員の免許状授与の所要資格を取得することができる。

2 前項の規定により所要資格を取得できる教員の免許状の種類は、別表第2のとおりとする。

第6章 賞罰

（賞罰）

第49条 学生として表彰に価する行為があった場合は、学長は、所属学部長等の推薦により表彰することがある。

第50条 学生が本学の規則に背き大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反する行為があったときは、長崎大学教育研究評議会の議を経て、学長がこれを懲戒する。

2 懲戒は、退学、停学及び訓告とする。

3 停学は、確定期限を付す有期の停学及び確定期限を付さない無期の停学とする。

4 停学の期間が1か月以上にわたるときは、その期間は、第6条の期間に算入し、第45条及び第46条の卒業の要件として在学すべき期間に算入しない。

第7章 検定料、入学料、授業料及び寄宿料

(検定料)

第51条 入学、転入学、編入学及び再入学を志願する者は、検定料を納めなければならない。

(検定料等の額及びその徴収方法等)

第52条 検定料、入学料及び授業料の額並びに徴収方法等は、この学則に定めるもののほか、長崎大学授業料、入学料、検定料及び寄宿料徴収規程（平成16年規程第92号。以下「徴収規程」という。）の定めるところによる。

(入学料の免除及び徴収猶予)

第53条 特別な事情により入学料の納付が著しく困難であると認められる者については、本人の願い出により、入学料の全部又は一部を免除し、又は徴収猶予することがある。

2 入学料の免除及び徴収猶予については、長崎大学入学料、授業料及び寄宿料の免除等に関する規程（平成16年規程第93号。以下「免除規程」という。）の定めるところによる。

(授業料の納期)

第54条 授業料は、前期分及び後期分の2回に分け、それぞれ年額の2分の1に相当する額を次に定める期間に納めなければならない。

前期分 4月1日から4月30日まで

後期分 10月1日から10月31日まで

2 前項の規定にかかわらず、前期分に係る授業料を納めるときに、当該年度の後期分に係る授業料を併せて納めることができる。

3 入学年度の前期分又は前期分及び後期分に係る授業料については、第1項の規定にかかわらず、入学を許可されるときに納めることができる。

(授業料の免除及び徴収猶予)

第55条 経済的理由によって授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる者

その他やむを得ない事情があると認められる者に対しては、願い出によりその事情を審査し、授業料の全部又は一部を免除し、又は徴収猶予することがある。

2 前項の授業料の免除及び徴収猶予については、この学則に定めるもののほか、免除規程の定めるところによる。

第56条 前条に規定する授業料の徴収猶予の期限は、前期分は9月15日限りとし、後期分は3月15日限りとする。

第57条 第54条に規定する授業料の納期中に休学を許可された者については、休学当月の翌月から復学当月の前月までの授業料を免除する。ただし、月の初日から休学期間が開始する場合については休学当月の分、第8条第2項及び第9条第2項の規定により後期の開始日が10月1日前となる場合で当該後期の開始日に復学するときについては復学当月の分についても免除する。

第58条 退学する者、転学する者、停学を命ぜられた者又は除籍される者については、その期分の授業料を徴収する。ただし、免除規程の規定に該当する場合は、この限りでない。

(寄宿料)

第59条 寄宿料の額及び徴収方法等については、徴収規程の定めるところによる。

2 学生に特別の事情がある場合は、寄宿料を免除することがある。

3 寄宿料の免除については、免除規程の定めるところによる。

(料金の返還)

第60条 既納の料金は、返還しない。ただし、次の各号の一に該当する場合は、当該料金の相当額(第2号の場合にあつては第1号に規定する第2段階目の選抜に係る検定料に相当する額を、第4号の場合にあつては後期分の授業料相当額)を返還するものとする。

(1) 選抜試験において、出願書類等による選抜(以下「第1段階目の選抜」という。)を行い、その合格者に限り学力検査等による選抜(以下「第2段階目の選抜」という。)を行い、最終合格者を決定する場合に、第1段階目の選抜の不合格者が、所定の期日までに第2段階目の選抜に係る検定料の返還を申し出たとき。

(2) 個別学力検査の前期日程又は後期日程(以下「前期又は後期試験」という。)の出願受付後に各学部等が課す大学入試センター試験の教科・科目を受験していないことにより受験資格がないことが判明した者が、所定の期日までに前期又は後期試験に係る検定料の返還を申し出たとき。

(3) 第54条第3項の規定により入学を許可されるときに授業料を納めた者が、入学年度の前年度の3月31日までに入学を辞退し、授業料の返還を申し出たとき。

(4) 第54条第2項又は第3項の規定により前期分の授業料を納入する際に後期分の授業料を併せて納入した者が、後期分の授業料の納入時期前に休学又は退学したとき。

第8章 科目等履修生，研究生，特別聴講学生，特別の課程及び外国人留学生
(科目等履修生)

第61条 各学部の学生以外の者で、本学が開設する授業科目のうち一又は複数の授業科目について履修を希望するものがあるときは、選考の上、科目等履修生として入学を許可することがある。

(研究生)

第62条 本学において特殊の事項について研究を希望する者があるときは、選考の上、研究生として入学を許可することがある。

(特別聴講学生)

第63条 他の大学又は短期大学（外国の大学又は短期大学を含む。）の学生で、本学の特定の授業科目を履修することを希望するものがあるときは、当該他の大学又は短期大学との協議に基づき、特別聴講学生として入学を許可することがある。

2 特別聴講学生に係る検定料及び入学料は、徴収しない。

3 特別聴講学生に係る授業料については、科目等履修生と同様とする。

4 前項の規定にかかわらず、特別聴講学生が大学間交流協定において授業料を徴収しないこととしている外国の大学若しくは短期大学の学生又は大学間相互単位互換協定において授業料を徴収しないこととしている大学若しくは短期大学の学生であるときは、授業料を徴収しない。

5 既納の授業料は、返還しない。

6 実験、実習に要する実費は、必要に応じ特別聴講学生の負担とする。

(特別の課程)

第63条の2 学長は、本学の学生以外の者を対象とした特別の課程を編成し、これを修了した者に対し、修了の事実を証する証明書を交付することができる。

2 本学の学生が前項に規定する特別の課程を履修することが教育上有益であると認めるときは、当該課程を履修させることができる。

(外国人留学生)

第64条 外国人留学生として本学に入学を希望する者があるときは、選考の上、入学を許可することがある。

(規程)

第65条 第61条から前条までに關する細部についての規則は、別に定める。

第9章 雑則

(寄宿舎)

第66条 本学に、寄宿舎を置く。

2 寄宿舎に關する規則は、別に定める。

(保健)

第66条の2 学生は、毎学年本学が行う健康診断を受けなければならない。

2 所属学部長は、学生の健康を管理し、必要に応じて治療を命じ、又は登学を停止することができる。

(補則)

第67条 この学則の施行に必要な事項は学長が定め、各学部に必要な規程については、学長の承認を得て、各学部長が定めるものとする。

附 則

1 この学則は、平成16年4月1日から施行する。

2 長崎大学学則(昭和24年5月31日制定)は、廃止する。

3 平成16年3月31日現在本学に在学している者(以下この項において「在学者」という。)及び平成16年4月1日以後において在学者の属する年次に編入学、転入学又は再入学する者については、旧長崎大学学則は、この学則の施行後も、なおその効力を有する。

附 則(平成16年11月26日学則第4号)

この学則は、平成16年11月26日から施行する。

附 則(平成17年3月24日学則第2号)

この学則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則(平成17年9月22日学則第3号)

この学則は、平成17年9月22日から施行し、改正後の長崎大学学則の規定は、平成17年4月1日から適用する。

附 則(平成17年12月22日学則第5号)

この学則は、平成17年12月22日から施行する。

附 則(平成18年3月22日学則第1号)

1 この学則は、平成18年4月1日から施行する。

2 平成18年3月31日現在本学に在学している者(以下この項において「在学者」という。)及び平成18年4月1日以後において在学者の属する年次に編入学、転入学又は再

入学する者については、なお従前の例による。

- 3 歯学部、薬学部及び工学部の収容定員は、改正後の別表第1歯学部の項、同表薬学部の項、同表工学部の項及び同表合計の項の規定にかかわらず、平成18年度から平成22年度までについては、次のとおりとする。

学部	学科・課程	平成18年 度	平成19年 度	平成20年 度	平成21年 度	平成22年 度
歯学部	歯学科	325	320	320	320	320
	計	325	320	320	320	320
薬学部	薬学科	40	80	120	160	200
	薬科学科	280	240	200	160	160
	計	320	320	320	320	360
工学部	機械システム工学科	320	320	320	320	320
	電気電子工学科	320	320	320	320	320
	情報システム工学科	200	200	200	200	200
	構造工学科	160	160	160	160	160
	社会開発工学科	200	200	200	200	200
	材料工学科	200	200	200	200	200
	応用化学科	200	200	200	200	200
	各学科共通	30	20	20	20	20
	計	1,630	1,620	1,620	1,620	1,620
合計	6,987	6,972	6,972	6,972	7,012	

附 則（平成18年7月21日学則第3号）

この学則は、平成18年10月1日から施行する。

附 則（平成18年9月22日学則第4号）

この学則は、平成18年9月22日から施行する。

附 則（平成18年10月27日学則第5号）

この学則は、平成18年10月27日から施行する。

附 則（平成19年3月22日学則第1号）

この学則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平成19年12月21日学則第3号）

改正 平成20年2月14日学則第1号

- 1 この学則は、平成20年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表第2の規定は、平成20年度入学者から適用する。
- 3 教育学部の収容定員は、改正後の別表第1教育学部の項の規定にかかわらず、平成20年度から平成22年度までについては、次のとおりとする。

学部	学科・課程	平成20年度	平成21年度	平成22年度
教育学部	学校教育教員養成課程	780	840	900
	計	780	840	900

- 4 教育学部情報文化教育課程は、改正後の長崎大学学則第2条第1項及び別表第1の規定にかかわらず、平成20年3月31日に当該課程に在学する学生が当該課程に在学しなくなるまでの間、存続するものとし、その収容定員は、次のとおりとする。

課程	平成20年度	平成21年度	平成22年度
情報文化教育課程	180	120	60

附 則（平成19年12月26日学則第5号）

この学則は、平成19年12月26日から施行する。

附 則（平成20年2月14日学則第1号）

この学則は、平成20年2月14日から施行する。

附 則（平成20年2月22日学則第2号）

- 1 この学則は、平成20年4月1日から施行する。
- 2 平成20年3月31日現在本学に在学している者（以下この項において「在学者」という。）及び平成20年4月1日以後において在学者の属する年次に編入学、転入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則（平成21年2月27日学則第1号）

- 1 この学則は、平成21年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表第1医学部の項及び同表合計の項の入学定員及び収容定員は、平成29年度までの入学定員及び収容定員とする。
- 3 医学部の収容定員及び収容定員の合計は、改正後の別表第1医学部の項及び同表合計の項の規定にかかわらず、平成21年度から平成25年度までについては、次のとおりとする。

学部	学科・課程	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度

医学部	医学科	600	605	610	615	620
	保健学科	452	452	452	452	452
	計	1,052	1,057	1,062	1,067	1,072
合計		6,862	6,967	7,072	7,077	7,082

附 則（平成21年7月24日学則第3号）

この学則は、平成21年7月24日から施行する。

附 則（平成22年2月26日学則第1号）

- この学則は、平成22年4月1日から施行する。
- 改正後の別表第1医学部の項及び同表合計の項の入学定員及び収容定員は、平成29年度までの入学定員及び収容定員とする。
- 医学部の収容定員及び収容定員の合計は、改正後の別表第1医学部の項及び同表合計の項の規定にかかわらず、平成22年度から平成26年度までについては、次のとおりとする。

学部	学科・課程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
医学部	医学科	620	640	660	680	700
	保健学科	452	452	452	452	452
	計	1,072	1,092	1,112	1,132	1,152
合計		6,982	7,102	7,122	7,142	7,162

附 則（平成23年2月24日学則第1号）

この学則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則（平成23年3月28日学則第3号）

- この学則は、平成23年4月1日から施行する。
- 改正後の別表第1医学部の項及び同表合計の項の入学定員及び収容定員は、平成29年度までの入学定員及び収容定員とする。
- 医学部、歯学部及び工学部の収容定員並びに収容定員の合計は、改正後の別表第1医学部の項、同表歯学部の項、同表工学部の項及び同表合計の項の規定にかかわらず、平成23年度から平成27年度までについては、次のとおりとする。

学部	学科・課程	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
医学部	医学科	641	662	683	704	720

	保健学科	452	452	452	452	452
	計	1,093	1,114	1,135	1,156	1,172
歯学部	歯学科	315	310	305	300	300
	計	315	310	305	300	300
工学部	工学科	380	760	1,140	1,520	1,520
	計	380	760	1,140	1,520	1,520
合計		5,858	6,254	6,650	7,046	7,062

4 工学部機械システム工学科，同学部電気電子工学科，同学部情報システム工学科，同学部構造工学科，同学部社会開発工学科，同学部材料工学科及び同学部応用化学科は，改正後の長崎大学学則の規定にかかわらず，平成23年3月31日に当該学科に在学する学生並びに平成23年度及び平成24年度に当該学科の第3年次に編入学する者が在学しなくなるまでの間，存続するものとし，なお従前の例による。

5 前項の場合において，別表第1の規定にかかわらず，工学部機械システム工学科，同学部電気電子工学科，同学部情報システム工学科，同学部構造工学科，同学部社会開発工学科，同学部材料工学科及び同学部応用化学科の第3年次編入学定員及び収容定員については，次のとおりとする。

学科・課程	平成23年度		平成24年度		平成25年度	
	第3年次編入学定員	収容定員	第3年次編入学定員	収容定員	第3年次編入学定員	収容定員
機械システム工学科		240		160		80
電気電子工学科		240		160		80
情報システム工学科		150		100		50
構造工学科		120		80		40
社会開発工学科		150		100		50
材料工学科		150		100		50
応用化学科		150		100		50
各学科共通	10	20	10	20		10

附 則（平成24年1月27日学則第1号）

- 1 この学則は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 平成24年3月31日現在本学に在学している者（以下「在学者」という。）及び平成24年4月1日以降において、在学者の属する年次に編入学、転入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則（平成〇〇年〇月〇〇日学則第〇号）

- 1 この学則は、平成26年4月1日から施行する。
- 2 多文化社会学部、経済学部及び環境科学部の収容定員並びに収容定員の合計は、改正後の別表第1 多文化社会学部の項、同表経済学部の項、同表環境科学部の項及び同表合計の項の規定にかかわらず、平成26年度から平成28年度までについては、次のとおりとする。

学部	学科・課程		平成26年度	平成27年度	平成28年度
多文化社会学部	多文化社会学科		100	200	300
	計		100	200	300
経済学部	総合経済学科	昼間コース	1,330	1,240	1,150
		夜間主コース	240	240	240
			30	30	30
	計		1,600	1,510	1,420
環境科学部	環境科学科		570	560	550
	計		570	560	550
合計			7,046	7,062	7,063

別表第1

学部	定員		入学定員	第3年次（医学部医学科にあつては第2年次）編入学定員	収容定員
	学科・課程				
多文化社会学部	多文化社会学科		100		400
	計		100		400

教育学部	学校教育教員養成課程		240		960
	計		240		960
経済学部	総合経済学科	昼間コース	265		1,060
		夜間主コース	60		240
					15
	計		325	15	1,330
医学部	医学科		116	5	721
	保健学科		106	14	452
	計		222	19	1,173
歯学部	歯学科		50		300
	計		50		300
薬学部	薬学科		40		240
	薬科学科		40		160
	計		80		400
工学部	工学科		380		1,520
	計		380		1,520
環境科学部	環境科学科		130	10	540
	計		130	10	540
水産学部	水産学科		110		440
	計		110		440
合計			1,637	44	7,063

別表第2

学部	学科等	教員の免許状の種類（免許教科・領域）	
多文化社会学部	多文化社会学科	高等学校教諭一種免許状	（英語）
教育学部	学校教育教員養成課程	幼稚園教諭一種免許状	
		小学校教諭一種免許状	
		小学校教諭二種免許状	
		中学校教諭一種免許状 中学校教諭二種免許状	（国語，社会，数学，理科， 音楽，美術，保健体育，技術，

			家庭，英語)
		高等学校教諭一種免許状	(国語，地理歴史，公民，数学，理科，音楽，美術，書道，保健体育，家庭，情報，工業，英語)
		特別支援学校教諭一種免許状	(知的障害者，肢体不自由者，病弱者)
経済学部	総合経済学科	高等学校教諭一種免許状	(商業)
工学部	工学科	高等学校教諭一種免許状	(数学，理科，工業)
水産学部	水産学科	高等学校教諭一種免許状	(理科，水産)

長崎大学多文化社会学部運営規則（案）

（目的）

第1条 この規則は、長崎大学（以下「本学」という。）に設置する長崎大学多文化社会学部（以下「学部」という。）の運営体制等に関する事項を定め、もって、学部の円滑な運営に資することを目的とする。

（他の学内規則等との関係）

第2条 学部の運営に関し他の学内の諸規則（これに基づく定め等を含む。以下「他の学内規則等」という。）にこの規則と異なる定めがある場合は、この規則の定めるところによる。

（学部長）

第3条 基本規則第41条第1項の規定に基づき、学部に、長崎大学多文化社会学部長（以下「学部長」という。）を置く。

2 学部長は、次の各号のいずれかに該当する場合に、学部長を指名し、任命する。

- (1) 学部長の任期が満了するとき。
- (2) 学部長が辞任を申し出たとき。
- (3) 学部長が欠員となったとき。

3 学部長の選考は、前項第1号に該当する場合は任期満了の1月以前に、同項第2号又は第3号に該当する場合は速やかに行う。

4 学部長となることのできる者は、学部の教授会構成員の教授（教授予定者を含む。）とする。

5 前項の規定にかかわらず、学部長が特に必要と認めるときは、前項の教授以外の者を学部長とすることができる。

6 長崎大学部局長選考規則（平成16年規則第30号）第8条及び第8条の2の規定は、学部長の選考について準用する。

（学部運営会議）

第4条 本学に、長崎大学多文化社会学部運営会議（以下「学部運営会議」という。）を置く。

2 学部運営会議は、次に掲げる事項について審議する。

- (1) 学部の管理運営に関する事項
- (2) 学部の教員組織に関する事項
- (3) 教員の資格審査及び選考に関する事項

- (4) 学部の予算に関する事項
- 3 学部運営会議は、次に掲げる者をもって組織する。
- (1) 学部長
 - (2) 教学担当理事
 - (3) 長崎大学多文化社会学部副学部長
 - (4) 学部に置かれる常置委員会の委員長
 - (5) その他学部長が指名する者
- 4 学部運営会議に議長を置き、前項第1号の者をもって充てる。
- 5 議長は、学部運営会議を主宰する。
- 6 学部運営会議に副議長を置き、第3項第3号の者をもって充てる。
- 7 副議長は、議長を助け、議長に事故等があるときは、その職務を代行する。
- 8 学部運営会議は、構成員の過半数が出席しなければ、議事を開くことができない。
- 9 学部運営会議の議事は、出席した構成員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 10 議長が必要と認めるときは、学部運営会議に構成員以外の者を出席させ、意見を聴取することができる。
- 11 議長は、必要に応じ、学部運営会議に関係職員を出席させることができる。
- 12 学部運営会議に、必要に応じ、委員会を置き、委員会に関し必要な事項は、別に定める。
- 13 学部運営会議の事務は、第6条第1項の長崎大学多文化社会学部支援課において処理する。
- 14 前各項に定めるもののほか、学部運営会議の運営等に関し必要な事項は、別に定めることができる。

(教授会)

- 第5条 国立大学法人長崎大学基本規則(平成16年規則第1号。以下「基本規則」という。)
- 第46条第1項の規定に基づき、学部に、長崎大学多文化社会学部教授会(以下「教授会」という。)を置く。
- 2 教授会は、学部の教育を担当する教授をもって組織するものとする。ただし、長崎大学多文化社会学部の教授会規程(以下「教授会規程」という。)に定めるところにより、准教授及び助教を加えることができる。
- 3 教授会の組織に関し必要な事項は、教授会規程において定める。

- 4 教授会には、長崎大学多文化社会学部支援課長を出席させるものとする。
- 5 教授会は、次に掲げる事項について審議する。
 - (1) 教育課程の編成に関する事項
 - (2) 学生の入学、卒業その他その在籍に関する事項及び学位の授与に関する事項
 - (3) その他学部に係る教育又は研究に関する重要事項
- 6 長崎大学教授会規則（平成16年規則第8号）第4条から第9条まで及び第13条の規定は、教授会について準用する。

（事務部）

第6条 基本規則第47条第2項の規定に基づき、学部の事務部として、長崎大学多文化社会学部支援課（以下「支援課」という。）を置く。

- 2 前項に定めるもののほか、支援課の運営、体制等について必要な事項は、別に定める。

（読替え）

第7条 この規則に定めるもののほか、第4条第2項各号の事項に関し、他の学内規則等において「教授会」とあるのは「学部運営会議」と読み替えて、当該他の学内規則等の規定を適用するものとする。

附 則

この規則は、平成26年4月1日から施行する。

長崎大学多文化社会学部教授会規程（案）

（趣旨）

第1条 この規程は、長崎大学多文化社会学部運営規則（平成26年規則第〇号）の規定に基づき、長崎大学多文化社会学部教授会（以下「教授会」という。）の組織、運営等に関し必要な事項を定めるものとする。

（組織）

第2条 教授会は、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 多文化社会学部（以下「本学部」という。）の教授、准教授及び助教
- (2) 本学部の教授、准教授及び助教を命じられている他部局等の教員
- (3) 本学部の教授を命じられている国立大学法人長崎大学の理事で教授会が認めた者

2 教授会には、支援課長を出席させるものとする。

（審議事項）

第3条 教授会は、次に掲げる事項について審議する。ただし、前条第1項第3号に掲げる者は、第3号に掲げる事項の審議に加わらないものとする。

- (1) 教育課程の編成に関する事項
- (2) 学生の入学、卒業その他その在籍に関する事項及び学位の授与に関する事項
- (3) その他本学部に係る教育又は研究に関する重要事項

（議長）

第4条 学部長は、教授会の議長となる。

- 2 議長は、教授会を主宰する。
- 3 議長に事故があるときは、あらかじめ議長が指名する副学部長がその職務を代行する。

（開催）

第5条 教授会は、原則として、毎月第3木曜日を定例の開催日とする。ただし、議長が必要と認めるとき又は構成員5人以上の者から要求があるときは、臨時に開催することができる。

- 2 議長は、教授会の開催日の3日前までに議案を通知するものとする。ただし、緊急の場合は、この限りでない。

（定足数）

第6条 教授会は、構成員（次に掲げる者を除く。）の3分の2以上が出席しなければ、議事を開き、議決することができない。

- (1) 休職中の者

- (2) 出勤停止者又は停職者
- (3) 長期病気療養中の者
- (4) 育児休業中の者
- (5) 海外渡航中の者
- (6) 内地研究員として派遣されている者

(議決)

第7条 教授会の議事は、出席した構成員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(意見の聴取)

第8条 議長が必要と認めたときは、教授会に構成員以外の者を出席させ、意見を聴取することができる。

(関係職員の出席)

第9条 議長は、必要に応じ、関係職員を教授会に出席させることができる。

(議事要録)

第10条 学部長は、議事要録を作成し、構成員に通知するとともに、保管するものとする。

(事務)

第11条 教授会の事務は、支援課において処理する。

(補則)

第12条 この規程に定めるもののほか、教授会の運営の細部に関し必要な事項は、別に定めることができる。

附 則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

目 次

1	設置の趣旨及び必要性	1
2	学生確保の見通しと社会的な人材需要	9
3	多文化社会学部多文化社会学科の特色	16
4	学部，学科等の名称及び学位の名称	18
5	教育課程の編成の考え方及び特色	21
6	教員組織の編成の考え方及び特色	35
7	教育方法，履修指導方法及び卒業要件	37
8	施設，設備等の整備計画	47
9	入学者選抜の概要	50
10	資格取得	53
11	海外留学等の具体的計画	54
12	管理運営	59
13	自己点検・評価	61
14	情報の公表	62
15	授業内容方法の改善を図るための組織的な取組	63
16	社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	64

1 設置の趣旨及び必要性

(1) 長崎大学多文化社会学部の設置の趣旨及び必要性

ア 基本理念

長崎大学に多文化社会学部を新設し、多文化の共生と協働が求められる現代世界において、政治・経済、文化、社会活動分野等で存在感をもって国際的に活躍できる人文社会系グローバル人材を、従来にない斬新かつ特色ある教育を通して先駆的に育成する。

グローバルレベルでのボーダーレス化が急速に進む中で、我が国が直面する困難を乗り越え、未来への展望を拓くためには世界と真正面から向き合うしかないという切迫感を背景に、グローバル人材の育成及びそのための教育改革が我が国の大学の喫緊の課題となっている。

「グローバル人材育成推進会議」は、2012年の審議まとめで、グローバル人材が有すべき資質として、①語学力・コミュニケーション能力、②主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感、③異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティの3項目を示したが、まさにグローバル化とそれに伴って生起する社会の多文化状況の中で必要とされる人間力と社会力を身に付けた人材が待望されている。

本学部は、人文社会系学部の学士課程教育における専門性を担保しつつ、上記のグローバル人材の基盤的資質としての語学力・コミュニケーション能力とジェネリックスキルの涵養に重点的に取り組む。すなわち、人文社会系諸分野を「多文化社会」の観点から再編・統合した学際性 (interdisciplinarity) に富むカリキュラムにより、政治、法律、経済、経営等の社会科学系の知識及び考え方と、世界の各地域の多様な社会、文化、歴史、宗教を理解できる人文学系の知識及び考え方を併せ持つ人材を育成する。さらに、フィールド調査や言語的・文化的背景を異にする人々との国際的プロジェクト等への参画を通して、マネジメント能力も涵養する。出口における専門性は、カリキュラム全体にわたる「多文化」という視点からの教育内容の精選と再編及び3年次以降の専門教育コースによって担保される。

本学部の特色は、卒業時 TOEFL PBT600 点 (iBT100 点) という高度の英語運用能力を達成目標に設定し、その達成に向けて徹底かつ系統的な英語教育を行うことである。まず、入学試験で英語力に秀でた受験生を選考するとともに、1年次前期の Transition Program (5頁参照) における集中的英語教育により TOEFL のスコアを PBT500 点 (iBT61 点) レベルに引き上げる。その後継続される英語教育に加え、英語を用いた教養及び専門教育と海外留学 (短期、中期・長期) を経て、この目標を達成する。中期・長期留学には、要件として TOEFL PBT550 点 (iBT79 点) を課す。

2つ目の特色は、長崎のオランダ及び中国との異文化交流の歴史や、熱帯医学研究所を中心に長年にわたって蓄積されてきたアフリカを中心とした途上国フィールドにおける教育研究基盤等、他にはない本学の背景及び教育資源を、多文化社会理解のための糸口、切り口とするとともに教育フィールドとして活用することである。このことにより、他大学とは明確に差別化された特色あるカリキュラムを学生に提

供することができる。特に、「オランダ特別コース」は、過去から現在に至るまで政治・経済・文化的側面から世界に影響力を発揮し続けてきたオランダの言語、社会制度、文化等を学ぶことのできる本邦唯一の教育プログラムを提供することになる。

世界のボーダーレス化とともに、様々な組織や個人を複合的に繋ぐ情報ネットワークが地球上を覆い、地球は急速に縮小しつつある。その一方で、我が国や地球が直面する課題は、多様かつ複雑な様相を示している。「一元性から多元性へ、集中から分散へ」という世界の潮流の中で、地域が有する多様性の重要度が増している。地域を掘り下げることによって逆に世界が見えてくる。本学部の学生は、長崎に根ざした特色ある教育を通して、地域の観点から世界を俯瞰し、グローバルな視点から地域を考えることのできるグローカリティ (glocality) を体現する人材として育つことになる。

グローバル社会における人文社会系学部としての専門的教育研究を遂行するとともに、本学部は、これまで本学では必ずしも十分ではなかったリベラルアーツ系の教養教育の核としても機能する。同時に、グローバル人材育成に向けた学士課程教育改革と教育マネジメント改革を先駆的に開拓・実践し、総合大学長崎大学の新たな未来に向けた基盤構築に大きく貢献するとともに、その不可欠な要素となる。

イ 設置の背景・必要性

冷戦終了以降の世界の構造変化は、人・物・情報のトランスボーダー化、ひいてはグローバル化を加速した。さらに我が国では、グローバル化と並行して少子高齢化が進行している。2つの現象が交差する中で、社会動態レベルでの課題が生起する。すなわち、グローバル化が一層進行する近未来にあつては、我が国が深刻な労働人口の減少に直面することは不可避であり、このことは高齢者の増加と相まって、社会に広がる閉塞感の主因となろう。かかる事態に対処するための有力な対策の1つは、グローバルな労働市場に自らを開き、外国からの就労者を本格的に受け入れることであるが、これは社会内部での文化的多様性を必然的に高め、文化的共生という課題を生じさせることになる。文化的多様性の高まりは、社会的統合や連帯の喪失というリスクを潜在させているが、同時に、社会を文化的に一層豊穡なものにしていく可能性をも含んでいる。外国からの就労者やその家族が、日本の文化、伝統、自然、歴史を十分理解することと日本社会のマジョリティの側での他者理解が同時に進行することによって、多文化化する社会に豊饒さへの契機がもたらされる。しかし、現在の日本社会の制度や組織は、文化的多様性を展望して設計されているとは言い難く、豊穡性への契機を把握することも、社会的リスクに対処することも、十分には行うことができないのが現状である。

このようなグローバル化と少子高齢化との交差によって生じる問題は、国民国家システムの中で周縁化されてきた地域社会において一層深刻な形で現れる。少子高齢化に伴う人口減少が顕著に現れるのは、産業が発達し社会資本の充実した大都市圏ではなく、地域社会である。これに加えて、近代初期から国内レベル及び国際レベルの人の移動の結節点であった大都市圏と比べて、地域社会は、労働人口の送り出しの経験はあるにしても、それを迎え入れる経験には乏しかったという現実があ

る。このような地域が抱えるグローバルな問題を見通し、個々の組織やネットワークの中で問題解決の道筋を提案し、実行に移すことのできる人材を養成することは、地域社会のただ中に位置しながら同時にグローバルな知の探究を行っている地方総合大学の社会的使命であるといえる。

グローバル化は、国内の就労者の多文化化と同時に、労働市場の世界展開を押し進める。現在、我が国では、国内企業が生産拠点を国内から中国、インド、ASEAN 諸国等へと移転させる動きが急速に進行しつつある。今後、このような動きは大企業にとどまらず、地方に拠点を持つ中小企業にも波及することが予測される。したがって、今後はこれまで以上に多くの日本人が、国外で就業する道を選択することが考えられる。しかし、従来の日本の高等教育システムは、国内の労働市場に人材を供給することに力点を置いていた。そのため、制度設計においても、人材育成においても、多様性に対応したシステムの再構築をできる限り速やかに行うことが必要となる。このシステムは、経済的な豊かさだけでなく、様々な文化的価値を指標にして設計される。グローバル化と少子高齢化に対応したこの新しいシステムを世界に先駆けて構築することによって、我が国は、21 世紀の多文化社会における先導的なモデルとなる。

とりわけ大学においては、人材育成をその責務の1つとするがゆえに、今後、卒業生の就職先が国内企業であるか海外企業であるかを問わず、国外での就労割合が大きくなっていくことは不可避であり、グローバル化という現実に対応した人材育成システムの構築が必須となる。

このように、グローバルな問題と対峙しつつ地域社会の発展に貢献する人材に対する需要と、国境を越えて世界の多様な出来事の現場でリーダーシップを発揮する人材に対する需要とは、同一の構造変化の結果として生じているのであり、これこそがグローカリティを基軸に据えた学びと能力を提供する高等教育システムが必要とされる所以である。

ウ 長崎大学に設置する意義

長崎大学は、「長崎に根づく伝統的文化を継承しつつ、豊かな心を育み、地球の平和を支える科学を創造することによって、社会の調和的発展に貢献する」という理念を掲げ、これを実現するために「現場に強い、危機に強い、行動力のある」人材を育成し、21 世紀の知的基盤社会をリードすることを目指している。そのための重要教育目標の1つは、グローバル化時代の国際的な現場でリーダーシップを発揮することのできる人材を育成することである。

この目標に適う文系の人材は、社会科学系の知識とともに、人文学系の知識を併せ持つことによって、社会のグローバル化とそれに伴って生起する多文化状況の中で必要とされる人間力と社会力を身に付けた人材である。このような人材を全学的に育成するためのドライビングフォースとして構想されたのが本学部である。本学部は、人文社会系の諸領域を「多様性」の観点から再編・統合し、それに基づく教育研究を展開することによって、社会のグローバル化とそれに伴う多文化社会の可能性とリスクを見定め、国内外の社会的、文化的、言語的多様性を有する組織の中

でパートナーシップやリーダーシップを発揮しうる人材を育成し、21世紀の大学に課せられた社会的ニーズに応えていく。

このようなグローバル人材を育成する場として、長崎の地は最適の歴史的、文化的背景を有している。歴史的に見ると、長崎は、かつてアジア世界を牽引した中華帝国における人・物・情報の流通のネットワークにおける大陸東辺のハブとしての役割を果たしていた。五島列島は、遣唐使の時代から大陸への経由地の1つであり、長崎は、江戸幕府による鎖国後は、東アジア全域に影響を及ぼしている中国文化と南蛮学－蘭学－洋学として受容されたオランダを含むヨーロッパ文化の唯一の窓口であった。近現代の日本においても上海をはじめとする中国や東南アジア各地への海路の始点として、長崎は、アジアとの人的・物的交流の拠点であり続けた。その結果、長崎は、日本の歴史において多様な文化的共生と混淆の経験を持つこととなり、この経験は、現在においても都市アイデンティティや行政及び市民レベルの国際交流の在り方に反映している。【長崎市とライデン市〔オランダ〕において市民友好都市を締結】

このような歴史的、文化的背景を持つ地にあつて、長崎大学は、我が国における西洋医学教育の祖ポンペ（オランダ海軍軍医）が150年前に開いた医学伝習所に起源を持つ医学部や、日露戦争後に我が国のアジアへの進出を展望して設立された長崎高等商業学校に起源を持つ経済学部、さらには、東アジアや東南アジアを視野に入れた長崎医科大学附属東亜風土病研究所に起源を持つ熱帯医学研究所や経済学部東南アジア研究所などを附置し、常にアジアをはじめとする国際社会への窓口としての役割を果たすことを企図してきた。さらに、近年では熱帯医学研究所や原爆後障害医療研究所を中心にケニア、ベトナム、ベラルーシに拠点を設け、その国際的な活動を地球規模にまで拡大させている。

1945年8月、長崎は、原子爆弾による惨禍を被った。その後、長崎は、国際平和都市という理念に基づいて、「人々の幸福と人類の発展は平和であつてこそ実現しうる」ということを、自らの歴史的体験に基づいて世界に発信してきた。このような経緯を踏まえて、原爆後障害医療研究所の前身、原爆後障害医療研究施設が設置された50年後の2012年4月に、本学に核兵器廃絶に関する研究を推進し、政策提言する核兵器廃絶研究センターが附置され、長崎市・長崎県等との連携の下、国内にとどまらず国際的な活動を進める体制が整った。これを踏まえて、現代的課題に応える社会科学の教育研究という観点から、本学部の教育には、核兵器廃絶研究センターの教員も参画する。以上の歴史的背景と大学のリソースを前提として、世界の持続的発展と平和を展望し、グローバル化時代の新しい多文化共生の在り方を探究する学部を長崎大学に新設することは、まさに歴史的な意義を持っているといえる。

エ 革新的な特色ある取組【資料1】

本学は、従来とは異なる先進的な学士課程教育を全学レベルで推進することを教育改革の主眼としており、そのためにも学長のリーダーシップに基づく学部ガバナンスを実現することを目指している。このような本学の改革のドライビングフォースとなるために、本学部は、入試から学士課程教育全般にわたり次のような取組を

行うとともに、学長主導の学部ガバナンスを実行する。

(7) 特色ある入試

センター試験英語の資格試験化、TOEFL 等スコアの活用、英語の得点の重視（傾斜配分）等、英語力を重視するとともに、個別学力検査では批判的・論理的思考力、ライティング能力を検査する本学部独自の批判的・論理的思考力テストを実施する。

(イ) 準秋入学制 (Transition Program) 【資料 2】

入学後、1 年次前期に、英語と大学入門科目のみを集中的に履修させる Transition Program を実施し、専門教育に係る授業の開始は 1 年次後期とする（準秋入学制）。ただし、入学時 TOEFL 等高得点者には、講義の受講に代えて、約半年間の国際的なボランティア、インターンシップ、フィールドワークへ参加させることによって、英語力の一層のブラッシュアップと社会認識の深化を図る。

(ウ) 学生を徹底して鍛える学習環境 【資料 3】

平成 26 年度から本学に導入されるノート PC 必携化及び平成 25 年秋から本学に導入されるラーニングポートフォリオや e-Learning システム、さらには、教員と学生とのコミュニケーションを円滑にするための授業単位の SNS を備えた長崎大学主体的学修支援システム (Learning Assessment and Communication System : LACS 【資料 4】) を活用する。これに加えて、学部独自の取組として、学修や留学等の相談役でありアドバイザーであるコーチングフェローを置き、学生を徹底して鍛えるきめ細かな学修支援体制を構築する。

(エ) 外国語教育の充実、留学の必修化 【資料 5】

外国語教育は教養教育の外国語科目と学部専門教育の外国語モジュール（英語、中国語、オランダ語）から編成され、入学から卒業までの一貫した体制を整備する。さらに、英語による授業を実施し、外国語教育と専門教育との融合を図る。卒業時 TOEFL PBT600 点 (iBT100 点) という高度の英語運用能力を達成目標に設定し、その達成に向けて徹底かつ系統的な英語教育を行う。また、外国語運用能力の向上を図り、多文化状況を体験させるため、全員必修の短期留学から一部のコースにおいて必修とする中期・長期の留学を設定している。中期・長期の留学のための要件として TOEFL PBT550 点 (iBT79 点) を課す。

(オ) ナンバリング制とモジュール—コースによる専門教育

平成 24 年度から本学の教養教育で開始されたモジュール（一定の教育目的の下に編成された授業科目群）を専門教育においても全面的に導入し、共通基礎を経て専門に至る授業科目をモジュールに編成し、各モジュールの授業科目をナンバリング【資料 6】に基づいて履修することをコースワークの内容とする斬新な専門教育を実現する。コースは、次の 4 つからなる。

・グローバル社会コース

グローバル化する世界に法学、政治学、経済学、経営学分野からアプローチする。

・社会動態コース

グローバル化する世界の社会と文化の変容に社会学、文化人類学、歴史学分

野からアプローチする。

・共生文化コース

グローバル化する世界の文化的多様性に思想，文化，表象，メディア，言語分野からアプローチする。

・オランダ特別コース

グローバル化する世界をオランダの言語，歴史，文化，現代社会を通して理解する。1年間のライデン大学留学が必須。

(カ) グローバル教育環境の実現

本学部のほぼ半数の授業科目は英語を中心に外国語によって行われる。また，本学部の専任教員の30%近くは外国籍及び外国出身の教員であり，専任教員の80%近くが1年以上の海外留学や海外での教育・研究を経験しているなど，本学はグローバル教育環境，多文化キャンパスを実現している。

(キ) 学長主導の学部ガバナンス

本学は，学長のリーダーシップの下，学長が学部長を指名するとともに，教学担当の理事を学部運営会議に参画させることにより，学部長のイニシアチブを十分発揮できる学部ガバナンスを実現する。また，人事給与システムを抜本的に改革し，一定年齢以上の定年制職員に対して新たな年俸制を導入することにより，常勤職員雇用枠の増を図り，外国人教員，若手教員，女性教員等を積極的に採用していく。

オ 研究対象とする主たる学問分野

大学における教育は，研究と切り離して考えることはできない。従来とは異なった斬新かつ特色ある教育を実現するためには，教員の研究分野や研究スタイルはもちろん，研究組織の在り方に留意して学部システムを設計し，教育と研究との間で相乗効果を生み出すことが必要である。本学は，社会的・文化的・言語的多様性の視点から，既存の人文社会系の学問分野を横断的に再編することによって，新たな学びの領域としての「多文化社会」学を創り出すことを目指しており，研究の柱を構成するのは以下の基礎的学問分野である。

- ① 政治学，法学，経済学，経営学を基盤的分野とし，グローバル化時代における政治経済システムの特質を明らかにしていく分野
- ② 社会学，人類学，歴史学を基盤的分野とし，グローバル化時代における社会動態・社会変容の実相をフィールド調査に基づき明らかにしていく分野
- ③ 文化学，思想学，言語学を基盤的分野とし，グローバル化時代における人間と文化の在り方を，自己と他者の相互関係，自己認識と他者理解の相関関係を軸に明らかにしていく分野

これらの分野の研究は，グローバル化の進展とそれに由来する多文化状況の政治的，経済的，文化的特質を明らかにするとともに，それらがもたらすリスクや社会病理を解決していくための臨床的な役割をも果たす。

(2) 多文化社会学部が育成する人材

ア 長崎大学共有学士像

本学は、平成 22 年度に、育成すべき長崎大学ブランドのグローバル人材像の明確化を目的として、次の 4 項目からなる「長崎大学共有学士像」を策定し、学士力保証に向け新たな取組を開始した。

- ① 研究者や専門職業人としての基盤的知識を有する。
- ② 自ら学び、考え、主張し、行動変革する素養を有する。
- ③ 環境や多様性の意義が認識できる。
- ④ 地球と地域社会及び将来世代に貢献する志を有する。

イ 本学部のディプロマポリシー

このような全学的方針に沿って設置される本学部は、「グローバル化時代の多文化社会において必要とされる人間力と社会力」を身に付け、多様な文化的背景を持つ人々と協働し、グローバル化する社会を担い、たくましく生き抜く力を有するグローバル人材を世界に送り出すことを教育目的としている。本学共有学士像を踏まえ、本学部が育成する学士像（ディプロマポリシー）は次のとおりである。

- ① 高度の英語力（TOEFL PBT600 点（iBT100 点））を有し、グローバル化する世界における多文化状況において、英語でコミュニケーション及びプレゼンテーションができる。
- ② グローバル化する世界における多文化状況に関する基盤的知識を有し、文化的多様性の意義を理解できる。
- ③ グローバル化する世界における多文化状況の中で、人々と共生的な関係を築き、問題解決に向けて、パートナーシップやリーダーシップを発揮して行動することができる。

ウ 本学部のカリキュラムポリシー

このような本学部の学士像を実現するためには、英語運用能力強化のための系統立った教育を徹底して行うことが大前提となる。加えて、既存の人文社会系の学問分野をグローバル化時代の多文化社会という視点から俯瞰するとともに、既存の諸分野の境界を越えた知の枠組みの再編を具体的な事例に即して経験することが肝要である。教室やキャンパスにとどまらず、国内外の様々な出来事の現場で行動し発信することにより、知識をグローバル社会の現実に結び付ける経験も必要となる。これらの要素が連動することにより初めて本学部が育成しようとする人間力と社会力が修得される。

これを実現するための具体的方策として、1 年次前期の半年間を英語力の飛躍的底上げを主眼とした準備期間と位置付け、TOEFL PBT500（iBT61）を中心的到達目標とする Transition Program を課す。Transition Program は、週 7 コマの英語授業、英語合宿、夏期集中講座等の英語授業と大学入門科目（教養ゼミナール等）に自宅学習時間を加えて総計約 1,000 時間の学習を想定する。【資料 2】

その上で1 年次 10 月より本格的な学部教育を開始する（準秋入学制）。学部教育

は、全学共通の教養教育と、学部独自の専門教育である3つのステージ、2つのスキル、2つのプラクティスからなるモジュールによって編成され、いずれの授業科目においてもアクティブ・ラーニングを実施する（カリキュラムポリシー）。【資料7】

- ① 学生は3つのステージ、すなわち、世界の諸地域に生起する問題を把握するステージ（学部モジュール「多文化社会の諸問題」）から始まり、多文化社会の多様な今日的課題とその背景を理解する切り口を学ぶステージ（共通基礎モジュール）、そしてより深くそれらを学ぶステージ（専門モジュール）へと進み、コースワークを履修する。これらの授業科目の50%以上は、英語により行われる。
- ② これらと並行して、学生は2つのスキル、すなわち語学（英語及び中国語モジュール）と調査を軸としたジェネリックスキル（フィールドワークモジュール）を習得し、学びのためのツールを手に入れる。
- ③ さらに2つのプラクティス、すなわち海外留学（短期、中期・長期）とフィールドワーク（国内外）を通して、グローバル人材に不可欠の「自ら学び、考え、主張し、行動変革する素養」を身に付ける。

海外留学（短期）を全学生に義務付け、「グローバル社会コース」及び「オランダ特別コース」を選択した者には、中期・長期の留学を義務付ける。中期・長期留学に当たっては、修得単位数80単位以上（3年次後期から留学する場合）、GPA3.5以上、かつ、TOEFL PBT550点（iBT79点）以上を必須条件とする。

英語運用能力については、Transition Program、英語モジュール、英語による専門科目授業、海外留学からなる系統立った、一貫教育を入学から卒業まで実施することより、TOEFL PBT600点（iBT100点）の卒業時目標を達成させる。【資料5】

2 学生確保の見通しと社会的な人材需要

(1) 学生確保の見通し

ア 全国から期待されるニーズ

本学部は、斬新かつ特色あるカリキュラムによって、我が国がグローバル化の中で直面する課題に応えるための人材の育成を目指している。グローバル人材育成のための徹底した英語教育及び学生を鍛える環境や支援体制は、グローバル化に即応した教育を求める高校生の関心を引き、出口の専門性に配慮し長崎の特色あるリソースを活用した高度かつ個性的な専門教育は、文系志向の優秀な高校生の知的好奇心を惹起することが見込まれる。それゆえ、本邦唯一のオランダ特別コースのみならず、学部全体として、全国から志のある受験生を受け入れることを想定している。

一方で、知のリージョナルセンターとしての地方総合大学に存する人文社会学部として、地域の文系志向受験生の受け皿となるとともに、地域を担う文系人材を輩出する役割も大きい。

したがって以下では、地域における具体的にニーズに関する調査結果を中心にして学生確保の見通しについて説明する。すなわち、地域におけるニーズに関する調査データを軸にして、受験生を十分に確保できることが予測されるならば、実際には、長崎及び西九州地域のみならず全国から志願者が集まることが予想されるため、受験者数はこの予測値を上回る可能性が高いと解釈しうるのである。

イ 受験生からのニーズ【資料 8 (1)】

少子高齢化時代における 18 歳人口の減少を鑑みるに、高等教育機関にとって志願者の確保は、大学の所在地に関わらず極めて重要な課題である。他方で、長崎県内の国公立大学における、経済学部を除く文系学部の定員は、長崎県立大学の国際情報学部の 140 名のみであり、教育学部の社会、国語、英語コース計 24 名を加えたとしても、164 名の定員を数えるに過ぎない。これは、全国の都道府県の中でも小さい値である。このため、経済学部以外の国公立大学志望者が県外に流出するという問題が、戦後一貫して高等学校、保護者、受験生から指摘され続けてきた。すなわち、本学部に対する受験生からのニーズを把握するためには、全国レベルの構造的要因と地域固有の構造的要因を併せて考察する必要がある。

以上を前提として、受験生からのニーズをまずは地域の位相において確認するため、平成 24 年度入試において本学文系学部（教育学部、経済学部及び環境科学部）への志願実績が 5 名以上ある長崎県内の高等学校 25 校の 2 年生を対象にしたアンケート調査を平成 24 年 10 月に実施したところ、23 校（5,121 名）から回答を得た（回答率 92.0%）。平成 23 年度の学校基本調査によれば、長崎県の高校 3 年生のうち 6,148 名が高等教育機関に進学している。このことから、今回のアンケート調査データは、長崎県内の進学動向の 85%程度を捕捉しているといえる。

回答を得た 23 校の生徒のうち、多文化社会学部への入学希望者として想定される次の①～④の全てに該当する者は 738 名であった。

① 現在、文系クラスに所属

- ② 国公立大学への進学を希望
- ③ 長崎県内の大学へ進学希望，又は長崎県内の大学へ進学したいが現時点で県内に進学したい分野の学部がないために県外の大学へ進学希望
- ④ 多文化社会学部の基盤となる「人文科学」，「社会科学」及び「複合・学際系」の分野への進学を希望

つまり，この 738 名が長崎県内の国公立大学の文系学部を志願している高校 2 年生であると考えられる。

この 738 名のうち，「多文化社会学部へぜひ進学したい」と回答した者は 95 名（12.9%），「多文化社会学部を進学の候補として検討したい」と回答した者は 384 名（52.0%）である。両者を合計すると 479 名（64.9%）が，多文化社会学部に対して高い関心を持っていることになる。

この 738 名のうち，長崎県内の大学へ進学したいが現時点で県内に進学したい分野の学部がないために県外の大学へ進学希望（以下「県外流出者」という。）は 288 名で，このうち「多文化社会学部へぜひ進学したい」と回答した者は 39 名（13.5%），「多文化社会学部を進学の候補として検討したい」と回答した者は 157 名（54.5%）である。両者を合計すると 196 名（68.1%）という結果になり，現時点で県外流出の可能性が高い高校生の間では，更に多文化社会学部に対して高い関心があることがうかがえる。

上記したように，本学部のグローバル化時代の諸課題に即応した斬新かつ特色あるカリキュラムは，地域の受験生はもちろんのこと，全国の受験生にとっても魅力を有するものであるため，受験生が全国レベルで移動する医学部の場合と類似した出身地域の分布を示すと予想できる。最近 3 年間の本学医学部入学者の長崎県出身者の割合は 30.2% である。それゆえ，長崎県内に「多文化社会学部へぜひ進学したい」と考える高校 2 年生が 95 名存在するというデータに基づけば，同様の考えを持つ高校 2 年生が県外に 220 名存在するという予測が成り立つ。同じく，長崎県内に「多文化社会学部を進学の候補として検討したい」と考える高校 2 年生が 384 名存在するというデータに基づけば，同様の考えを持つ高校 2 年生が県外に 888 名存在するという予測が成り立つ。つまり，「ぜひ進学したい」と考える高校 2 年生が 315 名，「候補として検討したい」と考える高校 2 年生が 1,272 名存在するということになる。

「ぜひ進学したい」と考える高校 2 年生 315 名と「候補として検討したい」と考える高校 2 年生 1,272 名のうち 20%（254 名）が実際に受験すると仮定し，入学定員を 100 名とした場合（詳細は後述），受験者は 569 名となる。実際には，既述のとおり，アンケート調査の県内高校生の捕捉率が 85% 程度であること及び学校基本調査データに基づく浪人を経た大学入学者の比率 16.4% である点を考慮に入れて補正すると，「ぜひ進学したい」と考える受験者は 382 名，「候補として検討したい」と考える受験者は 1,546 名であり，うち 20% が実際に受験すると仮定すれば 309 名となる。したがって，平成 26 年度の受験者数は 691 名，志願者倍率 6.9 倍となるものと推測できる。

「平成 24 年度国公立大学入学者選抜確定志願状況」に基づけば，平成 24 年度入

試における、国公立大学の志願者倍率は、法学系 4.8 倍、経済系 5.4 倍、人文系 5.0 倍である。仮に長崎県の 18 歳人口が「平成 22 年度中央教育審議会大学分科会報告」の予測どおり、平成 22 年から平成 32 年の期間に 17%減少したとしても、志願者倍率は 5.7 倍を維持できることになる。以上のことから、本学部には、国立大学に設置される学部を維持するに十分な受験生を確保することはほぼ確実であると考えられる。

ウ 高等学校からのニーズ【資料 8 (2)】

高校生を対象にしたアンケートと同様に、平成 24 年度入試において、本学文系学部への志願実績が 5 名以上ある九州及び山口県の高等学校 122 校の進路指導教諭を対象としたアンケート調査を平成 24 年 10 月に実施したところ、60 名（長崎県内 19 名、長崎県外 41 名）から回答を得た（回収率 49.2%）。

現在、本学は 8 つの学部（教育学部、経済学部、医学部、歯学部、薬学部、工学部、環境科学部、水産学部）を有しているが、本学に、新たに人文科学系及び社会科学系の学部が必要かとの問いに対し、「ぜひ必要だと思う」及び「必要だと思う」と回答した教諭は、合計すると 55 名（91.7%）であった。県内の高等学校の進路指導教諭に絞って集計すると、「ぜひ必要だと思う」及び「必要だと思う」と回答した教諭は 18 名（94.7%）と、更に高い数値となった。県内の進路指導教諭の場合、「ぜひ必要だと思う」を選択した者のみで 57.9%を占めており、受験生からのニーズを明確に裏付ける結果となった。

以上のことから、本学に対し、新制大学として発足以来、設置されないままであった人文学・社会科学系学部の設置は、本学文系学部への志願実績のある高等学校から広範な支持を得ており、とりわけ長崎県内においては極めて強く切望されていることが明らかとなった。

また、「多文化社会学部が設置された場合、生徒に進学を薦めたいか」との問いに対し、「ぜひ薦めたい」及び「候補として検討したい」と回答した教諭は、県内及び県外を合計すると 56 名（93.3%）、県内に絞ると 19 名（100%）であり、本学部に対して高い評価と関心が共有されていることがうかがえる。

エ 外国人留学生のニーズ

本学部は、外国人留学生を 1 年次より受け入れる。長崎大学では、環境科学部、経済学部、教育学部において毎年 65 名程度の文系の外国人留学生を受け入れているが、志願者は受け入れ枠を上まわっている。それゆえ本学部でも 1 学年に外国人留学生を受け入れることによって学生の出身国レベルでの多様性と教育の質のバランスを実現しうる。また、2 年次以降に関しては、セメスター単位で留学する学生数に対応した交換留学生を受け入れることで、上記の多様性を一層推進するとともに、留学生の確保を安定的なものにする。

「短期留学推進制度」の下で、短期留学プログラムを利用して本学に留学している文系の留学生及び大学間協定に基づいて長期留学しているライデン大学からの留学生の専門分野や授業選択の動向は、日本や東アジアの社会、歴史、文化、言語に

に対するニーズが非常に高いことを示している。これまでは教育学部、経済学部、環境科学部がこうした留学生のニーズに対応してきたが、本学部は、日本と東アジアをフィールドとする多様な専門分野の教員と、日本語教員基礎資格取得を軸にした日本研究関連の科目群を用意している。これによって、留学生に日本の社会、歴史、文化を理解させ、高度な日本語運用能力と日本語教員基礎資格を与えることが可能になる。留学生は、帰国後日本のよき理解者として文化的な外交と安全保障の一端を担っていくことが期待される。

(2) 人材需要の見通し

一般社団法人日本経済団体連合会は、2011年6月14日「グローバル人材の育成に向けた提言」において、同連合会が「事業活動のグローバル化に対応した人事戦略の方向性」についてアンケート調査を行った結果、「海外赴任を前提とした日本人の採用・育成を拡充する」と回答した企業が40%に達したことを受けて、産業界ではグローバル人材への期待が高まっている旨を報告している。

長崎県、長崎市、長崎大学及び長崎県商工会議所等の経済団体は、今後の長崎の発展を図るため、長崎サミット（長崎都市経営戦略推進会議）を組織している。同サミットの最重点目標の1つが、長崎までの新幹線長崎ルートと中国大陸の新幹線を上海航路で結び、長崎を再びアジアへの窓口として復活させようというアジア・ゲートウェイ構想である。この構想を具現化するために、長崎県や県内経済諸団体は、グローバル人材の育成を目指す新しい学部が長崎大学に設置されることを切望している。【資料9】

また、オランダ王国からは、過去から現在に至るまで政治・経済・文化的側面から世界に影響力を発揮し続けてきたオランダの言語、社会制度、文化等を学ぶことのできる本邦唯一の教育プログラムを提供する本学部の「オランダ特別コース」に対して、強い期待が寄せられている。【資料10】

これらのことを踏まえ、本学文系学部卒業生の過去3年間の就職先から抽出した企業、団体等300社に対しアンケート調査を実施したところ、89社から回答を得た（回答率29.7%）。

「多文化社会学部が設置された場合、卒業生の採用についてどう考えるか」との問いに対し、「ぜひ採用したい」と回答した企業は22社（24.7%）、「採用について検討したい」と回答した企業は38社（42.7%）であり、両者を合計すると60社（67.4%）が、本学部の卒業生の採用について前向きであることがわかる。【資料8(3)】

また、「多文化社会学部について意見（自由記述）」を求めたところ、産業界等からも「海外展開を始めており興味があります。特にアジア圏に力を入れて頂けば、採用につながると思います。」といった声をはじめ、多様な期待が寄せられていることが明らかとなった。【資料8(5)】

以上の調査結果からは、本学部の教育理念、カリキュラム、社会に送り出す人材に対する、産業界等からの期待が極めて高いことがわかる。グローバル化とそれに伴う多文化状況の進展の中で、継続的に利潤を生み出し、組織を維持発展させていくことを使命とする企業、団体等が、本学部の人材育成の基本理念に基づいて4年間の学び

を経験した学生を、将来を担う人材として強く期待していることが量と質、両方のデータから明らかになった。

(1)から(2)の調査及び予測からわかるように、長崎大学が多文化社会学部を設置することは、入りのレベルすなわち受験生・高等学校においても、出口のレベルすなわち産業界等においても非常に強く期待されている。本学部は、全国に先駆けてグローバル化時代の多文化社会状況に対応した教育を体系的かつ徹底的に施すことによって、長崎県及び周辺の九州山口地区のみならず全国からの志願者が集まることも想定している。これらの調査及び予測結果は、本学部を設置することが国立大学としての社会的役割を果たすこと、さらには21世紀における社会的意義を有することを証するものである。

(3) 卒業後の具体的進路【資料11】

多文化社会学部の学士課程教育は、世界のグローバル化に伴う多文化社会のただ中で活躍できる人材を育成するため、短期及び中期・長期の留学を含む系統的な英語を主とする外国語教育及び多文化社会に関する体系的かつinterdisciplinaryな専門教育とともに、1年次前期の「グローバルキャリアへの扉」から始まるキャリア教育を柱としている。このような学士課程教育により、本学部の卒業生は、人文社会系のグローバル人材として、英語を主とする高度な外国語運用能力をはじめ、多文化社会に関する諸問題を解決していくための知識や技能とともに、自主性や自己管理能力、問題に立ち向かっていくチャレンジ精神、困難に耐えそれを克服しようとする忍耐力等のグローバル人材に必要とされる資質を身に付ける。また、本学部の学生は本学部の特色ある学士課程教育の履修によって専門性を身に付け、卒業時には、グローバル社会、社会動態、共生文化の3コース及びオランダ特別コースのコースワークを履修した4タイプの学生が本学部を旅立つ。

グローバル社会コースを修了した学生は、グローバル世界を俯瞰しその基盤と「仕組み」に関する知識を修得するとともに、短期留学のみならず中期・長期の留学を体験し、コースの専門性を担保する専門モジュール「グローバル化する世界」の12科目は全て英語で開講されることに示されるように、高度の英語運用能力と国際感覚を身に付けている。このコースの卒業生の進路として、グローバルに事業を展開する内外の企業、国際的なNGOやNPO、公的機関の国際交流担当職等が考えられる。さらに、国際機関等への就職や研究者を目指す学生は、国内外の大学院に進学し専門性を磨くことが期待される。

社会動態コースを修了した学生は、グローバル化の中で変容する社会と文化に関する知識を修得するとともに、コースの専門性を担保する専門モジュール「変容する社会」の授業科目のほとんどがフィールドワークに関する内容を含んでおり、それに基づいて演習を実施するものであることから、フィールドワーカーとしての技能を身に付けている。このコースの卒業生の進路として、英語の運用能力と実践的なりサーチスキルを生かして、グローバルに事業を展開する内外の企業、途上国ビジネスを展開するグローバル企業、海外支援活動を行っているNPOやNGO等が考えられる。さらに、

発展途上国での開発援助や開発機関におけるプロジェクトの専門家・研究者を目指す学生は、国内外の大学院に進学し専門性を磨くことが期待される。

共生文化コースを修了した学生は、言語や文化に関する深い理解を踏まえグローバル化時代における文化的多様性に関する知識を修得するとともに、異なった文化の共生に関する実践的な知恵と作法を身に付けている。このコースの卒業生の進路として、英語の運用能力を身に付け言語や文化を深く理解していることから、グローバルに事業を展開する内外の企業、公的機関の国際交流担当職、日本文化の紹介や文化交流に関わる NGO や NPO、外国での日本語教師、高等学校の英語教員等が考えられる。さらに、言語や文化に関する研究者を目指す学生は、国内外の大学院に進学し専門性を磨くことが期待される。

オランダ特別コースを修了した学生は、ライデン大学への中期・長期留学や専門モジュール「オランダ」に示されるように、オランダを媒介として近代世界の歴史的意義や EU を中心とするヨーロッパ世界に関する知識を修得するとともに、多文化社会であり様々な実験的な政策を施行しているオランダ社会を体験することにより、高度の英語運用能力と国際感覚を身に付けている。このコースの卒業生の進路として、オランダを始め欧米系の企業や欧米に拠点を持つ日本企業、国際的な NGO や NPO 等が考えられる。国際機関等への就職や研究者を目指す学生は、より専門的な人文社会系の知識を修得するために、ライデン大学をはじめ国内外の大学院へ進学し専門性を磨くことが期待される。

(4) 入学定員との関連性

本学部は、3つのコースと1つの特別コースを設定することによって専門性を担保している。顔の見える教育、相互作用のある学びを提供するため、各コースは概ね30名規模、特別コースは10名を想定しており、学部全体の入学定員を100名としている。

本学部の専任教員は30名であり、1学年における専任教員1人当たりの学生は3.3名となる。このことから、学生への教育上の質は担保されている。上述の受験生、高等学校、産業界等からのニーズの予測に加えて一定数の大学院進学者が見込まれることを考慮すれば、入学者を安定的に確保し、卒業生を確実に就職ないし大学院進学へと導きうる入学定員として100名を設定することは適正であると考えられる。

(5) オランダ特別コースへのニーズ

長崎及び長崎大学と密接な関係にあるオランダは、環境、人権、マイノリティ、労働制度等に関する先進的試みで知られる「実験国家」であり、現代世界が直面する諸問題の縮図として捉えることができる。このような先進の実験国家で起きている諸事例を学ぶことは、日本の今後を考える上で非常に得るところが多い。さらに、近年の日本からの対外投資及びオランダから日本への直接投資は、共にEU諸国内で第1位であることから(2011年日本銀行国際収支統計)、経済的関係は非常に強く、今後もその関係は維持されるものとみられ、グローバル化時代における日蘭関係を学ぶ意義は増しつつある。

さらに、EU が国境の持つ意味を少なくし、「多様性の中の統一」という困難な課題に取り組む国家連合であることを考えれば、EU における交通の要衝であり、物流の拠点でもあるオランダを知ることは、単に人口 1,670 万人の中規模国について学ぶというよりも、ヨーロッパ、ひいては 21 世紀の世界を見通すまなざしを得ることである。オランダ語が公用語であるオランダやベルギーは、国際司法裁判所や EU 本部などが置かれ、国際的に重要な位置にあり、オランダ語圏について学ぶことは、グローバルな社会科学についての知見を得る上で極めて有益であると考えられる。

江戸時代の蘭学もまた、オランダそれ自体について学ぶというよりも、オランダ語で書かれた文献を通して、ヨーロッパ、さらには世界を知るためのものであった。そして「オランダ特別コース」も、日本-オランダ関係を起点として、アジア-ヨーロッパ関係を俯瞰することを想定している。我が国が近年のアジア欧州会合 (ASEM) に積極的に参加していることに見られるように、今後より強まると予想される日欧関係に携わる人材の育成を「オランダ特別コース」は企図しているのである。

さらに、グローバルな物流・交通のハブであるオランダには、日本企業の 450 社以上が支社を置き、88 社がヨーロッパ本部を置くなど、日本とは経済的に深い関係にある、それゆえオランダに留学することは、卒業後、グローバルに活躍する人材の育成にとって極めて有意義である。

以上のようなヨーロッパあるいは世界におけるオランダの社会・文化的位置は、本学部を志す学生にとっても非常に興味深いものであり、本学部に「オランダ特別コース」を設置することの意義を、入試広報活動の中で周知することによって定員 (10 名) を確保できると考える。

3 多文化社会学部多文化社会学科の特色

多文化社会学部において育成される人材は、グローバル化がもたらす多文化社会をめぐる諸問題の解決を構想、発信、実行していくための能力を有し、グローバル社会で活躍することのできる人材である。かかる人材を育成するために、本学が国立大学としての役割を果たす中で歴史的に構築してきた豊かなリソースを有効かつ適切に配分し、さらに以下の先進的な学士課程教育及び学長のリーダーシップに基づく学部ガバナンスを実現し、これによって本学部に本学のみならず 21 世紀の大学改革のドライビングフォースとしての役割を持たせる。

(1) 入学から卒業に至る一貫した体系的取組による高度な英語力の修得【資料 5】

入試におけるセンター試験英語の資格試験化及び TOEFL 等スコア (TOEFL PBT500 点 (iBT61 点) 以上, TOEIC650 点以上又は英検準 1 級以上) の活用, 英語の得点の重視 (傾斜配分) に始まり, 英語力の短期集中アップを含む 1 年次前期における Transition Program (準秋入学制)【資料 2】の設定, 短期留学の必須化, 中期・長期留学要件としての TOEFL スコアの設定 (TOEFL PBT550 点 (iBT79 点) 以上), 英語による授業の大幅導入, 卒業時の目標値としての TOEFL スコアの設定 (TOEFL PBT600 点 (iBT100 点) 以上) 等, TOEFL スコアで履修状況を点検する入学から卒業に至る一貫した英語教育体制を構築する。

(2) ナンバリング制とモジュールコースによる専門教育カリキュラム

本学の教養教育において既に実績のあるモジュール (一定の教育目的の下に編成された授業科目群) を全面的に導入し, 学部教育への導入から共通基礎を経て専門に至る授業科目をモジュールとして編成するとともに, 授業科目の学修序列を示すナンバリング【資料 6】に基づく履修をコースワークの内容とする斬新なカリキュラムを導入する。モジュールコースによる体系化された専門教育を履修することによって, 高度な英語力とともに本学部の学士課程教育の 2 本目の柱であるグローバル社会で活躍するための専門的知識と技能を身に付けることができる。

(3) 地域から世界へ～長崎に根差した教育によるグローカリティの涵養～

長崎のオランダ及び中国との異文化交流の歴史や, 熱帯医学研究所を中心に長年にわたって蓄積されてきたアフリカを中心とした途上国フィールドにおける教育研究基盤等, 他にはない本学の背景及び教育資源を, 多文化社会理解のための糸口, 切り口とするとともに教育フィールドとして活用する。これにより, 他大学には追随できない特色あるカリキュラムを学生に提供することができる。特に, 「オランダ特別コース」は, 過去から現在に至るまで数百年にわたって, 政治・経済・文化的側面において世界に影響力を発揮し続けてきたオランダの言語, 社会制度, 文化等を学ぶことを通して, 確とした歴史観を持ったグローバル人材を育成できる本邦唯一の教育プログラムを用意している。

(4) 学生が主体的に学ぶとともに学生を徹底して鍛えるカリキュラムと教育環境

高度な英語力を身に付けるとともに、グローバル化がもたらす多文化社会の現状を従来の学問の枠を超えて把握し諸問題の解決を構想していくためには、授業の場のみならず、予習・復習の徹底と旺盛な自学自習が求められる。これを実現するために、本学部は以下のカリキュラム及び教育環境を整備する。

ア 学生の主体的学びをサポートするコーチングフェロー【資料3】

本学部の学士課程教育の従来にない特長の1つは、教員と学生を媒介するコーチングフェローを設けたことである。コーチングフェローは、副学部長（教育担当）の直轄下に配置され、コーディネーターを務める2名の教員（助教）の下、組織的に教育、生活面でのサポーター的な存在として学生を指導する。本学部の学士課程教育は、アクティブ・ラーニングを全面的に導入し、学生自身の主体的で旺盛な自学自習を不可欠の前提としている。そのために、授業を担当する教員とは別にコーチングフェローを置き、学生の自学自習を励まし、履修や留学の相談にきめ細かに対応できる体制を整える。

イ ICT を活用した自学自習体制

学生が自らの履修状況を常に点検し、旺盛な自学自習を習慣化していくためには、個々の学生の履修状況を全体的にまた授業科目ごとに視覚化して提供する（ラーニングポートフォリオ）ことが必須であり、同時に授業科目を担当する教員に学生の履修状況（出欠、レポート等の提出、成績等）を視覚化して提供する（ティーチングポートフォリオ）ことも、教員が自らの授業を不断に改善していくために不可欠である。これに関連して、アクティブ・ラーニングを授業の場以外に広げていくために、既に導入されている e-Learning（英語の場合はオンライン CALL システム）に多様な SNS を組み込むなどして、教室の外の双方向的な学びを質量共に格段に充実させることも重要である。本学は、平成 26 年度からノート PC 必携化を決めており、平成 25 年秋から導入する長崎大学主体的学修支援システム（Learning Assessment and Communication System : LACS）【資料4】と合わせ、ICT を多元的に活用した自学自習体制を整備する。

(5) 大学改革を大きく促進させる学部ガバナンス【資料3】

本学は、学長のリーダーシップの下、各部局が一体となって本学のミッションを実施する大学ガバナンスを推進している。本学部は、学長に指名された学部長と教学担当理事が連携し、学部長がスピード感を持ってイニシアチブを十分発揮できる学部ガバナンスを実現し、学部改革において先導的役割を果たす。そのためにも、学部長の下に置かれる学部運営会議、教学事項に審議事項を精選した教授会の役割を明確化し、従来の教務委員会に代わって設けられる学士課程教育委員会の機能を十全に発揮させる。

また、外国人教員、若手教員、女性教員等を積極的に採用し、グローバル教育環境を更に改善していくために、人事給与システムを抜本的に改革し、従来の枠を超えた年俸制を実施する。

4 学部、学科等の名称及び学位の名称

(1) 多文化社会学部 多文化社会学科

本学部は、グローバル化に伴って生起する「社会の多文化状況」において不可欠の存在として活躍できる人文社会系グローバル人材を育成することを設置の理念としている。そのようなグローバル人材には、コミュニケーション能力や語学力、日本に対する深い理解と異文化に対する理解、主体的に学び行動し、人々と協調して課題解決に向けて実践していく意志と能力を持つことが必須である。

異なった文化的・言語的背景を持った人びとが、同じ組織や空間で共に働き生きていく、すなわち「多文化共生」の前提は、互いの価値観や世界観を認め合うことである。宗教的・文化的・言語的背景を異にする個人（人々）が、全面的に理解と共感を分かち合うことは理想的であるが、それは常に実現可能ではないため、紛争、文化摩擦の諸問題が起こっている。より重要なのは、たとえ相互に理解不可能なもの、共感不可能なものがあったとしても、それを認めた上でなお、互いの身体や尊厳を毀損することなく、組織や共同体を運営し、地域を作り上げていく、すなわち「多文化の協働」のための話し合いや意思決定の手続きを明確にし、共有していくことである。

多文化共生社会にアプローチする枠組みに唯一の正解があるわけではなく、目的や視点によって多様な形があり得る。本学部の規模、専門性と学際性の両立、育成する人材像を前提として、いくつかの枠組みを検討する中で、私たちが本学部のコース編成として選び出した基本的枠組みは、「多文化共生社会における諸問題は、大別すれば、国家や社会といったマクロレベル、地域社会や学校などの組織や集団のメゾレベル、家族や個人といった関係のミクロレベルの3つのレベルで生起し、3つのレベルで生じる問題は、ほとんどの場合密接に関連している」という認識に基づいている。すなわち、グローバル化時代においては、国際機関・組織、企業、学校、地域、メディアのいずれもが多文化状況の中に置かれており、そこで人々が直面する諸問題は複数のレベルの要因が相互作用することによって生じている。

本学部のカリキュラムは、このような3つのレベルの問題が錯綜しているグローバル化時代の多文化状況において、他者と協働してリーダーシップやパートナーシップを発揮し、文化的共生に関わる問題解決に向け行動し得る人材を育成することを目的として設計されている。多文化状況にアプローチするために必要とされる科目を精選し、それらを一貫したテーマの科目群、すなわちモジュールとして編成し、複数のモジュールを一定の枠組みの中で選択履修させることにより、専門性と学際性の両方を担保するようにしていることがカリキュラムの特徴である。

本学部の1年生全員が必修で履修する学部モジュール「多文化社会の諸問題」（6科目12単位）は、具体的な事例を手掛かりにして、グローカリティの視点に立って本学部での4年間の学びの「地図」を与えるというコンセプトによって組み立てられている。これらの科目は、マクロ・メゾ・ミクロの3つのレベルにおいて多文化社会に生じる諸問題を概観することができるように配置されている。

学部モジュールによって与えられた多文化状況の「地図」を手に、2年次以降、学生たちは「共通基礎モジュール」、「専門モジュール」において、個々の関心や進路に

基づいて、上述の3つのレベルのいずれかに軸足を置いたコースを選択する。専門性と学際性を両立させ、多文化状況の少なくとも2つのレベルを横断する視角を身に付けた人材を育成するために、各コースは「主モジュール」と「副モジュール」を設けている。

本学部の学士課程教育では、このような認識に基づき専門分野(discipline)の隣接性と問題設定のレベルの共通性という観点から、コースは次の4つに分かれる。

「**グローバル社会コース**」：社会科学を軸にして主としてマクロなレベルで社会にアプローチするコース

「**社会動態コース**」：社会科学と人文学を媒介する社会学・文化人類学を軸にメゾレベルの人間と社会の相互作用にアプローチするコース

「**共生文化コース**」：人文学を軸にして共生に関わる思想・言語・文化にアプローチするコース

「**オランダ特別コース**」：長崎における日蘭関係という固有性を背景とし、グローカリティの観点を最も明確に出す形で、長崎においてオランダを学び、オランダにおいてヨーロッパと世界を学ぶコース

それぞれのコースは、「主モジュール」が学びの専門性の中心軸を形成し、「副モジュール」が学際的な相互補完性を担保する。

このコース編成をカリキュラムレベルで実質化するために、本学部では平成24年度から教養教育レベルで全学的に導入されているモジュール方式を、専門教育においても展開するとともに、演習等にとどまらず全ての授業科目においてアクティブ・ラーニングを実施する。このような特徴を有するカリキュラムにより、本学部の学生は、グローバル化に伴う政治経済システムの変化や様々なレベルで進行する多文化状況がもたらす社会と文化の変容を実感し、それらに関する知識を修得し、グローバル化がもたらす「多文化社会」において活躍していく意志と能力を身に付けることができる。

また、本学部の特徴的な教育として、英語で開講される講義に対応できる英語力を集中的に身に付けるための「Transition Program」、身に付いた英語力を更に伸ばすための短期及び中期・長期の海外留学、コミュニケーション力を実践的に身に付けるためのフィールドワークモジュール科目、自主企画インターンシップを体系的・有機的に取り入れていることが挙げられる。

以上の本学部の設置理念及び教育課程を踏まえ、本学部の名称を**多文化社会学部**とし、学科名称は**多文化社会学科**とする。

(2) 学士（多文化社会学）

本学部の教育目標は、「グローバル化時代の多文化社会において必要とされる人間力と社会力」を身に付けた人材を世界に送り出すこと、すなわち、「多様な文化的背景を持つ人々と協働し、グローバルに変容する社会を担い、たくましく生き抜く人材」を育成することである。

本学部は、グローバル化時代に求められる新たな学知として、グローバル化時代の多文化共生社会において、前述のマクロ・メゾ・ミクロのレベルで生起している諸問

題に焦点を当てることによって、多文化社会を研究対象とする学知＝多文化社会学を創成し教育研究する。したがって、多文化社会学は、従来の政治学、法学、経済学、経営学等の社会科学や言語学、思想学、宗教学、社会学、文化人類学等の人文学の知見を領域横断的に動員することによって、社会の多文化状況を複合的に捉えるための理論と方法を教授する新たな学問領域であり、このような領域横断的な知を、多文化状況の中でリーダーシップやパートナーシップを発揮していくための語学力と人間力を身に付けるための科目群と実践的に結び付けるカリキュラムを提供する。このような多文化社会学の創成は、科学技術・学術審議会 学術分科会の報告「リスク社会の克服と知的社会の成熟に向けた人文学及び社会科学の振興について」（平成 24 年 7 月 25 日）が指摘している「知の統合や分野を超えた総合性の視点」の確立に資するものである。

このことから、学位名称は学部の教育研究の焦点である「多文化社会」についての「学」、すなわち「多文化社会学」が適切であると考ええる。

以上により、「多文化社会」を教育研究の対象としていることから、学位に付記する専攻分野の名称を「多文化社会学」とし、本学部が授与する学位の名称を**学士（多文化社会学）**とする。

(3) 英訳名称

学部、学科及び学位の日本語名称は、多文化状況に焦点を当てた領域横断的な知という観点に基づいているのに対し、英文表記においては学位名称の国際的通用性の観点から、ベースとなる分野を明示することが適切であると判断し、学部名称は「School of Global Humanities and Social Sciences」、学位名称は「Bachelor of Humanities and Social Sciences」とすることとした。

学部：School of Global Humanities and Social Sciences

学科：Department of Global Humanities and Social Sciences

学位：Bachelor of Humanities and Social Sciences

5 教育課程の編成の考え方及び特色

(1) 教育課程編成の基本的な考え方

多文化社会学部の教育課程編成の最も大きな特色は、1年次前期を準備期間と位置付け Transition Program を導入することにより、学部教育の学事歴のスタートを1年次10月としたことである（準秋入学制）。これにより、英語によって実施される授業（約50%）を含む学部教育にスムーズに移行することができるだけでなく、留学生の受け入れや、日本人学生の海外大学への留学も容易となる。

教育課程編成の考え方に関するもう1つの特色は、本学の教養教育で平成24年度から新たに導入された「モジュール」（一定のテーマの下に体系化された授業科目群）を学部専門教育にまで展開したことである。教養教育のモジュール化は、従来の教養教育が学生の授業科目の選択や履修目的が不明確で、卒業後の人生にとっての知の基盤として不十分であるという批判に応えるものであり、吟味精選された教養教育にふさわしいテーマの下にグルーピングされた授業科目群を選択受講することにより、修得する知識と技能を明確に把握した上で、授業に参加できるようにしたものである。本学部では、このモジュールを専門教育にまで一貫して配置する。

これに連動する形で、授業科目の体系性を可視化し、海外の大学との単位互換を円滑に行うためにナンバリングシステム【資料6】を全面的に導入し、授業科目の系統性や学修段階を明示し、学生が授業科目のレベルや専門性を十分理解した上で授業科目を履修することを可能にする。本学では、全学的なナンバリングシステムの導入を企図しているが、本学部はそれに向け先導的役割を果たす。

また、出口における専門性を担保するため、本学部には、「グローバル社会コース」、「社会動態コース」、「共生文化コース」の3コースと「オランダ特別コース」を設ける。モジュールとコースの結合により、本学部の教育目標にふさわしいインターディシプリナリティ（interdisciplinarity）とグローカリティ（glocality）を兼備した特色ある学士課程教育を実現する。近年、学士課程教育の質保証や学生の主体的学びが強調され、学士課程教育のプログラム化の必要性が指摘されているが、アクティブ・ラーニングの導入やモジュールとコースの結合は、こうした課題とも親和的であり、さらに、科学技術・学術審議会 学術分科会の報告（平成24年7月25日）の人文学及び社会科学の振興に向けて「知の統合や分野を超えた総合性の視点」が必要であるという指摘に応えるものである。

(2) 教育課程の特色

ア Transition Program を導入し、1年次の前期を高校までの学びからグローバル化時代の大学における学びへと移行するための集中学習の期間とすることによって、準秋入学を実現する。

具体的には、主に英語の集中学習を行う一般入学生用のプログラムと、TOEFL 等高得点者用のプログラムの2つのプログラムを展開する。【資料2】

【一般入学生用のプログラム】

一般の入学生については、英語集中学習科目と大学入門科目（大学での学びの型を体得するための「教養ゼミナール」、多文化社会の現場での学びの土台を作る「フィールドワーク入門」及び卒業後のキャリアイメージを具体的に描くための「グローバルキャリアへの扉」）を集中的に学習することにより、英語で実施される高等教育レベルの授業に参加しうる語学力を身に付けるとともに、自らのキャリアパスを構想し、大学での学びに必要なく自ら問いを立て、自らそれに答える＞学びの姿勢とスキルを体得する。

＜英語集中学習科目＞ 計7単位

- ① 教養教育科目：「英語コミュニケーションⅠ、Ⅱ」（各1単位）、「総合英語Ⅰ、Ⅱ」（各1単位）
- ② 専門教育科目：「英語発音法」（1単位）、「Reading and WritingⅠ」（1単位）、「Reading and DiscussionⅠ」（1単位）

＜大学入門科目＞ 計6単位

- ① 教養教育科目：「教養ゼミナール」（2単位）、「グローバルキャリアへの扉」（2単位）
- ② 専門教育科目：「フィールドワーク入門」（2単位）

また、上記の正課科目のほか、英語合宿（72時間）、夏期集中講座（63時間）、英語カフェへの参加（189時間）、Program成果発表会（5時間）も受講することにより、1単位＝45時間の学習を実質化させた正課科目との合計で、1年次前期に1004時間の集中学習（「知の1000時間マラソン」）を実施する。

プログラムの実施に当たっては、(ア)教養ゼミナール担当教員、(イ)英語担当教員又は英語で開講される授業担当教員、(ウ)コーチングフェロー又は助教により指導チームを編成し、各チームが1クラス10人の学生の学修をきめ細かくサポート、エンカレッジする指導体制にして、本学部の全教員が担当する。

【TOEFL 等高得点者用のプログラム】

入学時に TOEFL PBT500 点 (iBT61 点)以上、TOEIC650 点以上又は英検準1級以上に達している学生については、英語で実施される科目を受講しうる力と大学での学びのための基本的知識を有していると思われ、1年次前期は大学での講義の受講に代えて、次のプログラムを課す。

プログラムの実施に当たっては、一般入学生の指導体制と同様に、教員がチームを編成して、きめ細かな指導を行う。事前指導→ボランティア・インターンシップ→事後指導を通して高校から大学への学びの転換を、教室での学びとは異なったフィールドでの経験とその意味付けを通して適切に理解させる。

① 事前指導（入学決定～5月上旬）

大学での学び、グローバルキャリア、ボランティア計画、語学到達目標について指導教員、英語担当教員、コーチングフェローからなるチームが個別に集中指導する（20回）。20回のうち10回は、大学での学びについての指導であり、内容的には教養ゼミナールの前半2/3に対応している。事前指導の残り10回ではキャ

リア教育担当教員も交えて、ボランティアないしインターンシップの準備について、心構えから危機管理まで入念に指導する。

- ② ISA (International Social Activities) (5月下旬～8月 ※開始及び終了の時期は受け入れ先によって異なる)

国際的なボランティア、インターンシップ、フィールドワークに参加する。

ISA 期間中も学生と指導チームは定期的に連絡を取り、スカイプ、メール、e-Learning 等を活用して、ISA 期間中のサポート、調査研究指導、生活状況の把握や問題解決のための助言(15回)を行う。また、海外留学と同様のサポート体制で、学生の指導や危機管理に当たる。(54～56頁参照)

- ③ 事後指導(7月～9月)

教養ゼミナール後半1/3に対応した指導として、ISA レポート作成指導、口頭発表、フォローアップ講義(10回)を行う。

単位認定は、「事前指導」、「国際的なボランティア、インターンシップ又はフィールドワーク」、「メディアを活用した指導」及び「事後指導」を総合して、次により合計13単位を一括して認定する。

- ① 本学の検定試験等における成果に係る学修の単位認定基準規定に基づく単位認定：「総合英語Ⅰ、Ⅱ」(各1単位)、計2単位

※ TOEFL PBT600点(iBT100点)以上の者にあつては「総合英語Ⅲ」(1単位)、「英語コミュニケーションⅠ、Ⅱ、Ⅲ」(各1単位)も認定

- ② 「事前指導」から「事後指導」までを一貫して履修したことに基づく単位認定：「教養ゼミナール」(2単位)、「英語コミュニケーションⅠ、Ⅱ」(各1単位)、学部モジュール(多文化社会の諸問題)の「グローバルキャリアへの扉」(2単位)、専門教育科目の「英語発音法」(1単位)、「Reading and Writing Ⅰ」(1単位)、「Reading and Discussion Ⅰ」(1単位)、「フィールドワーク入門」(2単位)、計11単位

イ 教養教育には、全学モジュールⅠ・Ⅱ(1, 2年次)と学部モジュール(1年次)が設けられている。学部モジュールは、学部の専門領域・分野の入門科目・導入科目群として位置付けられている。これは、本学部においても同様であり、多文化社会学の入門・導入に必要な知識、理論、視角をモジュール(科目群)によって理解させることが学部モジュールの目的である。これらのモジュールによって多文化社会への関心を深め、専門教育はもちろん、大学卒業後も世界に対して開かれた姿勢で学び続けることの重要性を理解する。

学部モジュールでは、学部での学びの基礎及び将来社会の市民として備えるべき資質の基盤を形成するとともに、高度専門職業人としての基本的な資質・能力を獲得する。キャリアに関する1科目とグローバルな多文化状況に関する基本的な知識を取得させる5科目から構成されている。【資料12】

1年次前期にはグローバルキャリアのイメージを導く科目「グローバルキャリアへの扉」を開講する。この科目は2年次の自主企画インターンシップ、3年次のキャリア形成論及び海外留学や海外インターンシップへとつながるキャリア系科目の

入り口として位置付けられ、グローバル企業や国際機関での業務経験を有する複数教員が科目を担当することにより、自らのキャリアを広い視野で考える態度を養う。

1年次後期には、「長崎から出発するグローバル世界へ」を起点として、「アジア理解への扉」、「アフリカ理解への扉」、「オランダーヨーロッパ理解への扉」及び「日本を知る」の5科目を開講する。これらは、本学部での学びにおいて学生が知るべき場所とグローバルな多文化問題の理解に導くためのものであり、「長崎から出発するバーチャルクルーズ」、すなわち長崎を出発点とする現代の「大航海時代」を再現する。これらの科目は、長崎から出発し、アジア、アフリカ、ヨーロッパという3つの地域に関する歴史・社会・言語・文化の基礎的理解を経て、「日本」を見直すあるいは再認識するという学習プロセスを構成し、全体としてグローバルな課題の概要とその背景を理解することを可能にする。

長崎固有のグローカリティを反映させた個別の事例からグローバルないし普遍的な問題の把握へと展開するという科目編成がこのモジュールの特徴である。学部モジュールを構成する6科目（12単位）全体で、地域における多文化社会を巡る諸問題をグローバルな文脈の中で考え、さらにグローバル化時代の多文化社会を巡る諸問題にマクロな視点から取り組むことで形成された社会科学系教員のキャリア形成について学ぶことによって、多文化社会への基本視角とその主要論点を身に付けることができる。

ウ 外国語教育は、教養教育の外国語科目（英語と初習外国語）と学部専門教育の英語モジュール、中国語モジュール、オランダ語モジュールから構成される。さらに、短期から中期・長期の留学との接続によって本学部が目的とするグローバル人材にふさわしい実践性と専門性を兼備した語学能力を涵養する。

エ 共通基礎モジュール（2年次、3モジュール、主・副）では、既存の学問のディシプリンの特質を十分に理解した上で、その枠を越えて領域横断的に多文化社会の諸相にアプローチするための基礎的視角と枠組みを身に付ける。「グローバル社会のしくみ」、「社会を映し出す文化、文化が作り出す社会」、「多言語を学ぶ、多言語で学ぶ」の3モジュールから構成される。共通基礎モジュールの授業科目では、英語による講義を開講し、英語モジュールとの相乗作用によって、専門モジュール及び長期留学における英語による高度な授業へと滞りなく接続していく。日本語によって行われる講義においても、科目の内容に応じて英文の資料・データ・テキストを活用する。

「グローバル社会のしくみ」は、法学、政治学、経済学、経営学、ジェンダー論を横断する学際的な学びによって、マクロな視点からグローバル社会を構成する社会的メカニズムを理解することを目指す。6科目中4科目を英語で開講、2科目を一部英語で開講する。

「社会を映し出す文化、文化が作り出す社会」は、文化人類学、社会学、歴史学、思想史、文化研究を横断する学際的な学びによって、グローバル化の中で変容する文化と社会に関する基礎的な理解を目指す。6科目中5科目を一部英語で開講する。

「多言語を学ぶ、多言語で学ぶ」は、言語学、文化人類学、文化研究担当の教員と多言語・多文化環境の中でキャリアを築いてきた教員（外国人教員）が、各言語圏に関する学術的知見とライフコース上の経験を結び付ける分野横断型のコラボレーションによって、言語文化圏の生成と変容、相互作用及び共生について理解することを目指す。6科目中2科目を英語で、3科目を一部英語で開講する。

オ フィールドワークモジュールと演習科目である基礎演習（2年次）・専門演習（3年次）・卒業研究（4年次）を接続させることにより、学術的に意味のあるエビデンスに基づいた研究や情報発信を行うための基本的技能と心構えを身に付けさせるとともに、自ら課題を設定し研究する能力を涵養する。

フィールドワークモジュールは、1年次前期の「フィールドワーク入門」から始まる。この科目では、社会学・文化人類学・民俗学、歴史学などのバックグラウンドをもつ教員が様々な調査手法とフィールドワークの実践例を紹介することで、1年次後期以降の実習科目への導入とするとともに、各自の興味関心に応じた適切な調査手法を選択できるようにする。

1年次後期の「フィールドワーク基礎実習」では、グループワークによる調査課題と調査手法の選定、並びにフィールドワークの実践を行う。

1年次後期の「アーカイヴ実習」と2年次に開講される次の3つの科目は、少人数クラスによる実践的な学習を行う。「アーカイヴ実習」では図書館所蔵資料などの文書史料の発見、整理と管理の手法を学ぶ。「映像・デジタルアーカイヴ実習」では撮影と編集による映像資料の取り扱いと、その発信を学ぶ。「サーベイ基礎実習」ではアンケート調査を中心とした量的調査の基礎と実践を学ぶ。「インタビュー調査基礎実習」ではインタビューによる質的データの収集とその分析手法を学ぶ。

フィールドワークモジュールを履修し、さらに、より高度な実習を希望する学生のために「海外フィールドワーク実習」を3年次に開講する。「海外フィールドワーク実習」では、アジアやアフリカからフィールドを選定し、文献レビューによる調査課題の設定、調査の設計を行い、英語による調査の実践を経験する。当初は、本学が海外に設置する次の教育研究プロジェクト拠点において実施する。

- ① ケニアプロジェクト拠点（ケニア共和国ナイロビ市、ケニア中央医学研究所内）
- ② ベトナムプロジェクト拠点（ベトナム社会主義共和国ハノイ市、国立衛生疫学研究所内）

系統的に接続されたフィールドワークモジュールと演習科目を履修することにより、本学部の学生は、社会調査の技法を身に付け、フィールドワークに習熟する。それらは、卒業後、グローバル人材として活躍していく上で、重要な資質になると考えられる。

カ 専門モジュール（2年次～4年次、4モジュール、主・副）は、「グローバル化する世界」、「変容する社会」、「多文化の共生」、「オランダ」の4モジュールから構成される。これらは、本学部の学士課程教育の専門性を担保するための中心的モジュ

ールである。各モジュールを履修することにより、共通基礎モジュールの履修により獲得した知見を更に深化させ多文化社会の特質を理解することができる。なお、「グローバル化する世界」モジュールの全授業科目は、英語で実施する。さらに、他の専門モジュールにおいても、科目の内容に応じて英語による授業又は英文の資料・データ・テキストを用いた授業を実施する。

キ キャリア科目（「キャリア形成論」，「自主企画インターンシップ」）は、キャリアに関する様々な理論的なアプローチを概観し、キャリアの本質的な意味を理解する。その上で、学生が社会に出て働く際に求められる実践的な知識や能力の理解を深め、将来職業を得てかつそれを安定的に維持し、ワークライフバランスを保つことの重要性を認識する。仕事や組織の現実、労働市場の環境変化等についての具体的な知識を身に付け、職業選択を行うための自己理解、自己表現力も併せて涵養する。

ク 短期及び中期・長期の海外留学をカリキュラムの中に有機的に位置付けている。短期留学は入学後早い段階で全員に義務付け、中期・長期留学は「グローバル社会コース」及び「オランダ特別コース」の2つのコースを主コース（後述）として選択する者に義務付けるほか、他コース所属の希望者も参加する。中期・長期の留学は、2年次後半から4年次前半の間に、原則として、学术交流協定締結校において半年から1年間の交換留学の形で実施し、留学先において修得した単位を、予め作成するシラバスの内容とレベルの対照表に基づいて、本学部の単位として個々に読み替える。

(3) 教育課程及び科目区分の編成

ア 教養教育科目【44単位】 教養教育は、下記の授業科目から構成される。

(7) 教養ゼミナール科目【2単位】 ……「教養ゼミナール（2単位）」

大学入学以前の受動的な学習からの転換を図り、大学における自主的な学習のための基本的な態度を涵養する。また、学部がカバーする学問領域やフィールド、及び教員の専門分野についての概観的知識を身に付ける。

少人数クラスでの実習、プレゼンテーション、ディスカッション及びレポートの作成を通して、知的活動に自主的に取り組む習慣を身に付け、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を修得し、アクティブかつアカデミックな自己表現能力を高める。

なお、この科目は、Transition Programの構成科目である。

(4) 情報科学科目【2単位】 ……「情報基礎（2単位）」

情報処理資源・ネットワーク環境を活用して、主体的に情報を収集、分析、判断、創作及び発信できるようにし、情報処理資源を活用した教育のための共通基盤となる技能を習得する。

なお、専門教育のフィールドワークモジュールの諸科目において、この情報科

学科目を基礎にして、情報収集、整理、加工、データベース構築、情報発信のためのスキルを実践的に身に付ける。

(ウ) 健康・スポーツ科学科目【2単位】… 「健康科学（1単位）」

「スポーツ演習（1単位）」

疾病予防や健康づくりに関する科学的な知識や身体運動やスポーツの具体的な実践方法を習得し、生涯にわたって健康な生活が送れるように個々の生活習慣を改善し、実践していく能力を獲得する。

(エ) 外国語科目【12単位】

① 英語科目【8単位】

○ 英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ【各1単位、計3単位】

音声言語及び文字言語による基礎的英語運用能力を高めるとともに、言語と文化に対する理解を深めるだけでなく、日常の事柄や国際社会での出来事に関して、スピーキング又はライティング活動によって意見するための基盤を身に付ける。リスニングにおいては、英語の音の特質に関する理解を深め、リスニング力に関わる基礎的スキルを身に付ける。

なお、英語コミュニケーションⅠ・Ⅱは、Transition Program の構成科目である。

○ 総合英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ【各1単位、計3単位】

リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの4技能をバランスよく高める。リーディングにおいては、英語の記事や文章を速読、精読できる。リスニングにおいては、英語の音の特質に関する理解を深め、リスニング力に関わる基礎的スキルを身に付ける。スピーキングにおいては、設定された場面での適切な応答の文から自分で文を作り出し相手に伝える基礎的スキルを身に付ける。会話に問題が生じた場合、コミュニケーションが円滑に進むように会話を修復するなど語用論的、談話レベルのスキルも併せて身につける。ライティングは、レベルに応じて、一文における英訳から基礎的パラグラフライティングまでを習得する。

なお、総合英語Ⅰ・Ⅱは、Transition Program の構成科目である。

○ Advanced EnglishⅠ・Ⅱ【各1単位、計2単位】

1・2年次に受講した英語コミュニケーション、総合英語を基に、更に4技能を向上させ、高度な英語力を身に付ける。

② 初習外国語科目【各1単位、計4単位】

○ ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 韓国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

ドイツ語、フランス語、中国語及び韓国語から1言語を選択する。各言語

の基本文法を理解し、基礎的な会話文でコミュニケーションができる。さらに、各言語の特徴に則した発音及びリスニング力を身に付け、各国の文化・社会についての理解を深めるため、基礎的な文章読解やライティングの能力も高める。

(オ) 全学モジュール科目【12単位】

全学モジュールは、学ぶ者の立場に立って、学生一人ひとりの興味関心を重視し、社会から求められている諸能力（社会人基礎力、ジェネリック・スキル）を育成するため、現代社会の課題となっているテーマの下にまとめられた授業科目群である。テーマについて学ぶための基礎的な知識と技能を身に付けるための全学モジュールⅠ科目と、さらにテーマに関する学びを深化させる全学モジュールⅡ科目で構成されている。

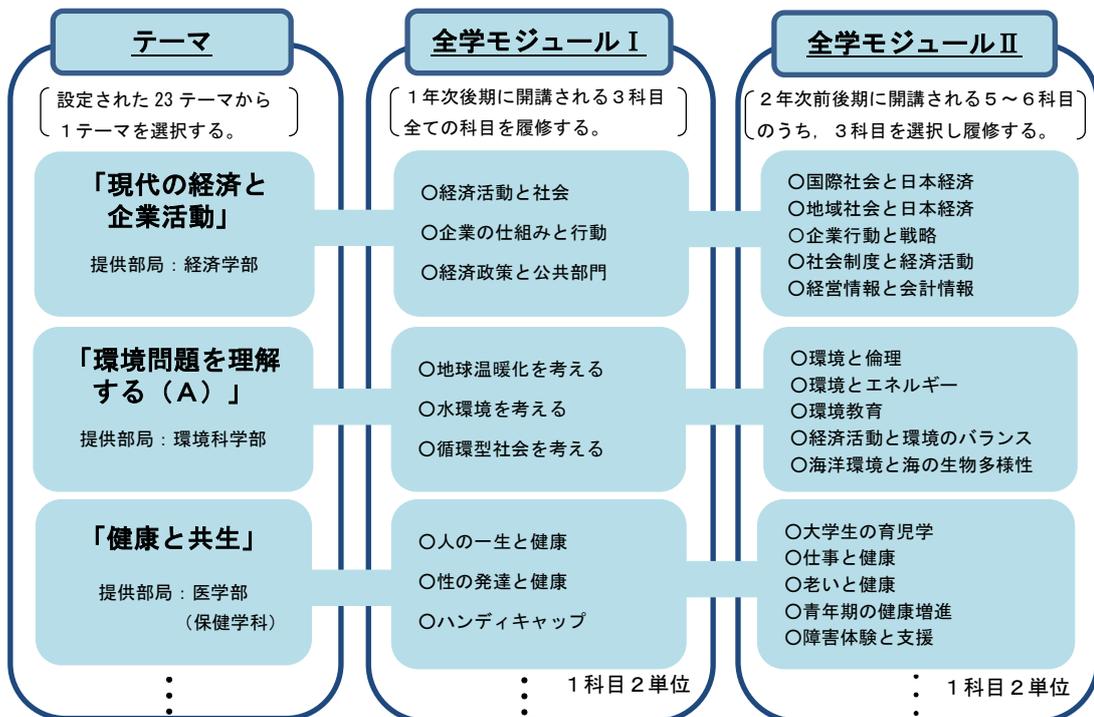
① 全学モジュールⅠ科目【3科目6単位】

選択したテーマに全学モジュールⅠとして開設されている3科目（計6単位）を1年次後期に全て履修する。

② 全学モジュールⅡ科目【3科目6単位】

選択したテーマに全学モジュールⅡとして開設されている5～6科目のうちから、3科目（計6単位）を2年次前期あるいは後期に履修する。

表：全学モジュール科目について（テーマ例）



(カ) 学部モジュール科目（多文化社会の諸問題）【12 単位】 ……計 6 科目（12 単位）

1 年次前期に開講される「グローバルキャリアへの扉（2 単位）」と、1 年次後期に開講される「長崎から出発するグローバル世界へ（2 単位）」「アジア理解への扉（2 単位）」、「アフリカ理解への扉（2 単位）」、「オランダ・ヨーロッパ理解への扉（2 単位）」、「日本を知る（2 単位）」の 5 科目から構成される。

なお、「グローバルキャリアへの扉」は、Transition Program の構成科目である。

(キ) 自由選択科目【2 単位】

21 世紀を生きる市民として必要となる資質の形成に向けた科目であり、個々の学生の技能の向上又は幅広い知識の修得を目的としている。

イ 専門教育科目【85 単位】 専門教育は、下記の授業科目から構成される。

(ア) 共通基礎モジュール科目【18 単位】

「グローバル社会のしくみ（6 科目 12 単位）」、「社会を映し出す文化、文化が作り出す社会（6 科目 12 単位）」、「多言語を学ぶ、多言語で学ぶ（6 科目 12 単位）」の 3 モジュールから 1 つを主モジュールとして選択し 6 科目 12 単位を修得する。さらに、主モジュール以外のモジュールから 1 つを副モジュールとして選択し 3 科目 6 単位を修得する。

(イ) フィールドワークモジュール科目【5 単位】

「フィールドワーク入門（2 単位）」、「フィールドワーク基礎実習（1 単位）」は、全コースの学生が必修である。

なお、「アーカイヴ実習」、「映像・デジタルアーカイヴ実習」、「サーベイ基礎実習」及び「インタビュー調査基礎実習」の 4 科目については、2 科目を選択する。

(ウ) 英語モジュール科目【10 単位】

- 「英語発音法（1 単位）」「英語の仕組みと意味 I（1 単位）」
- 「英語の仕組みと意味 II（1 単位）」「Reading and Writing I（1 単位）」
- 「Reading and Writing II（1 単位）」「Academic Writing I（1 単位）」
- 「Academic Writing II（1 単位）」「Reading and Discussion I（1 単位）」
- 「Reading and Discussion II（1 単位）」「Debate（1 単位）」

英語モジュール科目は、全コースの学生が必修である。

なお、英語発音法、Reading and Writing I、Reading and Discussion I は、Transition Program の構成科目である。

(エ) 中国語モジュール科目【0 又は 5 単位】

- 「中国語総合表現 I（1 単位）」「中国語総合表現 II（1 単位）」
- 「中国語文献討論 I（1 単位）」「中国語文献討論 II（1 単位）」

「中国語プレゼンテーション（1単位）」

中国語モジュール科目を選択する場合は、5単位全てを修得しなければならない。

(f) オランダ語モジュール科目【6単位】

○「オランダ語Ⅰ（2単位）」「オランダ語Ⅱ（2単位）」

「オランダ語Ⅲ（2単位）」

オランダ特別コースの学生は、必修である。

少人数（10名）の学生を、日本語に熟達したオランダ語ネイティブ教員が集中的に指導する体制を採る。

(g) 演習科目【12単位】

「基礎演習A（1単位）」、「基礎演習B（1単位）」は、全コースの学生が必修である。

グローバル社会コース、社会動態コース、共生文化コースは、「専門演習Ⅰ-A（1単位）」、「専門演習Ⅱ-A（1単位）」、「専門演習Ⅰ-B（1単位）」、「専門演習Ⅱ-B（1単位）」及び「卒業研究」（6単位）、計10単位を修得しなければならない。

オランダ特別コースは、「専門演習」及び「卒業研究」に代えて、「特別研究」（10単位）を修得しなければならない。

(h) 専門モジュール科目【30単位】

「オランダ特別コース」以外のコースの学生は、「グローバル化する世界」、「変容する社会」、「多文化の共生」の3モジュールから1つを主モジュールとして10科目20単位を選択し、主モジュール及び「オランダ」モジュール以外のモジュールから1つを副モジュールとして5科目10単位を選択する。

「オランダ特別コース」の学生は、主モジュールの「オランダ」モジュール18単位（4科目8単位の必修科目とライデン大学での履修科目10単位分）を修得し、「オランダ」モジュール以外の3つの専門モジュールから1つを副モジュールとして6科目12単位を選択する。

（※ 専門モジュールの内容については、後述の5(5)各コースの専門モジュールに記載）

(i) キャリア科目【2単位】

「キャリア形成論（2単位）」は、全コースの学生が必修である。

学生自ら派遣先を開拓する「自主企画インターンシップ（2単位）」は、選択科目とし、全コースの学生の中から自主的な参加を促す。特に、中期・長期留学に参加しない学生には3年次以降のインターンシップを勧奨し、卒業後の進路決定へスムーズな移行を促す。

(k) 自由選択科目【8単位、3単位又は2単位】

自由選択科目区分に配当された科目から所定の単位を修得する。ただし、これ以外に次に掲げる科目を自由選択科目として取り扱うことができる。

(グローバル社会コース，社会動態コース，共生文化コース)

中国語モジュール科目を履修した場合は3単位，履修しなかった場合は8単位までとする。

- ① 主及び副の共通基礎モジュール科目，フィールドワークモジュール科目，オランダ語モジュール科目，主及び副の専門モジュール科目及びキャリア科目の最低修得単位数を超えて履修する授業科目
- ② 主及び副の共通基礎モジュール以外の共通基礎モジュール科目
- ③ 主及び副の専門モジュール以外の専門モジュール科目

(オランダ特別コース)

オランダ特別コースの場合は，2単位までとする。

- ① 主及び副の共通基礎モジュール科目，フィールドワークモジュール科目，中国語モジュール科目，主及び副の専門モジュール科目及びキャリア科目の最低修得単位数を超えて履修する授業科目
- ② 主及び副の共通基礎モジュール以外の共通基礎モジュール科目
- ③ 主及び副の専門モジュール科目以外の専門モジュール科目

(3) 自由科目

高等学校教諭普通免許状（英語）及び日本語教員基礎資格の科目が開講されるが，卒業要件単位には含まれない。

(4) コースの履修パターン

専門コースは、「オランダ特別コース」のみが入学時から配属学生が決定しており、「グローバル社会コース」，「社会動態コース」及び「共生文化コース」の3つのコースは，共通基礎モジュール及び専門モジュールの選択によって，3年次にコースを選択決定する。コースの専門性は共通基礎モジュール及び専門モジュール科目の主モジュールの選択組合せにより担保する。各共通基礎モジュールと各専門モジュールの対応が，グローバル社会コースを除き，一対一ではないのは，本学部は領域横断型の知の編成を目指しており，それをカリキュラムレベルで実現するためである。基礎レベル（200番）と専門レベル（300-400番台）で異なった領域横断を経験することにより，その交差する領域に多文化社会学部固有の専門性が生み出されるのである。ただし，グローバル社会コースの場合は，専門モジュール科目が全て英語で開講されることを踏まえ，共通基礎モジュールと専門モジュールの関係を一対一対応としている。したがって，コースとモジュールの組合せは，以下のとおりである。

専門コース名	共通基礎モジュール（主）	専門モジュール（主）
グローバル社会コース	「グローバル社会のしくみ」	「グローバル化する世界」
社会動態コース	「社会を映し出す文化, 文化が作り出す社会」	「変容する社会」
共生文化コース		「多言語を学ぶ, 多言語で学ぶ」
オランダ特別コース	「グローバル社会のしくみ」	「オランダ」
	「社会を映し出す文化, 文化が作り出す社会」	
	「多言語を学ぶ, 多言語で学ぶ」	

※ 共通基礎モジュール及び専門モジュールの副モジュールについては、主モジュールとして選択したモジュール以外のモジュールから 1 つを選択する。ただし、共生文化コースについては、専門モジュールの副モジュールは「変容する社会」とする。

(5) 各コースの専門モジュール

ア 「グローバル社会コース」

本コースの学生は、Transition Program に始まり、学部モジュール、英語モジュール、多くが英語で開講される共通基礎モジュール「グローバル社会のしくみ」を経て、全て英語によって開講される専門モジュール「グローバル化する世界」までを一貫して履修することにより、学部での学びから 6 か月から 1 年間に及ぶ留学先での学びへと大きなギャップを覚えることなく移行することができる。ただし、交換留学先の TOEFL スコア基準を満たした学生は、共通基礎モジュール段階から中期・長期留学を行うことができる。留学中に修得した単位はモジュール科目に読み替えることができる。

専門モジュール「グローバル化する世界」には、法学、政治学、経済学、経営学分野の以下の科目が配置され、共通基礎モジュール「グローバル社会のしくみ」におけるルール、ガバナンス、エコノミー、マネジメントなどに関わる学びのテーマを更に深めることができる。なお、本コース選択希望者には、経済学関係の基礎となる授業科目に相当する全学モジュール「現代経済と企業活動」（6 科目：12 単位）を履修するよう指導する。

本コースでは、英語による授業、中期・長期の留学及びその成果の英語によるまとめと公開を通して、多文化社会学部の中でも特に高度な英語運用能力と国際感覚を身に付けることができる。

「国際機構論」(E) 「軍縮と平和」(E) 「国際法」(E)
「国際政治学」(E) 「比較政治」(E) 「国際経営」(E)
「国際開発論」(E) 「国際人権論」(E) 「グローバル人口学」(E)
「国際協力論」(E) 「アジア経済論」(E) 「多文化マーケティング論」(E)

※ (E)は英語による開講を示す（以下同じ）。

なお、「国際経営」については、経済学部専任教員が兼任として担当するが、学内教員であることから、専任教員に準じた教育の提供が可能である。また、「アジア

経済論」，「多文化マーケティング論」については，兼任教員が担当するが，担当教員はこの分野では，極めて優れた研究者であり，本コースに必要とされる授業科目を提供できるとともに，経済学分野の専任教員が学生指導を行うことから，教育体制としては支障がないものと考えている。

イ 「社会動態コース」

共通基礎モジュール「社会を映し出す文化，文化が作り出す社会」を経て，専門モジュール「変容する社会」を選択履修する。

専門モジュール「変容する社会」には，より専門的に社会と文化の変容について学ぶことを目的として，グローバル化時代の多様性という視点から社会学，文化人類学，歴史学分野にアプローチすることで抽出される以下の科目が配置されている。アジアとアフリカをフィールドとした実証的研究に基づく専門科目が多く配置されていることが本モジュールの特色である。交換留学先の TOEFL スコア又は中国語能力基準を満たした学生は，共通基礎モジュール段階から中期・長期留学を行うことができる。留学中に修得した単位はモジュール科目に読み替えることができる。

本コースの授業科目を担当する教員は，現場でのフィールドワーク経験者が多く，履修者は，海外におけるフィールドワークや留学の経験を通して，教室での学びと出来事の現場での学びをより有機的に関連付け，語学力，社会力及び情報収集・発信能力を身に付けることができる。

「異文化理解教育」(E)	「トランスナショナリティ論」
「異文化と家族」	「グローバル社会学」
「現代アフリカ社会論」(E)	「現代アジア社会論」
「アジア海域交流史」	「グローバル文化交流史」
「社会史」	「異文化交流論」
「文化資源論」	「地域生態論」(E)

なお，「グローバル社会学」については，兼任教員が担当するが，担当教員はこの分野では，極めて優れた研究者であり，本コースに必要とされる授業科目を提供できるとともに，社会学分野の専任教員が学生指導を行うことから，教育体制としては支障がないものと考えている。

ウ 「共生文化コース」

共通基礎モジュール「社会を映し出す文化，文化が作り出す社会」，「多言語を学ぶ，多言語で学ぶ」の2つのモジュールのいずれかを主モジュールとして選択して，専門モジュールは，人文学系と社会学・人類学系の両方を学ぶことによって領域横断型の文化研究を行うことを目的として，主モジュールとして「多文化の共生」を，副モジュールとして「変容する社会」を選択履修する。

主モジュールの「多文化の共生」には，グローバル化時代の文化的多様性という視点から思想，文化，表象，メディア，言語にアプローチすることで抽出される以下の科目が配置されており，共通基礎モジュールにおける文化，社会，言語に関する理解を一層深めることができる。

副モジュールの「変容する社会」には、社会学・人類学系の文化研究に該当する科目が多数配置されているが、その中でも異文化間コミュニケーションを扱う「異文化理解教育」、「異文化と家族」及び「異文化交流論」は、主モジュール「多文化の共生」の言語・コミュニケーション系科目を社会的相互作用とその変容という観点から補完するものであるため、必修科目として指定する。

このコースの科目は、英語モジュール科目、中国語モジュール科目、英語教員・日本語教員資格関連科目との関わりが深く、それらを履修することによって言語や記号を用いたコミュニケーション力を総合的に身に付けることができる。交換留学先の TOEFL スコア又は中国語能力基準を満たした学生は、共通基礎モジュール段階から中期・長期留学を行うことができる。留学中に修得した単位はモジュール科目に読み替えることができる。

「日本思想史」	「中国思想史」	「宗教文化論」
「文化表象論」	「記憶文化論」	「地域文化論」
「メディア文化論」(E)	「現代言語理論」	「異文化間コミュニケーション」(E)
「対照言語学」	「日本語学」	「コーパス言語学」(E)

なお、「記憶文化論」については、兼任教員が担当するが、担当教員はこの分野では優れた研究者であり、本コースに必要とされる授業科目を提供できるとともに、文学や社会学分野の専任教員が学生指導を行うことから、教育体制としては支障がないものと考えている。

エ 「オランダ特別コース」

共通基礎モジュール「グローバル社会のしくみ」、「社会を映し出す文化、文化が作り出す社会」、「多言語を学ぶ、多言語で学ぶ」の3つのモジュールのいずれかを主モジュールとして選択し、専門モジュール「オランダ」を履修する。

専門モジュール「オランダ」には、「オランダ現代社会論」(E)、「オランダ文化論」(E)、「日蘭比較文化」、「日蘭交流史」の4つの科目が配置され、さらに、**1年間のライデン大学留学が必修**である。学生は、共通基礎モジュールの「グローバル社会のしくみ」における法、政治、経済に関する基礎的な学習、「社会を映し出す文化、文化が作り出す社会」における文化や社会に関する学習又は「多言語を学ぶ、多言語で学ぶ」における言語学や思想に関する学習を発展させる形で専門モジュールを履修する。ライデン大学においては、本学部の指導教員及び留学先の担当教員との協議に基づいて学生の関心と将来計画に即した講義を受講する中で、語学力やコミュニケーション力のみならず、ヨーロッパ単位互換制度(ECTS)に準拠したグローバルに通用する専門知識と技能を身に付けることができる。

なお、「オランダ現代社会論」及び「オランダ文化論」を、ライデン大学から招聘され留学生センターに所属する兼担教員が担当することによって、まさに本コースに必要とされる授業科目を提供するとともに、オランダ特別コース担当の専任教員が協力して学生指導を行うことから、教育体制としては支障がないものと考えている。

6 教員組織の編成の考え方及び特色

(1) 教員組織の編成と基本的考え方

多文化社会学部は、グローバル化が進展し様々なレベルで多文化状況が生まれている現代社会において、異なる言語や文化的背景を有する人々と協働し国際的に活躍できる人文社会系のグローバル人材を育成することを教育目的としている。これを達成するために、モジュールとコースを結合させることによって従来にはない特色ある学士課程教育を編成する。教員組織は、コアとなる専門科目を専任教員が担当することを原則として編成される。すなわち、コースの専門性を担保する専門モジュールの授業科目の大部分は、本学部にも所属する専任教員と、学内研究科等から専任教員として参画する教員が担当する。さらに、オランダ特別コースには、所定の教育を実施するためのみならず、学生が母語話者からオランダの社会と生活についての具体的な知識や助言を得られるように、オランダから教員を招聘する。

専任教員 30 名の内訳は、環境科学部からの学内異動教員 8 名、国際健康開発研究科、言語教育研究センター、核兵器廃絶研究センター及び留学生センターからの参画教員計 6 名、さらに、新規採用の教員が 16 名である。

特に、新規採用の教員選考に当たっては、国際公募により約 570 名の応募者の中から、優れた業績を有する者に絞った上で、模擬授業と面接（特に、英語によって開講する科目担当者は英語で実施）により適格な者を選考し、本学部の理念の共有を徹底するとともに教育意欲を確認した上で採用した。

なお、専任教員の研究調査フィールドは、長崎・日本から、アジア、環インド洋、アフリカ、ヨーロッパにまで及び、主とする学問的ディシプリンも政治学、法学、経営学、社会学、文化人類学、歴史学、宗教学、思想史学、言語学（英語学・中国語学）、日本語学等多様である。

また、本学部の専任教員の約 3 割を占める外国人教員は、外国人留学生の存在とともに、教員団レベルで多文化状況を生み出している。本学は多文化キャンパスの実現を目指しているが、本学部はそれに向け先導的な役割を果たすために、外国人教員の増加に今後も努力する。

本学部では、専任教員は教養科目から演習を含めた専門科目までを担当することとなるが、長崎大学が多文化社会学部のほかに有する文系から理系まで 8 学部 6 研究科の多種多様な教員集団からの兼任教員や、学外からの兼任教員の配置も計画しており、個々の教員の教育負担は適切な水準にある。また、学生の指導に関してはコーチングフェロー【資料 3】を配置するなど支援体制の充実を図る。

(2) 教員の年齢構成とジェンダーバランス

本学部の専任教員 30 名のうち、教授が 11 名、准教授が 17 名、助教が 2 名である。専任教員の年齢構成については、完成年度の 3 月 31 日時点で、30～39 歳が 4 名、40～49 歳が 12 名、50～59 歳が 8 名、60～69 歳が 5 名、70 歳以上が 1 名となっており、

教育研究水準の維持向上及び活性化にふさわしい構成となっている。また、専任教員のうち約3割が女性であり、学内他部局の水準を大きく超えるものではあるが、男女参画社会にふさわしい水準を実現するため、引き続き、女性教員の確保に努力する。

(3) 教員組織と特色ある教育研究

従来の人文学・社会科学は、専門的細分化の傾向と同時に、個人研究を重視する傾向を強く有しており、共同研究プロジェクトであっても実質的には個人研究の集成である場合が多かった。しかし、グローバル社会に関わる諸問題は、地球規模のマクロな現象と地域のミクロな現象とが相互に影響し合う複雑な性格を持っており、従来の専門分野の壁を越えて多数の研究者が組織的に取り組むことによって初めて解明の道筋を見出しうるものである。それゆえ、本学部の理念を実現するためには、科学技術・学術審議会 学術分科会の報告「リスク社会の克服と知的社会の成熟に向けた人文学及び社会科学の振興について」（平成24年7月25日）で指摘されているように、研究面において、人文学系と社会科学系の壁を越えた研究者の連携を実質化し、両領域の融合研究をより進展させていく必要がある。その際、重要なのは、多文化という切り口を設定することによって、政治学と文化学、マネジメント論と言語学といった従来の学問体系においては遠い位置にある諸分野の間に潜在していた連携や融合の可能性を顕在化させることである。社会と人間に対する新しいアプローチを切り開くことによって、人文学・社会科学的知の魅力を賦活させ、本学部をまさしくグローバルな知のパラダイム転換の中に位置付けることができる。このような学問的再編を視野に入れ、本学部の教員組織の編成に当たっては、多文化社会学部の理念を共有し、志の高い教員を学内外から選抜し、さらに長崎大学のリソースを有効に活用することによって、基本的な学問分野の枠組みを設計し、共同研究の実施体制を構築した。

7 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

多文化社会学部の学士課程教育の最大の特色は、本学部の学生が卒業後、グローバル化をもたらす多文化社会において、人文社会系のグローバル人材として意欲と情熱を持って活躍することができるように、学生を徹底して鍛え、学生自身が主体的に学ぶ教育課程と教育環境を準備していることである。【資料3】

(1) Transition Programによる準秋入学制【資料2】

Transition Programを導入し、1年次の前期を高校までの学びからグローバル化時代の大学における学びへと移行するための集中学習の期間とすることによって、準秋入学を実現する。

このプログラムでは、新入学生は、英語と大学入門科目のみを集中的に学習することにより、英語で実施される高等教育レベルの授業に参加し得る語学力を身に付けるとともに、自らのキャリアパスを構想し、大学での学びに必要な自ら問いを立て、自らそれに答える>学びの姿勢とスキルを体得する。

英語7科目、大学入門科目(大学での学びの型を体得するための「教養ゼミナール」、多文化社会の現場での学びの土台を作る「フィールドワーク入門」及び卒業後のキャリアイメージを具体的に描くための「グローバルキャリアへの扉」)を集中的に学ぶ。

ただし、入学時にTOEFL PBT500点(iBT61点)以上、TOEIC650点以上又は英検準1級以上に達している学生は、英語で実施される科目を受講しうる力と大学での学びのための基本的知識を有していると見なし、1年次前期は大学での講義の受講に代えて、国際的なボランティア、インターンシップ、フィールドワークに参加し、英語力の実践的ブラッシュアップを図るとともに、グローバル化する世界の現場を直接経験し、それを大学での学びへと展開させる。単位認定は、「事前指導」、「国際的なボランティア、インターンシップ又はフィールドワーク」、「メディアを利用した指導」及び「事後指導」を総合した一括認定とする。

(2) グローバル人材に必要な人間力を身に付ける教育方法と履修指導

本学部が育成するグローバル人材には、基盤的知識としてグローバル化する社会の仕組みやルールを理解し、さらに高度な外国語運用能力を有するのみならず、寛容な態度で文化的他者の声に耳を傾け、互いの尊厳を大切にしながら彼らと交渉し、彼らとひとつの組織や地域で協働していくための人間力としてのコミュニケーション力を身に付けていることが求められる。

そのため、本学部では、1年次前期の「Transition Program」における英語集中学習により英語で行われる授業に参加し得る語学力を身に付けさせるとともに外国語モジュール(英語、中国語、オランダ語)において外国語運用能力を更に高めていくカリキュラムとしており、アクティブ・ラーニングを多用した授業形態を採ることで社会が求める社会の仕組みやルールといった社会人基礎力・ジェネリックスキルを身に付けさせるカリキュラムとしている。さらに、本学部では、世界各地域の社会、文化、歴史の諸相のみならず、それらとの関連の中で日本に関連した科目を学ぶことを通して、日本語

を母語とする主体として文化的他者との協働を通じたコミュニケーション力を涵養することに力点を置いたカリキュラムと授業形態を積極的に採用している。

本学部の授業は、講義、演習、実習（フィールドワーク）の3つの形態からなり、受講生の規模も学部モジュール科目等の100名規模から少人数の専門演習まで多様であるが、クラス規模や授業形態に応じたアクティブ・ラーニング方式の授業を積極的に導入し、体系的な知識を身に付けるとともに、論理的思考力や分析力を育み、コミュニケーションを積極的に行う態度を養う。

①講義科目においては、教養教育における「全学モジュール科目」から専門教育における「専門モジュール科目」に至るまで、グループワーク、プレゼンテーション、ディベート等、他者の発言を理解しつつ自らの意見を表明することに力点を置いたアクティブ・ラーニングを導入している。また、講義で学んだことを自身及びグループの関心に沿って、実践的な調査と議論の中で深めていくことができるように、②演習系の科目を「教養ゼミナール」（1年前期）→「フィールドワーク基礎実習」（1年後期）→「基礎演習」（2年）→「専門演習」（3年）→「卒業研究（一部：特別研究）」（4年）というように4年間途切れることなく接続させ、これによって、少人数での共通のテーマを巡る議論や調査などにより、協働を通して認識や合意に至るプロセスを学ぶとともにジェネリックスキルとコミュニケーション力を身に付けさせる。本学部における演習科目においては、自ら多文化社会に関する具体的な問いを立て、それについて他の演習参加者とともに調査し、議論し、結論を公開するプロセスを重視する。さらに、③フィールドワークモジュール科目、短期及び中期・長期の海外留学、自主企画インターンシップによって、講義と演習で身に付けたジェネリックスキルとコミュニケーション力を、企業、官庁、地域の現場に生きる人びとの間で試し、鍛え上げていくための機会を提供する。

さらに、本学部の特徴的な教育支援体制として、新たに取り入れる「Transition Program」では、10名の学生につき、教養ゼミナール担当教員、英語授業担当教員及びコーチングフェローの三者からなる指導チームが、1つのコアを形成し、課外においても学生と教員、学生と学生とのコミュニケーションを密にする体制を構築していく。また、コミュニケーションの空間的場として、教員と学生の交流の場としての多文化ラウンジを設置し、常時コーチングフェローを待機させることによって、正課の授業外においても、教員と学生、あるいは学生間で自ずからコミュニケーション力を向上させるようにしている。

また、ICTを用いた教育システムを積極的に活用することにより、従来の学びのイメージを一新し、学生を徹底して鍛える教育環境を構築する。このため、本学で平成19年度から導入にしたWebClass（e-Learningシステム）、平成22年度から導入にしたオンラインCALLシステム（コンピュータによる英語自学自習システム）、平成25年度後期から導入されるLACS（長崎大学主体的学修支援システム）【資料4】及び平成26年度からの実施を予定している（学内無線LANの整備を踏まえた）ノートPC必携化を活用する。これらを踏まえ、授業のアクティブ化のみならず、e-Learningを活用した自宅学習においても、学生一人ひとりが自らの生活サイクルにマッチした主体的学びを実現できるように履修指導することにより、学習時間を国際標準レベルに引き上げるとともに学びの質の向上を図る。学生への履修指導は、クラス担任制と指導教員制を適切に連結

させ、入学時から卒業時まで周到に行い得る体制を確立する。なお、留年した学生一人ひとりに対しては、コーチングフェローによる支援強化など徹底した履修指導を行う。

(3) CALLシステム利用と留学による外国語教育の実施

教養教育の外国語科目と連動させる形で、本学部独自の語学モジュールを1年次から4年次まで体系的・継続的に実施する。オンラインCALLシステム（コンピュータによる英語自学自習システム）を積極的に活用し、さらに海外への短期（必修）及び中期・長期留学（コースにより必修又は選択）を通じて、4年間にわたる高密度の語学学習環境を用意する。英語モジュールは必修とし、英語を用いて課題・問題を整理し、解決策を考え、他者に伝え、自ら行動する能力・スキルを養成する。中国語モジュールも4年次まで履修できるカリキュラムを提供する。

(4) 外国語による多文化理解教育の実施

これらの語学モジュールは、単なる外国語の授業にとどまるものではなく、コンテンツとして多文化社会に関連したトピックや教材を採用することにより、外国語による多文化理解教育を展開し、専門科目との接続関係を明確にする。この接続を前提として、専門モジュールの「グローバル化する世界」は、全て英語によって開講される。また、他のコースにおいても、科目の目的や内容に応じて、外国語による授業、外国語で書かれた資料・データの使用、翻訳文献ではなくオリジナル文献の採用等を通して、外国語による教育を可能な限り推進する。

学部が主体となって開講する全科目のうち、英語のみで実施される科目の割合は51%であり、中国語やオランダ語を含めて外国語のみで実施される科目の割合は56%、全部又は一部を外国語で実施される科目の割合は81%に達する。また、「社会動態コース」と「共生文化コース」を主コースとする学生のうち中期・長期留学を行わない学生には、3年次及び4年次配当科目のうち少なくとも10単位を全て英語で実施される科目から修得することを義務付ける。さらに、正課外の企画として実施する英語合宿と夏期集中講座に2年次以降も参加することを強く推奨する。

4年間の学びの集大成である卒業研究や特別研究の成果は、英語又は日本語で執筆するが、後者の場合には約10ページの要約版を英語で作成させる。さらに、全員が参加する卒業・特別研究の成果発表会は英語で実施し、質疑応答を踏まえてブラッシュアップした原稿を学部のWebサイトやジャーナルにおいて公開する。

(5) 人文学と社会科学の専門教育を体系的専門コースとモジュール方式により実施

教養教育に導入されたモジュール方式を専門教育へも展開する。すなわち、学生たちは、「学部モジュール（多文化社会の諸問題）」においては「長崎から出発するグローバル世界へ」という地域研究的切り口から見えてくる多文化社会の諸相を学び、「共通基礎モジュール」においては、学生たちは、3つの学際的なモジュールから1つを主モジュールとして、もう1つを副モジュールとして選択することで自らの学びの輪郭を明確にしていく。各モジュールを構成する授業科目では、多文化社会の分析を通

して専門分野の基本的な理論と方法を学ぶとともに、個別の専門分野を超えた学際的な視点を理解する。

共通基礎モジュールと専門モジュールの履修により、所属するコースが決定される。コースの専門性を担保する専門モジュールは、共通基礎モジュールの履修により得た知見を更に深化させ、多文化社会の特質を理解する。

(6) オランダ特別コース

長崎及び長崎大学のリソースを活かした特色ある「オランダ特別コース」は、入学定員 10 名の少人数教育、2 年次からオランダ語の履修、3 年次後半からのライデン大学へ 1 年間の留学等を通して、現代のヨーロッパとアジアを架橋する知的枠組みとコミュニケーション能力の習得を目指す。すなわちこのコースは、長崎と関係が深い日蘭関係史に特化した学びを行うのではなく、オランダという世界史的に見てユニークな国家の社会と文化についてモノグラフ的学習を通して、近世以降の世界のグローバルな変容や「多様性の中の統一」を目指す EU の在り方を学び、そこに日本や東アジアを位置付けて理解することを目指している。

長期留学前に求められるオランダ語のレベルは、中級レベルである。「オランダ語Ⅰ」では基本の文法を用いた会話とオランダの文化の理解を、「オランダ語Ⅱ」では基本の文法を用いた会話に加え長文の読解と作文を身に付け、「オランダ語Ⅲ」ではオランダ語Ⅱのレベルを更に深め、ライデン大学での留学のための準備講義とする。10 名の学生を、日本語に熟達したオランダ語ネイティブ教員が集中的に指導する体制を採り、さらにライデン大学からの招聘教員、オランダ語圏への留学経験のある教員もオランダ語に触れる機会を提供し、「オランダ語Ⅲ」を終えた時点で、日常会話と文献の概要理解に必要なオランダ語能力を身に付けることができるようにする。

(7) 高度の英語能力の養成

英語モジュールと英語で行う専門講義の間に接続関係を持たせ、語学力と専門性の相乗的關係を生み出すために、学生の語学能力が到達目標に達しない場合を想定して、ナンバリングシステムのステージに応じて専門科目の履修を制限する。履修制限を受けた学生には、e-Learning 学習と面談によるフォローアップを行う。e-Learning 学習では、到達目標に合わせた到達レベル、学習ユニットを指定し、学習を継続させる。

(8) CAP 制

本学では、学習すべき授業科目を精選することで十分な学習時間を確保し、授業内容を深く身に付けさせるために CAP 制、すなわち各学生が 1 学年又は 1 学期に履修登録できる総単位数の上限設定を導入している。本学部では、学生が履修科目として登録することのできる単位数の上限は、年間 48 単位としている。ただし、学生が年間 40 単位以上登録した上で修得し、かつ、グレード・ポイント・アベレージ (GPA) が 4.0 以上である場合には、次年度において、上記の上限を超えて、当該年次を標準履修年次とする科目を履修することを認める。

(9) 進級要件

授業科目の履修は、ナンバリングシステムによってコントロールする。原則として、レベルの異なる授業科目を同時に、あるいは順序を逆転して履修することはできないが、次の進級要件イ、ウの範囲内で、同一学期内の並行履修を認める（たとえば200番台とそれを前提にした300番台の同一学期内履修）。

ア 2年次における履修制限

(ア) 1年次終了時点でTOEFL PBT500点（iBT61点）以上に達していない場合は、英語モジュール以外の英語で開講される授業科目（一部英語で開講される科目を含む）の履修を認めない。なお、当該スコアに達するまで、Transition Programのうち「英語合宿」、「夏期集中講座」、「英語カフェ」への参加を義務付ける。

イ 3年次進級の要件

(ア) 100番台科目を30単位以上修得していること。
(イ) 200番台科目を30単位以上修得していること。

ウ 4年次進級の要件

(ア) 100単位以上を修得していること。
(イ) 基礎演習科目と専門演習科目の単位を全て修得していること。

(10) 卒業要件【資料13】

卒業要件129単位（教養教育44単位，専門教育85単位）

〔※ 卒業要件について、必修、選択必修、単位数等の詳細については資料13に記載、考え方等については上記の5(3)教育課程及び科目区分の編成に記載。〕

(11) 他大学における授業科目の履修

本学では、他大学等で履修した授業科目について、教養教育科目を含めて最大で60単位まで本学における授業科目として履修したこととしうるが、本学部では、専門教育科目に関して、他学部及び他大学における授業科目の履修により修得した単位は20単位まで、入学前の大学における既修得単位は32単位まで、シラバスと成績を審査した上で本学部において修得したものとして認定する。

(12) カリキュラムマップ及び履修モデル

ア カリキュラムマップ【資料14】

本学部では、年次ごとに次の5つの学びの領域に応じた科目を履修するとともにキャリア科目を履修する。

(ア) 幅広い知識と技能を学ぶ

1年次後期に、教養教育科目の情報科学科目、健康・スポーツ科学科目、全学モジュールⅠを履修する。

2年次に、教養教育科目の全学モジュールⅡを履修する。

以上の履修により、幅広い知識を専門科目や職業生活に活かしていくための基

盤となる力が身に付く。

(イ) 外国語コミュニケーションについて学ぶ

英語については、教養教育で1年次前期から3年次後期まで、専門科目で1年次前期から4年次前期まで履修する。

初習外国語（ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語）については、教養教育で1年次後期から2年次後期まで履修する。

さらに、中国語に関しては、専門教育科目で中国語モジュール科目を2年次前期から4年次前期まで履修することができる。

「オランダ特別コース」の学生は、専門教育科目でオランダ語モジュール科目を2年次前期から3年次前期まで履修する。

以上の履修により、複数の言語を用いて、他者とコミュニケーションし、同じ組織や地域の中で協働する力が身に付く。

(ウ) フィールド調査と研究報告の方法を学ぶ

1年次前期に、教養教育科目の教養ゼミナールを履修する。

1年次前期から3年次後期にかけて、専門教育科目のフィールドワークモジュール科目を履修する。

さらに、2年次前期から3年次後期までに、基礎演習及び専門演習を履修する。

以上の履修により、自ら問いを立て、調査研究を行い、課題について討論し、その成果を口頭発表や論文を通して発信する力が身に付く。

(エ) 多文化社会について学ぶ

1年次前期から1年次後期までに、教養教育科目の学部モジュール（多文化社会の諸問題）を履修する。

2年次前期から2年次後期までに、専門教育科目の共通基礎モジュール科目を履修する。

3年次前期から、学生はコースに所属し、専門モジュール科目を4年次前期まで履修する。

「グローバル社会コース」及び「オランダ特別コース」の学生は、2年次後期から4年次前期までに、中期・長期留学を行う（「オランダ特別コース」の学生は、ライデン大学に1年間の長期留学）。

以上の履修により、次の能力が身に付く。

- ① 高度の英語力（TOEFL PBT600点（iBT100点））を有し、グローバル化する世界における多文化状況において、英語でコミュニケーション及びプレゼンテーションができる。
- ② グローバル化する世界における多文化状況に関する基盤的知識を有し、文化的多様性の意義を理解できる。
- ③ グローバル化する世界における多文化状況の中で、人々と共生的な関係を築き、問題解決に向けて、パートナーシップやリーダーシップを発揮して行動す

ることができる。

(オ) キャリアについて学ぶ

キャリア科目として、1年次には導入的な学部モジュール科目（多文化社会の諸問題）「グローバルキャリアへの扉」（必修）、2年次には学生の自主的な取組を重んじた「自主企画インターンシップ」（選択）、3年次にはより専門的・実践的な「キャリア形成論」（必修）を系統的に履修する。

以上の履修により、キャリアを主体的に捉え具体的に自らのキャリアを構想していく力が身に付く。また、インターンシップ等を通じた社会体験を通して、自らのキャリア構想をより具体的・実践的なものにしていくことができる。

イ 履修モデル

本学部では、学びの輪郭を明確にし、学習の意欲と効果を引き出すために、教員と個々の学生が履修指導の際に詳細な意見交換を行い、知的関心や将来の進路に応じた履修モデルを作成する。

以下は、各コースに応じた主な履修モデルである。

(7) 国際機関を目指す学生の履修モデル（Transition Programによる特例）

【資料15-1】

入学時点でTOEFL PBT500点（iBT61点）以上、TOEIC650点以上又は英検準1級以上の者がグローバル社会コースを選択し、将来、国際機関で働くことを目指す。

学生は、1年次前期に開講される Transition Program【資料2】の講義の受講に代えて、国際的なボランティア、インターンシップ、フィールドワークの活動に従事することをもって前期開講分13単位を認定される。

1年次後期からは、学部モジュール（多文化社会の諸問題）（6科目のうち後期開講の5科目）においてグローバル世界の多文化社会状況を理解した後、2年次前期に共通基礎モジュールから「グローバル社会のしくみ」を主モジュール、「社会を映し出す文化、文化が作り出す社会」を副モジュールとして選択する。この組合せにより、世界の文化的問題に配慮しつつ、行政や経済といったシステムを包括的に理解することができるようになる。

3年次からは、主モジュールに「グローバル化する世界」、副モジュールに「変容する社会」を選択するが、2年次後期からの1年間は主として英語圏への留学と、海外でのインターンシップに従事する。インターンシップ先は学生の課題設定に応じて決定されるが、多文化社会における諸課題や開発途上国における社会開発に取り組む現地NGOやUNESCO、WHOといった国際機関を想定している。

専門モジュールでは、主モジュール「グローバル化する世界」において法学・政治学系の授業を中心に受講し、副モジュール「変容する社会」において地域研究、多文化共生、民族問題などに関する講義を受講する。主モジュールの専門科目を全て英語で受講する。2年次後期からの英語圏への留学によって語学力を養うとともに、専門に関連する講義を受講する。最後にはそれまでの学修の成果を卒業研究としてまとめ、その概要を英語で公開する。

(イ) 国際機関を目指す学生の履修モデル【資料15-2】

入学時点で TOEFL PBT500 点 (iBT61 点)以上, TOEIC650 点以上又は英検準1級以上を満たさない者がグローバル社会コースを選択し, 将来, 国際機関で働くことを目指す。

1年次前期の Transition Programにより, 英語7科目(7単位)と大学入門科目3科目(6単位)及びその他の英語集中学習を行う。これにより, 英語で授業を受けられるだけの語学力を身に付け, 大学における主体的学修への移行を果たす。

1年次後期には, 学部モジュール科目(多文化社会の諸問題)においてグローバル世界の多文化社会状況を理解し, 全学モジュール科目で幅広い教養を身に付ける。

2年次には, 共通基礎モジュールから主モジュール(6科目)と副モジュール(3科目)を選択する。また, フィールドワークの実習科目や基礎演習A・Bによって課題発見と調査・分析の技法を学び解決策を導き出す技法を身に付ける。

2年次に TOEFL PBT550 点 (iBT79 点)を達成した学生は, 3年次前期からの海外留学が可能となる。英語圏の大学への1年間の留学によって一層の英語力の強化を図り, また, 専門分野に関連する授業を受ける。留学中に修得した単位は, 本学部の単位に読み替えることで対応できる。

4年次には, 本学部の専門モジュールのうち, 主モジュールとして選択する「グローバル化する世界」の全ての科目を英語で, また副モジュールとして選択する「変容する社会」の一部の科目を英語で受講する。さらに, 課題研究を卒業研究としてまとめ, その概要を英語で公開する。

(ウ) 海外支援活動の NGO を目指す学生の履修モデル【資料15-3】

社会動態コースを選択し, 将来, 海外支援活動の NGO を目指す。

1年次前期の Transition Programにより, 英語7科目(7単位)と大学入門科目3科目(6単位)及びその他の英語集中学習を行う。これにより, 英語で授業を受けられるだけの語学力を身に付け, 大学における主体的学修への移行を果たす。

1年次後期には, 学部モジュール科目(多文化社会の諸問題)においてグローバル世界の多文化社会状況を理解し, 全学モジュール科目で幅広い教養を身に付ける。

2年次には, 共通基礎モジュールから主モジュール(6科目)と副モジュール(3科目)を選択する。また, フィールドワークの実習科目や基礎演習A・Bによって課題発見と調査・分析の技法を学び, 解決策を導き出す技法を身に付ける。

3年次以降の専門モジュールでは, 主モジュール「変容する社会」においてアジア・アフリカ地域の歴史と社会の問題, 多文化共生, ジェンダーなどの専門科目を受講し, 副モジュール「グローバル化する世界」において法や政治といったシステムの側面を学ぶ。また, フィールドワークモジュールにおいて調査の基礎

を身に付け、アジア・アフリカ地域における海外フィールドワークを通して語学力を高めつつ、異なる文化的背景を持つ人々とのコミュニケーション能力を養う。

アジア地域に関心を持つ学生は、中国語モジュールを選択することでアジア社会の理解に必須の中国語コミュニケーション力を養い、アジア地域へ留学をすることもできる。

(イ) 日本語教師として国際交流に携わることを目指す学生の履修モデル

【資料15-4】

共生文化コースを選択し、将来、日本語教師として国際交流に携わることを目指す。

1年次前期の Transition Program により、英語7科目（7単位）と大学入門科目3科目（6単位）及びその他の英語集中学習を行う。これにより、英語で授業を受けられるだけの語学力を身に付け、大学における主体的学修への移行を果たす。

1年次後期には、学部モジュール科目（多文化社会の諸問題）においてグローバル世界の多文化社会状況を理解し、全学モジュール科目で幅広い教養を身に付ける。

2年次には、共通基礎モジュールから主モジュール（6科目）と副モジュール（3科目）を選択する。また、フィールドワークの実習科目や基礎演習A・Bによって課題発見と調査・分析の技法を学び解決策を導き出す技法を身に付ける。

3年次からは、「多文化の共生」を主モジュールとして選択し、言語学的素養を身に付けながら思想と文化表象を専門的に学び、「変容する社会」を副モジュールとして選択し、社会学・人類学の観点から異文化交流に関する理解を深める。

また、中国語モジュールを選択することにより、中国語による情報収集と表現を身に付け、アジア地域の異文化交流に不可欠なコミュニケーション力を養う。

これらの言語・文化に関する講義の受講と、2年次からの日本語教師関連科目の授業及び教育実習によって日本語教師資格の取得を目指す。

(ロ) 国際的な企業を目指す学生の履修モデル【資料15-5】

オランダ特別コースに入学時から所属し、将来、国際的な企業で働くことを目指す。

1年次前期の Transition Program により、英語7科目（7単位）と大学入門科目3科目（6単位）及びその他の英語集中学習を行う。これにより、英語で授業を受けられるだけの語学力を身に付け、大学における主体的学修への移行を果たす。

1年次後期には学部モジュール科目（多文化社会の諸問題）においてグローバル世界の多文化社会状況を理解し、全学モジュール科目で幅広い教養を身に付ける。

2年次からは、オランダ語モジュールのオランダ語3科目（6単位）を履修し、ライデン大学への留学に備える。

2年次前期から3年次前期までに、主モジュール「オランダ」のオランダ関連科目を受講する一方で、3年次前期から副モジュール「変容する社会」において多文化社会の動態や民族問題についての専門科目を受講する。

3年次後半からは、ライデン大学に留学し、英語で授業を受けるとともに、学生自らが「特別研究」のテーマに設定した課題に則したフィールドワークや文献調査を行う。ライデン大学における学修と研究のうち、講義及び演習によって修得した単位（標準10単位）に関しては、ヨーロッパ単位互換制度(ECTS)の基準と本学部のナンバリングシステムとの対応に基づいて、本学部の単位として個別に単位認定する（標準10単位）。課外のフィールドワークや文献調査に関しては、留学前の事前指導と帰国後の事後指導、及び最終成果の英語での公開を含む「特別研究」（10単位）の一環と見なす。

8 施設、設備等の整備計画

(1) 校地、運動場の整備計画

多文化社会学部の教育・研究を支える校地は、本学の文教キャンパスである。文教キャンパスは、5つの学部及び3つの研究科が設置され、全学部の教養教育が行われるなど、本学における中心的なキャンパスであることから、附属図書館、保健・医療推進センター、食堂等の福利厚生施設が充実しており、本学部が新設されても、既存学部と共用できるだけの十分な施設を備えている。

運動場については、文教キャンパス内に設置されているグラウンド(約24,300㎡)、総合体育館(2,594㎡)及び補助体育館(862㎡)を主に使用する。このほか、文教キャンパスには、テニスコート、弓道場、柔道場、剣道場、プール等が整備されている。

学生が休息するスペースは、学生会館内に共用談話室、食堂、喫茶室等が備えられているが、さらに本学部の専用施設内にも整備する。

(2) 校舎等施設の整備計画

教室については、1学年の学生定員100名を収容できる大講義室、専門教育科目や外国語科目を開講するための中・小講義室、ゼミナール等を実施するための演習室を、文教キャンパスの既存施設の中で、学生の動線にも十分に配慮して、まとまりのある専用施設として確保し、整備する。(授業時間割【資料16】を添付)

教員の研究室についても、文教キャンパスの既存施設の中で、教員団としてのまとまりを生み出しうる位置に確保し、かつ、演習室を隣接させて教員と学生のコミュニケーションの機会を円滑に提供できるように整備する。

これらの施設・設備は、本学部の斬新かつ特色ある教育を展開するために、総合教育研究棟(専用1,294㎡)を中心に次のように整備する。

① 講義室・演習室

- 大講義室(100~120名規模)1室、中講義室(60~80名規模)3室、小講義室(30~40名規模)2室
- 演習室(10~15名規模)20室

② CALL(Computer-Assisted Language Learning)教室

本学部の語学教育のインフラはCALLシステムであるため、CALL教室(40名規模)1室を本学部の専用施設として整備する。授業のない時間帯は、本学部の学生に自習用として開放する。

③ パソコン室

学生の情報処理能力を高めるために、パソコン室(50~60名規模)1室を本学部の専用施設として整備する。授業のない時間帯は、本学部の学生に自習用として開放する。

④ マルチメディア室

視聴覚教材の作成、フィールドワーク実習のデータ分析、演習・卒業研究のデータ分析、WebサイトやPodキャストを利用した学修成果の公開等のために、最新のメディア機器を備えた専用施設を整備する。

⑤ 教員研究室

本学部の専任教員のための個人研究室として、専任教員1人につき1室(約20㎡)を整備する。

⑥ 多文化ラウンジ

本学部の集合的アイデンティティ形成の拠点として多文化ラウンジを設置する。多様な分野かつ国籍の教員が、校務の枠組みを離れて自由に意見交換を行い、研究のアイデアを公開し合う空間であり、さらに、学部構成メンバー全員及び学部生が、教員と学生という立場を越えて交流を深める空間でもある。

このほか、海外留学の支援を行う留学相談支援室、就職活動の支援を行う就職支援室、学生の相談に個別に対応するための学生相談室、管理運営を行うための学部長室、会議室、事務室等を本学部の専用施設として整備する。

(3) 図書等の資料及び図書館の整備計画

ア 図書資料の整備計画について

本学の全蔵書(附属図書館登録分)は、図書約98万冊、学術雑誌約15,000タイトル、視聴覚資料約4,900点を数え、そのうち図書については、文教キャンパスの附属図書館に約55万冊、坂本キャンパスの医学分館に約16万冊、片淵キャンパスの経済学部分館に約27万冊を所蔵している。また、本学の図書館では、14種のデータベースや約20,500タイトルの電子ジャーナルを提供しており、一部のデータベースや電子ジャーナルは、学外からもアクセス可能となっている。

本学では、長年にわたる図書資料の収集整備により、本学部の教育研究領域(人文学から社会科学にわたる諸領域)に関係する図書・学術雑誌類は充実している。

本学の図書館では、毎年約1万冊の図書資料が新たに登録され、利用に供されているが、本学部の設置に伴い、新設準備のための初年度調達として特別に措置される図書費(3,000万円)に加え、本学部に毎年割り当てられる図書費(500万円)により、本学部の教育研究領域に関係する図書・学術雑誌類を更に充実させる。これらの予算措置を有効に活用することによって、開設年度から完成年度までに必要な図書資料は支障なく整備することができる。

また、財団法人日蘭学会の解散(平成24年6月)に伴い、長崎大学は約7,000点の日蘭関係図書(日本語・英語・オランダ語)や、オランダ商館関係文書マイクロフィルム、在日蘭書の複製資料、フリース元オランダ大使コレクションの寄贈を受け、「オランダ特別コース」の教育研究環境が更に充実整備されたところである。

イ 図書館の整備計画について

文教キャンパスの附属図書館は、平成24年度に耐震補強及びリニューアル改修を行い、平成25年4月から新規開館した。改修に当たっては、本学の教育改革に即した自学自習環境の整備とアクティブ・ラーニング支援の強化を目的として、次の機能を設計に盛り込んだ。

- (ア) 床面積（総面積約 6,248 ㎡）は改修前と同様であるが、事務スペースの転用等により利用者スペースを拡張し、閲覧席数を 648 席から 756 席に増加させた。
- (イ) ラーニングcommonsのコンセプトを導入し、館内を①グループワーク（討議・協同学習の場）、②パーソナルワーク（PC や書籍他各種媒体を駆使した個人学習の場）、③サイレント（静粛・思索の場）にゾーニングし、多様な学習形態に対応した。〔※ラーニングcommons：複数の学生の自学自習及びディスカッションの場〕
- (ウ) オープンデッキやリフレッシュコーナーを配して、利用環境の快適性と利便性にも配慮した。
- (エ) 学生発表会、セミナー、講演会等に利用できる開放的な多目的ルームと、貴重資料や学生の活動成果等を展示するギャラリーを設置した。
- (オ) バリアフリーに配慮して、エントランスを2階から1階に移すとともに、利用者用エレベーターを新設した。
- (カ) 1階と2階にインターネット接続可能なPCを101台配置している。また、全フロアに無線LANアクセスポイントを整備し、個人のPCからも学内外の情報へのアクセスが可能となっている。
- (キ) 図書収容能力（約58万冊）は改修前と同様であるが、資料保存に適切な温湿度管理のため、書庫の空調設備と外壁の断熱性能を強化した。また、貴重書庫には専用の閲覧室を併設した。

なお、ソフトウェア面での研究・教育支援ツールとして、ディスカバリーサービス（統合検索環境）及びパスファインダー（テーマ別学習コンテンツガイド）を導入整備する。

ウ 他の大学図書館等との協力について

国立情報学研究所のNACSIS-ILL等図書館相互利用（Inter Library Loan; ILL）システムを利用して、本学未収集資料の複写や現物貸借の利用に役立っている。国内で入手できない資料についても、GIF（Global ILL Framework）、BLDSC（British Library Document Supply Centre）、OCLC（Online Computer Library Center）、NLM（National Library of Medicine）等様々なチャンネルを通して取り寄せ、教育研究活動への最大限の便宜を図っている。

また、海外出版社の寡占による電子ジャーナル価格高騰に対して、国立大学図書館協会（JANUL）コンソーシアムの一員として交渉に当たってきたが、平成23年度に公私立大学図書館協会コンソーシアム（PULC）と合流し、大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）を結成した。

そのほか、海外機関との協力としては、平成24年7月に、フランス国立ギメ東洋美術館と「日本古写真分野における学術交流協定」を締結した。

9 入学者選抜の概要

(1) 多文化社会学部が求める学生

本学部は、グローバル化が進展し文化的背景を異にする主体の共生と協働が求められる現代世界において、パートナーシップやリーダーシップを発揮して様々な分野で活躍できる人文社会系のグローバル人材を育成することを教育目的とし、本学部が育成する学士像を以下の**ディプロマポリシー**に集約させている。

- ① 高度の英語力（TOEFL PBT600点（iBT100点））を有し、グローバル化する世界における多文化状況において、英語でコミュニケーション及びプレゼンテーションができる。
- ② グローバル化する世界における多文化状況に関する基盤的知識を有し、文化的多様性の意義を理解できる。
- ③ グローバル化する世界における多文化状況の中で、人々と共生的な関係を築き、問題解決に向けて、パートナーシップやリーダーシップを発揮して行動することができる。

このような人材育成の基盤となる次のような資質を持った学生を選抜する（**アドミッションポリシー**）。

- ① 英語を主とする外国語の運用能力の基礎が充実している者
- ② 世界の多文化状況や異文化交流に興味、関心を持ち、グローバルな視点で自ら学ぼうとする意欲のある者
- ③ 世界の多文化状況を客観的に捉え、見出された課題の解決に向けて論理的に思考できる素養をもつ者
- ④ 世界規模の多種多様な考え方や価値観を尊重しつつ、それらについて批判的に思考できる素養をもつ者

(2) 選抜方法

本学部の募集人員は、100名（うちオランダ特別コース10名）で、次のような入試を実施する。

ア 一般入試（前期日程）

一般入試(前期日程)の募集人員は、平成26年度にあつては85名（うちオランダ特別コースは10名）、平成27年度以降にあつては70名（うちオランダ特別コースは5名）とする。

センター試験と個別学力試験（外国語（英語）及び批判的・論理的思考力テスト）を課す。

センター試験については、国語、外国語と地歴及び公民からの1科目、数学及び理科からの1科目の計4教科4科目を課す。英語は、筆記試験と英語リスニングの合計250点を200点に圧縮換算する。

なお、センター試験の外国語については、次のように取り扱うものとする。

- ① TOEFL PBT500点（iBT61点）以上、TOEIC650点以上又は英検準1級以上の者は、

センター試験の外国語の得点を満点として採点する。したがって、該当者は②の要件から外れる。

- ② 上記①以外の者で、センター試験の外国語の得点率が80%未満の者は、選考の対象としない。

◎センター試験の配点:300点

科目	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	合計
配点	50	*25		*25		200	300

※ 配点に*印を付してある教科は選択科目を表す。地歴、公民のうち複数教科科目を受験している場合、数学、理科のうち複数教科科目を受験している場合は、それぞれ高得点科目を採用する。

◎個別学力試験の配点：オランダ特別コース 360点

オランダ特別コース以外 300点

科目		外国語 (英語)	批判的・論理的 思考力テスト	面接	合計
配点	オランダ特別コース	100	200	60	360
	オランダ特別コース以外	100	200	—	300

オランダ特別コースは、総計660点（センター試験300点＋個別学力試験360点）中の300点を、オランダ特別コース以外は総計600点（センター試験300点＋個別学力試験300点）中の300点を外国語（英語）が占めており、かつ、センター試験の外国語の資格試験化（得点率が80%未満であれば選考の対象としない）による2段階選抜を行うことで、大学での学習に必要な語学力（英語）を担保している。

個別学力検査では、批判的・論理的思考力テストを課すことで批判的思考力、論理的思考力、ライティング能力を検査する。また、世界の多文化的状況への興味・関心の程度が反映されるよう出題を行う。

オランダ特別コースで課す面接は、日本語及び英語により実施する。

イ 一般入試（後期日程）

一般入試(後期日程)では募集人員は、平成26年度にあつては15名、平成27年度以降にあつては10名とする。後期日程では、オランダ特別コースの募集を行わない。

センター試験と個別学力試験（小論文及び面接）を課す。

センター試験については、国語、外国語と地歴及び公民からの1科目の計3教科3科目を課す。英語は、筆記試験と英語リスニングの合計250点を200点に圧縮換算する。

なお、センター試験の外国語については、次のように取り扱うものとする。

- ① TOEFL PBT500点（iBT61点）以上、TOEIC650点以上又は英検準1級以上の者は、センター試験の外国語の得点を満点として採点する。したがって、該当者は②の

要件から外れる。

- ② 上記①以外の者で、センター試験の外国語の得点率が85%未満の者は、選考の対象としない。

◎センター試験の配点:300点

科目	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	合計
配点	50	*50		-	-	200	300

※ 配点に*印を付してある教科は選択科目を表す。地歴、公民のうち複数教科科目を受験している場合は、高得点科目を採用する。

◎個別学力試験の配点:300点

科目	小論文	面接	合計
配点	250	50	300

個別学力検査では、小論文と面接を課す。いずれも、出題及び採点を構造化することで学力検査の客観性を保ち、批判的思考力、論理的思考力、世界の多文化的状況への興味・関心の程度を検査する。

ウ AO入試

AO入試は、平成27年度以降に実施するものとし、平成26年度は受験生への周知期間が短いことから実施しない。

募集人員は20名（うちオランダ特別コースは5名）とする。

出願資格は、TOEFL PBT500点（iBT61点）以上、TOEIC650点以上又は英検準1級以上とする。

第1次選考では提出書類により選考し、第2次選考では日本語及び英語による面接を課す。

エ 帰国子女入試

帰国子女入試は、平成27年度以降に実施するものとし、平成26年度は受験生への周知期間が短いことから実施しない。

募集人員は、若干名（オランダ特別コースを含む。）とする。

出願資格は、TOEFL PBT537点（iBT75点）以上、TOEIC750点以上又は英検準1級以上とする。

選抜方法は、提出された書類、面接（日本語及び英語による）の成績等を総合して行う。

オ 外国人留学生入試

募集人員は、若干名（オランダ特別コースを含む。）とする。

出願資格は、TOEFL PBT500点（iBT61点）以上又はTOEIC650点以上で、日本留学試験の指定の科目を受験していること。

選抜方法は、提出された書類、面接（日本語及び英語による）の成績等を総合して行う。

10 資格取得

多文化社会学部では、次のような資格取得が可能である。

【英語教員免許】

高等学校教諭普通免許状（英語）取得可能（共生文化コースに所属し、教職関連科目の履修が必要）（申請中）

【日本語教員基礎資格】（民間資格）

本学部では、文化庁の報告書『日本語教育のための教員養成について』（平成 12 年 3 月）に基づいて編成した日本語教員養成プログラムを置く。

本プログラムを修了するためには、「社会・文化・地域」、「言語と社会」、「言語と心理」、「言語と教育」、「言語」の 5 つの区分から、必修科目・選択科目を合わせて 30 単位以上の修得が必要であるが、「言語と教育」の中の「日本語教育学概論」、「日本語指導法」、「日本語教育実習」については卒業要件には含まれない。

なお、日本語教員の免許資格については、法令等の規定がないため、所定の単位を修得したものに対して、本学部が「日本語教員基礎資格」の認定を行い、卒業時に日本語教員養成プログラムの修了証を交付する。

1 1 海外留学等の具体的計画

(1) 海外留学の計画

ア 海外留学の目的

多文化社会学部では、グローバル人材の育成を狙いとして、短期留学、中期・長期留学及び海外フィールドワークを実施し、様々な形で学生を海外に派遣する。中期・長期留学及び海外フィールドワークにおいては、学部の講義科目との整合性を高めることで、語学力、専門性、人間力の総合的な育成を目指す。そのため長崎及び長崎大学の有するリソースも活用する。

短期留学の目的は、グローバル社会が必然的にもたらす多文化共生の意味と重要性を理解し、異文化交流を通して異なる国々の人々と様々な環境の下で協力して生きていくために必要なスキルと外国語の運用能力を高め、帰国後に自ら学習に主体的に取り組む姿勢や中期・長期の留学参加への意識付けを図ることにある。それゆえ、原則として全ての学生に早期段階での短期留学を義務付ける。

オランダ特別コースの学生とグローバル社会コース選択者には、短期留学に加えて中期・長期留学を義務付けるが、その目的は、本学部において学んだ専門知識を更に海外において展開し、短期留学では得難い自立した生活者としての体験を通して自己認識を深め、自己を相対化する経験を得ることである。また、中期・長期留学を選択しない学生には、「海外フィールドワーク実習」への参加を積極的に推奨する。

短期留学は、主として1年次の学生を対象としており、英語をはじめとする外国語能力の向上と異文化交流への関心を高めることを目的として数週間程度、海外大学との提携に基づくスプリングプログラム、サマープログラム、ウィンタープログラム等の海外大学との提携プログラムに参加する。

中期・長期留学は、大学間交流協定に基づく交換留学制度を利用した半年～1年間（1 Semester～2 Semester）の海外留学であり、「グローバル社会コース」と「オランダ特別コース」においては義務化する。参加の条件として英語力及び学業成績に関する一定の要件を満たすことを課しており、具体的には、留学前の修得単位数及び成績については80単位以上（3年次後期から留学する場合）、かつ、GPA3.5以上、英語力についてはTOEFL PBT550点（iBT79点）以上の取得を必須とする。なお、TOEFL PBT550点（iBT79点）の早期取得に向けた夏期集中講座等を設置する。

「海外フィールドワーク実習」は、中期・長期留学に準じるものとして専門課程教育の枠内で実施する。アジアやアフリカからフィールドを選定し（当初は、本学が海外に設置する教育研究プロジェクト拠点において実施）、他者と出会い、相互作用する中で、グローバル時代の社会人として必要なコミュニケーション能力を高め、同時に専門的な学びを実現する体制を整える。

イ 海外留学中の指導体制

上記の海外留学等の目的を達成するためには、学生が海外の留学先における様々な体験を通じて、英語、中国語の運用能力（実践的なコミュニケーション能力と読

解及び文章表現能力)を身に付け、異文化に対する感受性と理解を深めることができるように、学生に対する教育的配慮をもって留学条件を整備し、調整する必要がある。そのための業務は、本学部の専任教員が担い、以下の①及び②の体制で行う。なお、留学科目は本学部の専任教員全員が担当又はサポートすることを原則とするほか、外国籍の教員、海外長期留学経験を持つ教員、海外長期フィールドワークを実施している教員、海外長期教育経験を持つ教員を厚く配置することで、単なる語学力の向上にとどまらない多層的な留学を実現する体制を構築する。また、「オランダ特別コース」を除いて、中期・長期留学を求められる「グローバル社会コース」等の学生については、留学中に自律的に異文化接触の機会を増やせるように、交換留学先の地域の分散化を図り、大学1校当たりの日本人留学生の派遣数は5名以内として、できる限り日本人学生が同じ大学に集中しないよう配慮する。

① 事前・事後指導

日本における事前・事後指導に関わるガイダンスへの出席を必須とする。事前・事後指導は、ガイダンスを担当する専任教員が実施する。留学を担当する専任教員は、留学の全体的な運営を担当する。また、留学に関連する言語モジュール科目の履修を推奨し、留学における経験語学の修得を含めてより有意義なものとなるように注意を促す。

② 海外留学等をサポートする体制

短期留学に関しては、教養教育科目の一部である外国語科目として単位認定を行うため、本学部、言語教育研究センター、留学生センターの教員が引率を行い、留学先の生活環境や学習環境を視察し、滞在期間中の安全の確保と教育の質の保証に必要な交渉及び手だてを行う。また、短期の語学研修プログラムについては、例えばオランダ語の場合、オランダ語担当教員がライデン大学を訪問し、先方のスプリングスクールやサマースクールの授業内容やレベルの確認を行い、同時に中期・長期留学に向けて本学における語学の授業内容の見直しを行う予定である。

中期・長期の留学に関しては、本学部の専任教員が学生にきめ細かな留学前指導や相談を行うほか、アドバイザーとして担当教員を学生個人々に割当て、留学先の選択や履修科目等について相談を行った上で留学内容を決定する。留学中は、担当教員が学術交流協定校の担当者と電子メールなどで連絡を密に取り合い、留学中の学生の大学生活をサポートするほか、適宜、参加学生の留学先を訪問し、学生の留学生生活を視察し相談や指導を行う。

本学では、危機管理体制の関係規程等を整備しているほか、危機管理体制を組織している。学生(大学院生)の海外での留学等における安全確保等については、本学の国際健康開発研究科が豊富な経験を有しており、本学部もそれを踏まえ、学部生が対象であるので、更に周到に行う。学生の留学等に当たっては、留学先の入念な事前調査及び留学前の事前指導(留学先等の情報、留学等の諸手続き、連絡体制など平常時の安全管理、危機事案別の対処法、海外旅行保険加入、健康診断受診)を行い、危険回避のために最善を尽くす。また、担当教員とコーチングフェローは、学生の留学期間中、随時、電子メールなどで学生の相談に応じ、

本学の危機管理対応マニュアルにより、大学全体の危機管理担当部署、言語教育研究センター、留学生センターと協力して、留学先との連絡・調整を含めた学生の危機管理に当たる。

なお、危機発生時はケースに応じて全学的な危機対策本部を設置するなど学内体制を採るとともに、留学先機関などと連携して対応することとしている。

留学から帰国後の学生の就職活動については、本学部の就職担当教員が、留学前のガイダンスの開催、留学中の個人別就職情報の提供を行い、帰国時期に合わせた適切な就職活動の仕方を指導するほか、本学部留学生を対象とする企業説明会の開催、企業面接等を企画するなど、留学による就職活動への影響を極力排除し、学生が安心して留学に専念できる体制を構築する。

ウ 成績評価及び単位認定方法

成績評価及び単位認定は、国際的な教育の質保証システムを志向したナンバリングシステムに基づき、以下のように実施する。

(7) 短期留学

英語及び中国語の短期語学留学プログラムには、1年次対象プログラムと2年次対象プログラムがある。英語では英語コミュニケーションⅢ又は総合英語Ⅲ、中国語では中国語Ⅲ又は中国語Ⅳとして単位認定が行われる。

また、フランス語、ドイツ語、韓国語にあつては、現地でのプレースメントテストにおいて初級レベルを超えた科目を履修する場合にのみフランス語Ⅳ、ドイツ語Ⅳ、韓国語Ⅳとして単位認定が行われる。

いずれの科目においても、単位認定に必要な書類（修了証書、成績表等）を提出し、長崎大学における単位認定基準に則して単位認定が行われる。

(イ) 中期・長期留学

本学部では、中期・長期留学として、「グローバル社会コース」及び「オランダ特別コース」を選択した学生に半年から1年間の留学を原則として義務付ける。他のコースを選択した学生も、中期・長期留学を推奨する。留学期間は、長期留学すなわち1年間（2 Semester）の留学を原則とするが、本人の経済的理由、卒業時期への影響、交換留学先である提携大学が半年間の交換留学を希望する場合等を想定して、中期留学すなわち半年間（1 Semester）の留学も可能とする。

中期・長期留学は全て、大学間の学術交流協定に基づく交換留学として実施される。交換留学の場合、学生は本学の学費を納入し、在学したまま協定大学に半年から1年の期間留学する。本学部学生の子な留学受入先は、【資料17】のとおりである。

今後は、交流協定の締結をアジア、ヨーロッパ、オセアニア、北米圏の諸大学、特に英語圏の大学と進める。協定校の具体的な数値目標としては、グローバル社会コース選択者は全員、オランダ特別コースを除く他のコースからそれぞれ2～3割の学生が中期・長期留学に参加すると想定した上で、全体で40～50名程度の学生を3つのコースから交換留学させるために、平成25年度中に10校、平成26

年度中に10校、今後2年間で合計20校程度の大学と交流協定を締結することを計画している。地域別目標としては、アジアで5校、ヨーロッパで5校、オセアニアと北米で10校の割合で交流協定の開拓を進め、大学毎の留学人数を可能な限り少人数になるようにして、教育効果の高い実質的な交換留学を推進していく。

他方、認定留学は、学生が休学することなく、協定大学を含む外国の大学に留学することができる制度である。学生の申請に基づいて、留学を希望する外国の大学が学位授与権を有しているか等の諸点を大学が審査し、本学部教授会が学生の留学目的が教育上有益と判断した場合に留学が認められる。

交換留学及び認定留学の終了後、留学先の大学及び本学部のシラバスの内容・レベルの対照表に基づいて、送付された各学生の成績について科目ごとに審査した上で単位認定する。

エ 海外留学の経済的支援

海外留学や海外フィールドワーク実習に際しては、渡航費補助等相応の経済的支援を行う。

(2) インターンシップの計画

① インターンシップの目的及び概要

本学部では、グローバルに活躍する職業人としてのキャリア観を形成し、大学に戻ってからの授業や社会活動への参加意欲及び将来実社会で働く自己イメージを高めることを目的として、インターンシップを実施する。

なお、インターンシップは、「自主企画インターンシップ」として自らの意思と努力によって職業世界を経験することを重視するため、キャリア科目の必修科目ではなく、学生の自主的な参加を前提とした選択科目として設定する。主として2年次の学生を対象に、夏季休業等の長期休業期間中に国内外の企業等において2週間～1か月程度実施するものとする。さらに、長期留学に参加しない学生には2年次のみならず、3年次以降のインターンシップの企画と実行も強く勧奨する方向で指導することで、卒業後の進路決定へスムーズな移行を促す。

② インターンシップの受入先

インターンシップ受入先の自主的な開拓は、学生が自己の希望する職業や会社に主体的にアプローチできる機会であり、これを通してビジネスマナーを実践的に学びヒューマンネットワークを構築する良い体験ともなり得るため、原則として学生自らが行うものとする。ただし、学生のみによる自主開拓には限界が予想されるため、本学部においても、受入先を新たに開拓するほか、「長崎インターンシップ推進協議会（長崎県産業人材課担当）」とも連携して学生の職業体験を充実させるためのネットワークを構築する。なお、本学では、現在、「長崎インターンシップ推進協議会」に登録されている約100社の企業を対象にインターンシップを実施しており、受入れ先は十分に確保されている。

インターンシップは、学生の所属コースに関係なく、また、民間、公的機関、NPO

等の業種や組織規模の大小を問わず、本人が希望する幅広い職種・業種において可能とする。ただし、学生が届け出たインターンシップ先は、担当教員が業務内容、社会性、安全性等の観点から審査を行い、災害補償等の措置を考慮した上で、実施の可否を判断し承認する。

また、インターンシップの受入先が受入条件、責任等についての覚書を必要とする場合は、本学部を主体として受入先と取り交わすものとする。

インターンシップ担当教員は、受け入れ期間中に適宜、受入先を訪問するなどして学生の取組状況等について状況を把握し、学生及び受入先との意見交換を行う等によりインターンシップ内容の改善に努め、実質的な効果を高めるようにする。

③ 評価と単位認定

学生は、事前ガイダンスを必ず受講し、インターンシップの意義や必要な心構え等を理解した上で、インターンシップに参加し、終了後、レポートを提出する。

学生から提出されたレポート、受入先からの評価書及び担当教員に対するプレゼンテーションの内容を総合的に判断し、単位を認定する。

単位数は2単位とし、インターンシップ実施後のレポート作成と教員へのプレゼンテーションは全て英語で行わせ、語学力、自己表現能力の向上を図る。

1 2 管理運営

(1) 学長が指名する学部長のイニシアチブによる学部ガバナンス

本学は、従来とは異なった先進的な学士課程教育を実現するとともに、世界をリードしている新興感染症研究、被ばく医療研究をはじめとする卓越した研究拠点の構築を目標に、学長のリーダーシップに基づく学部ガバナンスを実現することを目指している。

多文化社会学部は、このような先進的な学士課程教育及び学部ガバナンスを実現していくためのドライビングフォースである。そのため、実質的に教授会が決定権を持つ学部長選考や教授会が主導する従来型の学部運営を改め、学長が指名する学部長がイニシアチブを十分に発揮できる学部ガバナンスを実現し、本学のミッションを踏まえて、学部のミッションをより迅速かつ効果的に学部運営に反映できる管理運営体制を構築する。

(2) 学部運営会議及び教授会

教授会の審議事項は教学事項に精選し、人事、予算その他学部運営事項に関しては学部長を中心に組織される学部運営会議が執り行う。

教授会は、教授、准教授及び助教により組織され、毎月1回定例開催する。

学部運営会議は、学部長（議長）を中心に教学担当理事を参画させることにより、両者の連携の下に、学部長指名の副学部長、常置委員会委員長等により組織され、学部ガバナンスの中核となる。

(3) 副学部長及び常置委員会

学部長のイニシアチブによる学部ガバナンスを円滑に行うため、学部長の業務を補佐支援する学部長指名の副学部長2名を置く。

学部の日常的な業務を円滑に処理するため、学士課程教育委員会、入試委員会、広報委員会、国際交流委員会、評価委員会等の常置委員会を置く。

(4) 教学マネジメント【資料3】

学生を徹底して鍛える教育環境を実現し、全ての学生が主体的に学修に取り組むようにするために革新的な教学マネジメントを確立する。この教学マネジメントの実践的な中核として、学部長指名の教学担当副学部長を委員長にして、学部モジュール、共通基礎モジュール、専門モジュール、英語モジュール等のモジュール代表者により組織される学士課程教育委員会を設置する。

学士課程教育委員会は、従来の教務委員会とは異なり、教学案件の審議機関に止まらず、決定された教学事項の実施において中核的役割を果たしていくもので、ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーに基づく教学マネジメントの中心である各モジュールの内容（教育内容、授業科目担当者等）を常に点検し、カリキュラムの実施に当たって各モジュール間の調整等を行う。

(5) 人事給与システム

本学では、既に平成 19 年 11 月から有期雇用職員に年俸制を導入して有為な人材を採用しているほか、平成 25 年 4 月から従来のポスト管理からポイント制による人件費管理へ移行したところである。

本学部では、新たな人事給与システムの改革として、ポイント制の中で、一定の年齢以上の教員に対して、従来の給与制度と常勤職員の採用枠から外れた業績評価に基づく年俸制を選択できる制度を導入する。

これにより、当該常勤職員採用枠を活用して、外国人教員、若手教員及び女性教員を積極的に採用するなどポイント制を柔軟に活用した多様な人事を促進するとともに、教員の流動性の向上及び教育研究の活性化を図る。

1.3 自己点検・評価

(1) 全学的実施体制

本学の組織評価については、国立大学法人長崎大学基本規則第30条の2の規定に基づき「計画・評価本部」を置き実施することを定め、計画・評価本部規則において任務、組織等を定めている。

計画・評価本部は、中期目標・中期計画・年度計画の案の作成はもとより、国立大学法人評価委員会が行う本学の評価（以下「法人評価」という。）及び大学機関別認証評価（以下「認証評価」という。）への対応に関する業務を行うことを任務とする。同本部は、学長を本部長として、理事、副学長、事務局長及び事務局の各部長から構成される組織であり、幅広い評価項目、基準・観点等に対応できる実施体制を実現している。さらに、評価等の業務を行うに当たっては、必要に応じ、全学委員会、事務局各課等を活用できるようになっている。本学は、月3回程度学長・副学長会議を開催し、学長のリーダーシップの下、機動性のある組織運営を行っているが、学長・副学長会議の構成員が計画・評価本部の構成員を兼務することで、状況に応じ柔軟かつ迅速な対応が可能になっているところが特徴的である。

(2) 実施方法、結果の活用、公表及び評価項目等

本学では、法人化後、法人評価[第一期/H16～21、第二期/H22～23]及び認証評価[H19年度受審]について、それぞれの評価基準等により本学における点検及び評価に関する規則（以下「点検・評価に関する規則」という。）第3条に基づき、自己点検・評価を実施してきた。

計画・評価本部では、各構成員（事務局各課含む。）が担当する分野において、本学における教育、研究、社会貢献、大学運営等の諸活動に関するデータを収集した評価基礎データベースシステム等を活用し、自己点検・評価を行い、原案を作成し、同本部会議で検討するとともに、原案について各部署長を構成員とする連絡調整会議及び経営協議会で諮り、意見等を求めることで原案のブラッシュアップを行っている。評価結果については、同本部会議において報告し、改善点等については学長から担当の理事又は副学長に対し指示するとともに、改善報告を求めることにより、教育研究の水準及び質の向上に努めている。さらに、評価結果は本学の公式ホームページで公表するとともに、同本部のホームページにおいてもこれまでに実施した全ての評価の結果を併せて公表している。部局等では組織評価として、点検・評価に関する規則第4条に基づき、自ら定める評価基準等により、自己点検・評価を実施するほか、第三者評価又は外部評価を行うことを定めている。また、教員個人の教育、研究、社会貢献、大学運営の4領域に関する活動を客観的評価基準により評価し、その結果をインセンティブに用いている部局もある。

本学部では、組織評価については、評価委員会を中心に自己点検・評価を行なうとともに第三者評価に対応する。また、外部委員から成る外部評価委員会による外部評価を行う。それらの評価結果は冊子及び本学部のホームページで公表する。教員の個人評価については、教員個人の教育、研究、社会貢献、大学運営の4領域に関する活動を客観的評価基準により評価し、その結果をインセンティブに用いる。

1 4 情報の公表

(1) 大学としての情報提供

本学では、インターネット上に大学のホームページを設けており、大学の理念と中期目標や計画などの大学が目指している方向性を発信するとともに、カリキュラム、シラバス、学則等の各種規程や定員、学生数、教員数などの大学の基本情報を公開している。具体的な公表項目の内容等と公開しているホームページアドレスは以下のとおりである。

- ① 大学の教育研究上の目的に関すること。
- ② 教育研究上の基本組織に関すること。
- ③ 教員組織及び教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること。
- ④ 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること。
- ⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること。
- ⑥ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること。
- ⑦ 校地、校舎等の施設及びその他の学生の教育研究環境に関すること。
- ⑧ 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること。
- ⑨ 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること。
(①～⑨：<http://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/about/disclosure/education/index.html>)
- ⑩ その他
 - (a) 長崎大学規則集
(<http://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/about/guidance/rule/index.html>)
 - (b) 設置計画書・設置計画履行状況報告書等
(<http://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/about/disclosure/legal/index.html>)
 - (c) 評価及び監査に関する資料
(<http://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/about/disclosure/legal/index.html>)

(2) 多文化社会学部としての情報提供

本学部の教育研究活動は、大学及び本学部のホームページに掲載する。また、上記の自己点検・評価報告書や、外部評価による評価結果を公開（長崎大学計画・評価本部ホームページ URL：<http://www.hpe.nagasaki-u.ac.jp/>）する。さらに、学部単位の広報パンフレットを作成し、本学部のカリキュラム上の特色や研究活動などに関する情報を公開する。また、文部科学省への意見伺いの内容については、ホームページに掲載する。

1 5 授業内容方法の改善を図るための組織的な取組

(1) 長崎大学の取組

本学では、全学教務委員会（委員長は教学担当理事）の下に、全学の教育改革の現状の把握、改革内容の検討、改革方針の確立を図るために評価・FD 教育改善専門部会（部会長は教学担当理事）を置き、授業内容の改善を含む教育改革を不断に進めていく体制を整えている。また、学内共同教育研究施設の1つとして、教学担当理事がセンター長を務める大学教育機能開発センターが設置され、全学教務委員会のシンクタンクとしての役割を果たしている。同センターには、教養教育研究部門と評価・FD 研究部門の2つが置かれ、後者は授業評価の在り方を研究するとともに、評価・FD 教育改善専門部会と緊密な連携を図りながら授業内容の改善に資する全学FDの企画・立案に当たっている。

本学では、FD に出席した教職員には修了証を与えるなど、教職員の意識変革を促し主体的に教育改革に取り組む体制も整えており、FD への出席状況を教員評価の評価項目の1つにしている部局もある。

本学では、既に学生による授業評価を実施しており、平成24年度からはその結果を学内に公開している。平成25年度からは、学外にも公開する予定である。また、各学部の学生から構成される教養教育改善のための学生協議会が、大学教育機能開発センターと協力して教育改善のための活動を行っている。

(2) 多文化社会学部の取組

本学部における授業内容の改善を含む教育改革の不断の推進は、学部長のイニシアチブによる学部ガバナンスの最重要課題であり、全学教務委員会の評価・FD 教育改善専門部会及び大学教育機能開発センターの評価・FD 研究部門と密接な関係を保ちながら推進する。教育改革において重要なのは、教育に取り組む教員の意識を高めることであり、本学部では、全学FDとともに学部独自のFDを適宜開催（多文化社会学部合同合宿研修等）するとともに、既に平成24年度から教養教育の大部分において義務化した授業公開（他の教員が行っている授業から学ぶ）を常態化する。学生による授業評価を定期的に行い、評価結果を活用し、教育内容の質的向上や双方向的な教育方法の推進など教育改善を図る。

本学部のFDは、教育、入試、メンタルヘルス、ハラスメント等多岐にわたるが、大きな特徴の1つは、採用が決定した教員が着任時から、在職教員と学部の理念と志を共有し、学部教育をスムーズに開始することができるように、着任前研修を実施することである。

もう1つの特徴は、教員団それ自体をグローバル化時代の教育研究の主体として一層のブラッシュアップを図るためのFDである。グローバル人材の育成に決定的な役割を果たす教員自身が、世界のグローバル化と多文化化についての先端的理解と見識を有し、それを英語で発信することのできるグローバル人材として評価されることが、本学部の教育研究を充実させるためには重要である。そのため、多文化社会研究の先端的知見を分野を越えて相互理解するためのFDや、全教員が英語での教育や研究発表を行うスキルを更に高度化するためのFDを実施するほか、国内外の研修制度を設け、教員のグローバル化対応を一層推進する。

1 6 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

(1) 教育課程内の取組

「国際社会で活躍するリーダーの育成」を目標に、主として1年次から3年次にかけて教養教育を行う。教養教育は、専門教育を視野に入れて学部4年間の学びの基礎作りを主眼に置くと同時に、そこで身に付けた考え抜く力や一歩前に踏み出す力などを社会人基礎力へと展開していくことを目的とする。学生たちは、現代社会が直面しているテーマを多面的に学びながら、批判的精神や探求能力を育み、卒業後のキャリアの礎を形成する。そのための授業形式としてモジュール方式とアクティブ・ラーニングが全面的に導入される。すなわち、モジュール方式により、学生の知的関心やキャリア志向に対応した体系的科目群を選択履修させ、アクティブ・ラーニングを採用することによって、学生参加型の授業を目指す。

多文化社会学部では、グローバル化時代のライフコースを視野に入れたキャリア教育を重視している。入学時の学部モジュール（多文化社会の諸問題）「グローバルキャリアへの扉」と、専門教育のキャリア科目「キャリア形成論」をそれぞれ必修とし、教育課程を通じて、学生の社会的及び職業的自立を図ることとしている。また、「卒業研究」等の演習科目における具体的多文化状況をフィールドとした調査研究、「海外フィールドワーク実習」、及び国内外の企業や国際機関への「自主企画インターシップ」を通じて、幅広い職域でグローバルに活躍する職業人を育成する。さらに、1年次から4年次までCALLシステム（コンピュータによる英語自学自習システム）や海外への短期から中期・長期留学を通じた、一貫した語学学習を実施することにより、グローバル人材に必要な語学能力の修得にも力を入れる。

(2) 教育課程外の取組

入学時のオリエンテーション時に「就職のしおり」を配付することから始まり、1年次から卒業までの一貫した就職支援を行う。具体的には、学外からでもパソコン及び携帯電話を利用しアクセスできる就職情報総合支援システム（NU-Naviシステム）を整備して、インタラクティブな情報交換（求人情報（検索）、就職セミナー・支援講座、学内企業説明会等の情報提供、参加予約登録）を可能にしている。さらに、「就職活動準備講座」、「就職活動実践講座」、「公務員講座」、「学内合同・個別企業・業界研究セミナー」、「就職何でも相談・模擬面接」など、学生の様々なニーズに対応できる支援事業を行う。

(3) 適切な体制の整備

就職に関する全学の組織としては、就職支援・キャリア情報コーナーを設置し、就職相談室にキャリアカウンセラーを常駐させ、就職支援を行っている。各学部には、就職支援（資料）室を設けて、各学部に特化した就職支援を行っている。

さらに、東京、大阪、広島、福岡の4か所に設置する「長崎大学ラウンジ」や東京九段下に設置する「長崎大学東京事務所」は、長崎大学生の就職活動の拠点として活用することができ、学生の社会的・職業的自立に資する体制を整備している。

また、学生の就労意欲・職業意識の向上と就職活動に必要な情報・知識・スキルの修得を図り、就職目標の実現をサポートするため、学生の自主企画による就職活動支援プログラムに資金面での支援を行っている。

特に、本学部においては、400名の学生に対して30名の専任教員と8名のコーチングフェローを配置して、生活面、留学、履修等に関してきめ細やかに相談できる体制を構築する。

資 料 (目 次)

資料 1	長崎大学「多文化社会学部」における先進的展開	1
資料 2	Transition Program (1年次前期の取組) の展開	2
資料 3	学生を徹底して鍛える学習環境	3
資料 4	LACS (長崎大学主体的学修支援システム)	4
資料 5	英語力の徹底強化のための方策	5
資料 6	ナンバリングシステムの全面的導入	6
資料 7	グローバル人材育成に向けたカリキュラムの流れ	7
資料 8	アンケート調査の結果	8
資料 9	要望書 (長崎県内の団体)	10
資料 10	要望書 (オランダ王国特命全権大使)	13
資料 11	多文化社会学部における卒業後の進路に向けた組織的な戦略	15
資料 12	学部モジュール (1年次) によるグローバル人材育成への扉	16
資料 13	多文化社会学部のカリキュラム (抜粋)	17
資料 13-1	グローバル社会コース	
資料 13-2	社会動態コース	
資料 13-3	共生文化コース	
資料 13-4	オランダ特別コース	
資料 14	多文化社会学部 カリキュラムマップ	21
資料 15	多文化社会学部の履修モデル	22
資料 15-1	国際機関を目指す学生 (Transition Program による特例)	
資料 15-2	国際機関を目指す学生	
資料 15-3	海外支援活動の NGO を目指す学生	
資料 15-4	日本語教師として国際交流に携わることを目指す学生	
資料 15-5	欧米系の企業を目指す学生	

資料 16	授業時間割・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	27
資料 17	長崎大学「多文化社会学部」の主な留学受入先一覧・・・・・・・・	29

長崎大学「多文化社会学部」における先進的展開 — 大学改革のドライビングフォースを担う新学部設置 —

グローバル教育環境の実現

- 外国人(籍)教員3割
- 長期留学・研究経験者8割

新たな年俸制の導入により促進

カリキュラムの特徴

- 外国語のみの授業 56%
(うち英語のみの授業 51%)
- モジュールとコースの結合
- オランダ特別コースの設置
(ライデン大学へ1年間留学)

本格的授業は1年次後期スタート

- TOEFL高得点者は、1年次前期は講義の受講に代えて、
→ 国際的なボランティア、インターンシップ、フィールドワークへの参加
- 他の学生は、1年次前期は語学と「大学入門科目」のみを集中的に履修
→ 高校から大学へと学びの姿勢とポテンシャルを移行させる。

準秋入学制

入口

入試

- ・ TOEFLスコア等の読替 (TOEFLPBT500 (iBT61) 以上はセンター試験外国語の得点を満点換算)
- ・ センター試験外国語の資格試験化
足切り：前期80%未満
後期85%未満
- ・ 多面的・総合的な評価方法への転換

Transition Program の展開

- 学部モジュール (全学生必修)

- 1年次10月
TOEFL iBT: 61
TOEFL PBT: 500

- 短期留学 (全学生)

学生を徹底して鍛える学習環境

— 学修時間の実質的な増加・確保 —

- ◎ コーチングフェローの配置：学生一人一人を鍛え、学習支援、留学支援など多面的に学生を支援
- ◎ CALLの導入 (コンピュータによる英語自学自習システム)：24時間運用体制により積極的な学習を促進
- ◎ ポートフォリオによる可視化：学生の学習履歴、教員の指導履歴により修学状況を把握
- ◎ 多文化ラウンジの設置：多様な文化的・学術的背景を持つ教員と学生が、講義の枠を離れ、対等な目線で交流する空間
- ◎ LAGSの導入 (長崎大学主体的学修支援システム)：学生と教員・学生同士・教員同士のコミュニケーションツール

4コースに配属

- 専門モジュール (4モジュールから主・副を選択履修)

- 海外フィールドワーク実習 (本学海外拠点の活用：アフリカ等)

グローバル力と専門性 (人文学・社会科学)

- 共通基礎モジュール (3モジュールから主・副を選択履修)

英語 (語学力)

- キャリア教育 (全学生必修)

- 中・長期留学 (学生の54%)

中期・長期留学の要件

TOEFL iBT: 79
TOEFL PBT: 550

卒業研究
(外国語による
成果の発信)
↓
語学力と専門性の
高次元での融合

● 卒業時
TOEFL iBT: 100
TOEFL PBT: 600

長崎大学ブランド・ グローバル人材

出口 (就職先等)

- ・ 大学院 (国内外)
- ・ 国際機関
- ・ 開発援助の専門家
- ・ 官公庁の国際交流部門
- ・ 国際的な企業 等

厳格な成績評価

- ・ 卒業判定 (留年者へも徹底指導)

身に付く能力

- 高度の英語力 (TOEFL PBT600, iBT100) を有し、英語でコミュニケーションやプレゼンテーションができる。
- 多文化社会に関する知識を有し、文化的多様性の意義を理解できる。
- 多文化社会において、人々と共生的な関係を築き、問題解決に向けて行動できる。

入学 | 1前 | 1後 | 2前 | 2後 | 3前 | 3後 | 4前 | 4後 | 卒業

Transition Program(1年次前期の取組)の展開

1000 hours for global students

<Transition Program実現のための戦略的な取組>

一般入学生

●英語力の徹底強化のための講座を集中的に実施

- ①英語集中トレーニング
授業7コマ/week+授業1コマにつき3hの自宅学習
=472.5時間(4.5h×7コマ×15weeks)
- ②英語合宿 72時間(12h×6days)
- ③夏期集中講座(TOEFL対策集中講座) 63時間(1.5h×42回)
- ④英語カフェ 189時間(1.5h×3回/week)×42weeks
- ⑤大学入門科目の段階的展開
「教養ゼミナール」:67.5時間
「フィールドワーク入門」:67.5時間
「グローバルキャリアへの扉」:67.5時間 } 202.5時間
- ⑥成果発表会(英語) 5時間

合計1004時間

知の1000時間マラソン

●英語力の徹底強化のためのきめ細やかな指導体制

・ 学生を10名-10グループに分け、担当する10名の学修をきめ細かくサポート、エンカレッジするために、

- ①担任教員(教養ゼミナールの担当)
- ②英語担当教員、外国人教員又は英語で授業を実施する教員
- ③コーチングフェロー又は専任の助教

から成る3名1チーム(計30名の教員)の指導チームを編成し、1チームにつき、学生10名を指導する。



・ 指導チームは、**チームミーティング**を開き、LACS(主体的学修支援システム)を活用して、学生の履修状況を把握し、指導方法を適宜確認する。

TOEFL 等高得点者

※1年次前期は講義の受講に代えて、次のプログラムを課す。

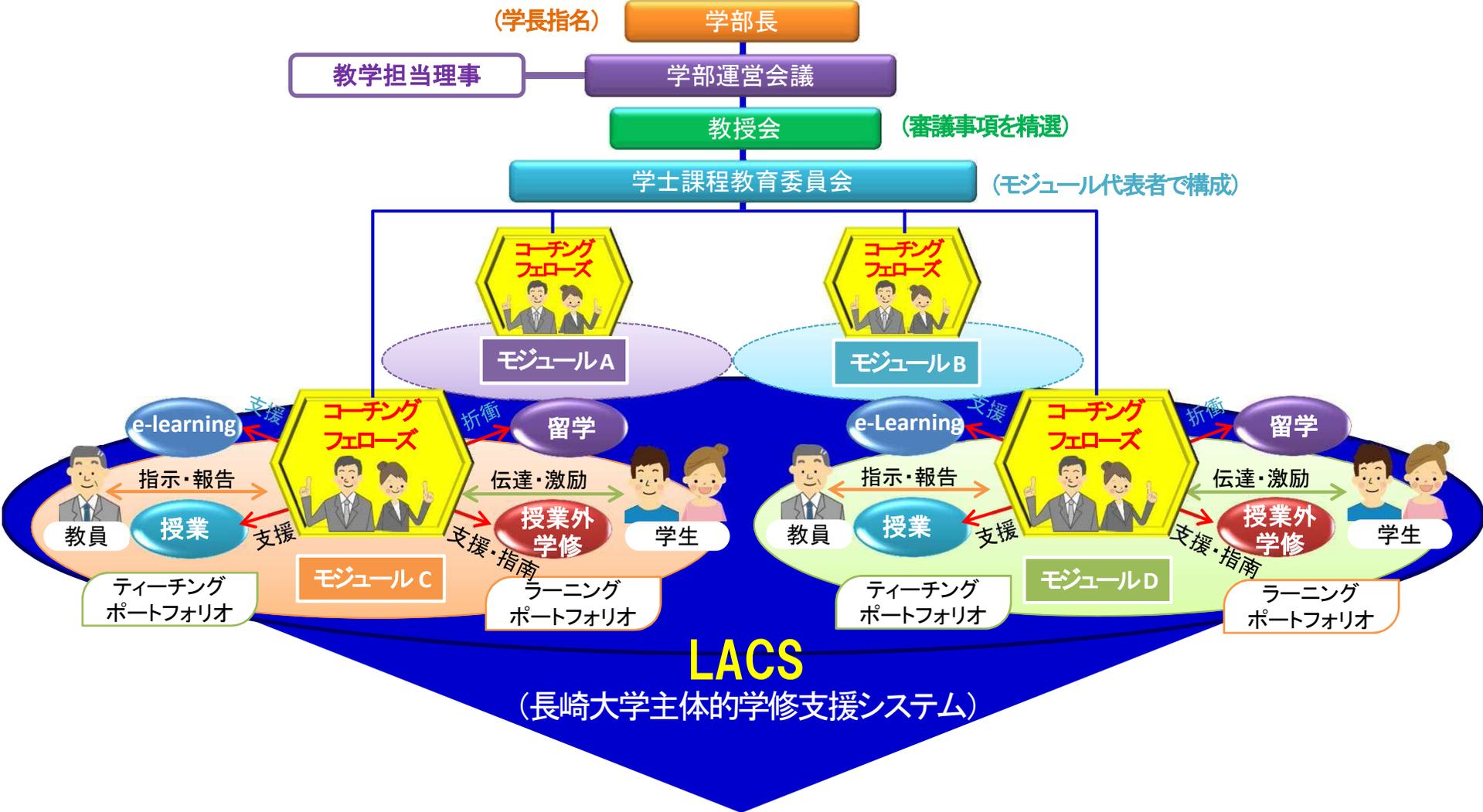
- ①事前指導(入学決定~4月)
大学での学び、グローバルキャリア、ボランティア計画、語学到達目標について個別指導(20回)
- ②ISA(International Social Activities)(5月~7月)
国際的なボランティア、インターンシップ、フィールドワークへの参加 ※時期は実際には受け入れ先によって可変
Web指導:スカイプ、メール、e-Learning等を活用して、ISA期間中のサポート、調査研究指導(15回)
- ③事後指導(7月~8月)
ISALレポート作成指導、口頭発表、フォローアップ講義(10回)

学生を徹底して鍛える学習環境

— 革新的な教学マネジメントの確立と学生を鍛え最大限の伸長を促す —

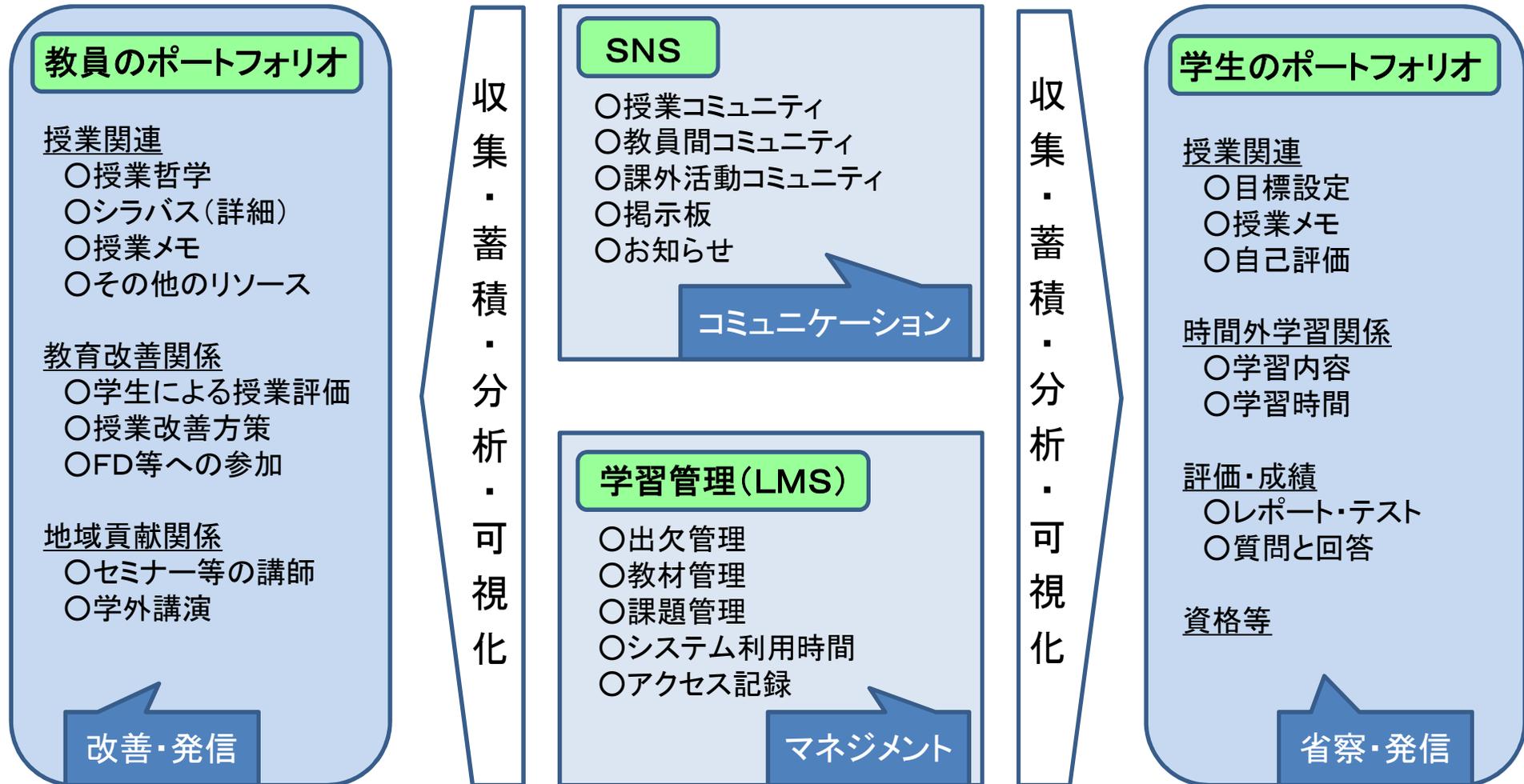
本学部の学生には、進級時や卒業時に高いハードルが設けられている。これらをクリアするためには、学修の積み上げが必要となる。自学自習を促す教育環境として、ラーニングポートフォリオやeラーニングシステム、さらには教員や学生とのコミュニケーションを円滑にする授業毎のSNSを備えたLACS (Learning Assessment and Communication System)を整備した。

ただし、学生一人一人を鍛え、最大限の伸長を図るためには、授業はもとより授業外学修が効果的に行われなければならない。このために教員と学生をつなぎ、学生のニーズに即応しながら彼らの学修をエンカレッジするコーチングフェローを配置する。このコーチングフェローズが有効に働くためには、彼らを組み込んだ学部全体の教学マネジメントが確立されなければならない。本学部のカリキュラムの柱となるモジュール代表者からなる学士課程教育委員会を副学部長(教学担当)の下に置き、コーチングフェローの活動が効果的になるようマネジメントを行う。



LACS(長崎大学主体的学修支援システム)

- ① 学生と教員、学生同士、教員同士のコミュニケーションを促進
- ② 授業に関する様々な情報(目標、メモ、課題・レポート等)を管理
- ③ ポートフォリオを活用し、学生の「気づき」や教員の「改善」を支援



能動的で主体的な学びを育む教育・学習の「型」を形成

英語力の徹底強化のための方策

- ◎ グローバル社会コース
- ◎ オランダ特別コース

- 中期・長期留学（必修）標準10単位修得
- 全科目英語開講の専門モジュール
- 演習等における英語でのディベート及びプレゼンの実施

“英語でネゴシエイトできる力”

中期・長期留学の要件

TOEFL iBT: 79
TOEFL PBT: 550

- 専門モジュール（全科目英語開講）

- 中期・長期留学（必修）

卒業研究
(外国語による
成果の発信)
↓
語学力と専門性の
高次元での融合

- 卒業時
TOEFL iBT: 100
TOEFL PBT: 600

4年一貫の英語力養成プログラム

教養教育（英語科目）8単位 → 専門教育（英語モジュール科目）10単位

- 短期留学（全学生）

- 中期・長期留学（選択）

- 専門モジュール（一部科目英語開講）

準秋入学制

- 1年次10月
TOEFL iBT: 61
TOEFL PBT: 500

- ◎ 社会動態コース
- ◎ 共生文化コース

Transition Programの展開

- 英語力の徹底強化のための講座を集中的に実施

- ① 英語集中トレーニング
- ② 英語合宿
- ③ 夏期集中講座（TOEFL対策集中講座）
- ④ 英語カフェ
- ⑤ 大学入門科目の段階的展開
- ⑥ 成果発表会（英語）

合計1004時間

知の1000時間マラソン

- Transition Program以降も英語力を強化
 - ① 中期・長期留学を行わない者には、2年次～4年次まで「英語合宿」「夏期集中講座」への継続参加を義務付ける。
 - ② 専門モジュール30単位のうち、10単位を英語によって開講される科目から修得することを義務付ける。
- 中期・長期留学（選択）

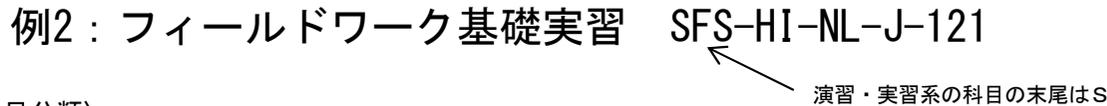
“英語で日本を発信できる力”

ナンバリングシステムの全面的導入

学修の段階, 順序, 内容等にコードを付し, 教育課程の体系を可視化



この案では, 演習・実習系の科目は担当者の専門分野や使用言語によって授業番号を違えるという方式を採用している。



〈科目分類〉

	科目系統	分類記号	レベル
教養教育 (G科目)	既習外国語	G A E	100~300
	初習外国語	G F D, G F F, G F C, G F K	100~200
	全学モジュール	G U M	100~200
	学部モジュール	G F M	100
	教養ゼミナール	G L S	100
	その他教養教育科目	G L A	100
	専門教育 (S科目)	語学モジュール	S L E, S L C, S L N
フィールドワークモジュール		S F L, S F S	100~300
共通基礎モジュール		S C M	200
基礎演習		S C S	200
専門モジュール		S G L, S S L, S C L, S N L	300~400
専門演習		S F S	300
卒業研究・特別研究		S G S, S S S	400
自由	自由資格系科目・その他	F T E, F T J, F L O	200~400

〈専門分野〉

政治学系	P O
法学系	J U
経営学系	M A
社会学系	S O
人類学系	A N
歴史学系	H I
思想・宗教系	T R
文化研究系	C U
言語学系	L I
学際系	I D
語学系	L A
限定なし	N D

〈対象地域〉

アジア	A S
海域	S E
オランダ	N I
ヨーロッパ	E U
英語圏	E S
アフリカ	A F
日本	J A
グローバル	G L
限定なし	N L

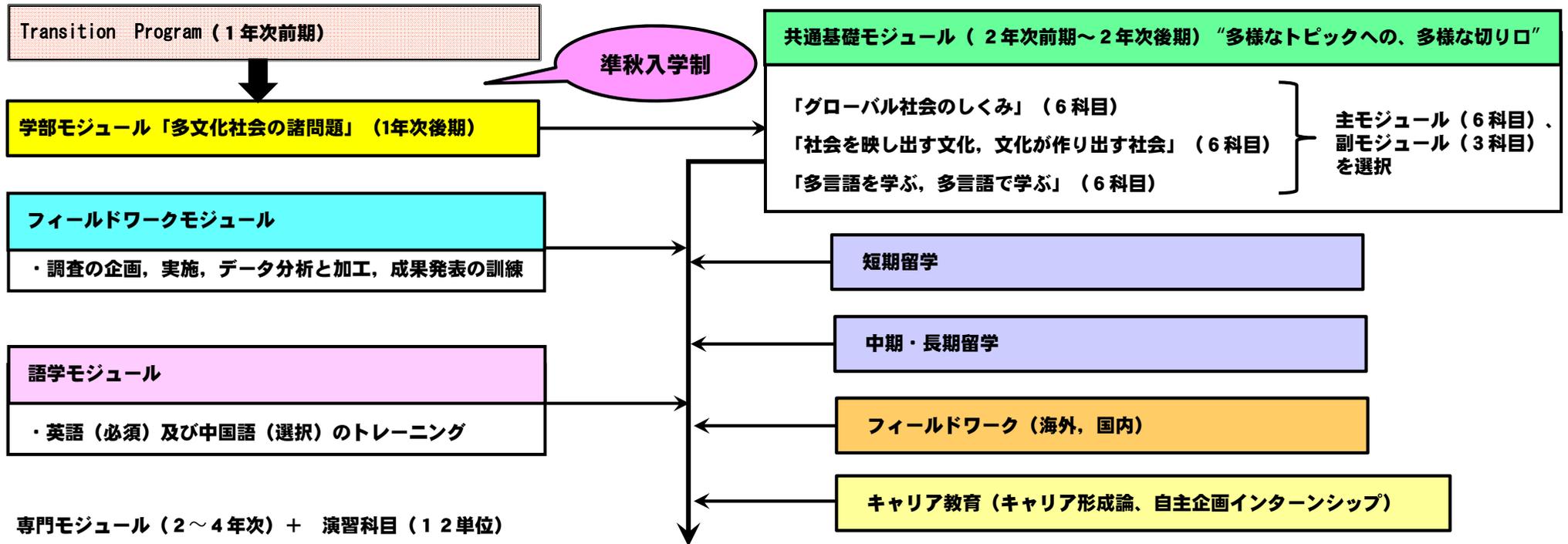
〈科目レベル〉

100番台	入門レベル
200番台	基礎レベル
300番台	専門レベル
400番台	上級専門レベル

〈使用言語〉

英語	E
日本語	J
中国語	C
英語/日本語	E J

グローバル人材育成に向けたカリキュラムの流れ



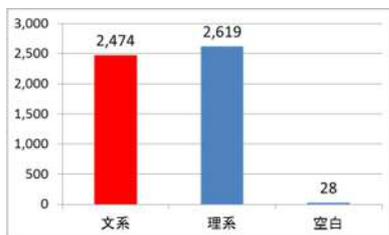
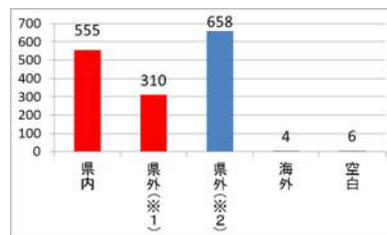
グローバル化する世界	変容する社会	多文化の共生	オランダ
国際機構論【英語開講】	異文化理解教育【英語開講】	日本思想史	オランダ現代社会論【英語開講】
軍縮と平和【英語開講】	トランスナショナリティ論	中国思想史	オランダ文化論【英語開講】
国際法【英語開講】	異文化と家族	宗教文化論	日蘭比較文化
国際政治学【英語開講】	グローバル社会学	文化表象論	日蘭交流史
比較政治【英語開講】	現代アフリカ社会論【英語開講】	記憶文化論	
国際経営【英語開講】	現代アジア社会論	地域文化論	〈ライデン大学1年間留学〉
国際開発論【英語開講】	アジア海域交流史	メディア文化論【英語開講】	
国際人権論【英語開講】	グローバル文化交流史	現代言語理論	
グローバル人口学【英語開講】	社会史	異文化間コミュニケーション【英語開講】	
国際協力論【英語開講】	異文化交流論	対照言語学	
アジア経済論【英語開講】	文化資源論	日本語学	
多文化マーケティング論【英語開講】	地域生態論【英語開講】	コーパス言語学【英語開講】	

※ 学生は、主モジュール及び副モジュールから、合わせて30単位を修得。

アンケート調査

(1) 受験生からのニーズ

(a) 現在の所属クラス

(b) (a)の所属クラスが文系の生徒の
高校卒業後の希望進路 (複数回答あり)(c) (b)の希望進路が国立・公立大学の
生徒の長崎県内、長崎県外、海外
への進学希望

※1 長崎県内の大学へ進学したいが現時点で県内に進学したい分野の学部がないために県外の大学へ進学希望

※2 長崎県外の大学へ進学希望 (上記※1以外)

多文化社会学部への進学希望

(d) (c)の進学希望が県内、県外 (※1)
である生徒の進学したい分野
(3分野以内で複数回答)(d)の人文科学、社会科学又は複合・学際系を
選択した生徒 (実人数 738 人) の多文化社会学部への進学希望

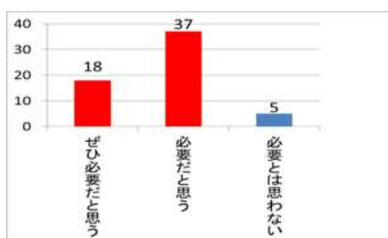
(注) 人文科学、社会科学又は複合・学際系を選択した生徒の実人数は738人

(2) 高等学校からのニーズ

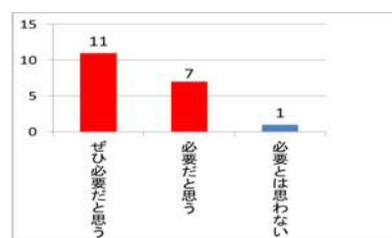
(3) 産業界等からのニーズ

(a) 人文科学系及び社会科学系学部の必要性

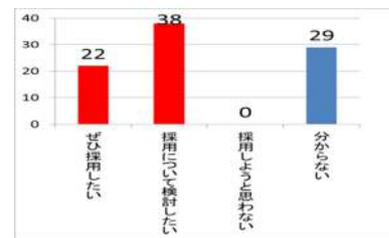
【県内及び県外】



【県内】

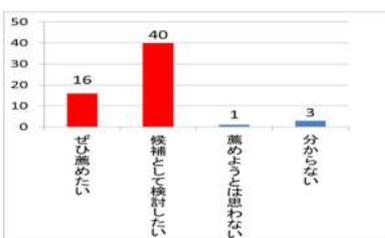


多文化社会学部卒業生の採用

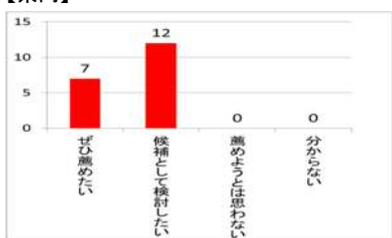


(b) 多文化社会学部への進学を薦めたいか

【県内及び県外】



【県内】



(4) 高等学校（多文化社会学部についての意見）

- 問題解決型の学習が多く取り入れられ、総合力のある人材が育成されることを期待しています。実学中心の学部構成なので、社会や地域のリーダーを育てる学部となることを期待します。
- 即戦力として働ける人材の育成
- いろいろな面において期待しています。学生や保護者、そして地域・社会のニーズに応えられるような学部になるように願っております。
- ユニークな学部と感じています。これからの社会のニーズにかなう学部だと思います。期待しています。
- 英語コミュニケーション能力の育成を図りながら、グローバル人材の育成を図ることができる点に魅力を感じます。
- 総合大学として、従来なかった「法学」「文学・語学」系統の学部の設置をぜひ期待します。特に女子の地元国立大学の受け皿として「文学・語学」系統の学科は必要です。
- 他大学にはない独自性をうち出して欲しい。
- 多角的視点からの教育を通じた文系のグローバルな人材教育の実践は国公立大学では数少ないので、大いに期待しています。
- 長崎大学には法・文系の学部がなかったので、是非それらの領域も含まれている総合的な学部をつくっていただきたい。
- 特色ある教育を期待しています。ぜひ、海外でも通用する人材育成をお願いしたいと思います。

(5) 産業界（多文化社会学部についての意見）

- 長崎大学卒業生（記載者）なので、長崎大学で学べる幅が広がるのはとてもうれしい。
- 英語力、コミュニケーション能力の向上に努めて頂き、他学部、他大学との差別化を図って頂きたいと存じます。
- 海外展開を始めており興味があります。特にアジア圏に力を入れて頂けば、採用につながると思います。
- 御校の学生方には常に期待しておりますが、新学部が今回お考え頂いている特色のある教育を主になさるということだと、さらに期待が高まります。
- 講義形式の授業が大人数を対応できることもありますが、是非ゼミ・フィールドワーク等の実践形式に力を入れていただきたいです。
- 国内での仕事を中心であるため、特にグローバル採用を実施していないが、多種多様な経験をしている学生は非常に魅力を感じる。是非、様々な経験が出来る教育を実施して欲しい。
- 自ら課題を見つけ、それを解決していく力は今後地方公務員に求められるものだと思う。このような学生が多く育成されることを期待している。
- 国内若しくは地元長崎からグローバルに活躍できる人材を多数輩出来たら、地元の中小企業はもとより、県外の企業も担い手として注目するかもしれません。長崎の企業人として新学部の成果に期待を寄せています。
- 当社は、当社が長崎ということもあり、長崎出身者が多く在籍しております。新学部で学んだ方々の若いチカラに期待するとともに、何かのお力添えが出来たらと思っております。
- 弊社が採用に際して重要視しているのが語学力です。（特に英語力）語学力のある学生の方が数多く輩出されることを希望します。
- 留学生にも興味を持ってもらえるような学部として、異文化交流が益々盛んになることを期待いたします。

要 望 書

文部科学大臣 下 村 博 文 殿

国立大学法人長崎大学に人文社会系の新学部を早期に設置いただきますよう、次のとおり要望いたします。

長崎大学におかれましては、これまでも地域の行政、産業、文化、教育、医療の中核を担うことのできる人材を育成し、各分野で活躍する優秀な人材を県内外に輩出されるとともに、積極的な地域貢献活動により、地域の高等教育機関の中核としての使命を果たして頂いております。さらに、行政や県内企業等との産学官連携事業にも意欲的に取り組まれており、長崎県の発展に不可欠の存在として県民の期待もますます高まっております。

さて、長崎地域では平成 22 年より、産・学・官が連携・協力して地域経済活性化を目指す「長崎サミット・プロジェクト」を推進しており、重点推進 4 分野として「基幹製造業」、「観光」、「水産」とともに「大学」を位置付け、学生数増加や産学連携を通じた地域経済活性化に取り組んでおります。これは、人口減少下において、若者を引きつけ定着させる力、および人材輩出や産学官連携等による地域経済活性化に果たす役割に注目したからであります。

学生数の減少傾向が強まる一方、経済社会のグローバル化が急速に進展するなかで、地方の大学がその存在感を発揮し発展していくには、日本はもちろん、国際社会に通用する人材を輩出していくことが求められております。その意味で、この長崎は四百年有余にわたる国際都市としての歴史があり、国際交流が根付いた、まさにグローバルに活躍できる人材の教育に最適な地域であります。

また、こうした国内・外で通用するグローバル人材を地域で育成することは、地域経済を牽引する人材を確保することにつながるとともに、全国や世界に雄飛して活躍しその力をこの長崎の発展にフィードバックしてくれることが期待できます。

「長崎サミット・プロジェクト」では、発足当初より、こうした観点から、長崎大学におけるグローバル人材の育成、新学部設置を要望しご支援してまいりました。

今般、長崎大学の人文社会系の新学部設置の申請の運びとなりましたことに、長崎サミット一同、衷心より感謝いたしております。異なった言語や文化を有する人々が様々な場で協働するグローバル化が進展していく日本や世界において、高い外国語能力に裏打ちされたコミュニケーション能力を活かして活躍する人材が育成されますことや、時代に見合った人文社会系の新たな研究が高度に展開されますことは、今後の本県や国際都市・長崎の発展に寄与していただけるものと大いに期待しております。

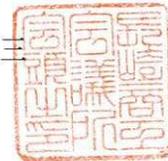
つきましては、本県唯一の国立大学である長崎大学において、人文社会系の新学部設置が早期に実現され、これまで以上に地域への貢献をいただきますよう特段の御配慮をお願い申し上げます。

平成25年 4月24日

長崎サミット

長崎商工会議所会頭

上田 恵 三



長崎経済同友会代表幹事

宮 脇



長崎県経営者協会会長

橋 本 州



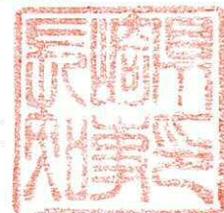
一般社団法人長崎青年会議所理事長

武 藤



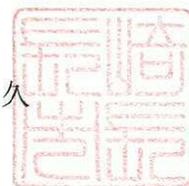
長崎県知事

中 村 法 道



長崎市長

田 上 富 久



長崎大学学長

片 峰



要 望 書

国立大学法人長崎大学

学 長 片 峰 茂 殿

長崎大学に人文社会系の新学部を早期に設置いただきますよう、次のとおり要望いたします。

貴学におかれましては、これまでも地域の行政、産業、文化、教育、医療の中核を担うことのできる人材を育成し、各分野で活躍する優秀な人材を県内外に輩出されるとともに、積極的な地域貢献活動により、地域の高等教育機関の中核としての使命を果たしていただいております。さらに、貴学は、行政や県内企業等との産学官連携事業にも意欲的に取り組まれており、長崎県の発展になくてはならないものと、県民の期待もますます高まっております。

さて、人口減少が続くわが国では、学生数の減少傾向が強まる一方、経済社会のグローバル化が急速に進展し、地方の大学がその存在感を発揮し発展していくには、日本はもちろん、国際社会に通用する人材を輩出していくことが求められております。その意味で、この長崎は四百年有余にわたる国際都市としての歴史があり、国際交流が根付いた、まさにグローバルに活躍できる人材の教育に最適な地域であります。

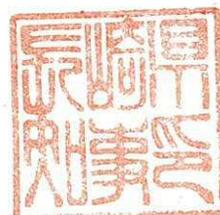
また、こうした国内・外で通用するグローバル人材を地域で育成することは、地域経済を牽引する人材を確保することにつながるとともに、全国や世界に雄飛して活躍しその力をこの長崎の発展にフィードバックしてくれることが期待できます。

今般、長崎大学の人文社会系の新学部設置の申請の運びとなりましたことは、たいへん有り難く、心より感謝申し上げます。異なった言語や文化を有する人々が様々な場で協働するグローバル化が進展していく日本や世界において、高い外国語能力に裏打ちされたコミュニケーション能力を活かして活躍する人材が育成されますことや、時代に見合った人文社会系の新たな研究が高度に展開されますことは、今後の本県や国際都市・長崎の発展に寄与していただけるものと大いに期待しております。

つきましては、本県唯一の国立大学である貴学におかれましては、人文社会系の新学部を早期に実現され、これまで以上に地域への貢献をいただきますよう、特段の御配慮をお願い申し上げます。

平成25年 4月 24日

長崎県知事 中村 法道



On 28th March ambassador Radinck J van Vollenhoven visited Minister Shimomura.

Present:

Minister Hakubun Shimomura	:	Minister of Education, Culture, Sports, Science and Technology
Mr Yoshihisa Nagayama	:	Director, International Affairs Division, Minister's Secretariat
Ms Kumiko Tansho	:	Senior Specialist for Personnel Exchange, International Affairs Division, Minister's Secretariat
Mr. Radinck J. van Vollenhoven	:	Ambassador of the Netherlands
Mr. Paul op den Brouw	:	Counselor Science & Technology
Mrs. Ineke van de Pol	:	Counselor for Press and Culture
Mrs. Nene Takagishi	:	Interpreter

One of the topics discussed was the creation of the New Faculty of Socio-Cultural Diversity with a Dutch Studies Special Course.

The minister received a paper with the following point:

- Nagasaki University aims to establish a new Faculty of Socio-Cultural Diversity (target date April 1 2014) with an admission capacity of approx. 100 students a year.
- The faculty will provide courses, workshops, and special programs in politics, economy, and cultural studies, including a Dutch Studies Special Course.
- Considering the historical ties between the Netherlands and Japan in general and the ties with Nagasaki in particular, the Netherlands would very much welcome an academic faculty that offers a Dutch Special Studies Course. Even though the Netherlands and the Dutch language have played such a unique role in Japanese history, there is currently no academic course in Japan on Dutch culture and language and therefore we kindly request the Minister of Education, Cultural, Sports, Science and Technology to favorably consider supporting the application from Nagasaki University to set up this new faculty.
- Japanese studies in the Netherlands: Since 1855, Leiden University in the Netherlands offers a programme in Japanese language and culture. It is one of the oldest and most established centres of Japanese Studies in the Western world. Learning the language is the main focus but the programme also includes courses on Japanese history and modern Japanese society. About 200 students are presently studying Japanese in Leiden.

(和訳)

平成25年3月28日に、ラーディング・ファン・フォレンホーヴェン駐日オランダ王国特命全権大使は、下村大臣を訪問した。

出席者：

下村 博文 : 文部科学大臣
永山 賀久 : 大臣官房国際課 課長
丹生 久美子 : 大臣官房国際課 国際協力政策室 人物交流専門官

ラーディング・ファン・フォレンホーヴェン : 駐日オランダ王国特命全権大使
ポール・オブ・デンブ・ラウ : 科学技術参事官
イネケ・ヴァン・デ・ポル (※ 署名者) : 報道・文化参事官
ネネ・タカギシ : 通訳

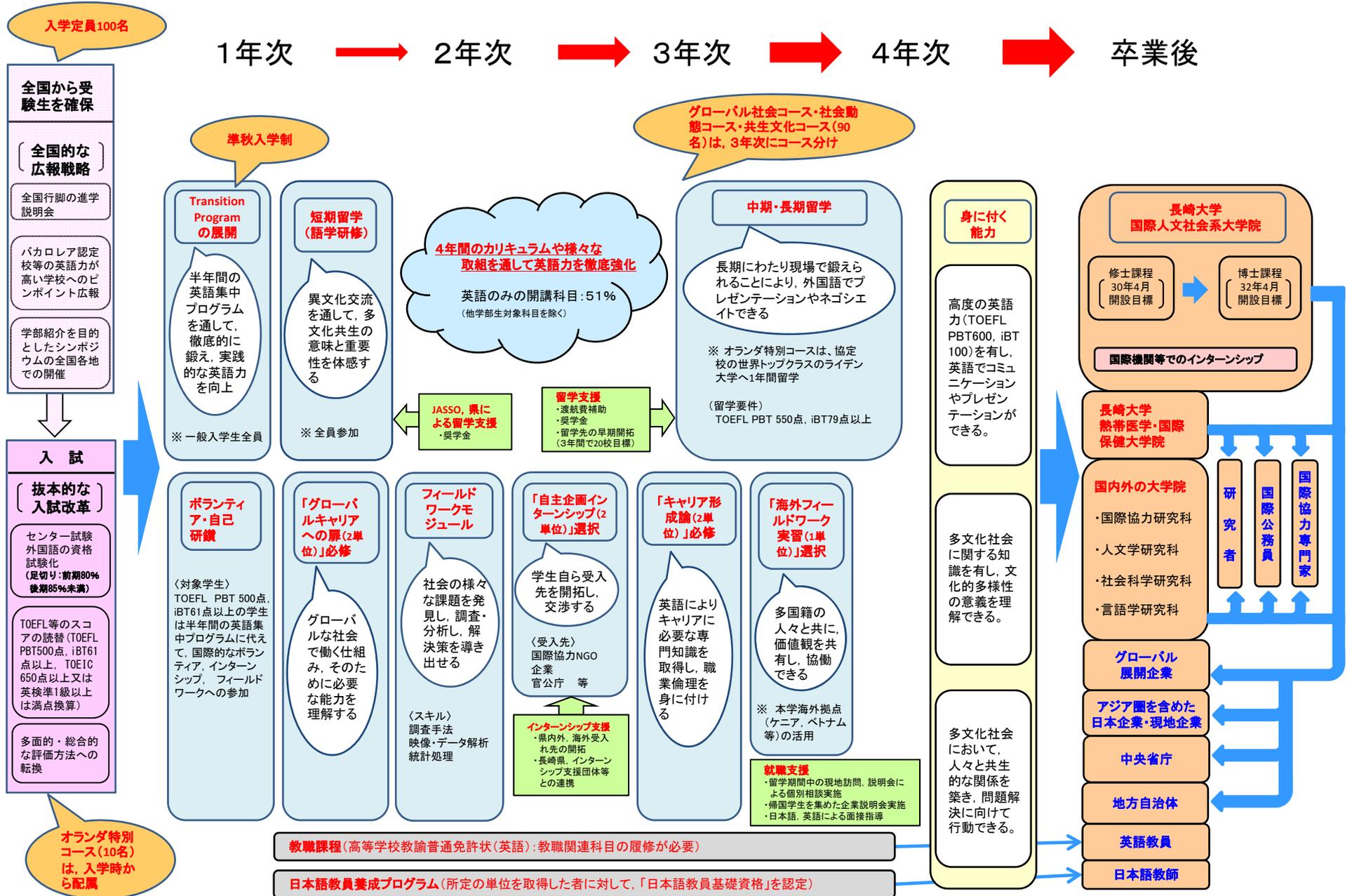
話題の一つは、「オランダ特別コース」を有する新しい「多文化社会学部」の創立についてであった。

下村大臣は、以下の内容の文書を受け取った：

- ・ 長崎大学は、学生定員約100名の新しい「多文化社会学部」の創立を目指している。
(創立予定日は2014年4月1日)
- ・ 新学部は、「オランダ特別コース」を含むコース、ワークショップや、文化、経済、政治に関する特別プログラムを提供する。
- ・ 日本とオランダとの歴史的交流、特に長崎とオランダとの歴史的関係を考慮すると、オランダ王国は、「オランダ特別コース」を提供する学部を大いに歓迎したい。オランダ王国とオランダ語は、日本の歴史上大変ユニークな役割を果たしたにもかかわらず、現在、日本ではオランダの文化と言語の学術的なコースがないため、オランダ王国は文部科学大臣に長崎大学の新学部の創立に関して支援をしていただくようお願いしたい。
- ・ オランダ王国での日本学について
1855年以来、ライデン大学は、日本の言語と文化に関するプログラムを提供している。ヨーロッパでは、最も歴史があり、最も権威のある日本学のセンターの一つである。日本語を学ぶことは日本学の中心であるが、日本の歴史と現代の日本社会に関するコースも教育課程に含んでいる。現在では、約200人の学生がライデン大学で日本語を勉強している。

多文化社会学部における卒業後の進路に向けた組織的な戦略

— グローバル社会で存在感をもって働くことができる人材 —



学部モジュール(1年次)によるグローバル人材育成への扉

「オランダ-ヨーロッパ理解への扉」

現代世界の構図を作った「近代の中心」

・ヨーロッパ理解はもはや、優雅に進んだ文明の理解ではない。アジアやアフリカを巻きこんだ植民地支配の中で、近代以降の世界の構図（近代世界システム）の中心として君臨してきたヨーロッパは、現在では多数の移民を受け入れ、内部に文化的対立を抱え込んだ社会の一つのモデルを提供している。

・この講義では複数のヨーロッパ国家を事例として取り上げるが、とりわけ長崎と深く関わるオランダを理解することを通して、日本からアジア、ヨーロッパの交流史を描き、長崎で多文化社会を学ぶことの位置付けを図る。

「日本を知る」

・日本から雄飛するグローバル人材にとっては、多文化社会の知識や語学力と並んで、日本の歴史、文化、社会の特質を理解することは必須の条件である。

〈学部モジュール〉 1年次

この学部の学習において知るべき場所と問題の理解に導くモジュール

・例えば、学生たちに、どこへ行って、何を見てもらいたいかということイメージし、長崎から出発するバーチャルクルーズのような感じで学部モジュールを構想する。

・長崎から出発し、アジア、アフリカ、ヨーロッパという3つの地域に関する歴史・社会・言語・文化の基礎的理解を経て、「日本」を見直す、あるいは再認識するという学習プロセスを構成する。

「アフリカ理解への扉」

世界の矛盾が凝縮した、遠くて近い大陸

・歴史的に日本とアフリカは決して無関係ではない。かつてヨーロッパからアジアに航路する船はすべてアフリカやアラブを経由していた。現在でも、東アフリカへのフライトは、東京～ニューヨーク間と同じである。経済や開発援助による交流も深い。

・アフリカ地域を知ることは、世界に充満している様々な社会システムの矛盾と問題点を理解することにつながる。

「アジア理解への扉」

成長する世界の中心としてのアジア

・長崎から世界への想像力を広げる足掛かりとしてのアジアの地理と歴史

・東アジア文化交流圏における大陸アジア、島嶼部アジア、そして長崎の歴史と現代の変動を学ぶことを通して、学習者自らの「世界の中のポジション」を構想する。

「グローバルキャリアへの扉」

・グローバル社会で働くとはどのようなことか。また、そのために必要な能力をどのように身に付けるべきであるか。グローバル企業、国際NGO、国際機関などでの勤務経験を有する教員が、その経験と知識を学生たちに伝え、学生たちが個々のキャリアパスをイメージできるように仕掛ける。

「長崎から出発するグローバル世界へ」

長崎（他の大学ではなし得ない学びの足場確保）

・視点はグローバルな社会・文化現象としての「長崎」

・異文化交流、文化のハイブリディティ、原爆・被爆の記憶、平和都市、東アジアへの窓口、オランダ（ヨーロッパ）への窓口としての長崎を理解する。

多文化社会学部のカリキュラム (抜粋)

【グローバル社会コース】

区分		卒業要件 単位数	科目名	標準 履修 年次	単位数		
教育 教育科目	教養ゼミナール科目	2	☆ 教養ゼミナール	1	2		
	情報科学科目	2	情報基礎	1	2		
	健康・スポーツ科学科目	2	☆ 健康科学	1	1		
			☆ スポーツ演習	1	1		
	必須科目	外国語科目	8	☆ 英語コミュニケーションⅠ	1	1	
				☆ 英語コミュニケーションⅡ	1	1	
				☆ 英語コミュニケーションⅢ	2	1	
				☆ 総合英語Ⅰ	1	1	
				☆ 総合英語Ⅱ	1	1	
				☆ 総合英語Ⅲ	2	1	
				☆ Advanced EnglishⅠ	3	1	
				☆ Advanced EnglishⅡ	3	1	
			初級外国語	4	☆ ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語Ⅰ	1	1
					☆ ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語Ⅱ	1	1
	モジュール科目	多文化社会の諸問題	12	☆ 長崎から出発するグローバル世界へ	1	2	
☆ アジア理解への扉				1	2		
☆ アフリカ理解への扉				1	2		
☆ オランダ-ヨーロッパ理解への扉				1	2		
自由選択科目	2	2	☆ 日本を知る	1	2		
			☆ グローバルキャリアへの扉	1	2		
合計		44					
専門 教育科目	共通基礎モジュール科目 (※1)	グローバル社会のしくみ	☆ 多文化のなかのルール	2	2		
			☆ 多文化社会のガバナンス	2	2		
			☆ 文化のなかのエコノミー	2	2		
			☆ 地域をこえるマネジメント	2	2		
			☆ ジェンダーと人権	2	2		
			☆ 紛争と平和	2	2		
		社会を映し出す文化、文化が作り出す社会	18	★ 文化は社会の鏡なのか	2	2	
				★ 越境する文化	2	2	
				★ 出来事と表象のあいだ	2	2	
				★ 人間観とコスモロジー	2	2	
	多言語を学ぶ、多言語で学ぶ	12	★ 他者と生きる技法	2	2		
			★ 日本のなかの世界、世界の中の日本	2	2		
			★ 英語からたどる文化	2	2		
			★ 日本語からたどる文化	2	2		
			★ 中国語からたどる文化	2	2		
フィールドワークモジュール科目 (※2)	5	☆ フィールドワーク入門	1	2			
		☆ フィールドワーク基礎実習	1	1			
		★ アーカイブ実習	1	1			
		★ 映像・デジタルアーカイブ実習	2	1			
		★ サーベイ基礎実習	2	1			
英語モジュール科目	10	☆ インタビュー調査基礎実習	2	1			
		海外フィールドワーク実習	3	1			
		☆ 英語発音法	1	1			
		☆ 英語の仕組みと意味Ⅰ	1	1			
		☆ 英語の仕組みと意味Ⅱ	2	1			
		☆ Reading and WritingⅠ	1	1			
		☆ Reading and WritingⅡ	2	1			
		☆ Academic WritingⅠ	2	1			
		☆ Academic WritingⅡ	3	1			
		☆ Reading and DiscussionⅠ	1	1			
☆ Reading and DiscussionⅡ	3	1					
☆ Debate	4	1					
中国語モジュール科目 (※3)	0 又は5	中国語総合表現Ⅰ【中国語】	2	1			
		中国語総合表現Ⅱ【中国語】	2	1			
		中国語文献討論Ⅰ【中国語】	3	1			
		中国語文献討論Ⅱ【中国語】	3	1			
		中国語プレゼンテーション【中国語】	4	1			
オランダ語モジュール科目	0	オランダ語Ⅰ【オランダ語】	2	2			
		オランダ語Ⅱ【オランダ語】	2	2			
		オランダ語Ⅲ【オランダ語】	3	2			

区分		卒業要件 単位数	科目名	標準 履修 年次	単位数
専門 モジュール 科目 (※4)	グローバル化する世界	24	★ 国際機構論	3	2
			★ 軍縮と平和	3	2
			★ 国際法	3	2
			★ 国際政治学	3	2
			★ 比較政治	3	2
			★ 国際経営	3	2
			★ 国際開発論	3	2
			★ 国際人権論	3	2
			★ グローバル人口学	3	2
			★ 国際協力論	3	2
			★ アジア経済論	3	2
			★ 多文化マーケティング論	3	2
	変容する社会	24	★ 異文化理解教育	3	2
			★ トランスナショナルイデオロギイ	3	2
			★ 異文化と家族	3	2
			★ グローバル社会学	3	2
			★ 現代アフリカ社会学	4	2
			★ 現代アジア社会学	4	2
			★ アジア海域交流史	3	2
			★ グローバル文化交流史	4	2
			★ 社会史	3	2
			★ 異文化交流論	3	2
			★ 文化資源論	3	2
			★ 地域生態論	3	2
多文化の共生	24	★ 日本思想史	4	2	
		★ 中国思想史	4	2	
		★ 宗教文化論	3	2	
		★ 文化表象論	3	2	
		★ 記憶文化論	3	2	
		★ 地域文化論	3	2	
		★ メディア文化論	4	2	
		★ 現代言語理論	3	2	
		★ 異文化間コミュニケーション	3	2	
		★ 対照言語学	3	2	
		★ 日本語学	3	2	
		★ コーパス言語学	3	2	
オランダ	18	★ オランダ現代社会論	2	2	
		★ オランダ文化論	3	2	
		★ 日蘭比較文化	2	2	
		★ 日蘭交流史	3	2	
		★ (ライデン大学で修得)	3-4	10	
		★ 基礎演習 A	2	1	
演習科目	12	★ 基礎演習 B	2	1	
		☆ 専門演習Ⅰ-A	3	1	
		☆ 専門演習Ⅱ-A	3	1	
		☆ 専門演習Ⅰ-B	3	1	
		☆ 専門演習Ⅱ-B	3	1	
		☆ 卒業研究	4	6	
キャリア科目	2	☆ キャリア形成論	3	2	
		自主企画インターンシップ	2	2	
自由選択科目 (※5)	8 又は3	英米文学概論	2	2	
		応用言語学	2	2	
		英語音声のしくみと働き	3	2	
		第二言語習得論	3	2	
イギリス小説論	3	2			
合計	85				
自由科目	0	日本語教育学概論	2	2	
		日本語指導法	3	2	
		日本語教育実習	3	2	
総計	129				

赤字：英語のみの授業

☆：必修

青字：一部外国語を用いた授業

★：選択必修

緑字：中国語のみの授業

※1 共通基礎モジュール科目の取り扱いについて

主モジュールは、「グローバル社会のしくみ」モジュールとし、12単位を修得する。副モジュールは、「社会を映し出す文化、文化が作り出す社会」又は「多言語を学ぶ、多言語で学ぶ」モジュールから1つを選択し、6単位を修得する。

※2 フィールドワークモジュール科目の取り扱いについて

選択科目については、「アーカイブ実習」、「映像・デジタルアーカイブ実習」、「サーベイ基礎実習」及び「インタビュー調査基礎実習」の4科目のうちから2科目を選択する。

※3 中国語モジュール科目の取り扱いについて

中国語モジュール科目を選択する場合は5単位すべて修得する。

※4 専門モジュール科目の取り扱いについて

主モジュールは、「グローバル化する世界」モジュールとし、20単位を修得する。副モジュールは、「変容する社会」又は「多文化の共生」モジュールから1つを選択し、10単位を修得する。

※5 自由選択科目の取り扱いについて

中国語モジュール科目を選択した場合は3単位となる。

自由選択科目の区分に配当される科目のほか、主及び副の共通基礎モジュール科目、フィールドワークモジュール科目、オランダ語モジュール科目、主及び副の専門モジュール科目及びキャリア科目の最低修得単位数を超えて履修する授業科目や、共通基礎モジュール科目及び専門モジュール科目の主モジュール及び副モジュール以外の授業科目をもって充てることができる。

多文化社会学部のカリキュラム (抜粋)

【社会動態コース】

区分	卒業要件 単位数	科目名	標準 履修 年次	単位数	
教養 教育 科目	2	☆ 教養ゼミナール	1	2	
	2	☆ 情報基礎	1	2	
	2	☆ 健康科学 ☆ スポーツ演習	1 1 1 1	2	
	8	英語	☆ 英語コミュニケーションⅠ	1	1
			☆ 英語コミュニケーションⅡ	1	1
			☆ 英語コミュニケーションⅢ	2	1
			☆ 総合英語Ⅰ	1	1
			☆ 総合英語Ⅱ	1	1
			☆ 総合英語Ⅲ	2	1
	4	初習外国語	☆ Advanced EnglishⅠ	3	1
☆ Advanced EnglishⅡ			3	1	
☆ ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語Ⅰ			1	1	
☆ ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語Ⅱ			1	1	
4	初習外国語	☆ ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語Ⅲ	2	1	
		☆ ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語Ⅳ	2	1	
		☆ ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語Ⅴ	2	1	
		☆ ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語Ⅵ	2	1	
6	全学モジュールⅠ科目	1	2		
6	全学モジュールⅡ科目	2	2		
12	学部モジュール科目	☆ 長崎から出発するグローバル世界へ	1	2	
		☆ アジア理解への扉	1	2	
		☆ アフリカ理解への扉	1	2	
		☆ オランダ-ヨーロッパ理解への扉	1	2	
		☆ 日本を知る	1	2	
2	自由選択科目	1-2	2		
44	合計				
共通 基礎 モジュール 科目 (※1)	12	グローバル社会のしくみ	★ 多文化のなかのルール	2	2
			★ 多文化社会のガバナンス	2	2
			★ 文化のなかのエコノミー	2	2
			★ 地域をこえるマネジメント	2	2
			★ ジェンダーと人権	2	2
	12	社会を映し出す文化、文化が作り出す社会	☆ 文化は社会の鏡なのか	2	2
			☆ 越境する文化	2	2
			☆ 出来事と表象のあいだ	2	2
			☆ 人間観とコスモロジー	2	2
			☆ 他者と生きる技法	2	2
12	多言語を学ぶ、多言語で学ぶ	☆ 日本の中の世界、世界の中の日本	2	2	
		★ 英語からたどる文化	2	2	
		★ 日本語からたどる文化	2	2	
		★ 中国語からたどる文化	2	2	
		★ アジア諸言語からたどる文化	2	2	
8	フィールドワークモジュール科目 (※2)	☆ フィールドワーク入門	1	2	
		☆ フィールドワーク基礎実習	1	1	
		★ アークイブ実習	1	1	
		★ 映像・デジタルアークイブ実習	2	1	
		★ サーベイ基礎実習	2	1	
10	英語モジュール科目	☆ インタビュー調査基礎実習	2	1	
		海外フィールドワーク実習	3	1	
		☆ 英語発音法	1	1	
		☆ 英語の仕組みと意味Ⅰ	1	1	
		☆ 英語の仕組みと意味Ⅱ	2	1	
		☆ Reading and WritingⅠ	1	1	
		☆ Reading and WritingⅡ	2	1	
		☆ Academic WritingⅠ	2	1	
		☆ Academic WritingⅡ	3	1	
		☆ Reading and DiscussionⅠ	1	1	
5 又は 5	中国語モジュール科目(※3)	☆ Reading and DiscussionⅡ	3	1	
		☆ Debate	4	1	
		中国語総合表現Ⅰ【中国語】	2	1	
		中国語総合表現Ⅱ【中国語】	2	1	
		中国語文献討論Ⅰ【中国語】	3	1	
6	オランダ語モジュール科目	中国語文献討論Ⅱ【中国語】	3	1	
		中国語プレゼンテーション【中国語】	4	1	
		オランダ語Ⅰ【オランダ語】	2	2	
オランダ語Ⅱ【オランダ語】	2	2			
オランダ語Ⅲ【オランダ語】	3	2			

区分	卒業要件 単位数	科目名	標準 履修 年次	単位数
グローバル化する世界	24	★ 国際機構論	3	2
		★ 軍縮と平和	3	2
		★ 国際法	3	2
		★ 国際政治学	3	2
		★ 比較政治	3	2
		★ 国際経営	3	2
		★ 国際開発論	3	2
		★ 国際人権論	3	2
		★ グローバル人口学	3	2
		★ 国際協力論	3	2
変容する社会	24	★ 多文化マーケティング論	3	2
		★ 異文化理解教育	3	2
		★ トランスナショナルリテリ	3	2
		★ 異文化と家族	3	2
		★ グローバル社会学	3	2
		★ 現代アフリカ社会論	4	2
		★ 現代アジア社会論	4	2
		★ アジア海域交流史	3	2
		★ グローバル文化交流史	4	2
		★ 社会史	3	2
多文化の共生	24	★ 異文化交流論	3	2
		★ 文化資源論	3	2
		★ 地域生態論	3	2
		★ 日本思想史	4	2
		★ 中国思想史	4	2
		★ 宗教文化論	3	2
		★ 文化表象論	3	2
		★ 記憶文化論	3	2
		★ 地域文化論	3	2
		★ メディア文化論	4	2
オランダ	18	★ 現代言語理論	3	2
		★ 異文化間コミュニケーション	3	2
		★ 対照言語学	3	2
		★ 日本語学	3	2
		★ コーパス言語学	3	2
		★ オランダ現代社会論	2	2
		★ オランダ文化論	3	2
		★ 日蘭比較文化	2	2
		★ 日蘭交流史	3	2
		★ (ライデン大学で修得)	3-4	10
演習科目	12	☆ 基礎演習 A	2	1
		☆ 基礎演習 B	2	1
		☆ 専門演習Ⅰ-A	3	1
		☆ 専門演習Ⅱ-A	3	1
		☆ 専門演習Ⅰ-B	3	1
キャリア科目	2	☆ 卒業研究	4	6
		☆ キャリア形成論 自主企画インターンシップ	2	2
自由選択科目(※5)	8 又は 3	英米文学概論	2	2
		応用言語学	2	2
		英語音声のしくみと働き	3	2
		第二言語習得論	3	2
		イギリス小説論	3	2
合計	85			
自由科目	0	日本語教育概論	2	2
		日本語指導法	3	2
		日本語教育実習	3	2
総計	129			

赤字：英語のみの授業

☆：必修

青字：一部外国語を用いた授業

★：選択必修

緑字：中国語のみの授業

※1 共通基礎モジュール科目の取り扱いについて

主モジュールは、「社会を映し出す文化、文化が作り出す社会」モジュールとし、12単位を修得する。副モジュールは、「グローバル社会のしくみ」又は「多言語を学ぶ、多言語で学ぶ」モジュールから1つを選択し、6単位を修得する。

※2 フィールドワークモジュール科目の取り扱いについて

選択科目については、「アークイブ実習」、「映像・デジタルアークイブ実習」、「サーベイ基礎実習」及び「インタビュー調査基礎実習」の4科目のうちから2科目を選択する。

※3 中国語モジュール科目の取り扱いについて

中国語モジュール科目を選択する場合は5単位すべて修得する。

※4 専門モジュール科目の取り扱いについて

主モジュールは、「変容する社会」モジュールとし、20単位を修得する。副モジュールは、「グローバル化する世界」又は「多文化の共生」モジュールから1つを選択し、10単位を修得する。

※5 自由選択科目の取り扱いについて

中国語モジュール科目を選択した場合は3単位となる。

自由選択科目の区分に配当される科目のほか、主及び副の共通基礎モジュール科目、フィールドワークモジュール科目、オランダ語モジュール科目、主及び副の専門モジュール科目及びキャリア科目の最低修得単位数を超えて履修する授業科目や、共通基礎モジュール科目及び専門モジュール科目の主モジュール及び副モジュール以外の授業科目をもって充てることができる。

多文化社会学部のカリキュラム (抜粋)

[共生文化コース]

区分	卒業要件 単位数	科目名	標準 履修 年次	単位数	
教養 教育 科目	2	☆ 教養ゼミナール	1	2	
	2	☆ 情報基礎	1	2	
	2	☆ 健康科学	1	1	
	2	☆ スポーツ演習	1	1	
	8	8	☆ 英語コミュニケーションⅠ	1	1
			☆ 英語コミュニケーションⅡ	1	1
			☆ 英語コミュニケーションⅢ	2	1
			☆ 総合英語Ⅰ	1	1
			☆ 総合英語Ⅱ	1	1
			☆ 総合英語Ⅲ	2	1
			☆ Advanced EnglishⅠ	3	1
			☆ Advanced EnglishⅡ	3	1
4	4	☆ ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語Ⅰ	1	1	
		☆ ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語Ⅱ	1	1	
		☆ ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語Ⅲ	2	1	
		☆ ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語Ⅳ	2	1	
6	全学モジュールⅠ科目	1	2		
6	全学モジュールⅡ科目	2	2		
12	12	☆ 長崎から出発するグローバル世界へ	1	2	
		☆ アジア理解への扉	1	2	
		☆ アフリカ理解への扉	1	2	
		☆ オランダ-ヨーロッパ理解への扉	1	2	
		☆ 日本を知る	1	2	
☆ グローバルキャリアへの扉	1	2			
2	自由選択科目	1-2			
44	合計				
専 門 教 育 科 目	18	グローバル社会のしくみ	★ 多文化のなかのルール	2	2
			★ 多文化社会のガバナンス	2	2
			★ 文化のなかのエコノミー	2	2
			★ 地域をこえるマネジメント	2	2
			★ ジェンダーと人権	2	2
			★ 紛争と平和	2	2
		社会を映し出す文化、文化が作り出す社会	★ 文化は社会の鏡なのか	2	2
			★ 越境する文化	2	2
			★ 出来事と表象のあいだ	2	2
			★ 人間観とコスモロジー	2	2
			★ 他者と生きる技法	2	2
			★ 日本の中の世界、世界の中の日本	2	2
多言語を学ぶ、多言語で学ぶ	☆ 英語からたどる文化	2	2		
	☆ 日本語からたどる文化	2	2		
	☆ 中国語からたどる文化	2	2		
	☆ アジア諸言語からたどる文化	2	2		
	☆ ヨーロッパ諸言語からたどる文化	2	2		
	☆ アフリカ諸言語からたどる文化	2	2		
5	8	☆ フィールドワーク入門	1	2	
		☆ フィールドワーク基礎実習	1	1	
		★ アークイブ実習	1	1	
		★ 映像・デジタルアーカイブ実習	2	1	
		★ サーベイ基礎実習	2	1	
★ インタビュー調査基礎実習	2	1			
海外フィールドワーク実習	3	1			
10	10	☆ 英語発音法	1	1	
		☆ 英語の仕組みと意味Ⅰ	1	1	
		☆ 英語の仕組みと意味Ⅱ	2	1	
		☆ Reading and WritingⅠ	1	1	
		☆ Reading and WritingⅡ	2	1	
		☆ Academic WritingⅠ	2	1	
		☆ Academic WritingⅡ	3	1	
		☆ Reading and DiscussionⅠ	1	1	
		☆ Reading and DiscussionⅡ	3	1	
		☆ Debate	4	1	
0 又は5	5	中国語総合表現Ⅰ【中国語】	2	1	
		中国語総合表現Ⅱ【中国語】	2	1	
		中国語文献討論Ⅰ【中国語】	3	1	
		中国語文献討論Ⅱ【中国語】	3	1	
		中国語プレゼンテーション【中国語】	4	1	
0	6	オランダ語Ⅰ【オランダ語】	2	2	
		オランダ語Ⅱ【オランダ語】	2	2	
		オランダ語Ⅲ【オランダ語】	3	2	

区分	卒業要件 単位数	科目名	標準 履修 年次	単位数	
専 門 モ ジ ュ ー ル 科 目 (※4)	30	グローバル化する世界	★ 国際機構論	3	2
			★ 軍縮と平和	3	2
			★ 国際法	3	2
			★ 国際政治学	3	2
			★ 比較政治	3	2
			★ 国際経営	3	2
			★ 国際開発論	3	2
			★ 国際人権論	3	2
			★ グローバル人口学	3	2
			★ 国際協力論	3	2
			★ アジア経済論	3	2
			★ 多文化マーケティング論	3	2
		☆ 異文化理解教育	3	2	
		変容する社会	★ トランスナショナルリテリ	3	2
			☆ 異文化と家族	3	2
			★ グローバル社会学	3	2
			★ 現代アフリカ社会学	4	2
			★ 現代アジア社会学	4	2
			★ アジア海域交流史	3	2
			★ グローバル文化交流史	4	2
			★ 社会史	3	2
			☆ 異文化交流論	3	2
			★ 文化資源論	3	2
			★ 地域生態論	3	2
★ 日本思想史	4		2		
★ 中国思想史	4	2			
★ 宗教文化論	3	2			
★ 文化表象論	3	2			
★ 記憶文化論	3	2			
★ 地域文化論	3	2			
★ メディア文化論	4	2			
★ 現代言語理論	3	2			
★ 異文化間コミュニケーション	3	2			
★ 対照言語学	3	2			
★ 日本語学	3	2			
★ コーパス言語学	3	2			
★ オランダ現代社会学	2	2			
★ オランダ文化論	3	2			
★ 日蘭比較文化	2	2			
★ 日蘭交流史	3	2			
★ (ライデン大学で修得)	3-4	10			
演習科目	12	☆ 基礎演習 A	2	1	
		☆ 基礎演習 B	2	1	
		☆ 専門演習Ⅰ-A	3	1	
		☆ 専門演習Ⅱ-A	3	1	
		☆ 専門演習Ⅰ-B	3	1	
		☆ 専門演習Ⅱ-B	3	1	
☆ 卒業研究	4	6			
キャリア科目	2	☆ キャリア形成論	3	2	
		自主企画インターンシップ	2	2	
自由選択科目(※5)	8 又は3	英米文学概論	2	2	
		応用言語学	2	2	
		英語音声のしくみと働き	3	2	
		第二言語習得論	3	2	
		イギリス小説論	3	2	
合計	85				
自由科目	0	教職論	1	2	
		英語科教育法Ⅰ	3	2	
		英語科教育法Ⅱ	3	2	
		教育の方法と技術	3	2	
		教育実習(事前・事後指導を含む。)	4	3	
		教職実践演習	4	2	
		日本語教育学概論	2	2	
		日本語指導法	3	2	
日本語教育実習	3	2			
総計	129				

赤字 : 英語のみの授業

青字 : 一部外国語を用いた授業

緑字 : 中国語のみの授業

☆ : 必修

★ : 選択必修

※1 共通基礎モジュール科目の取り扱いについて

主モジュールは、「社会を映し出す文化、文化が作り出す社会」又は「多言語を学ぶ、多言語で学ぶ」モジュールから1つを選択し、1.2単位を修得する。副モジュールは、主モジュールとして選択したモジュール以外のモジュールから1つを選択し、6単位を修得する。

※2 フィールドワークモジュール科目の取り扱いについて

選択科目については、「アーカイブ実習」、「映像・デジタルアーカイブ実習」、「サーベイ基礎実習」及び「インタビュー調査基礎実習」の4科目のうちから2科目を選択する。

※3 中国語モジュール科目の取り扱いについて

中国語モジュール科目を選択する場合は5単位すべて修得する。

※4 専門モジュール科目の取り扱いについて

主モジュールは、「多文化の共生」モジュールとし、2.0単位を修得する。副モジュールは、「変容する社会」モジュールとし、1.0単位を修得する(うち、「異文化理解教育」、「異文化と家族」及び「異文化交流論」の3科目6単位は必修)。

※5 自由選択科目の取り扱いについて

中国語モジュール科目を選択した場合は3単位となる。

自由選択科目の区分に相当される科目のほか、主及び副の共通基礎モジュール科目、フィールドワークモジュール科目、オランダ語モジュール科目、主及び副の専門モジュール科目及びキャリア科目の最低修得単位数を超えて履修する授業科目や、共通基礎モジュール科目及び専門モジュール科目の主モジュール及び副モジュール以外の授業科目をもって充てることができる。

多文化社会学部のカリキュラム (抜粋)

【オランダ特別コース】

区分	卒業要件 単位数	科目名	標準 履修 年次	単位数	
教養 教育科目	2	☆ 教養ゼミナール	1	2	
	2	☆ 情報基礎	1	2	
	2	☆ 健康科学	1	1	
		☆ スポーツ演習	1	1	
	必須 科目	8	☆ 英語コミュニケーションⅠ	1	1
			☆ 英語コミュニケーションⅡ	1	1
			☆ 英語コミュニケーションⅢ	2	1
			☆ 総合英語Ⅰ	1	1
			☆ 総合英語Ⅱ	1	1
			☆ 総合英語Ⅲ	2	1
			☆ Advanced English I	3	1
			☆ Advanced English II	3	1
		4	☆ ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語Ⅰ	1	1
			☆ ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語Ⅱ	1	1
6	☆ ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語Ⅲ	2	1		
	☆ ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語Ⅳ	2	1		
6	全学モジュールⅠ科目	1	2		
6	全学モジュールⅡ科目	1	2		
学部 モジュール 科目	12	☆ 長崎から出発するグローバル世界へ	1	2	
		☆ アジア理解への扉	1	2	
		☆ アフリカ理解への扉	1	2	
		☆ オランダ-ヨーロッパ理解への扉	1	2	
		☆ 日本を知る	1	2	
☆ グローバルキャリアへの扉	1	2			
2	自由選択科目	1-2			
44	合計				
共通 基礎 モジュール 科目 (※1)	18	★ 多文化のなかのルール	2	2	
		★ 多文化社会のカバナス	2	2	
		★ 文化のなかのエコノミー	2	2	
		★ 地域をこえるマネジメント	2	2	
		★ ジェンダーと人権	2	2	
	18	★ 紛争と平和	2	2	
		★ 文化は社会の鏡なのか	2	2	
		★ 越境する文化	2	2	
		★ 出来事と表象のあいだ	2	2	
		★ 人間観とコスモロジー	2	2	
12	★ 他者と生きる技法	2	2		
	★ 日本のなかの世界、世界の中の日本	2	2		
	★ 英語からたどる文化	2	2		
	★ 日本語からたどる文化	2	2		
	★ 中国語からたどる文化	2	2		
5	★ アジア諸言語からたどる文化	2	2		
	★ ヨーロッパ諸言語からたどる文化	2	2		
	★ アフリカ諸言語からたどる文化	2	2		
	☆ フィールドワーク入門	1	2		
	☆ フィールドワーク基礎実習	1	1		
8	★ アークイブ実習	1	1		
	★ 映像・デジタルアーカイブ実習	2	1		
	★ サーベイ基礎実習	2	1		
	★ インタビュー調査基礎実習	2	1		
	海外フィールドワーク実習	3	1		
英語 モジュール 科目	10	☆ 英語発音法	1	1	
		☆ 英語の仕組みと意味Ⅰ	1	1	
		☆ 英語の仕組みと意味Ⅱ	2	1	
		☆ Reading and Writing I	1	1	
		☆ Reading and Writing II	2	1	
		☆ Academic Writing I	2	1	
		☆ Academic Writing II	3	1	
		☆ Reading and Discussion I	1	1	
		☆ Reading and Discussion II	3	1	
		☆ Debate	4	1	
0 又は5	中国語総合表現Ⅰ【中国語】	2	1		
	中国語総合表現Ⅱ【中国語】	2	1		
	中国語文献討論Ⅰ【中国語】	3	1		
	中国語文献討論Ⅱ【中国語】	3	1		
	中国語プレゼンテーション【中国語】	4	1		
6	☆ オランダ語Ⅰ【オランダ語】	2	2		
	☆ オランダ語Ⅱ【オランダ語】	2	2		
	☆ オランダ語Ⅲ【オランダ語】	3	2		

※1 共通基礎モジュール科目の取り扱いについて

主モジュールは、「グローバル社会のしくみ」、「社会を映し出す文化、文化が作り出す社会」又は「多言語を学ぶ、多言語で学ぶ」モジュールから1つを選択し、1.2単位を修得する。副モジュールは、主モジュールとして選択したモジュール以外のモジュールから1つを選択し、6単位を修得する。

※2 フィールドワークモジュール科目の取り扱いについて

選択科目については、「アーカイブ実習」、「映像・デジタルアーカイブ実習」、「サーベイ基礎実習」及び「インタビュー調査基礎実習」の4科目のうちから2科目を選択する。

※3 中国語モジュール科目の取り扱いについて

中国語モジュール科目を選択する場合は5単位すべて修得する。

※4 専門モジュール科目の取り扱いについて

主モジュールは、「オランダ」モジュールとし、1.8単位を修得する(うち1.0単位はライデン大学での履修科目を単位認定)。副モジュールは、「グローバル化する世界」、「変容する社会」又は「多文化の共生」モジュールから1つを選択し、1.2単位を修得する。

※5 自由選択科目の取り扱いについて

自由選択科目の区分に配当される科目のほか、主及び副の共通基礎モジュール科目、フィールドワークモジュール科目、中国語モジュール科目、主及び副の専門モジュール科目及びキャリア科目の最低修得単位数を超えて履修する授業科目や、共通基礎モジュール科目及び専門モジュール科目の主モジュール及び副モジュール以外の授業科目をもって充てることができる。

区分	卒業要件 単位数	科目名	標準 履修 年次	単位数
専門 モジュール 科目 (※4)	24	★ 国際機構論	3	2
		★ 軍縮と平和	3	2
		★ 国際法	3	2
		★ 国際政治学	3	2
		★ 比較政治	3	2
		★ 国際経営	3	2
		★ 国際開発論	3	2
		★ 国際人権論	3	2
		★ グローバル人口学	3	2
		★ 国際協力論	3	2
		★ アジア経済論	3	2
		★ 多文化マーケティング論	3	2
	24	★ 異文化理解教育	3	2
		★ トランスナショナルイデオロギイ論	3	2
		★ 異文化と家族	3	2
		★ グローバル社会学	3	2
		★ 現代アフリカ社会論	4	2
		★ 現代アジア社会論	4	2
		★ アジア海域交流史	3	2
		★ グローバル文化交流史	4	2
		★ 社会史	3	2
		★ 異文化交流論	3	2
		★ 文化資源論	3	2
		★ 地域生態論	3	2
24	★ 日本思想史	4	2	
	★ 中国思想史	4	2	
	★ 宗教文化論	3	2	
	★ 文化表象論	3	2	
	★ 記憶文化論	3	2	
	★ 地域文化論	3	2	
	★ メディア文化論	4	2	
	★ 現代言語理論	3	2	
	★ 異文化間コミュニケーション	3	2	
	★ 対照言語学	3	2	
	★ 日本語学	3	2	
	★ コーパス言語学	3	2	
18	☆ オランダ現代社会論	2	2	
	☆ オランダ文化論	3	2	
	☆ 日蘭比較文化	2	2	
	☆ 日蘭交流史	3	2	
	☆ (ライデン大学で修得)	3-4	10	
	☆ 基礎演習 A	2	1	
12	☆ 基礎演習 B	2	1	
	☆ 特別研究	3~4	10	
	☆ キャリア形成論	3	2	
4	☆ 自主企画インターンシップ	2	2	
	英米文学概論	2	2	
10	応用言語学	2	2	
	英語音声のしくみと働き	3	2	
	第二言語習得論	3	2	
	イギリス小説論	3	2	
	合計	85		
0	日本語教育学概論	2	2	
	日本語指導法	3	2	
	日本語教育実習	3	2	
総計	129			

赤字：英語のみの授業

☆：必修

青字：一部外国語を用いた授業

★：選択必修

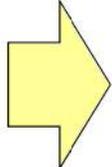
緑字：中国語のみの授業

多文化社会学部 カリキュラムマップ

学びの領域	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
多文化社会について学ぶ	学部モジュール 12単位		共通基礎モジュール 主：12単位 副：6単位		比較政治(英語) 軍縮と平和(英語) 国際法(英語) 国際機構論(英語) 国際開発論(英語) グローバル人口学(英語) 国際政治学(英語) 国際人権論(英語) 多文化マーケティング論(英語)		留学	
	長崎から出発するグローバル世界へ	アジア理解への扉	グローバル社会のしくみ 多文化のなかのルール 多文化社会のガバナンス 文化のなかのエコノミー	地域をこえるマネジメント ジェンダーと人権 紛争と平和	異文化理解教育(英語) 異文化と家族 グローバル社会学	文化資源論 異文化交流論 トランスナショナルイティ論 アジア海域交流史 社会史 地域生態論(英語)	グローバル文化交流史 現代アジア社会論	卒業研究
	アフリカ理解への扉	オランダ-ヨーロッパ理解への扉	社会を映し出す文化、文化は社会の鏡なのか 出来事と表象のあいだ 他者と生きる技法	文化が作り出す社会 越境する文化 人間観とコスモロジー 日本の中の世界、世界の中の日本	異文化間コミュニケーション(英語) 現代言語理論 日本語学 文化表象論 宗教文化論	対照言語学 記憶文化論 コーパス言語学(英語) 地域文化論	中国思想史 日本思想史 メディア文化論(英語)	
	日本を知る	多言語を学ぶ 英語からたどる文化 日本語からたどる文化 中国語からたどる文化	多言語で学ぶ アジア諸言語からたどる文化 ヨーロッパ諸言語からたどる文化 アフリカ諸言語からたどる文化	現代言語理論 日本語学 文化表象論 宗教文化論	対照言語学 記憶文化論 コーパス言語学(英語) 地域文化論	中国思想史 日本思想史 メディア文化論(英語)		
グローバルキャリアへの扉	日蘭比較文化	オランダ現代社会論(英語)	オランダ文化論(英語) 日蘭交流史	ライデン大学留学	中国思想史 日本思想史 メディア文化論(英語)			
キャリアについて学ぶ	グローバルキャリアへの扉	自主企画インターンシップ	キャリア形成論	キャリア科目 2~4単位				
フィールド調査と研究報告の方法を学ぶ	教養ゼミナール フィールドワーク入門	基礎演習A 映像・デジタルアーカイブ実習	基礎演習B サーベイ基礎実習 インタビュー調査基礎実習	専門演習 I-A 専門演習 I-B	専門演習 II-A 専門演習 II-B	フィールドワークモジュール 5~8単位		
外国語コミュニケーションについて学ぶ		オランダ語 I	オランダ語 II	オランダ語 III	オランダ語モジュール 6単位			
	英語発音法 Reading and Writing I Reading and Discussion I	英語の仕組みと意味 I	英語の仕組みと意味 II Reading and Writing II	Academic Writing I	Academic Writing II	Reading and Discussion II Debate	英語モジュール 10単位	
	英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション II 総合英語 I 総合英語 II	英語コミュニケーション III	総合英語 III	Advanced English I	Advanced English II		教養教育(英語) 8単位	
幅広い知識と技法を学ぶ	初習外国語 I 初習外国語 II	初習外国語 III	初習外国語 IV	中国語総合表現 I 中国語総合表現 II	中国語文献討論 I 中国語文献討論 II	中国語プレゼンテーション	中国語モジュール 5単位	
	健康科学 情報基礎 スポーツ演習 全学モジュール I	全学モジュール II		中国語総合表現 I 中国語総合表現 II	中国語文献討論 I 中国語文献討論 II	中国語プレゼンテーション	16単位	

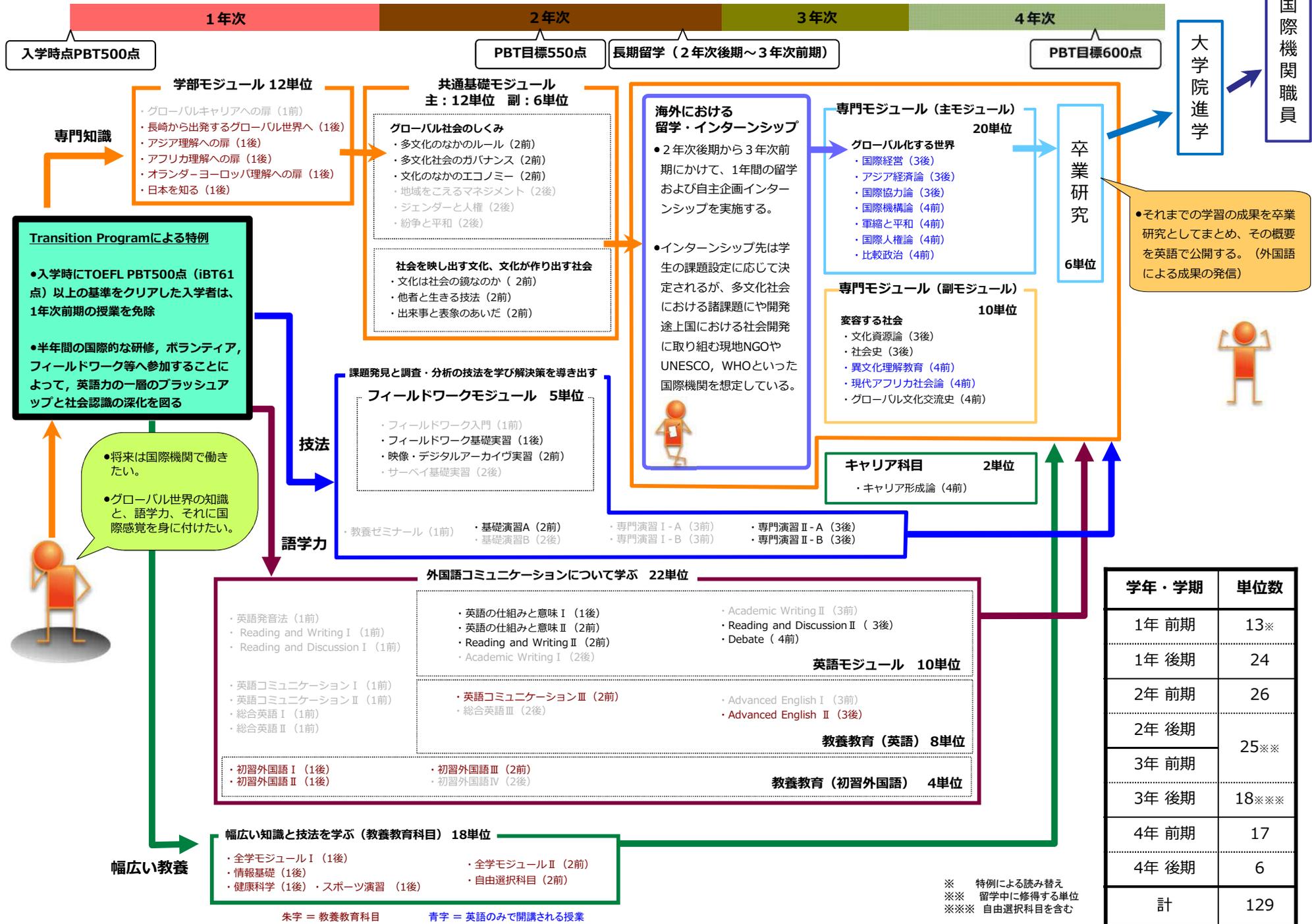
身に付く能力

- 高度の英語力 (TOEFL PBT600, iBT100)を有し、英語でコミュニケーションやプレゼンテーションができる。
- 多文化社会に関する知識を有し、文化的多様性の意義を理解できる。
- 多文化社会において、人々と共生的な関係を築き、問題解決に向けて行動できる。

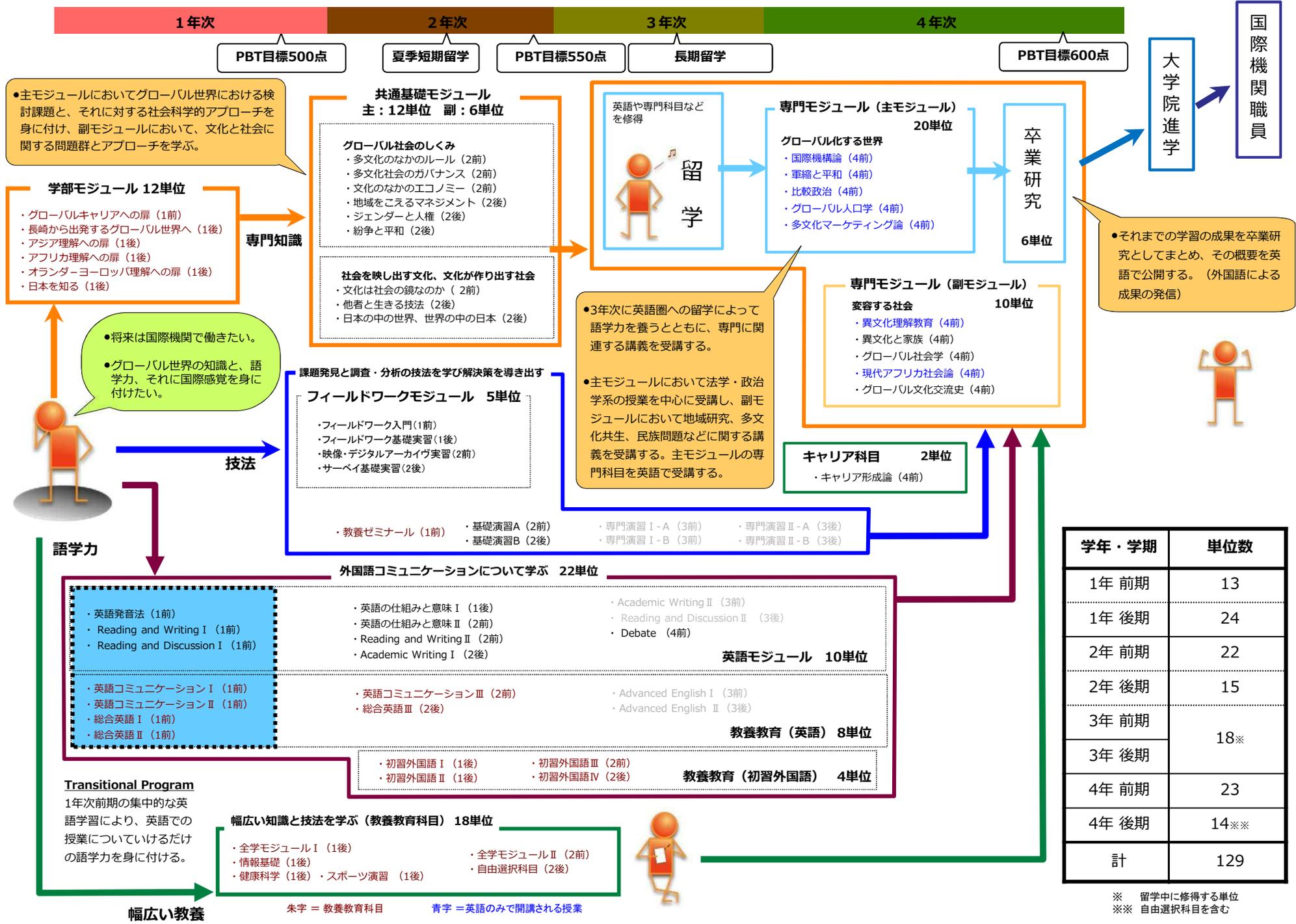


※ 英語のみで開講される科目は、専門モジュールのみ表示
 ※ 教養教育の自由選択科目、専門教育の自由選択科目及び自由科目は省略
 ※ 赤字=教養教育科目

国際機関を目指す学生の履修モデル(Transition Programによる特例)



国際機関を目指す学生の履修モデル



学年・学期	単位数
1年 前期	13
1年 後期	24
2年 前期	22
2年 後期	15
3年 前期	18※
3年 後期	
4年 前期	23
4年 後期	14※※
計	129

※ 留学中に修得する単位
※※ 自由選択科目を含む

海外支援活動のNGOを目指す学生の履修モデル



主モジュールにおいて文化と社会に関する問題群とアプローチを学び、副モジュールにおいてグローバル世界の政治や紛争といった問題を学ぶ。この組み合わせにより、現代世界のダイナミックな変化とミクロ・マクロいずれの次元においても理解できるようになる。

- 学部モジュール 12単位**
- グローバルキャリアへの扉 (1前)
 - 長崎から出発するグローバル世界へ (1後)
 - アジア理解への扉 (1後)
 - アフリカ理解への扉 (1後)
 - オランダ-ヨーロッパ理解への扉 (1後)
 - 日本を知る (1後)

専門知識

- 共通基礎モジュール 主: 12単位 副: 6単位**
- グローバル社会のしくみ**
- 多文化社会のガバナンス (2前)
 - ジェンダーと人権 (2後)
 - 紛争と平和 (2後)
- 社会を映し出す文化、文化が作り出す社会**
- 文化は社会の鏡なのか (2前)
 - 他者と生きる技法 (2前)
 - 出来事と表象のあいだ (2前)
 - 人間観とコスモロジー (2後)
 - 越境する文化 (2後)
 - 日本の中の世界、世界の中の日本 (2後)

- 課題発見と調査・分析の技法を学び解決策を導き出すフィールドワークモジュール 6単位**
- フィールドワーク入門 (1前)
 - フィールドワーク基礎実習 (1後)
 - インタビュー調査基礎実習 (2後)
 - サーベイ基礎実習 (2後)
 - 海外フィールドワーク実習 (3通)

技法

語学力

- 外国語コミュニケーションについて学ぶ 22単位**
- 英語発音法 (1前)
 - Reading and Writing I (1前)
 - Reading and Discussion I (1前)
 - 英語コミュニケーション I (1前)
 - 英語コミュニケーション II (1前)
 - 総合英語 I (1前)
 - 総合英語 II (1前)
 - 英語の仕組みと意味 I (1後)
 - 英語の仕組みと意味 II (2前)
 - Reading and Writing II (2前)
 - Academic Writing I (2後)
 - 英語コミュニケーション III (2前)
 - 総合英語 III (2後)

- Academic Writing II (3前)
 - Reading and Discussion II (3後)
 - Debate (4前)
 - Advanced English I (3前)
 - Advanced English II (3後)
 - 初習外国語 I (1後)
 - 初習外国語 II (1後)
 - 初習外国語 III (2前)
 - 初習外国語 IV (2後)
 - 中国語総合表現 I (2前)
 - 中国語総合表現 II (2後)
 - 中国語文献討論 I (3前)
 - 中国語文献討論 II (3後)
 - 中国語プレゼンテーション (4前)
- 英語モジュール 10単位**
- 教養教育 (英語) 8単位**
- 教養教育 (初習外国語) 4単位**
- 中国語モジュール 5単位**

Transitional Program

1年次前期の集中的な英語学習により、英語での授業について行けるだけの語学力を身に付ける。

幅広い教養

- 幅広い知識と技法を学ぶ (教養教育科目) 18単位**
- 全学モジュール I (1後)
 - 情報基礎 (1後)
 - 健康科学 (1後)
 - 全学モジュール II (2前)
 - 自由選択科目 (2後)
 - スポーツ演習 (1後)

朱字 = 教養教育科目 青字 = 英語のみで開講される授業

- 専門モジュール (主モジュール) 20単位**
- 変容する社会**
- 異文化理解教育 (3前)
 - 異文化と家族 (3前)
 - グローバル社会学 (3前)
 - 異文化交流論 (3後)
 - トランスナショナルリティ論 (3後)
 - アジア海域交流史 (3後)
 - 地域生態論 (3後)
 - グローバル文化交流史 (4前)
 - 現代アジア社会論 (4前)
 - 現代アフリカ社会論 (4前)

- 専門モジュール (副モジュール) 10単位**
- グローバル化する世界**
- 国際機構論 (3前)
 - 軍縮と平和 (3前)
 - 比較政治 (3前)
 - アジア経済論 (3後)
 - 国際協力論 (3後)

- キャリア科目 2単位**
- キャリア形成論 (3前)

●主モジュールにおいてアジア・アフリカ地域歴史と社会の問題、多文化共生、ジェンダーなどの専門科目を受講し、副モジュールにおいて法や政治といったシステム側面を学ぶ。またフィールドワークモジュールにおいて調査の基礎を身に付け、アジア・アフリカ地域における海外フィールドワークを通して語学力を高めつつ、異なる文化的背景を持つ人々とのコミュニケーション能力を養う。

- 卒業研究 6単位**

●それまでの学習の成果を卒業研究としてまとめ、その概要を英語で公開する。(外国語による成果の発信)

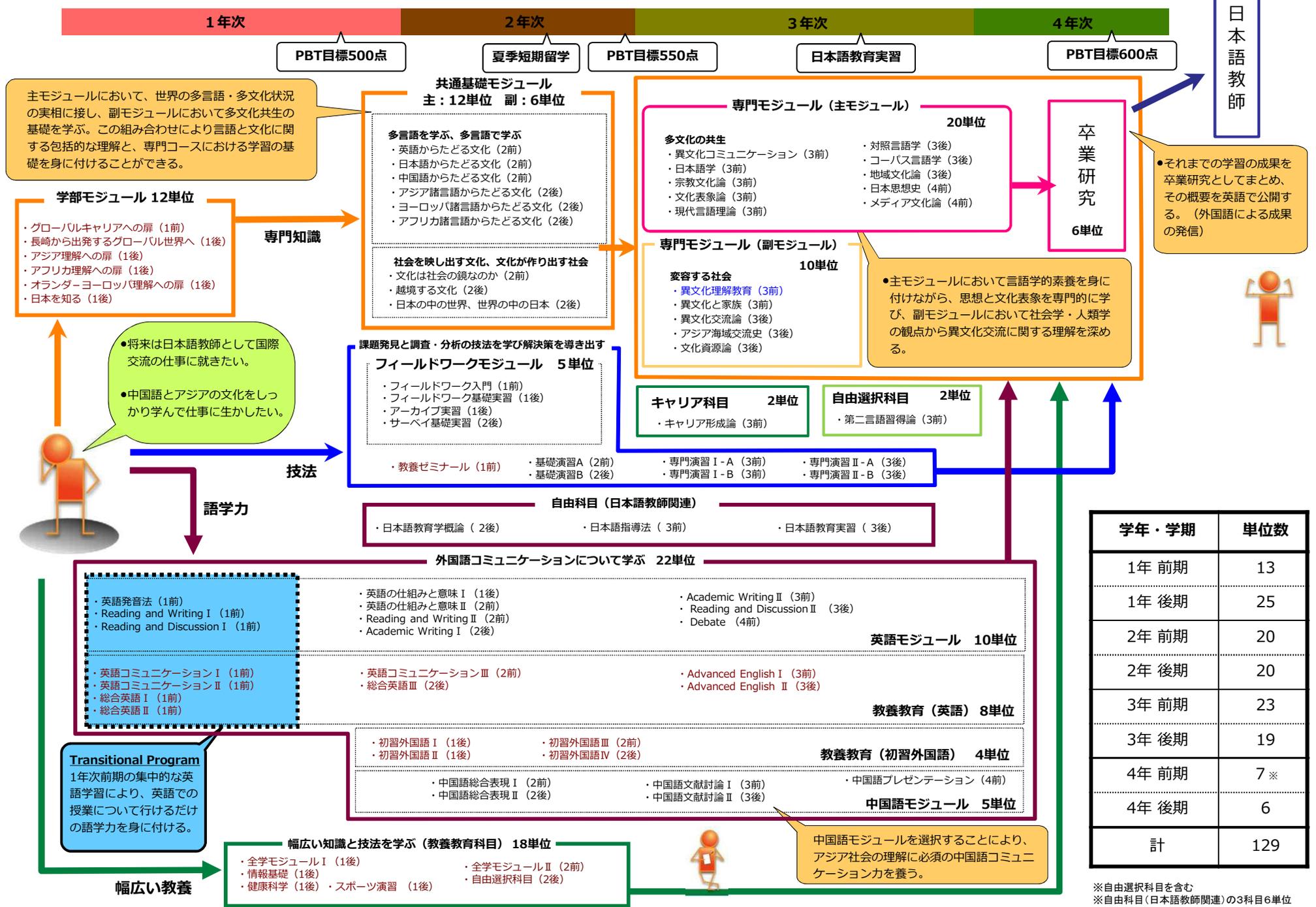


海外支援活動のNGO

学年・学期	単位数
1年 前期	13
1年 後期	24
2年 前期	20
2年 後期	19
3年 前期	19
3年 後期	18
4年 前期	10※
4年 後期	6
計	129

※自由選択科目を含む

日本語教師として国際交流に携わることを目指す学生の履修モデル



学年・学期	単位数
1年 前期	13
1年 後期	25
2年 前期	20
2年 後期	20
3年 前期	23
3年 後期	19
4年 前期	7 ※
4年 後期	6
計	129

※自由選択科目を含む
※自由科目(日本語教師関連)の3科目6単位を別に修得

赤字 = 教養教育科目 青字 = 英語のみで開講される授業

欧米系の企業を目指す学生の履修モデル

1年次 2年次 3年次 4年次

欧米系の企業

主モジュールにおいて文化と社会に関する問題群とアプローチを学び、副モジュールにおいてグローバル世界の政治や紛争といった問題を学ぶ。

PBT目標500点

夏季短期留学

PBT目標550点

PBT目標600点

- 学部モジュール 12単位**
- ・グローバルキャリアへの扉 (1前)
 - ・長崎から出発するグローバル世界へ (1後)
 - ・アジア理解への扉 (1後)
 - ・アフリカ理解への扉 (1後)
 - ・オランダ・ヨーロッパ理解への扉 (1後)
 - ・日本を知る (1後)

- 共通基礎モジュール 主：12単位 副：6単位**
- グローバル社会のしくみ**
- ・文化のなかのエコノミー (2前)
 - ・多文化のなかのルール (2前)
 - ・ジェンダーと人権 (2後)
- 社会を映し出す文化、文化が作り出す社会**
- ・文化は社会の鏡なのか (2前)
 - ・他者と生きる技法 (2前)
 - ・出来事と表象のあいだ (2前)
 - ・人間観とコスモロジー (2後)
 - ・越境する文化 (2後)
 - ・日本の中の世界、世界の中の日本 (2後)

- オランダコース科目**
- ・日蘭比較文化 (2前)
 - ・オランダ現代社会論 (2後)
 - ・オランダ文化論 (3前)
 - ・日蘭交流史 (3前)
- 1年間のライデン大学留学 (10単位相当を修得)**
- 特別研究 (3年次～4年次 10単位)**
- 専門モジュール (副モジュール) 12単位**
- 変容する社会**
- ・異文化理解教育 (3前)
 - ・異文化と家族 (3前)
 - ・グローバル社会学 (3前)
 - ・トランスナショナルリティ論 (4後)
 - ・異文化交流論 (4後)
 - ・現代アジア社会論 (4後)

●それまでの学習の成果を卒業研究としてまとめ、その概要を英語で公開する。(外国語による成果の発信)

- 専門知識**
- 将来は開発途上国で支援活動に携わりたい。
 - アジアやアフリカの地域社会の知識と、語学力、それに国際感覚を身に付けたい。

課題発見と調査・分析の技法を学び解決策を導き出す

- フィールドワークモジュール 5単位**
- ・フィールドワーク入門 (1前)
 - ・フィールドワーク基礎実習 (1後)
 - ・インタビュー調査基礎実習 (2後)
 - ・サーベイ基礎実習 (2後)

- キャリア科目 2単位**
- ・キャリア形成論 (3前)

英語と初習外国語 (独仏中韓より選択) の他に、オランダ語の基礎科目を配置し、ライデン大学への留学に備える。留学中の英語モジュール科目は、ライデン大学で取得する単位を読み替えることで対応する。

Transitional Program
1年次前期の集中的な英語学習により、英語での授業について行けるだけの語学力を身に付ける。

- 外国語コミュニケーションについて学ぶ 28単位**
- ・オランダ語 I (2前)
 - ・オランダ語 II (2後)
 - ・オランダ語 III (3前)

- 英語モジュール 10単位**
- ・英語発音法 (1前)
 - ・Reading and Writing I (1前)
 - ・Reading and Discussion I (1前)
 - ・英語コミュニケーション I (1前)
 - ・英語コミュニケーション II (1前)
 - ・総合英語 I (1前)
 - ・総合英語 II (1前)

- ・英語の仕組みと意味 I (1後)
- ・英語の仕組みと意味 II (2前)
- ・Reading and Writing II (2前)
- ・Academic Writing I (2後)

- ・Academic Writing II (3前)
- ・Reading and Discussion II (3後)
- ・Debate (4前)

英語モジュール 10単位

教養教育 (英語) 8単位

- ・英語コミュニケーション III (2前)
- ・総合英語 III (2後)

- ・Advanced English I (3前)
- ・Advanced English II (3後)

- 教養教育 (初習外国語) 4単位**
- ・初習外国語 I (1後)
 - ・初習外国語 II (1後)
 - ・初習外国語 III (2前)
 - ・初習外国語 IV (2後)

幅広い知識と技法を学ぶ (教養教育科目) 18単位

- 幅広い教養**
- ・全学モジュール I (1後)
 - ・情報基礎 (1後)
 - ・健康科学 (1後)
 - ・スポーツ演習 (1後)
 - ・全学モジュール II (2前)
 - ・自由選択科目 (2後)

朱字 = 教養教育科目 青字 = 英語のみで開講される授業

学年・学期	単位数
1年 前期	13
1年 後期	24
2年 前期	25
2年 後期	20
3年 前期	18※
3年 後期	13※※
4年 前期	16※※※
4年 後期	16※※※
計	129

※ 自由選択科目を含む
 ※※ ライデンでの修得単位
 ※※※ 特別研究を含む

	1年次			2年次			3年次			4年次		
	科目名	教員名	教室	科目名	教員名	教室	科目名	教員名	教室	科目名	教員名	教室
月	1			多文化のなかのルール	広瀬	総研12階	比較政治学	コンペル	グローバル棟②			
	2			出来事と表象のあいだ	葉柳 他	総研12階	第二言語習得論	隈上	グローバル棟①	グローバル文化交流史	鈴木	総研3階②
	3			日本語からたどる文化	池田(幸) 他	総研12階	軍縮と平和	広瀬 他	グローバル棟①	中国思想史	連	総研3階①
	4	英語コミュニケーション I		Reading and Writing II Reading and Writing II Reading and Writing II	ピノ ペー コリンズ	総研3階① 総研3階② 総研5階	異文化理解教育	見原	グローバル棟①			
	5	教養ゼミナール	演習室	中国語総合表現 I オランダ語 I	楊 山下	総研3階① 総研3階②	英語科教育法 I オランダ語Ⅲ	小笠原 山下	グローバル棟② グローバル棟①			
火	1			日蘭比較文化 英米文学概論	山下 池田(俊)	総研3階① 総研3階②	異文化間コミュニケーション	ピノ	グローバル棟①			
	2	英語コミュニケーション II		英語の仕組みと意味 II 英語の仕組みと意味 II 英語の仕組みと意味 II	西原 小笠原 廣江	総研3階① 総研3階② 総研5階	国際法	石司	グローバル棟②			
	3			文化は社会の鏡なのか	増田 他	総研12階	異文化と家族	賽漢卓娜	グローバル棟①	教育実習(事前・事後指導を含む)	小笠原・廣江・ 西原(俊)	総研3階②
	4	総合英語 I		中国語からたどる文化	連 他	総研12階	国際機構論	広瀬	グローバル棟②	日本思想史	佐久間	総研3階①
	5			他者と生きる技法	増田 他	総研12階	現代言語理論	稲田	グローバル棟②	メディア文化論	グラジディアン	総研3階②
水	1			多文化社会のガバナンス	コンペル・森川	グローバル棟①	国際開発論	小松	総研3階①	中国語プレゼンテーション	連・楊	総研3階②
	2			英語からたどる文化	西原(俊) 他	グローバル棟②	グローバル人口学	門司	総研3階②	現代アフリカ社会論	増田	総研3階①
	3	総合英語 II		文化のなかのエコノミー	小松 他	グローバル棟①	日本語学	池田(幸)	総研3階①			
	4			オランダ語 I	山下	グローバル棟①	Academic Writing II Academic Writing II Academic Writing II	ピノ ペー コリンズ	総研3階① 総研3階② 総研5階			
	5			基礎演習A		演習室	キャリア形成論	源島	総研11階			
木	1						中国語文献討論 I オランダ語Ⅲ	連 山下	総研3階① 総研3階②	現代アジア社会論	首藤	総研3階①
	2	グローバルキャリアへの扉	源島 他	総研11階	初習外国語Ⅲ		文化表象論	葉柳	総研3階②			
	3	Reading and Discussion I Reading and Discussion I Reading and Discussion I	ピノ ペー コリンズ	総研3階① 総研3階② 総研5階	全学モジュール II		宗教文化論	滝澤	グローバル棟①			
	4	フィールドワーク入門		総研11階	全学モジュール II		国際政治学	森川	グローバル棟②			
	5	英語発音法 英語発音法 英語発音法	ピノ ペー コリンズ	総研3階① 総研3階② 総研5階			専門演習 I - A 特別研究		演習室			
金	1						Advanced English I Advanced English I Advanced English I	小笠原 廣江 奥田	総研3階① 総研3階② 総研5階			
	2	Reading and Writing I Reading and Writing I Reading and Writing I	ピノ ペー コリンズ	総研3階① 総研3階② 総研5階	英語コミュニケーションⅢ		日蘭交流史 日本語指導法	木村 永井	グローバル棟① グローバル棟②			
	3				全学モジュール II		オランダ文化論	ポイケルス	グローバル棟②	Debate Debate Debate	ピノ ペー コリンズ	総研3階① 総研3階② 総研5階
	4				全学モジュール II		国際人権論	近江	グローバル棟①			
	5						専門演習 I - B 特別研究		演習室			
集中講義				映像・デジタルアーカイブ実習		実習室	海外フィールドワーク実習	増田・波佐間	実習室	卒業研究 特別研究		演習室
				自主企画インターンシップ	源島		グローバル社会学	西原(和)				
							多文化マーケティング論	七井				

多文化社会学部 授業時間割【後期】

※ 朱書きは教養教育科目

	1年次			2年次			3年次			4年次		
	科目名	教員名	教室	科目名	教員名	教室	科目名	教員名	教室	科目名	教員名	教室
月	1	全学モジュールⅠ		越境する文化	南 他	総研12階	国際経営	ウマリ	総研3階①			
	2	全学モジュールⅠ		地域を超えるマネジメント	源島 他	総研12階	対照言語学	楊	総研3階②			
	3			アジア諸言語からたどる文化	賽漢卓娜 他	総研3階①	アジア経済論	チョウドリ	総研3階②			
	4			中国語総合表現Ⅱ オランダ語Ⅱ	楊 山下	総研3階① 総研3階②	異文化交流論	王	総研12階			
	5			紛争と平和	広瀬 他	総研3階②	専門演習Ⅱ-A 特別研究		演習室			
火	1	全学モジュールⅠ		オランダ現代社会論 日本語教育学概論	ボイケルス 松本	総研3階① 総研3階②	中国語文献討論Ⅱ	連	グローバル棟②			
	2	全学モジュールⅠ		Academic Writing I Academic Writing I Academic Writing I	ピノ ペー コリンズ	総研3階① 総研3階② 総研5階				教職実践演習	小笠原・廣江・ 西原(俊)・古峨	グローバル棟①
	3	情報基礎		オランダ語Ⅱ	山下	総研3階②	文化資源論	才津	グローバル棟①			
	4	スポーツ演習		日本の中の世界、世界の中の日本	木村 他	総研12階	コーパス言語学	西原(俊)	グローバル棟②			
	5			基礎演習B		演習室	記憶文化論	四條	グローバル棟①			
水	1	初習外国語Ⅰ／初習外国語Ⅱ		ジェンダーと人権	賽漢卓娜 他	グローバル棟①	イギリス小説論	井石	総研3階②			
	2	健康科学		人間観とコスモロジー	佐久間 他	グローバル棟②						
	3			ヨーロッパ諸言語からたどる文化	葉柳 他	グローバル棟①	トランスナショナルリティ論	南	総研3階②			
	4			アフリカ諸言語からたどる文化	増田 他	グローバル棟②	Reading and DiscussionⅡ Reading and DiscussionⅡ Reading and DiscussionⅡ	ピノ ペー コリンズ	総研3階① 総研3階② 総研5階			
	5			応用言語学	小笠原	グローバル棟①	専門演習Ⅱ-B 特別研究		演習室			
木	1	長崎から出発するグローバル世界へ	木村 他	総研11階			国際協力論	小松 他	グローバル棟①			
	2	アジア理解への扉	首藤 他	総研11階	初習外国語Ⅳ		アジア海域交流史	野上	グローバル棟①			
	3	アフリカ理解への扉	増田 他	総研11階	全学モジュールⅡ		英語音声のしくみと働き	西原(真)	グローバル棟②			
	4	英語の仕組みと意味Ⅰ 英語の仕組みと意味Ⅰ 英語の仕組みと意味Ⅰ	西原(俊) 小笠原 廣江	総研3階① 総研3階② 総研5階	全学モジュールⅡ							
	5	教職論	森岡	総研5階			英語科教育法Ⅱ	廣江	グローバル棟②			
金	1						地域生態論	波佐間	総研3階①			
	2	オランダーヨーロッパ理解への扉	葉柳 他	総研11階	総合英語Ⅲ		地域文化論	木村・才津	総研3階②			
	3	日本を知る	佐久間 他	総研11階	全学モジュールⅡ		社会史	正本	総研3階①			
	4	フィールドワーク基礎実習		演習室	全学モジュールⅡ		Advanced EnglishⅡ Advanced EnglishⅡ Advanced EnglishⅡ	小笠原 廣江 奥田	総研3階① 総研3階② 総研5階			
	5											
集中講義		アーカイヴ実習	池田(幸)・正本・ 木村・鈴木	実習室	サーベイ基礎実習	松村	実習室	海外フィールドワーク実習	増田・波佐間	実習室	卒業研究 特別研究	演習室
					インタビュー調査基礎実習		実習室	教育の方法と技術	山内			
								日本語教育実習	夢田			

長崎大学「多文化社会学部」の主な留学受入先一覧

No.	大学名	国名
1	山東大学	中華人民共和国
2	同済大学	中華人民共和国
3	福州大学	中華人民共和国
4	淡江大学	台湾
5	国立政治大学	台湾
6	国立台湾大学	台湾
7	江原大学校	大韓民国
8	嶺南大学校	大韓民国
9	全北大学校	大韓民国
10	チェンマイ大学	タイ王国
11	チュラロンコン大学	タイ王国
12	マヒドン大学	タイ王国
13	ライデン大学	オランダ王国
14	アリゾナ大学(調整中)	アメリカ合衆国
15	ミネソタ州立大学マンケイト校(調整中)	アメリカ合衆国
16	モンタナ大学(調整中)	アメリカ合衆国
17	ノースダコタ州立大学(調整中)	アメリカ合衆国
18	レジナ大学(調整中)	カナダ
19	エディスコーワン大学(調整中)	オーストラリア
20	アントワープ大学(調整中)	ベルギー



AGREEMENT ON ACADEMIC COOPERATION BETWEEN
NAGASAKI UNIVERSITY AND SHANDONG UNIVERSITY

Nagasaki University, Nagasaki, Japan and Shandong University, Jinan, People's Republic of China, recognizing the benefits to their respective universities through the establishment of international links, have concluded this Agreement.

- 1 The purpose of this Agreement is to develop academic and educational cooperation and to promote mutual understanding between the two universities.
- 2 Both universities agree to develop the following collaborative activities in academic areas of mutual interest, on a basis of equality and reciprocity.
 - (1) Exchange of faculty members, researchers, and administrative staff
 - (2) Exchange of students
 - (3) Implementation of collaborative research projects
 - (4) Implementation of lectures and symposia
 - (5) Exchange of academic information and materials
 - (6) Promotion of other academic cooperation on which they have agreed
- 3 The development and implementation of specific activities based on this Agreement will be separately negotiated and agreed between the faculties, schools or institutes, which carry out the specific projects. Both universities agree to carry out these activities in accordance with the laws and regulations of the respective countries after full consultation and approval.
- 4 It is understood that the implementation of any of the types of cooperation stated in Clause 2 shall depend upon the availability of resources and financial support at the universities concerned.
- 5 Should any collaborative research activities under this Agreement result in any potential for intellectual property, both universities shall seek an equitable and fair understanding as to ownership and other property interests that may arise.
- 6 This Agreement may be amended or modified by a written agreement signed by the representatives of both universities.
- 7 This Agreement is valid for a period of five (5) years from the date of signing by the representatives of both universities. This Agreement may be renewed after being reviewed and renegotiated by both universities.
- 8 This Agreement may, at any time during its period of validity, be terminated by one of the universities upon prior written notice to the other not later than six (6) months before the termination date.
- 9 This Agreement shall be executed in two (2) copies in English; both universities will retain one copy each.

(Signature) *S. Katamine*
Shigeru Katamine
President
Nagasaki University

Date: Nov. 1, 2010

(Signature) *Xu XianMing*
Xu XianMing
President
Shandong University

Date: Nov. 1, 2010

長崎大学と山東大学との間の学術交流協定書

長崎大学（日本国）と山東大学（中華人民共和国）は、国際的協力関係の確立が両大学（研究機関）にもたらす利益を認識し、この協定を締結する。

第1条 本協定は、両大学の研究及び教育における協力を発展させ、また相互理解を促進することを目的とする。

第2条 両大学は、平等と互惠を基本とし、双方が関心を持つ学術的分野において、以下の項目について交流を促進する。

- (1) 教職員及び研究者の交流
- (2) 学生の交流
- (3) 共同研究の実施
- (4) 講義、講演及びシンポジウムの実施
- (5) 学術情報及び資料の交換
- (6) その他両者が合意した事項

第3条 本協定に基づく具体的な活動の策定及び実施については、当事者の部局間で個別に協議し、覚書により合意するものとする。両大学は、相互に相手国の法令を尊重し、完全な合意及び承認の上、これらの活動を開始するものとする。

第4条 第2条に記載された協力活動は、当該大学の人員、施設及び財源の利用可能性により制約を受けることがある。

第5条 本協定に基づく共同研究の成果について、知的所有権等の可能性が生じた場合は、両当事者は誠実に協議を行い、公正に取り扱うものとする。

第6条 本協定は、両大学の代表者の合意文書により、修正又は変更することができる。

第7条 本協定は、両大学の代表者が協定書に署名した日から効力を生じ、5年間有効である。ただし、本協定は、両大学（研究機関）で協議し更新することができる。

第8条 有効期間内においても、各大学は6ヶ月前までの文書による相手方への通知により本協定を終了させることができる。

第9条 本協定は、英語で2通作成し、双方が1通ずつ保有する。

(署名)

長崎大学長
片峰 茂

(署名)

山東大学長
徐 显明

2010年 11月 1日

2010年 11月 1日

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
-	学長	カミネ シゲル 片峰 茂 <平成20年10月>		医学博士		長崎大学長 (平成20年10月)

別記様式第3号 (その2の1)

教 員 の 氏 名 等												
(多文化社会学部多文化社会学科)												
調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 週当たり 平均日数
1	専	教授	イダ トシアキ 稲田 俊明 <平成26年4月>		修士 (文学)		現代言語理論 専門演習 I-A 専門演習 I-B 専門演習 II-A 専門演習 II-B 卒業研究 特別研究	3前 3前 3前 3後 3後 4通 3~4通	2 1 1 1 1 6 10	1 1 1 1 1 1 1	長崎大学 言語教育研究センター 教授 (平24.4)	5日
2	専	教授	サカ タダシ 佐久間 正 <平成26年4月>		博士 (文学)		教養ゼミナール 日本の思想文化 日本を知る ※ 人間観とコスモロジー ※ 日本の中の世界, 世界の中の日本 ※ 日本語からたどる文化 ※ 日本思想史 基礎演習A 基礎演習B 専門演習 I-A 専門演習 I-B 専門演習 II-A 専門演習 II-B 卒業研究 特別研究	1前 1前 1後 2後 2後 2前 4前 2前 2後 3前 3前 3後 3後 4通 3~4通	2 2 0.7 0.8 0.1 0.4 2 1 1 1 1 1 1 6 10	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	長崎大学 理事 (平24.4)	5日
3	専	教授	モン カズヒコ 門司 和彦 <平成26年4月>		保健学 博士		グローバル人口学 専門演習 I-A 専門演習 I-B 専門演習 II-A 専門演習 II-B 卒業研究 特別研究	3前 3前 3前 3後 3後 4通 3~4通	2 1 1 1 1 6 10	1 1 1 1 1 1 1	大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 総合地球環境学研究所 教授 (平19.10)	5日
4	専	教授	ケンジ マフミ 源島 福己 <平成26年4月>		修士 (キャリア デザイン 学)		企業の国際展開とその課題 日本語上級 II S 日本語上級 II A 日本事情 グローバルキャリアへの扉 ※ 地域をこえるマネジメント ※ アフリカ諸言語からたどる文化 ※ キャリア形成論 自主企画インターンシップ	2後 1前 1後 1後 1前 2後 2後 3前 2前	2 2 2 2 0.4 1.3 0.3 2 2	1 2 2 1 1 1 1 1 2	長崎大学 留学生センター 教授 (平24.1)	5日
5	専	教授	リン セイジ 連 清吉 <平成26年4月>		博士 (文学)		中国語 I 中国語 II 中国語 III 中国語 IV 人間観とコスモロジー ※ 日本の中の世界, 世界の中の日本 ※ 中国語からたどる文化 ※ 中国語文献討論 I 中国語文献討論 II 中国語プレゼンテーション 中国思想史 専門演習 I-A 専門演習 I-B 専門演習 II-A 専門演習 II-B 卒業研究 特別研究	1後 1後 2前 2後 2後 2後 2前 3前 3後 4前 4前 3前 3前 3後 3後 4通 3~4通	1 1 1 1 0.5 0.1 0.6 1 1 0.5 2 1 1 1 1 6 10	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	長崎大学大学院 水産・環境科学総合 研究科 教授 (平23.4)	5日
6	専	教授	ヨウ キョウアン 楊 曉安 <平成26年4月>		文学博士 (中国)		中国語 I 中国語 II 中国語 III 中国語 IV 上級外国語 (中国語) 中国語からたどる文化 ※ 中国語総合表現 I 中国語総合表現 II 中国語プレゼンテーション 対照言語学 専門演習 I-A 専門演習 I-B 専門演習 II-A 専門演習 II-B 卒業研究 特別研究	1後 1後 2前 2後 3前 2前 2前 2後 4前 3後 3前 3前 3後 3後 4通 3~4通	1 1 1 1 2 0.7 1 1 0.5 2 1 1 1 1 6 10	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	長崎大学 言語教育研究センター 教授 (平24.4)	5日

教 員 の 氏 名 等												
(多文化社会学部多文化社会学科)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 週当たり 平均日数
7	専	教授	ヒロセ サトシ 廣瀬 訓 <平成26年4月>		行政学修士 ※		国際社会と平和 文学・芸術と核兵器 ※ 核軍縮の法と政治 ※ グローバルキャリアへの扉 ※ 多文化のなかのルール 地域をこえるマネジメント ※ 紛争と平和 ※ 国際機構論 軍縮と平和 ※ 国際協力論 ※ 専門演習 I-A 専門演習 I-B 専門演習 II-A 専門演習 II-B 卒業研究 特別研究	1後 2後 2後 1前 2前 2後 2後 3前 3前 3前 3後 3前 3前 3後 3後 4通 3~4通	2 0.9 1.7 0.4 2 0.2 0.8 2 0.7 0.4 1 1 1 1 6 10	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	長崎大学 核兵器廃絶研究 センター 教授 (平24.4)	5日
8	専	教授	ニシハラ トシキ 西原 俊明 <平成26年4月>		博士 (言語学)		総合英語 I 総合英語 II 英語からたどる文化 ※ 英語の仕組みと意味 I 英語の仕組みと意味 II コーパス言語学 専門演習 I-A 専門演習 I-B 専門演習 II-A 専門演習 II-B 卒業研究 特別研究 教育実習(事前・事後指導を含む。) ※ 教職実践演習 ※	1前 1前 2前 1後 2前 3後 3前 3前 3後 3後 4通 3~4通 4前 4後	1 1 0.9 1 1 2 1 1 1 1 6 10 0.7 0.3	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	長崎大学 言語教育研究センター 教授 (平24.4)	5日
9	専	教授	ワン ウェイ 王 維 <平成26年4月>		博士 (学術) 文学博士 (中国)		教養ゼミナール アジア理解への扉 ※ 文化は社会の鏡なのか ※ 越境する文化 ※ 中国語からたどる文化 ※ フィールドワーク入門 ※ フィールドワーク基礎実習 インタビュー調査基礎実習 異文化交流論 基礎演習 A 基礎演習 B 専門演習 I-A 専門演習 I-B 専門演習 II-A 専門演習 II-B 卒業研究 特別研究	1前 1後 2前 2後 2前 1前 1後 2後 3後 2前 2前 2後 3前 3前 3後 3後 4通 3~4通	2 0.4 0.4 0.3 0.7 0.1 1 1 2 1 1 1 1 1 1 6 10	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	香川大学 経済学部地域社会 システム学科 教授 (平21.5)	5日
10	専	教授	ハヤキ カズノリ 葉柳 和則 <平成26年4月>		博士 (文学)		教養ゼミナール ドイツ語 I ドイツ語 II オランダヨーロッパ理解への扉 ※ 文化は社会の鏡なのか ※ 出来事と表象のあいだ ※ ヨーロッパ諸言語からたどる文化 ※ 文化表象論 基礎演習 A 基礎演習 B 専門演習 I-A 専門演習 I-B 専門演習 II-A 専門演習 II-B 卒業研究 特別研究	1前 1後 1後 1後 2前 2前 2後 3前 3前 3前 3後 3後 4通 3~4通	2 1 1 0.4 0.7 0.9 0.9 2 1 1 1 1 1 6 10	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	長崎大学大学院 水産・環境科学総合 研究科 教授 (平23.4)	5日
11	専	教授	シモトウ トカズ 首藤 明和 <平成26年4月>		博士 (学術)		教養ゼミナール アジア理解への扉 ※ 越境する文化 ※ フィールドワーク入門 ※ フィールドワーク基礎実習 インタビュー調査基礎実習 現代アジア社会論 基礎演習 A 基礎演習 B 専門演習 I-A 専門演習 I-B 専門演習 II-A 専門演習 II-B 卒業研究 特別研究	1前 1後 2後 1前 1後 2後 4前 2前 2後 3前 3前 3後 3後 4通 3~4通	2 0.4 0.4 0.2 1 1 2 1 1 1 1 1 1 6 10	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	兵庫教育大学大学院 学校教育研究科 准教授 (平17.4)	5日

教 員 の 氏 名 等												
(多文化社会学部多文化社会学科)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 週当たり 平均日数
12	専	准教授	モリカワ ユジ 森川 裕二 <平成26年4月>		博士 (学術)		教養ゼミナール グローバルキャリアへの扉 ※ 多文化社会のガバナンス ※ 日本の中の世界, 世界の中の日本 ※ 国際政治学 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究	1前 1前 2前 2後 3前 2前 2後 3前 3前 3後 3後 4通 3~4通	2 0.3 1 0.3 2 1 1 1 1 1 1 6 10	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	富山大学 極東地域研究センター 特命助教 (平22.6)	5日
13	専	准教授	オミミ 近江 美保 <平成26年4月>		博士 (法学)		教養ゼミナール グローバルキャリアへの扉 ※ ジェンダーと人権 ※ 他者と生きる技法 ※ 国際人権論 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究	1前 1前 2後 2前 3前 2前 2後 3前 3前 3後 3後 4通 3~4通	2 0.3 1.5 0.4 2 1 1 1 1 1 1 6 10	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	神奈川大学 人間科学部 非常勤講師 (平21.9)	5日
14	専	准教授	マサモト シノブ 正本 忍 <平成26年4月>		博士 (社会学)		教養ゼミナール 環境問題の歴史から学ぶ ※ オランダ・ヨーロッパ理解への扉 ※ 出来事と表象のあいだ ※ ヨーロッパ諸言語からたどる文化 ※ アーカイヴ実習 ※ 社会史 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究	1前 2後 1後 2前 2後 1後 3後 2前 2後 3前 3前 3後 3後 4通 3~4通	2 0.3 0.4 0.5 0.4 0.3 2 1 1 1 1 1 1 6 10	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	長崎大学大学院 水産・環境科学総合 研究科 准教授 (平23.4)	5日
15	専	准教授	ノノミ タケ 野上 建紀 <平成26年4月>		博士 (文学)		教養ゼミナール 長崎学 ※ 長崎から出発するグローバル世界へ ※ アジア理解への扉 ※ 越境する文化 ※ フィールドワーク入門 ※ フィールドワーク基礎実習 アジア海域交流史 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究	1前 1前 1後 1後 2後 2前 1前 1後 3後 2前 2後 3前 3前 3後 3後 4通 3~4通	2 0.5 0.5 0.4 0.3 0.1 1 2 1 1 1 1 1 6 10	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	有田町教育委員会 主査 (平14.1)	5日
16	専	准教授	マサタケ ケン 増田 研 <平成26年4月>		博士 (社会人類学)		教養ゼミナール 環境と民俗 共生のグローバル人類学 アフリカ理解への扉 ※ 文化のなかのエコノミー ※ 紛争と平和 ※ 文化は社会の鏡なのか ※ 他者と生きる技法 ※ アフリカ諸言語からたどる文化 ※ フィールドワーク入門 ※ フィールドワーク基礎実習 インタビュー調査基礎実習 海外フィールドワーク実習 現代アフリカ社会論 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究	1前 2後 1後 1後 2前 2後 2前 2前 2後 1前 1後 2後 3通 4前 2前 2後 3前 3前 3後 3後 4通 3~4通	2 2 2 1.1 0.4 0.4 0.5 0.8 0.6 0.3 1 1 1 2 1 1 1 1 1 6 10	1 1	長崎大学大学院 水産・環境科学総合 研究科 准教授 (平23.4)	5日

教 員 の 氏 名 等												
(多文化社会学部多文化社会学科)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 週当たり 平均日数
17	専	准教授	サイウ ユミコ 才津 祐美子 <平成26年4月>		博士 (文学)		教養ゼミナール 日本を知る ※ 日本の中の世界, 世界の中の日本 ※ 日本語からたどる文化 ※ フィールドワーク入門 ※ フィールドワーク基礎実習 インタビュー調査基礎実習 文化資源論 地域文化論 ※ 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究	1前 1後 2後 2前 1前 1後 2後 3後 3後 2前 2後 3前 3前 3後 3後 4通 3~4通	2 0.4 0.1 0.4 0.1 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 6 10	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	長崎大学大学院 水産・環境科学総合 研究科 准教授 (平23.4)	5日
18	専	准教授	イケガ(シメ) エキエ 池田(志々目) 幸恵 <平成26年4月>		博士 (文学)		教養ゼミナール 日本の言語と文化 長崎から出発するグローバル世界へ ※ 日本を知る ※ 日本の中の世界, 世界の中の日本 ※ 日本語からたどる文化 ※ アーカイヴ実習 ※ 日本語学 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究	1前 1前 1後 1後 2後 2前 1後 3前 2前 2後 3前 3前 3後 3後 4通 3~4通	2 2 0.3 0.4 0.1 1.2 0.2 2 1 1 1 1 1 1 6 10	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	長崎大学大学院 水産・環境科学総合 研究科 准教授 (平23.4)	5日
19	専	准教授	ハサマ イツヒロ 波佐間 逸博 <平成26年4月>		博士 (地域研 究)		教養ゼミナール コミュニケーションの比較文化 アフリカ理解への扉 ※ 紛争と平和 ※ アフリカ諸言語からたどる文化 ※ フィールドワーク入門 ※ フィールドワーク基礎実習 海外フィールドワーク実習 地域生態論 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究	1前 1後 2後 2後 1前 1後 3通 3後 2前 2後 3前 3前 3後 3後 4通 3~4通	2 2 0.3 0.1 0.6 0.2 1 1 2 1 1 1 1 1 6 10	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	長崎大学大学院 国際健康開発研究科 助教 (平21.8)	5日
20	専	准教授	キムラ ナキ 木村 直樹 <平成26年4月>		博士 (文学)		教養ゼミナール 長崎から出発するグローバル世界へ ※ オランダ〜ヨーロッパ理解への扉 ※ 日本を知る ※ 越境する文化 ※ 日本の中の世界, 世界の中の日本 ※ フィールドワーク入門 ※ アーカイヴ実習 ※ 地域文化論 ※ 日蘭交流史 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究	1前 1後 1後 1後 2後 2後 1前 1後 3後 3前 2前 2後 3前 3前 3後 3後 4通 3~4通	2 0.8 0.3 0.5 0.3 0.7 0.1 0.3 1 2 1 1 1 1 1 1 6 10	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	長崎大学 新学部創設準備室 准教授 (平25.4)	5日

教 員 の 氏 名 等

(多文化社会学部多文化社会学科)

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 週当たり 平均日数
①	専	准教授	サイハジメチ 賽漢卓娜 <平成26年4月>		博士 (教育学)		教養ゼミナール	1前	2	1	南山大学 外国語学部 非常勤講師 (平23.4)	5日
							アジア理解への扉 ※	1後	0.4	1		
22	専	准教授	カトローニピノ Cutrone Pino <平成26年4月>		Ph. D. (Applied Linguistic s) (英国)		ジェンダーと人権 ※	2後	0.5	1	長崎大学 言語教育研究センター 助教 (平24.4)	5日
							他者と生きる技法 ※	2前	0.3	1		
							アジア諸言語からたどる文化 ※	2後	0.5	1		
							フィールドワーク入門 ※	1前	0.1	1		
							フィールドワーク基礎実習	1後	1	1		
							インタビュー調査基礎実習	2後	1	1		
							異文化と家族	3前	2	1		
							基礎演習A	2前	1	1		
							基礎演習B	2後	1	1		
							専門演習I-A	3前	1	1		
							専門演習I-B	3前	1	1		
							専門演習II-A	3後	1	1		
専門演習II-B	3後	1	1									
卒業研究	4通	6	1									
特別研究	3~4通	10	1									
23	専	准教授	タケナリ カツヒコ 滝澤 克彦 <平成26年4月>		博士 (文学)		教養ゼミナール	1前	2	1	東北大学東北アジア 研究センター 教育研究支援者 (平25.4)	5日
							人間観とコスモロジー ※	2後	0.7	1		
							アジア諸言語からたどる文化 ※	2後	0.4	1		
							フィールドワーク入門 ※	1前	0.1	1		
							フィールドワーク基礎実習	1後	1	1		
							宗教文化論	3前	2	1		
							基礎演習A	2前	1	1		
							基礎演習B	2後	1	1		
							専門演習I-A	3前	1	1		
							専門演習I-B	3前	1	1		
							専門演習II-A	3後	1	1		
							専門演習II-B	3後	1	1		
卒業研究	4通	6	1									
特別研究	3~4通	10	1									
24	専	准教授	コンパル ラドミール Compel Radimir <平成26年4月>		博士 (国際経済 法学)		教養ゼミナール	1前	2	1	長崎大学 新学部創設準備室 准教授 (平25.4)	5日
							多文化社会のガバナンス ※	2前	1	1		
							アジア諸言語からたどる文化 ※	2後	0.4	1		
							ヨーロッパ諸言語からたどる文化 ※	2後	0.4	1		
							比較政治	3前	2	1		
							基礎演習A	2前	1	1		
							基礎演習B	2後	1	1		
							専門演習I-A	3前	1	1		
							専門演習I-B	3前	1	1		
							専門演習II-A	3後	1	1		
							専門演習II-B	3後	1	1		
							卒業研究	4通	6	1		
特別研究	3~4通	10	1									

教 員 の 氏 名 等												
(多文化社会学部多文化社会学科)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 週当たり 平均日数
25	専	准教授	グラジディアン マリア ミハエラ Grajidian Maria Mihaela <平成26年4月>		Ph. D. (Musicology) (ドイツ)		教養ゼミナール 文化は社会の鏡なのか ※ 出来事と表象のあいだ ※ 日本の中の世界, 世界の中の日本 ※ ヨーロッパ諸言語からたどる文化 ※ フィールドワーク基礎実習 メディア文化論 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究	1前 2前 2前 2後 2後 1後 4前 2前 2後 3前 3前 3後 3後 4通 3~4通	2 0.4 0.5 0.1 0.4 1 2 1 1 1 1 1 1 6 10	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	シチズン電子株式会社 ドイツ営業所 社長秘書 (平22.10)	5日
26	専	准教授	ススキヒデアキ 鈴木 英明 <平成26年4月>		博士 (文学)		教養ゼミナール アフリカ理解への扉 ※ 文化のなかのエコノミー ※ 越境する文化 ※ アフリカ諸言語からたどる文化 ※ フィールドワーク入門 ※ フィールドワーク基礎実習 アーカイヴ実習 ※ 海外フィールドワーク実習 グローバル文化交流史 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究	1前 1後 2前 2後 2後 1前 1後 1後 3通 4前 2前 2後 3前 3前 3後 3後 4通 3~4通	2 0.6 0.3 0.3 0.5 0.1 1 0.2 1 2 1 1 1 1 6 10	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	日本学術振興会 特別研究員 (カナダ・マギル大学 インディアン・オー シャン・ワールド・セ ンター ヴィジティングスカ ラー) (平24.2)	5日
②	専	准教授	ミハラ(ヨシ) レイコ 見原(吉野) 礼子 <平成26年4月>		博士 (社会学)		教養ゼミナール オランダーヨーロッパ理解への扉 ※ グローバルキャリアへの扉 ※ 他者と生きる技法 ※ ヨーロッパ諸言語からたどる文化 ※ フィールドワーク入門 ※ フィールドワーク基礎実習 異文化理解教育 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究	1前 1後 1前 2前 2後 1前 1後 3前 2前 2後 3前 3前 3後 3後 4通 3~4通	2 0.6 0.4 0.3 0.4 0.1 1 2 1 1 1 1 6 10	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	同志社大学 高等教育研究機構 准教授 (平25.4)	5日
28	専	准教授	コマツ サトル 小松 悟 <平成26年4月>		博士 (学術)		教養ゼミナール 文化のなかのエコノミー ※ 国際開発論 国際協力論 ※ 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究	1前 2前 3前 3後 2前 2後 3前 3前 3後 3後 4通 3~4通	2 1.3 2 1.2 1 1 1 1 1 1 6 10	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	広島大学大学院 国際協力研究科 研究員 (平25.5)	5日

教 員 の 氏 名 等

(多文化社会学部多文化社会学科)

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 週当たり 平均日数									
③	専	助教	ミミ マコト (リョウ セツコウ) 南 誠 (梁 雪江) <平成26年4月>		博士 (人間・環 境学)		教養ゼミナール	1前	2	1	長崎大学大学院 水産・環境科学総合 研究科 助教 (平23.10)	5日									
							社会学	1後	2	1											
30	専	助教	イツカ マユミ 石司 真由美 <平成26年4月>		博士 (学術)		アジア理解への扉 ※	1後	0.4	1	日本学術振興会 特別研究員PD (東京大学大学院 法学政治学研究科) (平25.4)	5日									
							越境する文化 ※	2後	0.5	1											
							他者と生きる技法 ※	2前	0.3	1											
							アジア諸言語からたどる文化 ※	2後	0.3	1											
							フィールドワーク入門 ※	1前	0.1	1											
							フィールドワーク基礎実習	1後	1	1											
							インタビュー調査基礎実習	2後	1	1											
							トランスナショナリティ論	3後	2	1											
							基礎演習A	2前	1	1											
							基礎演習B	2後	1	1											
							専門演習I-A	3前	1	1											
							専門演習I-B	3前	1	1											
							専門演習II-A	3後	1	1											
専門演習II-B	3後	1	1																		
卒業研究	4通	6	1																		
特別研究	3~4通	10	1																		
31	兼担	教授	ボウケルス ハルメン Beukers Harmen <平成27年4月>		博士 (医学)		教養ゼミナール	1前	2	1	長崎大学 留学生センター 教授 (平27.4)	-									
							長崎から出発するグローバル世界へ ※	1後	0.3	1											
							紛争と平和 ※	2後	0.3	1											
							軍縮と平和 ※	3前	0.4	1											
							国際法	3前	2	1											
							基礎演習A	2前	1	1											
							基礎演習B	2後	1	1											
							専門演習I-A	3前	1	1											
							専門演習I-B	3前	1	1											
							専門演習II-A	3後	1	1											
							専門演習II-B	3後	1	1											
							卒業研究	4通	6	1											
							特別研究	3~4通	10	1											
32	兼担	教授	ウマリ セリア ロペス Umali Celia Lopez <平成26年4月>		博士 (経済学)		オランダ現代社会論	2後	2	1	長崎大学 経済学部 教授 (平16.1)	-									
							オランダ文化論	3前	2	1											
33	兼担	教授	カサハラ シンジ 小笠原 真司 <平成26年4月>		教育学修士		英語コミュニケーションⅢ	2前	1	1	長崎大学 言語教育研究センター 教授 (平24.4)	-									
							総合英語Ⅲ	2後	1	1											
							Advanced English I	3前	1	1											
							Advanced English II	3後	1	1											
							英語の仕組みと意味 I	1後	1	1											
							英語の仕組みと意味 II	2前	1	1											
							応用言語学	2後	2	1											
							英語科教育法 I	3前	2	1											
							教育実習 (事前・事後指導を含む。) ※	4前	1.8	1											
							教職実践演習 ※	4後	0.3	1											
							34	兼担	教授	マツヤマ アキコ 松山 章子 <平成26年4月>				Ph.D. (国際 保健学) (米国)		途上国支援と国際保健	2後	2	1	長崎大学大学院 国際健康開発研究科 教授 (平22.4)	-
																国際協力論 ※	3後	0.4	1		
							35	兼担	教授	カガ ヒロマサ 岡田 裕正 <平成26年4月>				経済学修士 ※		経営情報と会計情報	2前	2	1	長崎大学 経済学部 教授 (平13.10)	-
地域をこえるマネジメント ※	2後	0.7	1																		
36	兼担	教授	ヒロエ アキラ 廣江 顕 <平成26年4月>		修士 (文学) ※		英語コミュニケーションⅢ	2前	1	1	長崎大学 言語教育研究センター 教授 (平24.4)	-									
							総合英語 I	1後	1	1											
							総合英語 II	1後	1	1											
							総合英語 III	2後	1	1											
							Advanced English I	3前	1	1											
							Advanced English II	3後	1	1											
							English for Specific Purposes (A)	1前	1	1											
							English for Specific Purposes (B)	1後	1	1											
							英語の仕組みと意味 I	1後	1	1											
							英語の仕組みと意味 II	2前	1	1											
							英語科教育法 II	3後	2	1											
							教育実習 (事前・事後指導を含む。) ※	4前	1	1											
							教職実践演習 ※	4後	0.3	1											
37	兼担	准教授	イケダ トシ 池田 俊也 <平成26年4月>		文学修士		英米文学概論	2前	2	1	長崎大学 教育学部 准教授 (平9.10)	-									

別記様式第3号(その2の1)

教 員 の 氏 名 等												
(多文化社会学部多文化社会学科)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 週当たり 平均日数
38	兼担	准教授	ナガイ チカ 永井 智香子 <平成26年4月>		修士 (教育学)		異文化接触とコミュニケーション 日本語上級ⅡS 日本語上級ⅡA 日本語指導法	2前 1前 1前 3前	2 2 2 2	1 2 2 1	長崎大学 留学生センター 准教授 (平11.11)	-
39	兼担	准教授	マツモト クミ 松本 久美子 <平成26年4月>		修士 (日本語教 育)		日本語上級ⅠS 日本語教育学概論	1前 2後	2 2	2 1	長崎大学 留学生センター 准教授 (平11.11)	-
40	兼担	准教授	マツムラ マキ 松村 真樹 <平成26年4月>		Ph. D. (社会学) (米国)		世界人口の動向と国際開発 フィールドワーク入門 ※ サーベイ基礎実習	2前 1前 2後	2 0.4 1	1 1 1	長崎大学 留学生センター 准教授 (平16.9)	-
41	兼担	准教授	ウイリアム シェーウッド コリンズ William Sherwood Collins <平成26年4月>		M. A (英語教育 修士) (英国)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語発音法 Reading and WritingⅠ Reading and WritingⅡ Academic WritingⅠ Academic WritingⅡ Reading and DiscussionⅠ Reading and DiscussionⅡ Debate	1前 1前 1前 1前 2前 2後 3前 1前 3後 4前	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	長崎大学 言語教育研究センター 准教授 (平25.4)	-
42	兼担	准教授	カサ ミキ 茅田 美有紀 <平成26年4月>		修士 (教育学)		日本語中級Ⅱ読解 日本語上級ⅡS 日本語教育実習	1前 1前 3後	2 2 2	1 1 1	長崎大学 留学生センター 准教授 (平23.7)	-
43	兼担	准教授	ナカムラ ケイ 中村 桂子 <平成26年4月>		M. A (国際政策 学) (米国)		核兵器とは何か ※ 市民運動・NGOと核兵器廃絶 ※ 紛争と平和 ※ 軍縮と平和 ※	1後 2後 2後 3前	1.9 1.7 0.7 0.8	1 1 1 1	長崎大学 核兵器廃絶研究セン ター 准教授 (平24.4)	-
44	兼担	助教	ベー シュウキ Beh Siewkee <平成26年4月>		修士 (教育学)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語発音法 Reading and WritingⅠ Reading and WritingⅡ Academic WritingⅠ Academic WritingⅡ Reading and DiscussionⅠ Reading and DiscussionⅡ Debate	1前 1前 1前 1前 2前 2後 3前 1前 3後 4前	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	長崎大学 言語教育研究センター 助教 (平24.4)	-
45	兼担	助教	ヤマシタ ノボル 山下 龍 <平成26年4月>		M. A in Japanese Language and Culture (日本学) (オラン ダ)		英語で学ぶオランダと西欧の文化 オランダの言語 オランダの文化 オランダヨーロッパ理解への扉 ※ オランダ語Ⅰ オランダ語Ⅱ オランダ語Ⅲ 日蘭比較文化	2前 1前 1後 1後 2前 2後 3前 2前	2 2 0.4 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	長崎大学 言語教育研究センター 助教 (平25.3)	-
46	兼担	助教	クマガミ マイ 隈上 麻衣 <平成26年4月>		修士 (文学)		第二言語習得論	3前	2	1	長崎大学 言語教育研究センター 助教 (平25.2)	-
47	兼任	講師	コガ カズキ 古峨 和之 <平成26年4月>		教育学士		教職実践演習 ※	4後	1.1	1	前瓊浦高等学校 校長 (平24.3まで)	-
48	兼任	講師	トウジヨウ タカシ 東條 正 <平成26年4月>		修士 (経済学)		長崎から出発するグローバル世界へ ※ 日本の中の世界, 世界の中の日本 ※	1後 2後	0.1 0.4	1 1	放送大学 長崎学習センター センター長 (平25.4)	-
49	兼任	講師	ニシハラ カズヒサ 西原 和久 <平成28年4月>		博士 (社会学)		グローバル社会学	3前	2	1	成城大学 社会イノベーション 学部 教授 (平24.4)	-
50	兼任	講師	モリオ ナト 森岡 直人 <平成26年4月>		工学士		教職論	1後	2	1	前長崎工業高等学校 校長 (平24.3まで)	-

別記様式第3号(その2の1)

教 員 の 氏 名 等												
(多文化社会学部多文化社会学科)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 週当たり 平均日数
51	兼任	講師	イネ テツヤ 井石 哲也 <平成26年4月>		文学修士		イギリス小説論	3後	2	1	活水女子大学 文学部英語学科 教授 (平18.4)	-
52	兼任	講師	チョウトリ マハブール アラム CHOWDHURY Mahbul Alam <平成28年4月>		商学博士		アジア経済論	3後	2	1	長崎外国語大学 外国語学部現代英語 学科 教授 (平15.4)	-
53	兼任	講師	フジヨシ ケイジ 藤吉 圭二 <平成27年4月>		文学修士		映像・デジタルアーカイヴ実習	2前	1	1	高野山大学 文学部 准教授 (平22.4)	-
54	兼任	講師	ヤマノウチ ケンシ 山内 乾史 <平成26年4月>		博士 (学術)		教育の方法と技術	3後	2	1	神戸大学 大学教育推進機構 教授 (平21.7)	-
55	兼任	講師	ニシハラ マユミ 西原 真弓 <平成26年4月>		M.A in English focusing on TESOL (米国)		英語音声のしくみと働き	3後	2	1	活水女子大学 文学部英語学科 准教授 (平22.4)	-
56	兼任	講師	ナナイ セイイチロウ 七井 誠一郎 <平成28年4月>		行政学修士 ※		多文化マーケティング論	3前	2	1	城西国際大学 経営情報学部 総合経営学科 教授 (平21.4)	-
57	兼任	講師	マツオカ ユウタ 松岡 雄太 <平成26年4月>		博士 (文学)		アジア諸言語からたどる文化 ※	2後	0.4	1	長崎外国語大学 外国語学部 国際コミュニケーション 学 准教授 (平24.4)	-
58	兼任	講師	シノヨウ チエ 四條 知恵 <平成28年4月>		修士 (比較社会 文化)		記憶文化論	3後	2	1	九州大学大学院 比較社会文化研究院 大学院生 (平22.4)	-
59	兼任	教授	ウメバヤシ ヒロチ 梅林 宏道 <平成26年4月>		博士 (工学)		核兵器とは何か ※ 市民運動・NGOと核兵器廃絶 ※	1後 2後	0.3 0.3	1 1	長崎大学 核兵器廃絶研究 センター 教授 (平24.4)	-
60	兼任	教授	オオイ クミコ 大井 久美子 <平成26年4月>		歯学博士		男女共同参画のすすめ	1後	2	1	長崎大学 男女共同参画推進 センター 教授 (平24.4)	-
61	兼任	教授	シバタ カズオ 柴多 一雄 <平成26年4月>		文学修士		地域社会と日本経済	2前	2	1	長崎大学 経済学部 教授 (平6.4)	-
62	兼任	教授	タカハシ マサカツ 高橋 正克 <平成26年4月>		薬学博士		薬の開発を主題とした動物行動分析と推計学 平成長崎塾 ※	2後 1前	2 0.7	1 1	長崎大学 大学教育機能開発 センター 教授 (平20.4)	-
63	兼任	教授	ナカニシ コズエ 中西 こずえ <平成26年4月>		博士 (理学)		生物多様性を考える ※	1後	0.7	1	長崎大学大学院 水産・環境科学総合 研究科 教授 (平23.4)	-
64	兼任	教授	フジイ ミチコ 藤井 美知子 <平成26年4月>		修士 (人間科 学)		情報の活用 情報化の役割と課題 ソフトウェアの利用技術	1後 2後 2前・後	1 1 2	1 1 2	長崎大学 情報メディア基盤 センター 教授 (平19.10)	-

別記様式第3号(その2の1)

教 員 の 氏 名 等												
(多文化社会学部多文化社会学科)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 週当たり 平均日数
65	兼担	教授	ミネ マリコ 三根 真理子 <平成26年4月>		医学博士		情報と社会 ※ 被ばくと社会 ※ 被ばく者と医療 ※	2前 1後 2前	0.5 0.8 1.1	1 1 1	長崎大学 核兵器廃絶研究 センター 教授 (平24.4)	-
66	兼担	教授	ヤギタ ヤスリ 柳田 泰典 <平成26年4月>		教育学修士		特別活動論	1後	2	1	長崎大学大学院 教育学研究科 教授 (平23.10)	-
67	兼担	教授	オハラ タロウ 小原 達朗 <平成26年4月>		体育学修士		芸術・スポーツとコミュニケーション ※ スポーツ演習 健康科学	2前 1後 1後	0.9 1 0.1	1 1 1	長崎大学 教育学部 教授 (平14.4)	-
68	兼担	教授	ノギ コウイチ 野崎 剛一 <平成26年4月>		博士 (工学)		計算機の科学	1後	2	1	長崎大学 情報メディア基盤 センター 教授 (平17.8)	-
69	兼担	教授	ハカヤマ スミ 畑山 範 <平成26年4月>		薬学博士		伝承薬から最先端医薬品まで(薬はこうして 創られる) ※	2前	0.7	1	長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 教授 (平14.4)	-
70	兼担	教授	エガシラ アキミ 江頭 明文 <平成26年4月>		教育学士		生徒・進路指導論	1前	2	1	長崎大学 地域教育連携・支援 センター 教授 (平24.12)	-
71	兼担	教授	カイ マサキ 甲斐 雅亮 <平成26年4月>		薬学博士		生命科学のための物理化学入門 ※	1後	0.7	1	長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 教授 (平14.4)	-
72	兼担	教授	タカヤマ ヒサキ 高山 久明 <平成26年4月>		博士 (水産学)		全学乗船実習(後期) 教育方法・技術論	1・2後 1前	2 2	1 1	長崎大学大学院 水産・環境科学総合 研究科 教授 (平23.4)	-
73	兼担	教授	ハヤセ タカシ 早瀬 隆司 <平成26年4月>		博士 (工学)		環境リスクと社会	2前	2	1	長崎大学大学院 水産・環境科学総合 研究科 教授 (平23.4)	-
74	兼担	教授	ハラダ ジュンジ 原田 純治 <平成26年4月>		教育学修士		教育心理	1後	2	1	長崎大学 教育学部 教授 (平14.4)	-
75	兼担	教授	ユエシ ユカ 末吉 豊 <平成26年4月>		理学博士		数学の常識	1後	2	1	長崎大学大学院 工学研究科 教授 (平24.5)	-
76	兼担	教授	ヤヤマ モリオ 中山 守雄 <平成26年4月>		薬学博士		出島の科学 ※	2前	0.8	1	長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 教授 (平20.10)	-
77	兼担	教授	ホリウチ イブキ 堀内 伊吹 <平成26年4月>		音楽学士		芸術と文化	1後	1.1	1	長崎大学 教育学部 教授 (平11.4)	-
78	兼担	教授	ミヤニシ カキ 宮西 隆幸 <平成26年4月>		博士 (医学)		環境問題の歴史から学ぶ ※	2後	0.3	1	長崎大学大学院 水産・環境科学総合 研究科 教授 (平23.4)	-

教 員 の 氏 名 等												
(多文化社会学部多文化社会学科)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保 有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 週当たり 平均日数
79	兼担	教授	ヤマウチ マサキ 山内 正毅 <平成26年4月>		体育学修士		スポーツ演習	1後	1	1	長崎大学 教育学部 教授 (平13.4)	-
80	兼担	教授	タダ アキヒデ 多田 彰秀 <平成26年4月>		博士 (工学)		暮らしの中の物理科学 ※ 地球環境の科学 ※	2前 2後	0.9 0.9	1 1	長崎大学大学院 工学研究科 教授 (平23.4)	-
81	兼担	教授	タイラ アキヒロ 田井村 明博 <平成26年4月>		博士 (医学)		健康科学	1後	0.1	1	長崎大学大学院 水産・環境科学総合 研究科 教授 (平23.4)	-
82	兼担	教授	トダ キヨシ 戸田 清 <平成26年4月>		博士 (社会学)		環境と社会運動 ※ 平和講座 ※	2前 1前	1.1 0.1	1 1	長崎大学大学院 水産・環境科学総合 研究科 教授 (平23.4)	-
83	兼担	教授	ハシ ヒデチカ 林 秀千人 <平成26年4月>		工学博士		科学と技術の安全・安心 ※	1後	0.4	1	長崎大学大学院 工学研究科 教授 (平23.4)	-
84	兼担	教授	マキタ ナオマサ 蒔田 直昌 <平成26年4月>		博士 (医学)		人体の構造と機能 ※	1後	0.1	1	長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 教授 (平21.5)	-
85	兼担	教授	ユイ カツユキ 由井 克之 <平成26年4月>		医学博士		免疫と病気 ※	2前	0.7	1	長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 教授 (平14.4)	-
86	兼担	教授	シハラ カスユキ 篠原 一之 <平成26年4月>		博士 (医学)		コミュニケーションの生物学 ※	1後	0.5	1	長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 教授 (平14.4)	-
87	兼担	教授	タカ カシ 田中 隆 <平成26年4月>		薬学博士		ビギナーのための有機化学 ※ 医療現場の安全と安心 ※	1後 2後	1.1 0.5	1 1	長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 教授 (平24.1)	-
88	兼担	教授	ツルモト トシユキ 弦本 敏行 <平成26年4月>		医学博士		人体の構造と機能 ※	1後	1.1	1	長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 教授 (平22.3)	-
89	兼担	教授	ナカヤマ ユウジ 永山 雄二 <平成26年4月>		医学博士		細胞と放射線 ※	1後	0.5	1	長崎大学 原爆後障害医療研究所 教授 (平25.4)	-
90	兼担	教授	ホイ ケンイチ 堀井 健一 <平成26年4月>		博士 (文学)		文学と社会	2前	2	1	長崎大学 教育学部 教授 (平19.1)	-
91	兼担	教授	マツダ ヒロシ 松田 浩 <平成26年4月>		工学博士		自然災害とインフラ長寿命化 ※	2前	0.5	1	長崎大学大学院 工学研究科 教授 (平23.4)	-

別記様式第3号(その2の1)

教 員 の 氏 名 等												
(多文化社会学部多文化社会学科)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 週当たり 平均日数
92	兼担	教授	ヤマシタ カチコ 山下 敬彦 <平成26年4月>		工学博士		環境法(国際法)と環境問題への取組み 資源・エネルギー問題への取組み ※ エネルギーマネジメント	1後 2前 2後	2 0.9 2	1 1 1	長崎大学大学院 工学研究科 教授 (平23.4)	-
93	兼担	教授	イケダ トオル 池田 通 <平成26年4月>		歯学博士		健康と医療の安全・安心 ※	1後	0.4	1	長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 教授 (平16.10)	-
94	兼担	教授	オノムラ オサム 尾野村 治 <平成26年4月>		工学博士		疾病の回復を促進する薬	2後	2	1	長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 教授 (平20.1)	-
95	兼担	教授	フクザワ カツヒコ 福澤 勝彦 <平成26年4月>		経済学修士		情報と社会 ※	2前	0.5	1	長崎大学 経済学部 教授 (平14.10)	-
96	兼担	教授	ヤマシタ ヒロキ 山地 弘起 <平成26年4月>		修士 (教育学)		対人世界の心理学 身体・かかわり・言葉	2前 2前	4 4	2 2	長崎大学 大学教育機能開発 センター 教授 (平24.10)	-
97	兼担	教授	タナベ シュウジ 田邊 秀二 <平成26年4月>		工学博士		水環境の安全と安心 物質と化学反応	2前 2後	2 2	1 1	長崎大学大学院 工学研究科 教授 (平23.4)	-
98	兼担	教授	ホシノ ヨシマサ 星野 由雅 <平成26年4月>		理学博士		環境と社会	2後	2	1	長崎大学大学院 教育学研究科 教授 (平21.4)	-
99	兼担	教授	カサハラ セイジ 加藤 誠治 <平成26年4月>		法学学士		国際援助と公的部門の役割	2後	2	1	長崎大学 国際連携研究戦略本部 教授 (平24.4)	-
100	兼担	教授	チヨウ ヒロノブ 全 炳徳 <平成26年4月>		博士 (工学)		核兵器廃絶と教育 ※	2前	2	1	長崎大学 教育学部 教授 (平20.4)	-
101	兼担	教授	ニノ カズヒサ 丹羽 量久 <平成26年4月>		博士 (工学)		情報の活用 情報と社会 ※ 情報化の役割と課題 ソフトウェアの利用技術 情報基礎	1後 2前 2後 2前・後 1後	1 0.5 1 2 2	1 1 1 2 1	長崎大学 情報メディア基盤 センター 教授 (平18.10)	-
102	兼担	教授	フカオ リオ 深尾 典男 <平成26年4月>		工学学士		社会・メディア・政治 キャリア概論	2後 1前	2 2	1 1	長崎大学 広報戦略本部 教授 (平22.4)	-
103	兼担	教授	スライ マサユキ 須齋 正幸 <平成26年4月>		商学修士		国際的視点に立った経済	1後	2	1	長崎大学 理事 (平20.10)	-
104	兼担	教授	スズキ ケイコ 鈴木 慶子 <平成26年4月>		教育学修士		日本語と表現 ※	2後	1.1	1	長崎大学 教育学部 教授 (平20.4)	-

別記様式第3号 (その2の1)

教 員 の 氏 名 等												
(多文化社会学部多文化社会学科)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 週当たり 平均日数
105	兼担	教授	ナカガワ トオル 中川 泰 <平成26年4月>		修士 (教育学)		芸術	2前	2	1	長崎大学 教育学部 教授 (平23.4)	-
106	兼担	教授	ミヤザキ ヤスシ 宮崎 泰司 <平成26年4月>		博士 (医学)		被ばく者と医療 ※	2前	0.3	1	長崎大学 原爆後障害医療研究所 教授 (平25.4)	-
107	兼担	教授	イノ ヨコ 井田 洋子 <平成26年4月>		修士 (法学)		日本国憲法	1前	2	1	長崎大学 経済学部 教授 (平22.11)	-
108	兼担	教授	イワノ ヒロユキ 岩田 修永 <平成26年4月>		博士 (薬学)		生命の化学(ケミカル・イオロジー) ※	1後	1.1	1	長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 教授 (平22.12)	-
109	兼担	教授	シマノ タケシ 嶋野 武志 <平成26年4月>		法学学士		国際的視点に立った法と政治 資源・エネルギー問題への取組み ※	1後 2前	2 0.9	1 1	長崎大学 産学官連携戦略本部 教授 (平23.6)	-
110	兼担	教授	シバヤシ イヅン 蔭 宇静 <平成26年4月>		博士 (工学)		自然災害とインフラ長寿命化 ※	2前	0.4	1	長崎大学大学院 工学研究科 教授 (平23.4)	-
111	兼担	教授	ツカモト カズヒロ 塚元 和弘 <平成26年4月>		博士 (医学)		疾病と薬物治療 ※	2前	0.9	1	長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 教授 (平16.12)	-
112	兼担	教授	ムロイ コウジ 武藤 浩二 <平成26年4月>		博士 (工学)		疑似科学との付き合い方 ※	1前	0.8	1	長崎大学 教育学部 教授 (平24.4)	-
113	兼担	教授	スカハラ ジュン 菅原 潤 <平成26年4月>		博士 (文学)		環境問題の歴史から学ぶ ※ 東西文化交流の歴史 ※	2後 1後	1.5 0.4	1 1	長崎大学大学院 水産・環境科学総合 研究科 教授 (平23.4)	-
114	兼担	教授	タカオ コウジ 高尾 雄二 <平成26年4月>		博士 (工学)		地球温暖化を考える ※	1後	0.4	1	長崎大学大学院 水産・環境科学総合 研究科 教授 (平23.4)	-
115	兼担	教授	ニシタ コウヨウ 西田 孝洋 <平成26年4月>		薬学博士		薬との賢い付き合い方 ※	2後	1.1	1	長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 教授 (平22.1)	-
116	兼担	教授	ハマタ ヒサユキ 濱田 久之 <平成26年4月>		博士 (医学)		健康と医療の安全・安心 ※	1後	0.5	1	長崎大学病院 教授 (平23.7)	-
117	兼担	教授	ヤマモト タロウ 山本 太郎 <平成26年4月>		博士 (医学)		感染症と文明	2後	2	1	長崎大学 熱帯医学研究所 教授 (平19.10)	-

別記様式第3号(その2の1)

教 員 の 氏 名 等												
(多文化社会学部多文化社会学科)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 週当たり 平均日数
118	兼担	教授	サイト アキヒデ 才本 明秀 <平成26年4月>		博士 (工学)		物理科学	1後	2	1	長崎大学大学院 工学研究科 教授 (平23.4)	-
119	兼担	教授	タカ コウジ 武田 弘資 <平成26年4月>		博士 (歯学)		生命の化学(ケミカルバイオロジー) ※	1後	0.7	1	長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 教授 (平24.4)	-
120	兼担	教授	タケノ 村ム 田崎 修 <平成26年4月>		博士 (医学)		医療現場の安全と安心 ※	2後	0.5	1	長崎大学病院 教授 (平23.6)	-
121	兼担	教授	ナシマ マサヒロ 中島 正洋 <平成26年4月>		博士 (医学)		遺伝子と生命 ※ 被ばく者と医療 ※	1後 2前	0.7 0.3	1 1	長崎大学 原爆後障害医療研究所 教授 (平25.4)	-
122	兼担	教授	ニシタ リョウキ 西田 教行 <平成26年4月>		博士 (医学)		エイズと性感染症	2前	2	1	長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 教授 (平21.7)	-
123	兼担	教授	クドウ タカシ 工藤 崇 <平成26年4月>		博士 (医学)		話題の先進医学	2後	2	1	長崎大学 原爆後障害医療研究所 教授 (平25.4)	-
124	兼担	教授	キムラ マサリ 木村 正成 <平成26年4月>		博士 (工学)		環境・生活と化学 ※	1後	0.9	1	長崎大学大学院 工学研究科 教授 (平23.4)	-
125	兼担	教授	セウ ケン 薛 軍 <平成26年4月>		博士 (経済学)		リスク社会と社会科学	1後	2	1	長崎大学 経済学部 教授 (平24.10)	-
126	兼担	教授	フジモト ノボル 藤本 登 <平成26年4月>		博士 (工学)		資源・エネルギー問題への取組み ※	2前	0.9	1	長崎大学 教育学部 教授 (平23.4)	-
127	兼担	教授	ヨシダ ケンタロウ 吉田 謙太郎 <平成26年4月>		博士 (農学)		生物多様性を考える ※	1後	0.7	1	長崎大学大学院 水産・環境科学総合 研究科 教授 (平23.4)	-
128	兼担	教授	タカムラ ノボル 高村 昇 <平成26年4月>		博士 (医学)		細胞と放射線 ※	1後	0.4	1	長崎大学 原爆後障害医療研究所 教授 (平25.4)	-
129	兼担	教授	リ タオセン 李 桃生 <平成26年4月>		博士 (医学)		幹細胞と再生医療 ※	2後	1.5	1	長崎大学 原爆後障害医療研究所 教授 (平25.4)	-
130	兼担	教授	ハツツメ マサヒロ 橋爪 真弘 <平成26年4月>		Ph.D (医学) (英国)		医療現場の安全と安心 ※	2後	0.7	1	長崎大学 熱帯医学研究所 教授 (平24.1)	-
131	兼担	准教授	マツダ マサコ 松田 雅子 <平成26年4月>		修士 (文学)		東西文化交流の歴史 ※	1後	0.3	1	長崎大学大学院 水産・環境科学総合 研究科 准教授 (平23.4)	-

教 員 の 氏 名 等												
(多文化社会学部多文化社会学科)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 週当たり 平均日数
132	兼担	准教授	シンカ テツコ 新川 哲子 <平成26年4月>		博士 (医学)		医療現場の安全と安心 ※	2後	0.3	1	長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 准教授 (平23.6)	-
133	兼担	准教授	スギヤマ カズイチ 杉山 和一 <平成26年4月>		博士 (工学)		都市環境を考える ※	1後	0.9	1	長崎大学大学院 水産・環境科学総合 研究科 准教授 (平23.4)	-
134	兼担	准教授	キクチ ヤスキ 菊池 泰樹 <平成26年4月>		博士 (数理学)		健康と医療の安全・安心 ※	1後	0.5	1	長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 准教授 (平18.4)	-
135	兼担	准教授	ハシダ マサキ 林田 雅希 <平成26年4月>		医学博士		健康科学	1後	0.3	1	長崎大学 保健・医療推進 センター 准教授 (平20.4)	-
136	兼担	准教授	カタ ジュンイチ 勝田 順一 <平成26年4月>		博士 (工学)		破壊事故とヒューマンファクタ	2後	2	1	長崎大学大学院 工学研究科 准教授 (平23.4)	-
137	兼担	准教授	トシヅカ アキラ 富塚 明 <平成26年4月>		理学修士		地球温暖化を考える ※	1後	0.5	1	長崎大学大学院 水産・環境科学総合 研究科 准教授 (平23.4)	-
138	兼担	准教授	ナカムラ オサム 中村 修 <平成26年4月>		博士 (農学)		地域の環境を考える ※	2前	0.9	1	長崎大学大学院 水産・環境科学総合 研究科 准教授 (平23.4)	-
139	兼担	准教授	マツダ ヨシノブ 松田 良信 <平成26年4月>		工学博士		自然を記述するための基礎数学	2前	2	1	長崎大学大学院 工学研究科 准教授 (平23.4)	-
140	兼担	准教授	モリヤマ マサオ 森山 雅雄 <平成26年4月>		学術博士		地球環境の科学 ※	2後	1.1	1	長崎大学大学院 工学研究科 准教授 (平23.4)	-
141	兼担	准教授	オハシ エリ 大橋 絵理 <平成26年4月>		修士 (文学)		異文化コミュニケーション 上級外国語(フランス語) フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ フランス語Ⅲ フランス語Ⅳ	2後 3前 1後 1後 2前 2後	2 2 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	長崎大学 言語教育研究 センター 准教授 (平24.4)	-
142	兼担	准教授	スズキ ケイジ 鈴木 啓司 <平成26年4月>		博士 (学術)		遺伝子と生命 ※	1後	0.4	1	長崎大学 原爆後障害医療研究所 准教授 (平25.4)	-
143	兼担	准教授	ホノマ キリ 本間 季里 <平成26年4月>		博士 (医学)		免疫と病気 ※	2前	0.8	1	長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 准教授 (平24.12)	-
144	兼担	准教授	オノ テツ 小野 哲 <平成26年4月>		商学修士		企業の仕組みと行動	1後	2	1	長崎大学 経済学部 准教授 (平5.6)	-

別記様式第3号(その2の1)

教 員 の 氏 名 等												
(多文化社会学部多文化社会学科)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 週当たり 平均日数
145	兼担	准教授	タカ トシキ 田中 俊幸 <平成26年4月>		博士 (工学)		科学と技術の安全・安心 ※	1後	0.5	1	長崎大学大学院 工学研究科 准教授 (平23.4)	-
146	兼担	准教授	フジマ マコト 藤村 誠 <平成26年4月>		博士 (工学)		暮らしと情報の数理 ※	2前	1.1	1	長崎大学大学院 工学研究科 准教授 (平23.4)	-
147	兼担	准教授	タシタ サシ 竹下 哲史 <平成26年4月>		博士 (学術)		環境基本法と環境基本計画 化学薬品等の取り扱い ※ 廃棄物のマネージメント	1後 2前 2後	2 0.7 2	1 1 1	長崎大学 産学官連携戦略本部 准教授 (平23.6)	-
148	兼担	准教授	アヒル リオ 阿比留 教生 <平成26年4月>		博士 (医学)		免疫と病気 ※	2前	0.3	1	長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 准教授 (平24.6)	-
149	兼担	准教授	ナカムチ チアキ 中村 千秋 <平成26年4月>		工学修士		コミュニケーションとICT	1後	2	1	長崎大学 教育学部 准教授 (平13.4)	-
150	兼担	准教授	イシハラ ジュン 石原 淳 <平成26年4月>		博士 (工学)		伝承薬から最先端医薬品まで(薬はこうし て創られる) ※	2前	0.7	1	長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 准教授 (平15.4)	-
151	兼担	准教授	オカダ ジロウ 岡田 二郎 <平成26年4月>		博士 (理学)		コミュニケーションの生物学 ※	1後	1.1	1	長崎大学大学院 水産・環境科学総合 研究科 准教授 (平23.4)	-
152	兼担	准教授	オノヰ ケイイチ 尾崎 恵一 <平成26年4月>		博士 (薬学)		生命の化学(ケミカル・イオン) ※	1後	0.7	1	長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 准教授 (平14.4)	-
153	兼担	准教授	タカ ケニヒコ 田中 邦彦 <平成26年4月>		博士 (医学)		細胞と放射線 ※	1後	0.5	1	長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 准教授 (平21.1)	-
154	兼担	准教授	モリタ チヒロ 森田 千尋 <平成26年4月>		博士 (工学)		自然災害とインフラ長寿命化 ※	2前	0.5	1	長崎大学大学院 工学研究科 准教授 (平23.4)	-
155	兼担	准教授	ワタチ ヨウコ 和達 容子 <平成26年4月>		博士 (法学)		地球温暖化を考える ※	1後	0.5	1	長崎大学大学院 水産・環境科学総合 研究科 准教授 (平23.4)	-
156	兼担	准教授	イノウエ テツジ 井上 徹志 <平成26年4月>		博士 (理学)		海洋生物の遺伝子多様性 ※	2前	0.5	1	長崎大学大学院 水産・環境科学総合 研究科 准教授 (平23.10)	-
157	兼担	准教授	フジシマ トモキ 藤島 友之 <平成26年4月>		博士 (工学)		物理の考え方	1後	2	1	長崎大学大学院 工学研究科 准教授 (平23.4)	-

別記様式第3号(その2の1)

教 員 の 氏 名 等												
(多文化社会学部多文化社会学科)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 週当たり 平均日数
158	兼担	准教授	マキ トシヒデ 真木 俊英 <平成26年4月>		博士 (薬学)		化学薬品等の取り扱い ※ 環境分析技術 (advanced class) ※	2前 2前	0.7 0.9	1 1	長崎大学 産学官連携戦略本部 准教授 (平23.6)	-
159	兼担	准教授	ウキ キョウミ 劉 卿美 <平成26年4月>		博士 (人文学)		上級外国語 (韓国語) 韓国語 I 韓国語 II 韓国語 III 韓国語 IV	3前 1後 1後 2前 2後	2 1 1 1 1	1 1 1 1 1	長崎大学 言語教育研究センター 准教授 (平24.4)	-
160	兼担	准教授	ワカ ミル 和田 実 <平成26年4月>		博士 (農学)		海洋生物の遺伝子多様性 ※	2前	0.5	1	長崎大学大学院 水産・環境科学総合 研究科 准教授 (平23.4)	-
161	兼担	准教授	コトウ シンジ 近藤 新二 <平成26年4月>		博士 (医学)		疾病と薬物治療 ※	2前	0.8	1	長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 准教授 (平20.4)	-
162	兼担	准教授	シロガキ ケイロウ 城谷 圭朗 <平成26年4月>		博士 (薬学)		生命の化学 (ケミカル・イオゾー) ※	1後	1.1	1	長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 准教授 (平24.9)	-
163	兼担	准教授	ヤマガチ ケンイチ 山口 健一 <平成26年4月>		博士 (農学)		海洋生物の遺伝子多様性 ※	2前	0.5	1	長崎大学大学院 水産・環境科学総合 研究科 准教授 (平23.4)	-
164	兼担	准教授	ウエシゲ ヨシフミ 上繁 義史 <平成26年4月>		博士 (工学)		情報社会の安全と安心	1後	2	1	長崎大学 情報メディア基盤 センター 准教授 (平19.4)	-
165	兼担	准教授	カハシマ ツトム 梶島 力 <平成26年4月>		博士 (薬学)		生命科学のための物理化学入門 ※	1後	1.3	1	長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 准教授 (平14.12)	-
166	兼担	准教授	カワモト カズアキ 河本 和明 <平成26年4月>		博士 (理学)		地球温暖化を考える ※	1後	0.5	1	長崎大学大学院 水産・環境科学総合 研究科 准教授 (平23.4)	-
167	兼担	准教授	タニグチ ヒロカズ 谷口 弘一 <平成26年4月>		博士 (学術)		教育相談	2後	2	1	長崎大学 教育学部 准教授 (平21.4)	-
168	兼担	准教授	ワカ ミツヒロ 和田 光弘 <平成26年4月>		博士 (薬学)		出島の科学 ※	2前	1.2	1	長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 准教授 (平14.12)	-
169	兼担	准教授	カミゾノ ケンジ 神薮 健次 <平成26年4月>		Ph. D. (数学) (米国)		社会制度と経済活動	2前	2	1	長崎大学 経済学部 准教授 (平14.4)	-
170	兼担	准教授	スカ コウシロウ 菅 向志郎 <平成26年4月>		博士 (農学)		海洋生物の遺伝子多様性 ※	2前	0.5	1	長崎大学大学院 水産・環境科学総合 研究科 准教授 (平23.4)	-

別記様式第3号(その2の1)

教 員 の 氏 名 等												
(多文化社会学部多文化社会学科)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 週当たり 平均日数
171	兼担	准教授	ナカシマ マサヒロ 長島 雅裕 <平成26年4月>		博士 (理学)		身のまわりの科学 疑似科学との付き合い方 ※	2後 1前	2 0.8	1 1	長崎大学 教育学部 准教授 (平18.4)	-
172	兼担	准教授	マサダ トモナリ 正田 備也 <平成26年4月>		博士 (情報理工 学)		情報と社会 ※	2前	0.4	1	長崎大学大学院 工学研究科 准教授 (平24.4)	-
173	兼担	准教授	ウチノ ナルミ 内野 成美 <平成26年4月>		修士 (教育学)		教育相談	2前	2	1	長崎大学大学院 教育学研究科 准教授 (平20.4)	-
174	兼担	准教授	コガ アイ 古賀 掲維 <平成26年4月>		修士 (工学)		問題解決のアルゴリズム 情報化時代の仕事術	2前 2後	2 2	1 1	長崎大学 情報メディア基盤 センター 准教授 (平18.3)	-
175	兼担	准教授	ナリタ マキコ 成田 真樹子 <平成26年4月>		博士 (経済学)		国際社会と日本経済	2後	2	1	長崎大学 経済学部 准教授 (平15.12)	-
176	兼担	准教授	ホカ ミル 保坂 稔 <平成26年4月>		博士 (社会学)		環境と社会運動 ※	2前	1.1	1	長崎大学大学院 水産・環境科学総合 研究科 准教授 (平23.4)	-
177	兼担	准教授	ヤマグチ ジュンヤ 山口 純哉 <平成26年4月>		修士 (経済学)		経済政策と公共部門	1後	2	1	長崎大学 経済学部 准教授 (平13.8)	-
178	兼担	准教授	ナカガイ マサキ 中垣内 真樹 <平成26年4月>		博士 (体育科 学)		スポーツ演習 健康科学	1後 1後	1 0.1	1 1	長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 准教授 (平23.10)	-
179	兼担	准教授	ヤマグチ リユキ 山口 典之 <平成26年4月>		博士 (理学)		生物多様性を考える ※	1後	0.7	1	長崎大学大学院 水産・環境科学総合 研究科 准教授 (平23.4)	-
180	兼担	准教授	ヤマダ ヒロトシ 山田 博俊 <平成26年4月>		博士 (工学)		環境・生活と化学 ※	1後	1.1	1	長崎大学大学院 工学研究科 准教授 (平23.4)	-
181	兼担	准教授	オクラ マヒト 大倉 真人 <平成26年4月>		博士 (商学)		経済活動と社会	1後	2	1	長崎大学 経済学部 准教授 (平14.4)	-
182	兼担	准教授	オガ トモオ 荻 朋男 <平成26年4月>		博士 (理学)		細胞と放射線 ※	1後	0.5	1	長崎大学 原爆後障害医療研究所 准教授 (平25.4)	-
183	兼担	准教授	シバタ ユウイチロウ 柴田 裕一郎 <平成26年4月>		博士 (工学)		暮らしと情報の数理 ※	2前	1.1	1	長崎大学大学院 工学研究科 准教授 (平23.4)	-

別記様式第3号(その2の1)

教 員 の 氏 名 等												
(多文化社会学部多文化社会学科)												
調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 週当たり 平均日数
184	兼担	准教授	ワタベ タカシ 渡辺 貴史 <平成26年4月>		博士 (社会工 学)		都市環境を考える ※	1後	1.1	1	長崎大学大学院 水産・環境科学総合 研究科 准教授 (平23.4)	-
185	兼担	准教授	タヤマ ジュン 田山 淳 <平成26年4月>		博士 (障害科 学)		健康科学	1後	0.1	1	長崎大学 保健・医療推進セン ター 准教授 (平21.4)	-
186	兼担	准教授	コバヤシ ヒロシ 小林 寛 <平成26年4月>		修士 (環境法 学)		日本国憲法	1前	2	1	長崎大学大学院 水産・環境科学総合 研究科 准教授 (平23.4)	-
187	兼担	准教授	フカミ サトシ 深見 聡 <平成26年4月>		博士 (学術)		地域の環境を考える ※ 東西文化交流の歴史 ※	2前 1後	1.1 0.3	1 1	長崎大学大学院 水産・環境科学総合 研究科 准教授 (平23.4)	-
188	兼担	准教授	クスヤマ ケン 楠山 研 <平成26年4月>		博士 (教育学)		教育行政・制度論	1後	2	1	長崎大学大学院 教育学研究科 准教授 (平22.4)	-
189	兼担	准教授	フモト シンタロウ 麓 伸太郎 <平成26年4月>		博士 (薬学)		薬との賢い付き合い方 ※	2後	0.9	1	長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 准教授 (平22.4)	-
190	兼担	准教授	サイノウ ヨシノリ 齋藤 義紀 <平成26年4月>		博士 (薬学)		ビギナーのための有機化学 ※	1後	0.9	1	長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 准教授 (平24.11)	-
191	兼担	准教授	ニシダ オサム 西田 治 <平成26年4月>		修士 (音楽)		芸術・スポーツとコミュニケーション ※	2前	1.1	1	長崎大学 教育学部 准教授 (平20.4)	-
192	兼担	准教授	コニシ ユウマ 小西 祐馬 <平成26年4月>		修士 (教育学)		疑似科学との付き合い方 ※	1前	0.7	1	長崎大学 教育学部 准教授 (平20.4)	-
193	兼担	准教授	ツチハシ リキヤ 土橋 力也 <平成26年4月>		博士 (経済学)		企業行動と戦略	2後	2	1	長崎大学 経済学部 准教授 (平23.4)	-
194	兼担	講師	カネコ タカシ 金子 高士 <平成26年4月>		博士 (歯学)		健康と医療の安全・安心 ※	1後	0.5	1	長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 講師 (平25.4)	-
195	兼担	講師	トイ ヒロカズ 土居 裕和 <平成26年4月>		博士 (学術)		コミュニケーションの生物学 ※	1後	0.3	1	長崎大学病院 講師 (平24.4)	-
196	兼担	助教	シマダ トシオ 嶋田 敏生 <平成26年4月>		博士 (理学)		人体の構造と機能 ※	1後	0.8	1	長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 助教 (平14.4)	-

別記様式第3号(その2の1)

教 員 の 氏 名 等												
(多文化社会学部多文化社会学科)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 週当たり 平均日数
197	兼担	助教	タケチ ジュン 田口 潤 <平成26年4月>		博士 (医学)		幹細胞と再生医療 ※	2後	0.3	1	長崎大学 原爆後障害医療研究所 助教 (平25.4)	-
198	兼担	助教	ミツケ リサ 光武 範吏 <平成26年4月>		博士 (医学)		遺伝子と生命 ※	1後	0.4	1	長崎大学 原爆後障害医療研究所 助教 (平25.4)	-
199	兼担	助教	タミ マミ 玉井 慎美 <平成26年4月>		博士 (医学)		健康科学	1後	0.1	1	長崎大学 保健・医療推進セン ター 助教 (平21.6)	-
200	兼担	助教	ヤギウ ダイスケ 柳生 大輔 <平成26年4月>		修士 (工学)		情報通信とコンピュータネットワークのし くみ 情報基礎	2後 1後	2 2	1 1	長崎大学 情報メディア基盤 センター 助教 (平19.4)	-
201	兼担	助教	サウ シ 佐藤 美穂 <平成26年4月>		修士 (公衆衛生 学) (米国)		グローバルキャリアへの扉 ※	1前	0.3	1	長崎大学 国際連携研究戦略本部 助教 (平23.2)	-
202	兼担	助教	トラシマ ヤスヒロ 虎島 泰洋 <平成26年4月>		博士 (医学)		幹細胞と再生医療 ※	2後	0.1	1	長崎大学病院 助教 (平24.7)	-
203	兼担	助教	ホホ カン 久保 隆 <平成26年4月>		博士 (工学)		科学と技術の安全・安心 ※ 環境関連法(国内法)と環境コミュニケー ション 化学薬品等の取り扱い ※ 環境汚染物質のマネジメント 環境分析技術 (advanced class) ※	1後 1後 2前 2後 2前	0.5 2 0.7 2 1.1	1 1 1 1 1	長崎大学 産学官連携戦略本部 助教 (平23.6)	-
204	兼担	助教	イチノベ ケニヒロ 一瀬 邦弘 <平成26年4月>		博士 (医学)		免疫と病気 ※	2前	0.3	1	長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 助教 (平24.4)	-
205	兼担	助教	ミナ シロウ 三浦 史郎 <平成26年4月>		博士 (医学)		遺伝子と生命 ※	1後	0.5	1	長崎大学 原爆後障害医療研究所 助教 (平25.4)	-
206	兼担	助教	ヨシカギ ヤスリ 吉永 泰周 <平成26年4月>		博士 (歯学)		健康科学	1後	0.1	1	長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 助教 (平24.4)	-
207	兼担	助教	スキモト サトシ 杉本 知史 <平成26年4月>		博士 (工学)		暮らしの中の物理科学 ※	2前	1.1	1	長崎大学大学院 工学研究科 助教 (平23.4)	-
208	兼担	助教	カハシ ケイスケ 高橋 圭介 <平成26年4月>		博士 (薬学)		伝承薬から最先端医薬品まで(薬はこうし て創られる) ※	2前	0.7	1	長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 助教 (平16.4)	-
209	兼担	助教	ニシタ ショウタ 西谷 正太 <平成26年4月>		博士 (医学)		コミュニケーションの生物学 ※	1後	0.1	1	長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 助教 (平19.1)	-

別記様式第3号(その2の1)

教 員 の 氏 名 等												
(多文化社会学部多文化社会学科)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 週当たり 平均日数
210	兼任	助教	カイ ユウスケ 堺 裕輔 <平成26年4月>		博士 (工学)		幹細胞と再生医療 ※	2後	0.1	1	長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 助教 (平23.4)	-
211	兼任	助教	イミネ タツオ 稲嶺 達夫 <平成26年4月>		修士 (臨床薬 学)		疾病と薬物治療 ※	2前	0.8	1	長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 助教 (平21.4)	-
212	兼任	助教	オカダ アコ 奥田 阿子 <平成26年4月>		修士 (言語文化 学)		異文化コミュニケーション 英語コミュニケーションⅢ 総合英語Ⅰ 総合英語Ⅱ 総合英語Ⅲ Advanced EnglishⅠ Advanced EnglishⅡ	2後 2前 1前 1前 2後 3前 3後	2 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1	長崎大学 言語教育研究センター 助教 (平24.4)	-
213	兼任	講師	タカハシ カズオ 高橋 和雄 <平成26年4月>		工学博士		科学と技術の安全・安心 ※ 自然災害とインフラ長寿命化 ※	1後 2前	0.5 0.5	1 1	長崎大学名誉教授 (平23.4)	-
214	兼任	講師	ヨネタ コウジ 米田 耕司 <平成26年4月>		文学士		芸術と文化	1後	0.9	1	長崎県美術館館長 (平19.4)	-
215	兼任	講師	シノザキ マサト 篠崎 正人 <平成26年4月>		高等学校卒		平和講座 ※	1前	0.3	1	財団法人長崎中高年齢 労働者福祉センター 事務局次長 (平20.3まで)	-
216	兼任	講師	ヒラノ ノブト 平野 伸人 <平成26年4月>		教育学士		被ばくと社会 ※	1後	0.4	1	長崎大学講師 (非常勤) (平24.4)	-
217	兼任	講師	アベ ジュンジ 安部 俊二 <平成26年4月>		法学修士		疑似科学との付き合い方 ※ 平和講座 ※	1前 1前	0.7 0.8	1 1	長崎大学講師 (非常勤) (平25.4)	-
218	兼任	講師	ヒメノ ジュンイチ 姫野 順一 <平成26年4月>		博士 (経済学)		東西文化交流の歴史 ※ 平成長崎塾 ※ 長崎学 ※	1後 1前 1前	1.1 0.7 1.5	1 1 1	長崎大学 環境科学部 客員教授 (平25.4)	-
219	兼任	講師	ウエキ トモコ 植木 とみ子 <平成26年4月>		法学修士		日本国憲法 ジェンダーと法	1前 1後	6 2	3 1	ユーテラス合同会社 代表社員 (平22.4)	-
220	兼任	講師	カネコ シュウジ 金子 修司 <平成26年4月>		経済学士		基礎英語	1前・後	6	3	長崎大学講師 (非常勤) (平24.4)	-
221	兼任	講師	セキグチ タツオ 関口 達夫 <平成26年4月>		経済学士		平和講座 ※	1前	0.3	1	長崎放送株式会社 報道部記者 (平23.4)	-
222	兼任	講師	タカハシ ノブオ 高橋 信雄 <平成26年4月>		学士 (経済)		被ばくと社会 ※	1後	0.4	1	長崎新聞 特別論説委員 (平23.4)	-
223	兼任	講師	タガワ ナオキ 田川 直行 <平成26年4月>		教育学士		基礎物理	1前・後	6	3	精道三川台高等学校 非常勤講師 (平23.4)	-

別記様式第3号(その2の1)

教 員 の 氏 名 等												
(多文化社会学部多文化社会学科)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 週当たり 平均日数
224	兼任	講師	アカシ マサミ 赤星 正純 <平成26年4月>		医学博士		被ばく者と医療 ※	2前	0.4	1	公益財団法人放射線影 響研究所臨床研究部 部長 (平24.4)	-
225	兼任	講師	タモト マサキ 田元 正明 <平成26年4月>		理学士		基礎数学	1前・後	6	3	長崎大学講師 (非常勤) (平24.4)	-
226	兼任	講師	ツツイ ヤスキ 筒井 保之 <平成26年4月>		教育学士		基礎化学	1前・後	4	2	長崎県立 長崎北高等学校 講師 (平25.4)	-
227	兼任	講師	ヒラケラ ミツル 平倉 充 <平成26年4月>		理学士		基礎生物	1前・後	6	3	長崎情報ビジネス 専門学校 校長 (平24.4)	-
228	兼任	講師	エグチ ユウジ 江口 勇治 <平成26年4月>		教育学修士		私たちと法	1前	2	1	筑波大学人間系 教授 (平14.7)	-
229	兼任	講師	アナン シゲユキ 阿南 重幸 <平成26年4月>		文学士		解放講座	1前・後	4	2	NPO法人長崎人権 研究所 事務局長 (平16.9)	-
230	兼任	講師	ヤマガミ テツジロウ 山上 徹二郎 <平成26年4月>		高等学校卒		文学・芸術と核兵器 ※	2後	0.5	1	株式会社シグロ 代表取締役 (昭61.7)	-
231	兼任	講師	タカセ ツヨシ 高瀬 毅 <平成26年4月>		経済学士		核兵器廃絶と教育 ※	2前	0.3	1	ジャーナリスト (平1.3)	-
232	兼任	講師	アカギ カノ 赤木 幹子 <平成26年4月>		文学士		文学・芸術と核兵器 ※	2後	0.5	1	長崎大学講師 (非常勤) (平25.9)	-
233	兼任	講師	コガ マサユキ 古賀 正之 <平成26年4月>		文学修士		ドイツ語Ⅲ ドイツ語Ⅳ	2前 2後	1 1	1 1	長崎大学講師 (非常勤) (平24.5)	-
234	兼任	講師	セキヤ トオル 関谷 融 <平成26年4月>		教育学修士		教育原理論	1後	2	1	長崎県立大学 国際情報学部国際交流 学科 教授 (平20.4)	-
235	兼任	講師	ホテイ アツシ 布袋 厚 <平成26年4月>		医学士		平成長崎塾 ※	1前	0.7	1	自然史研究家 (平10.4)	-
236	兼任	講師	クニタケ マサコ 国武 雅子 <平成26年4月>		博士 (学術・文 学)		平和講座 ※	1前	0.5	1	長崎純心大学 非常勤講師 (平16.4)	-
237	兼任	講師	オモリ アユミ 大森 アユミ <平成26年4月>		教育学修士		日本語と表現 ※	2後	0.9	1	長崎大学講師 (非常勤) (平25.4)	-

教 員 の 氏 名 等												
(多文化社会学部多文化社会学科)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 週当たり 平均日数
238	兼任	講師	ニシダ ミチル 西田 充 <平成26年4月>		修士 (国際政策 学)		核軍縮の法と政治 ※	2後	0.3	1	外務省軍縮不拡散 科学部・軍備管理・ 軍縮課軍縮不拡散 専門官 (平23.7)	-
239	兼任	講師	ヤマグチ タケシ 山口 剛史 <平成26年4月>		教育学修士		核兵器廃絶と教育 ※	2前	0.3	1	琉球大学 教育学部 准教授 (平19.4)	-
240	兼任	講師	クサキ アキラ 黒崎 輝 <平成26年4月>		博士 (法学)		核兵器とは何か ※	1後	0.1	1	福島大学 准教授 (平21.10)	-
241	兼任	講師	キヤ タエコ 桐谷 多恵子 <平成26年4月>		博士 (国際文 化)		核兵器廃絶と教育 ※	2前	0.3	1	広島市立大学 広島平和研究所 講師 (平22.4)	-
242	兼任	講師	オノ ショウロウ 奥野 正太郎 <平成26年4月>		学士 (文学)		被ばくと社会 ※	1後	0.4	1	長崎原爆資料館 学芸員 (平20.4)	-

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	1人	4人	1人	2人	人	8人	
	修 士	人	人	人	1人	1人	人	1人	3人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准 教 授	博 士	人	3人	10人	3人	1人	人	人	17人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	1人	1人	人	人	人	人	2人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	4人	12人	7人	2人	2人	人	27人	
	修 士	人	人	人	1人	1人	人	1人	3人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	